文部科学省委託事業
令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）
『通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業』

アンケート調査報告書

学校法人 YIC 学院

目次

内容

1. はじめに……2

2. 地元中小企業ニーズ等のアンケート調査 ……3

2－1. 調査方法……3
2－2. 調査項目……4
2－3. 調査結果……5
2－4. 講評……71

3.通信制高校生ニーズ等のアンケート調査…… 79

3－1. 調査方法……79
3－2. 調査項目……80
3－3. 通信制高校生アンケート調査結果……82
3－4. 通信制高校生アンケート調査結果（クロス集計）……133
3－5. 通信制高校教職員ヒアリング調査結果……156
3－6. 総評……162

4. 専門学校通信制出身者ヒアリング調査…… 163

4－1. 調査設計および実施方法……163
4－2. 調査結果の整理と考察……176
4－3. 困難要因の分析……210
4－4. 支援の有効性と課題……213
4－5. 今後に向けての実践的提言……216
4－6. おわりに……220

1. はじめに

文部科学省委託事業
令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）
『通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業』

事業の目的

20 歳人口の減少や地域格差の進行により、地方の若年層が希望する進学先を地域内に見出せず、県外進学や就職によって地域を離れる傾向が強まっている。その結果、地域産業における人材の空洞化や生活サービスの維持困難といった課題が顕在化しており、地域に根差した教育機関がその受け皿として果たすべき役割はかつてなく大きくなっている。特に、通信制高校など多様な背景を持つ若者に対して、接続性の高い進学ルートと職業的自立につながる実践的な学びの場を提供することが急務である。

本事業は、通信制高校との連携を基盤に、入学前からのキャリア教育、在学中の柔軟なプログラム設計（オンライン学習・コース選択制・企業連携型の導入）、AI や ICT を活用したデジタルリテラシー育成、地域企業（拠点施設含）との協働を通じた連携授業などを展開し、「県内初の AI×データサイエンスを導入したクロスオーバー型新コース」を目指すとともに、「地域に選ばれる専修学校」づくりを推進するものである。また、卒業後のキャリア定着や地域貢献までを見据えた“育成・伴走・定着”の一体型支援体制を構築し、若年層の社会的移動の促進と地域産業の人材確保・活性化に資する教育モデルの構築を目指す。

アンケート調査の趣旨・目的

本調査は、地域中小企業の人材ニーズおよび通信制高校・専門学校における教育支援の実態を多角的に把握することで、次世代の社会自立を支える教育プログラムの設計と、地域密着型人材育成モデルの構築に寄与することを目的とする。

- 地域中小企業 人材ニーズや DX 活用状況を把握し、キャリア支援設計の基礎とする。
- 通信制高校（生徒・教職員） 生徒の自立に必要なスキルや、学校側の支援体制・ICT 活用の課題を抽出し、教育カリキュラムに反映させる。
- 専門学校生（通信制高校出身者） 進路選択の背景や現状を分析し、次年度以降の教育プログラム改善と地域人材育成への提言に繋げる。

2. 地元中小企業ニーズ等のアンケート調査

2－1. 調査方法

（1）調査手法

郵送（208 件）にて依頼後、Google フォームにてアンケート調査を実施した。

（2）調査対象

山口県内の中小企業を対象とした。

（3）アンケート実施（内訳）

対象…… 山口県内の中小企業

合計…… 208 企業が母数

回答数 …… 61件

（4）調査日程

令和 7 年 11 日 11 日～令和 7 年 11 月 25 日

（5）回収結果

有効回答数**61**件（有効回収率29. 32%）

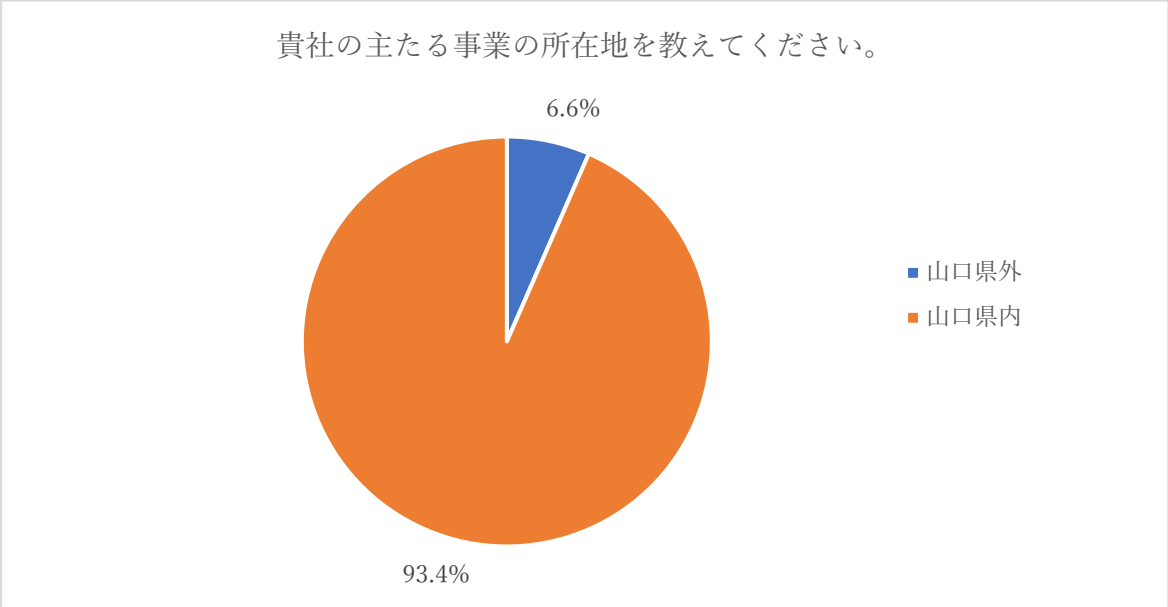
2－2. 調査項目

1　基礎情報（企業情報）
・業種、従業員数、地域　等
2　若者就職（採用）への期待、企業が採用時に求める人材像
・新卒採用の現状 ・I採用選考時に重視する点（資格・スキル・人物像）、求める人材ニーズ ・専門学校校出身者の採用に関する認識調査 ・通信制高校出身者の採用に関する認識調査 ・企業が求めるマインドの把握 ・企業実習やPBL受入れへの考え（協力、理解）
3　定着支援の状況
・採用後から3～5年間の定着状況の把握 ・定着の成功要因の把握
4　人材育成の状況
・企業内外研修（ON-OFF）の実施状況の把握 ・入社後に必要と感じているスキル、技術、資格の確認
5　DX活用の実態状況
・DX活用の実態状況（AI・RPA・データ利活用） ・DX推進体制と人材の充足度、教育、経営層の関与について調査 ・DX推進における課題と障壁

2－3. 調査結果

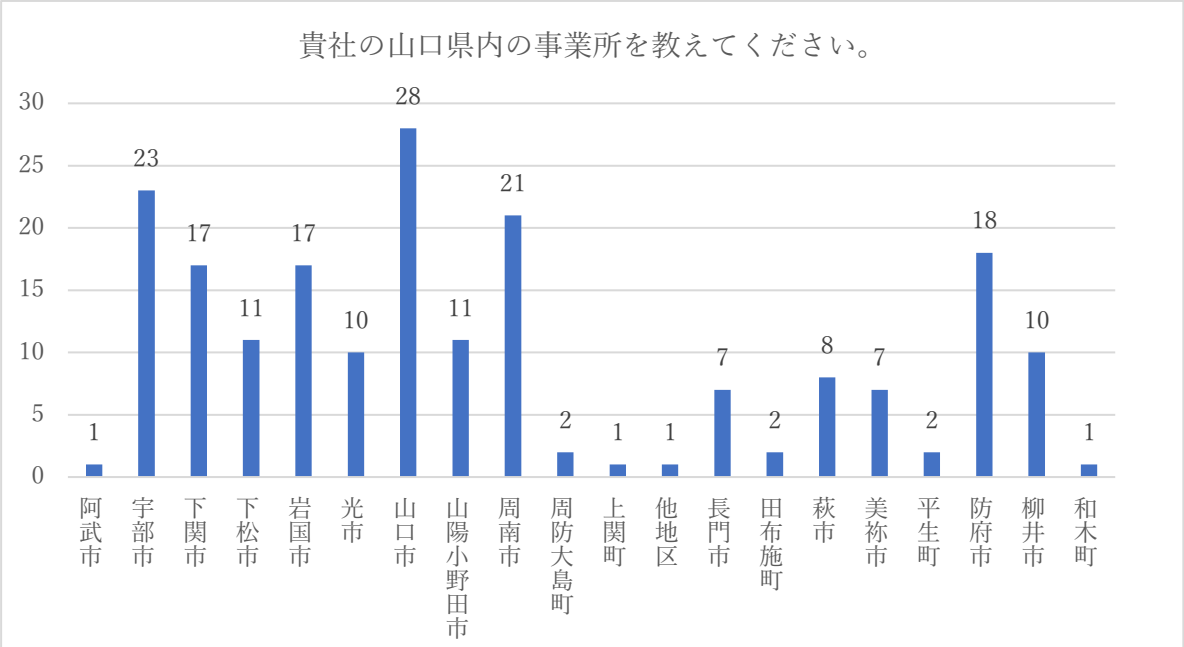
【問1】基礎情報（企業所在地）

山口県外	4
山口県内	57



本調査の回答で多いものから順に、山口県内 57 件（93.4%）、山口県外 4 件（6.6%）であった。回答者の大半が山口県内の企業である。

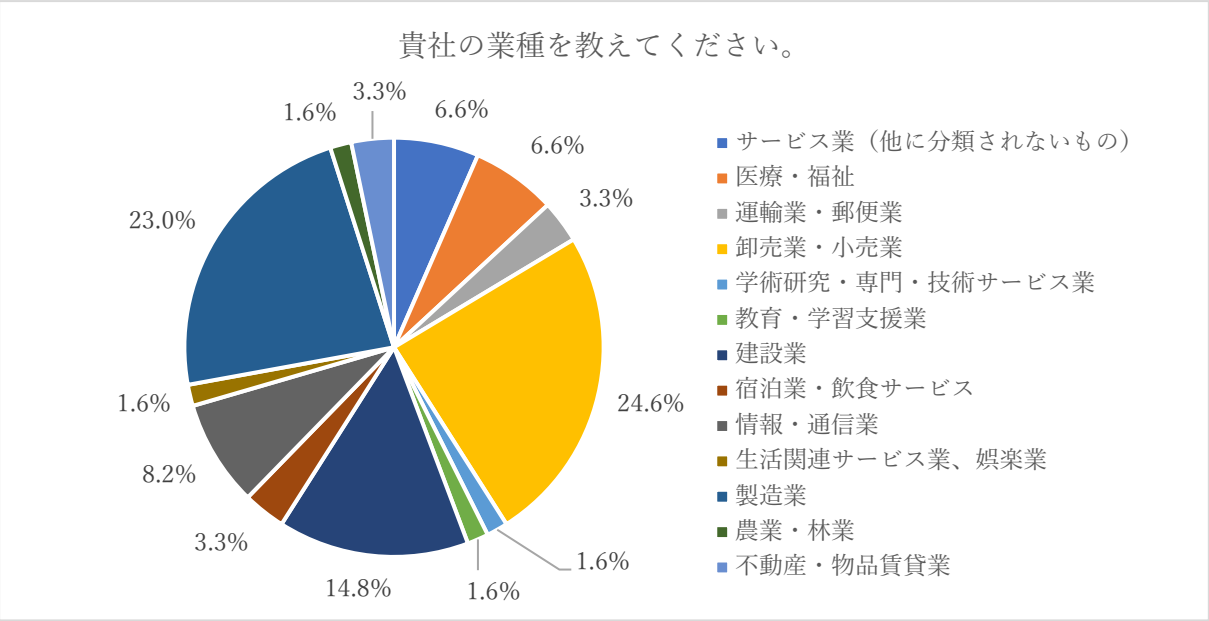
【問2】山口県内の事業所（複数回答可）



本調査の回答で多いものから順に、山口市 28 件、宇部市 23 件、周南市 21 件であった。人口が多い市町村が上位に位置している。

【問3】 業種

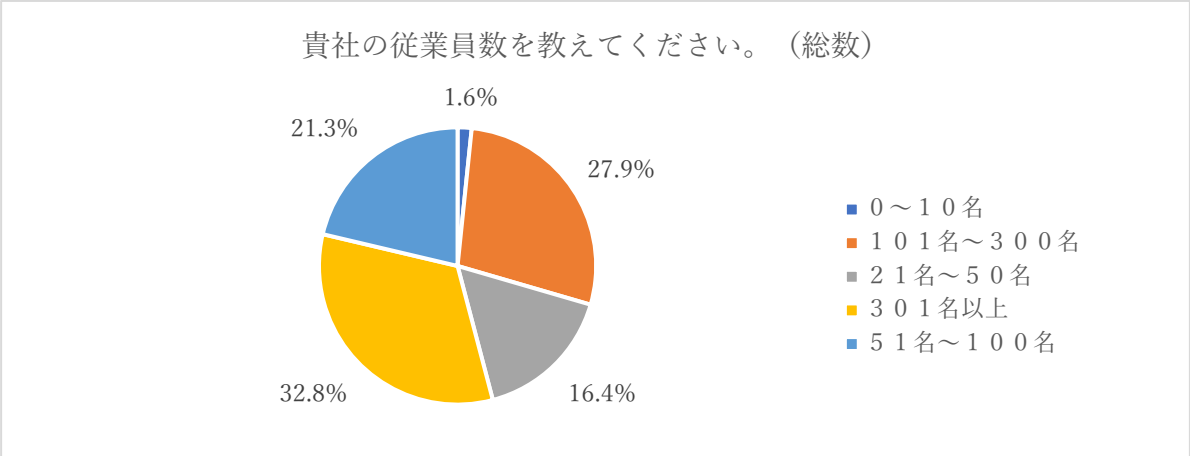
サービス業(他に分類されないもの)	4
医療･福祉	4
運輸業･郵便業	2
卸売業･小売業	15
学術研究･専門･技術サービス業	1
教育･学習支援業	1
建設業	9
宿泊業･飲食サービス	2
情報･通信業	5
生活関連サービス業、娯楽業	1
製造業	14
農業･林業	1
不動産･物品賃貸業	2



本調査の回答で多いものから順に、卸売業･小売業 15 件(24.6%)、製造業 9 件(23.0%)、建設業 9 件(14.8%)であった。卸売業･小売業、製造業で全体の約半数を占めている。

【問4】従業員数(総数)

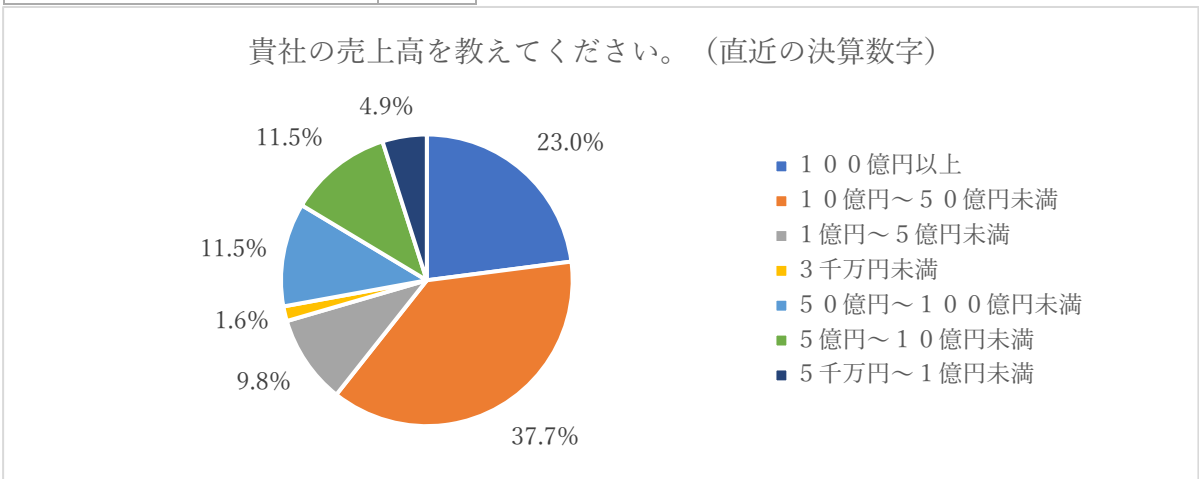
0～10名	1
101名～300名	17
21名～50名	10
301名以上	20
51名～100名	13



本調査の回答で多いものから順に、301 名以上 20 件(32.8%)、101 名～300 名 17 件(27.9%)、51 名～100 名 13 件(21.3%)であった。大人数の企業が大半を占めている。

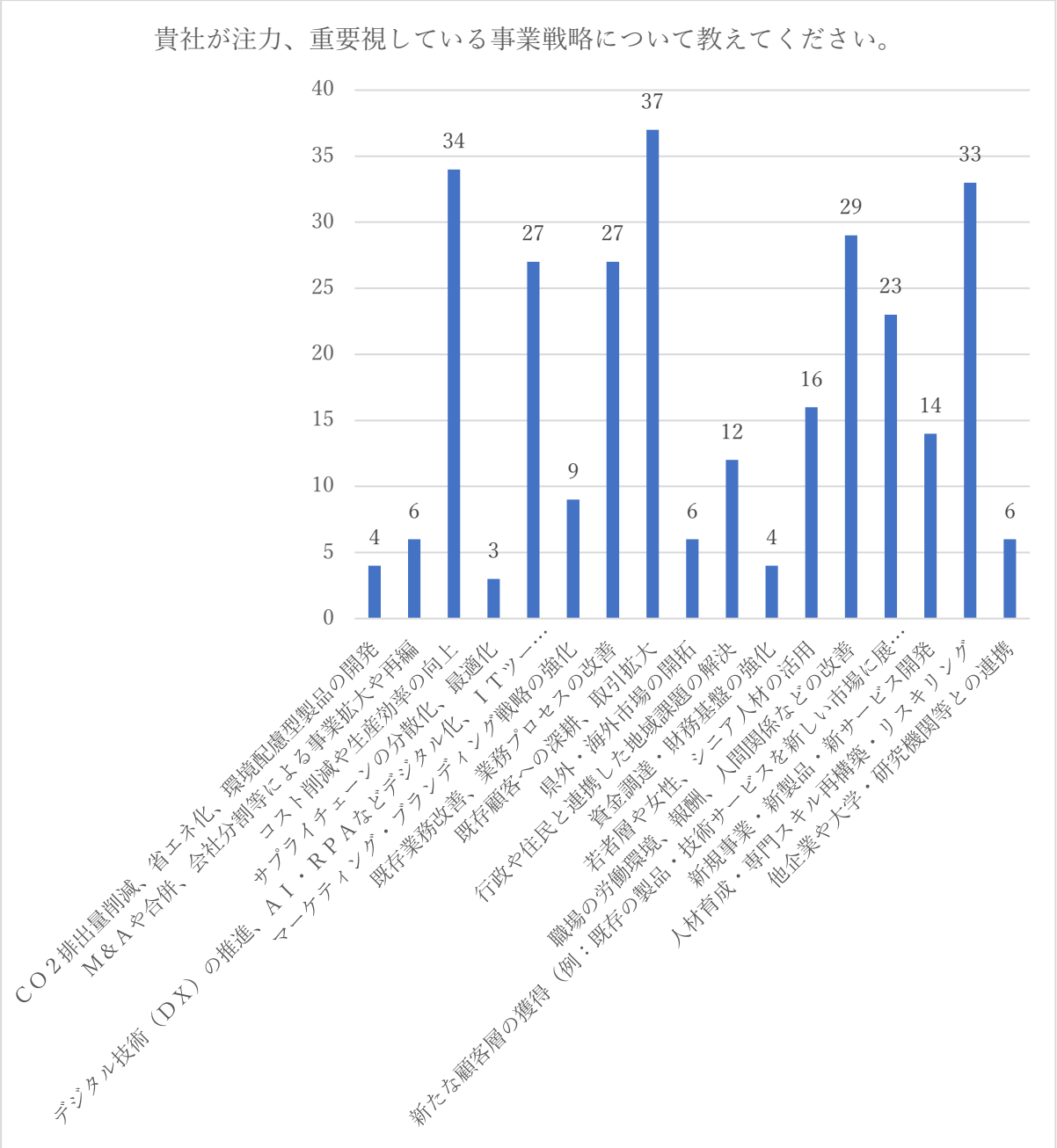
【問5】 売上高(直近の決算数字)

100億円以上	14
10億円～50億円未満	23
1億円～5億円未満	6
3千万円未満	1
50億円～100億円未満	7
5億円～10億円未満	7
5千万円～1億円未満	3



本調査の回答で多いものから順に、10 億円～50 億円未満 23 件(37.7%)、100 億円以上 14 件(23.0%)、50 億円～100 億円未満・5 億円～10 億円未満 7 件(11.5%)であった。

【問6】注力、重要視している事業戦略（複数回答可）



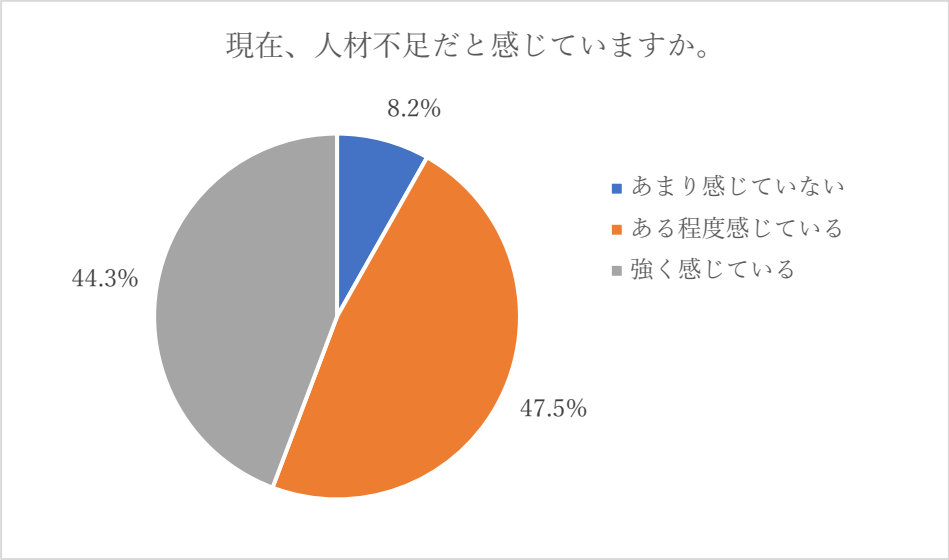
本調査の回答で多いものから順に、既存顧客への深耕、取引拡大 37 件、コスト削減や生産効率の向上 34 件、人材育成・専門スキル再構築・リスキリング 33 件であった。既存の顧客や職場環境の改善、従業員育成に重点を置く傾向が見らえる。

【問7】事業戦略で注力していること（自由記述）

・ウェルビーイング経営の導入（1）
・安全・安定操業に向けての基盤強化（1）
・若手育成／人材育成（2）
・人材雇用（1）
・WEB事業への本格的な進出（1）
・従来の事業プラスコンサル事業（1）
・お客様にとっての価値を創造していくこと（1）
・建設業界のデジタル化を見据え、DX 推進や建設 ICT の活用を通じて、現場の生産性向上や業務の効率化に注力（1）
・職場の労働環境、報酬、人間関係などの改善（1）

【問 8】現在、人材不足だと感じていますか。

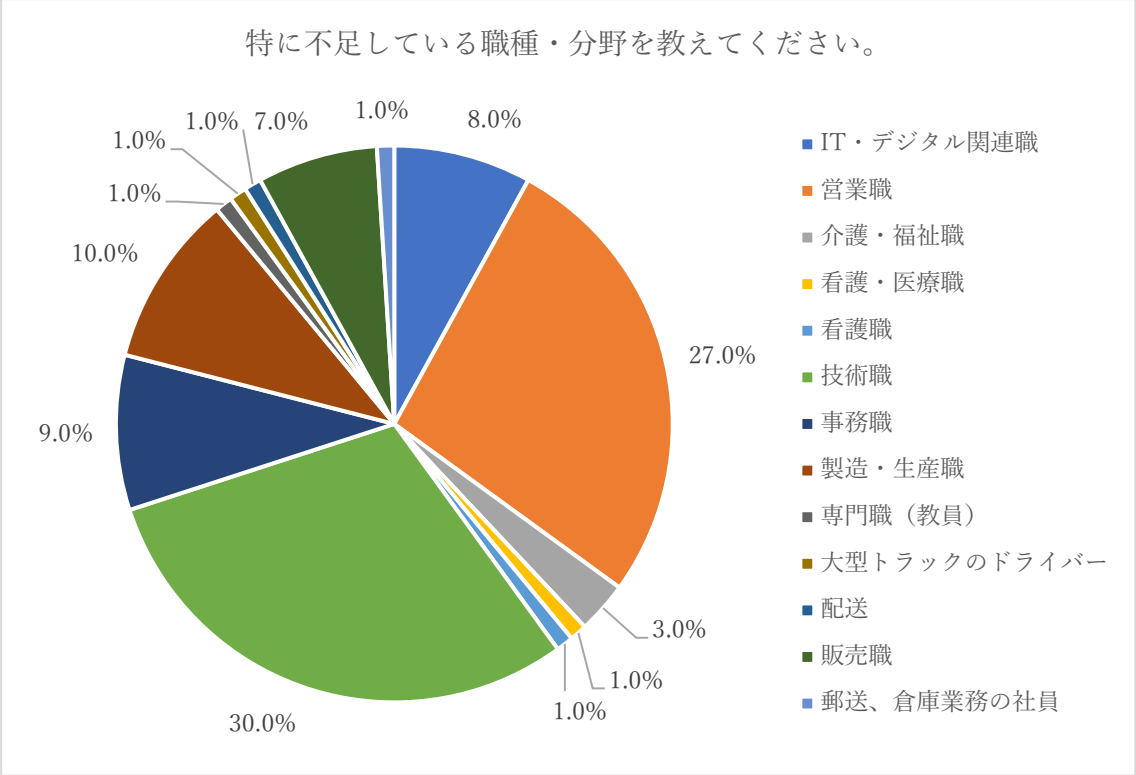
あまり感じていない	5
ある程度感じている	29
強く感じている	27



本調査の回答で多いものから順に、ある程度感じている 29 件（47.5%）、強く感じている 27 件（44.3%）、あまり感じていない 5 件（8.2%）であった。9 割以上の企業が人材不足を感じている。

【問 9】特に不足している職種・分野を教えてください。(複数選択可)

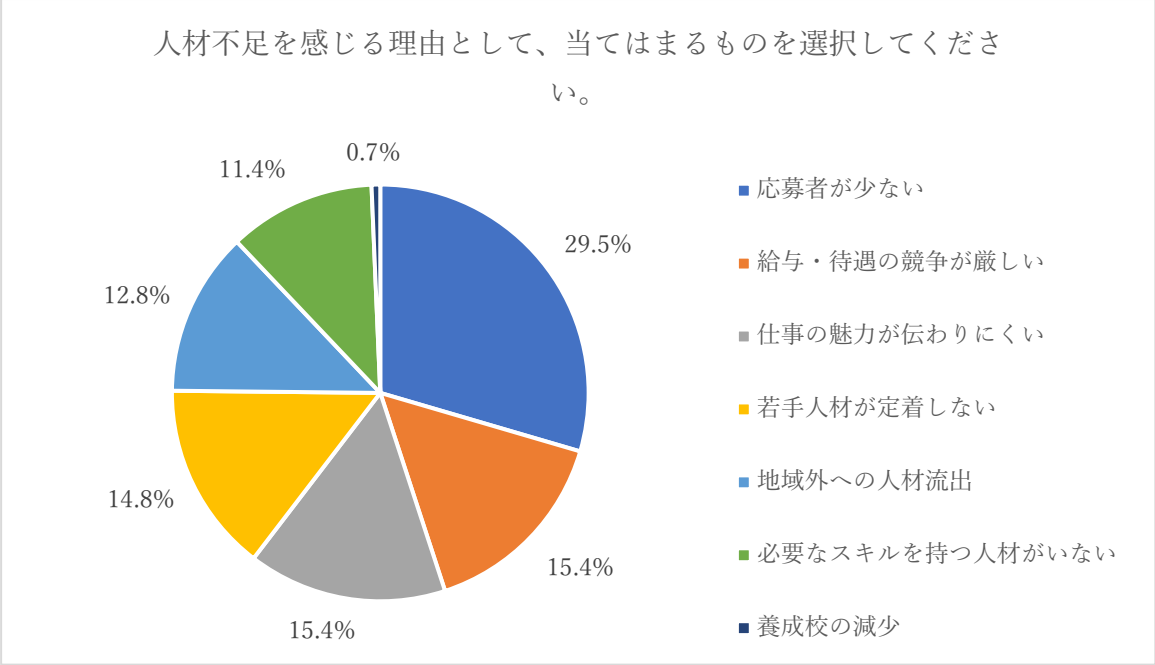
IT・デジタル関連職	8
営業職	27
介護・福祉職	3
看護・医療職	1
看護職	1
技術職	30
事務職	9
製造・生産職	10
専門職(教員)	1
大型トラックのドライバー	1
配送	1
販売職	7
郵送、倉庫業務の社員	1



本調査の回答で多いものから順に、技術職 30 件(30.0%)、営業職 27 件(27.0%)、製造・生産職 10 件(10.0%)であった。技術職、営業職で全体の半数以上を占めている。

【問 10】人材不足を感じる理由として、当てはまるものを選択してください。(複数選択可)

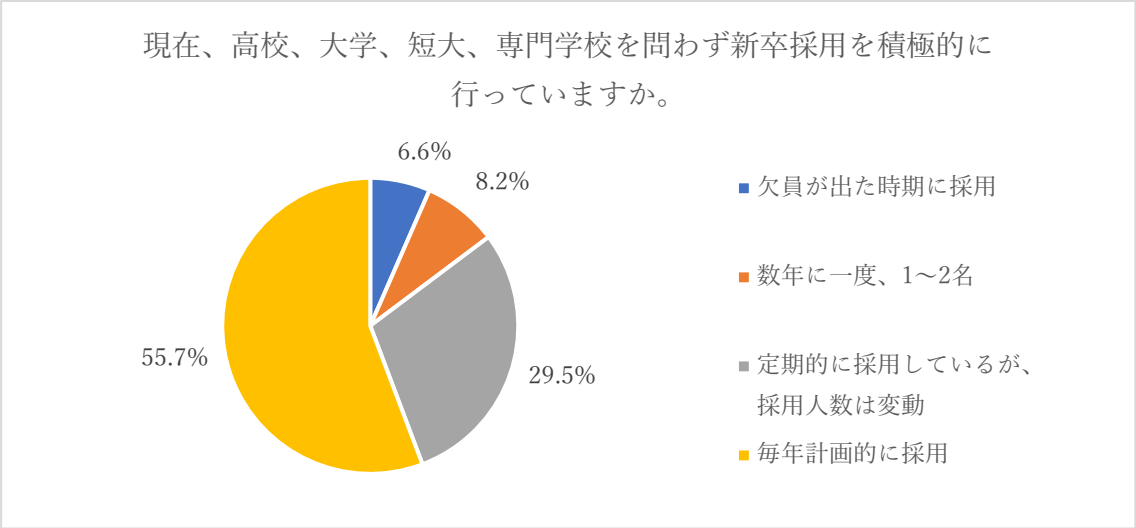
応募者が少ない	44
給与・待遇の競争が厳しい	23
仕事の魅力が伝わりにくい	23
若手人材が定着しない	22
地域外への人材流出	19
必要なスキルを持つ人材がいない	17
養成校の減少	1



本調査の回答で多いものから順に、応募者が少ない 44 件 29.5%)、給与・待遇の競争が厳しい・仕事の魅力が伝わりにくい 23 件(15.4%)であった。応募者現象は多くの企業で感じているが、それ以外の項目についてもまんべんなく票が集まった。

【問11】現在、高校、大学、短大、専門学校を問わず新卒採用を積極的に行っていますか。

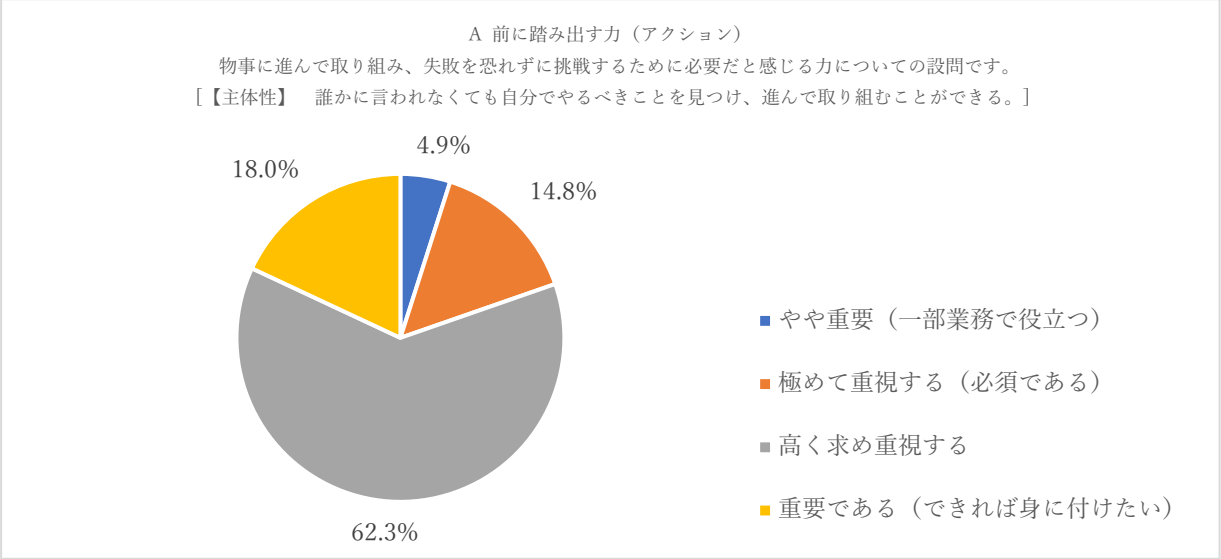
欠員が出た時期に採用	4
数年に一度、1～2 名	5
定期的に採用しているが、採用人数は変動	18
毎年計画的に採用	34



本調査の回答で多いものから順に、毎年計画的に採用 34 件(55.7%)、定期的に採用しているが、採用人数は変動 18 件(29.5%)、数年に一度、1～2 名 5 件(8.2%)であった。人材不足を感じている企業が多いことに比例した結果となった。

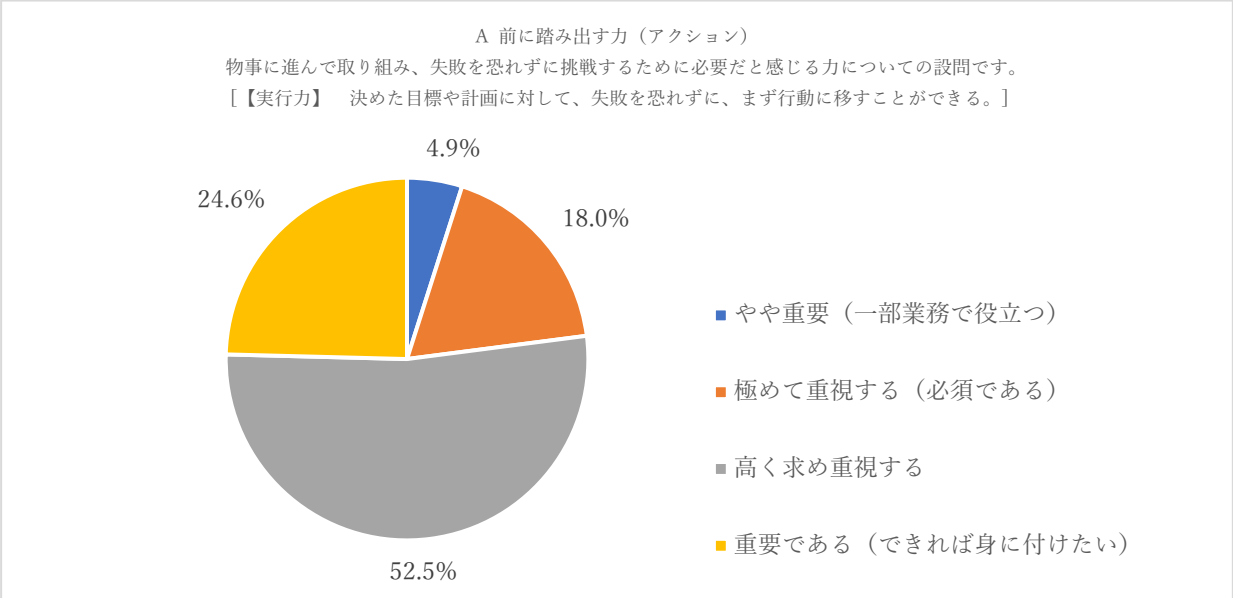
【問12】貴社が採用する上で社会や職場で仕事をしていくために必要だと思う重視する能力(スキル)は何ですか。

●主体性



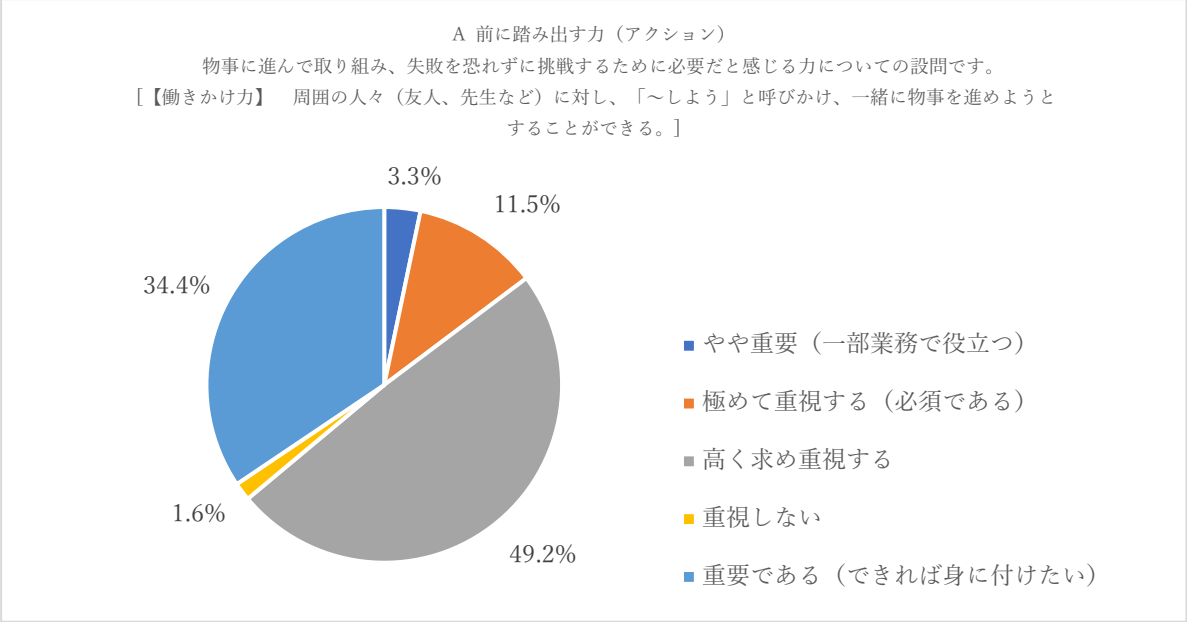
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 38 件(62.3%)、重要である(できれば身に付けたい)11 件(18.0%)、極めて重視する(必須である)9 件(14.8%)であった。「重要である」以上の回答をした企業が 8 割を超える結果となった。

●実行力



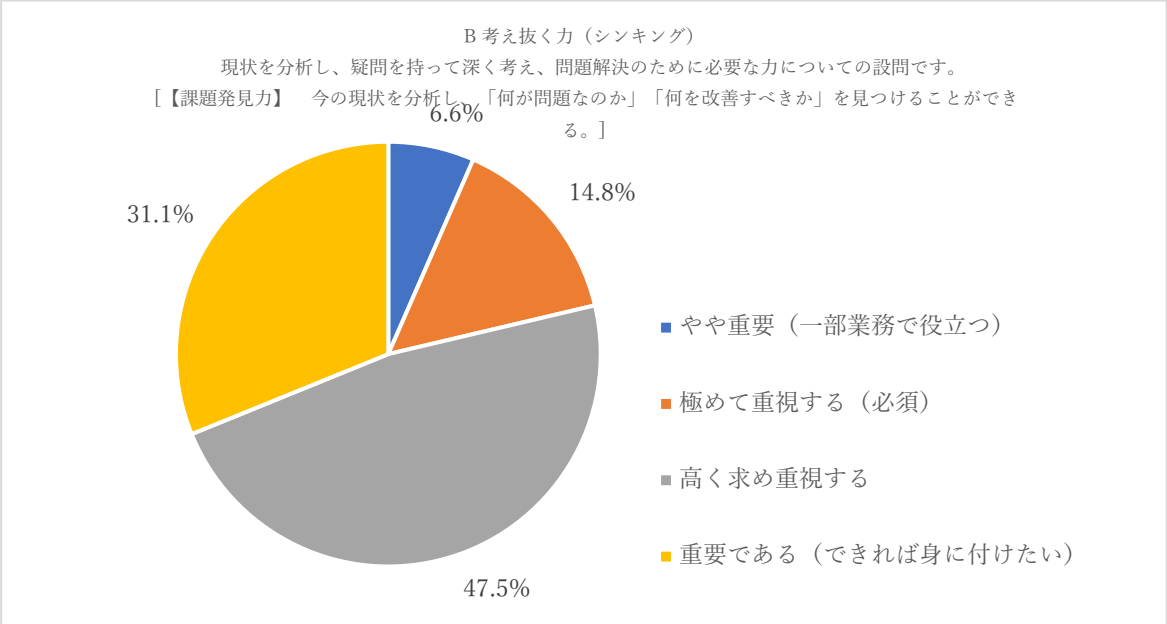
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 32 件(52.5%)、重要である(できれば身に付けたい)15 件(24.9%)、極めて重視する(必須である)11 件(18.0%)であった。7 割の企業が「高く求め重視する」以上を回答する結果となった。

●働きかけ力



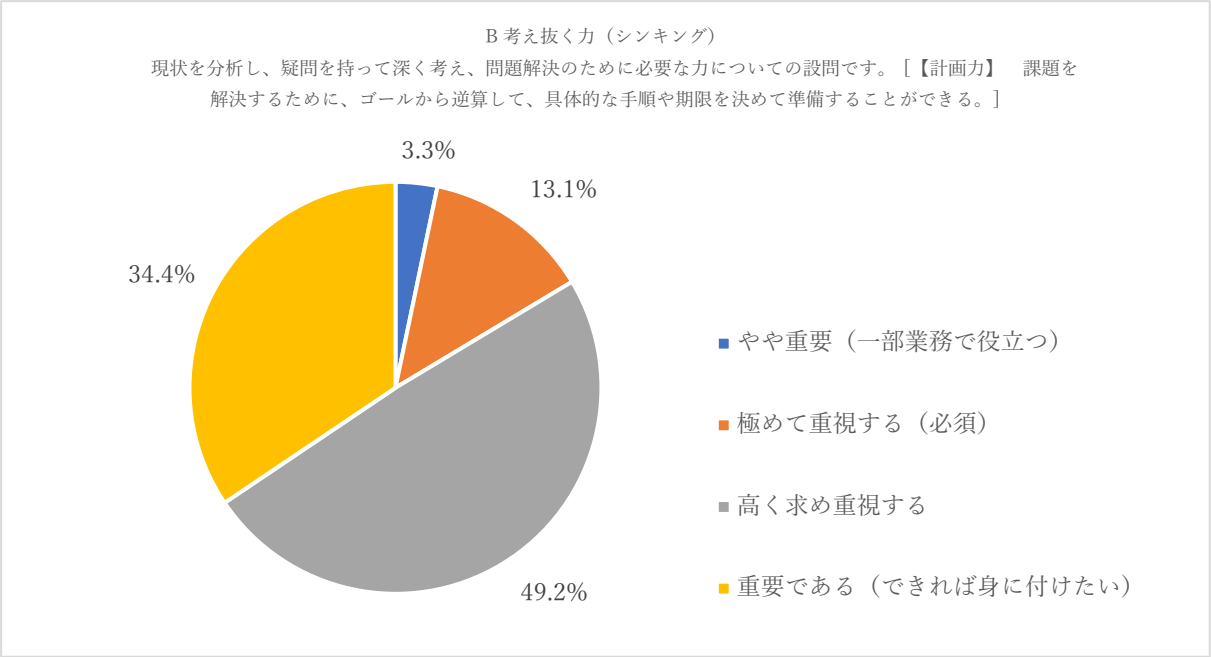
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 30 件(49.2%)、重要である(できれば身に付けたい)21 件(34.4%)、極めて重視する(必須である)7 件(11.5%)であった。「重要である」以上の回答で 9 割を超える結果となった。

●課題発見力



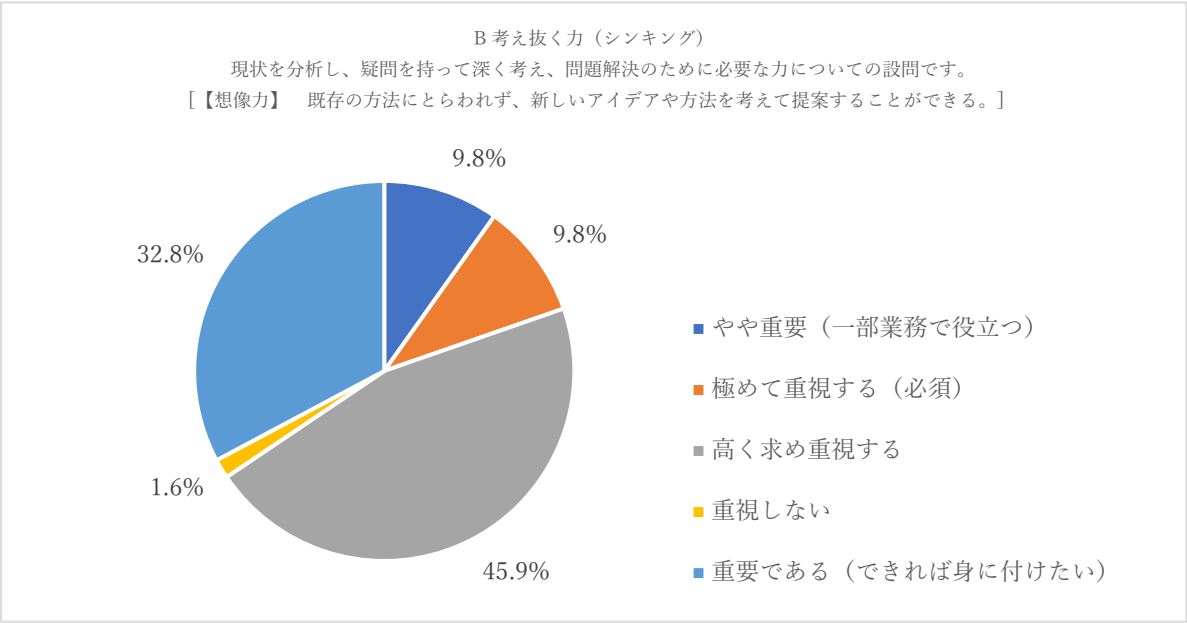
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 29 件(47.5%)、重要である(できれば身に付けたい)19 件(31.1%)、極めて重視する(必須)9 件(14.8%)であった。「重要である」以上の回答で 9 割を超える結果となった。

●計画力



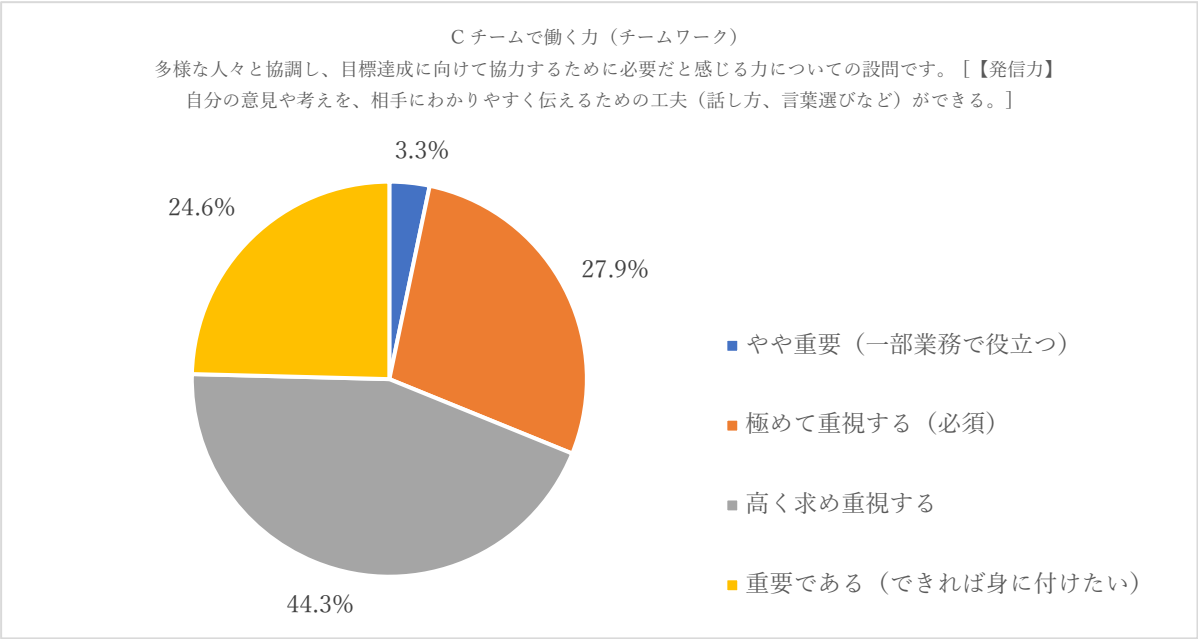
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 30 件(49.2%)、重要である(できれば身に付けたい)21 件(34.4%)、極めて重視する(必須)8 件(13.1%)であった。ほぼすべての企業が「重要である」以上の回答をする結果となった。

●想像力



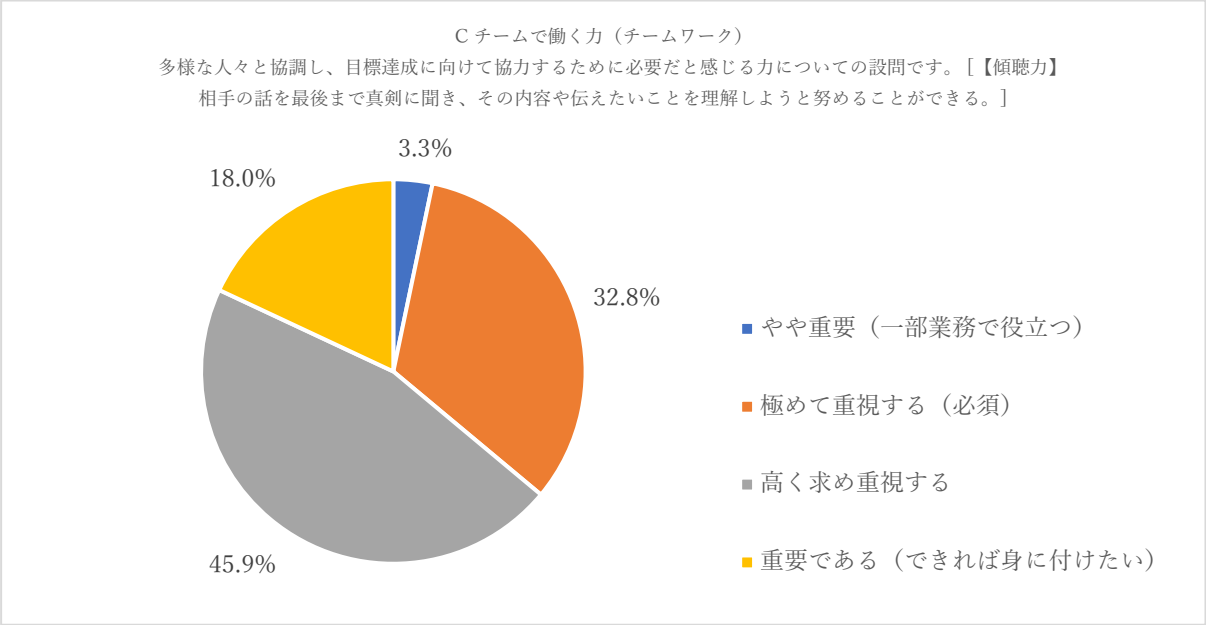
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 28 件(45.9%)、重要である(できれば身に付けたい)20 件(32.8%)、極めて重視する(必須)・やや重要(一部業務で役立つ)6 件(9.8%)であった。「重要である」以上を回答した企業が多い中で、「やや重要」以下を回答した企業も 1 割を超えた。

●発信力



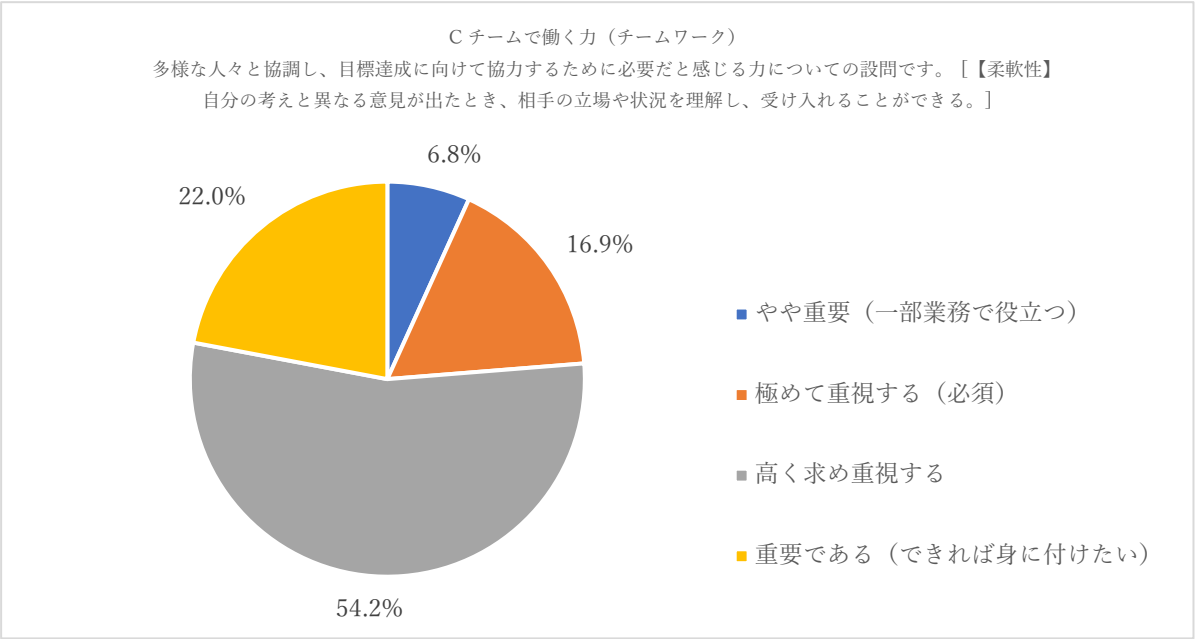
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 27 件(44.3%)、極めて重視する(必須)17件(27.9%)、重要である(できれば身に付けたい)15 件(24.6%)であった。「高く求め重視する」「極めて重視する」の回答が最も多い結果となった。

●傾聴力



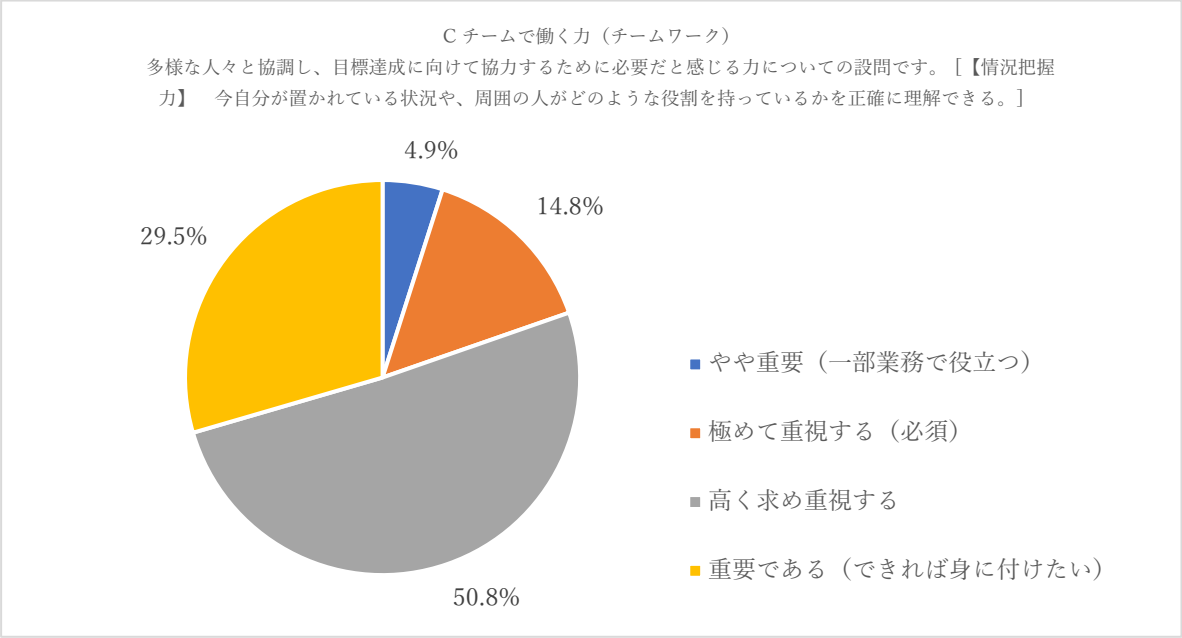
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 28 件(45.9%)、極めて重視する(必須)20件(32.8%)、重要である(できれば身に付けたい)11 件(18.0%)であった。他設問と比べても「極めて重視する」の回答が多く、企業では重視する傾向が強いことが分かる。

●柔軟性



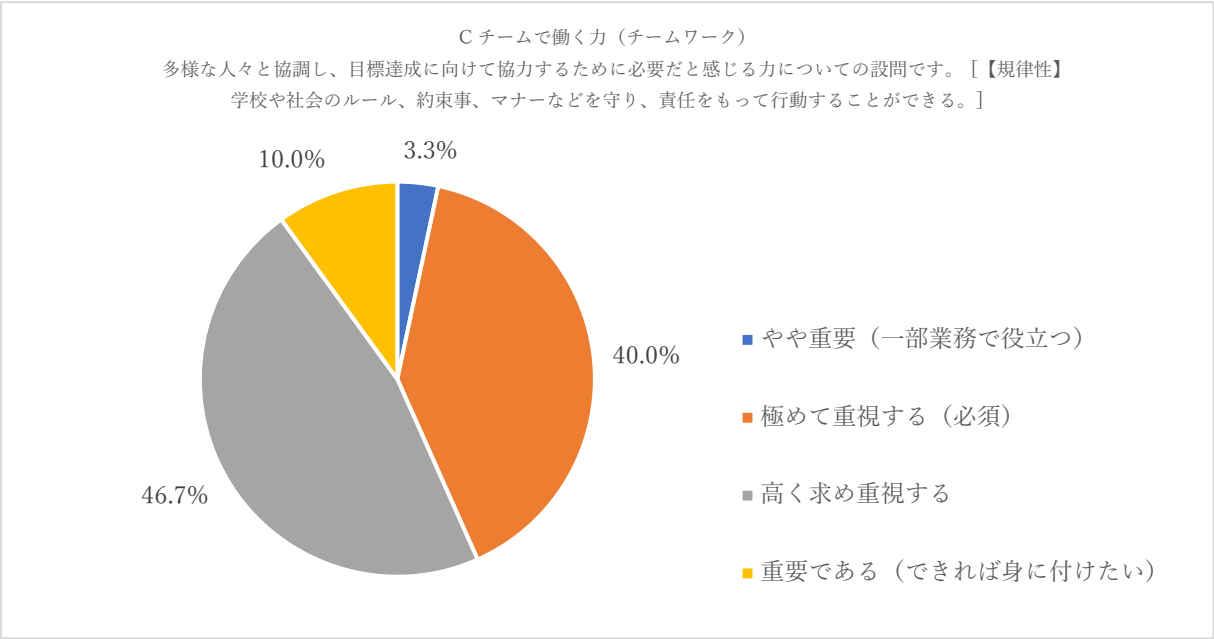
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 32 件(54.2%)、重要である(できれば身に付けたい)13 件(22.0%)、極めて重視する(必須)10 件(16.9%)であった。全体の半数が「高く求め重視する」と回答されたが、「重要である」以下の回答も全体の約 3 割となった。

●情報把握力



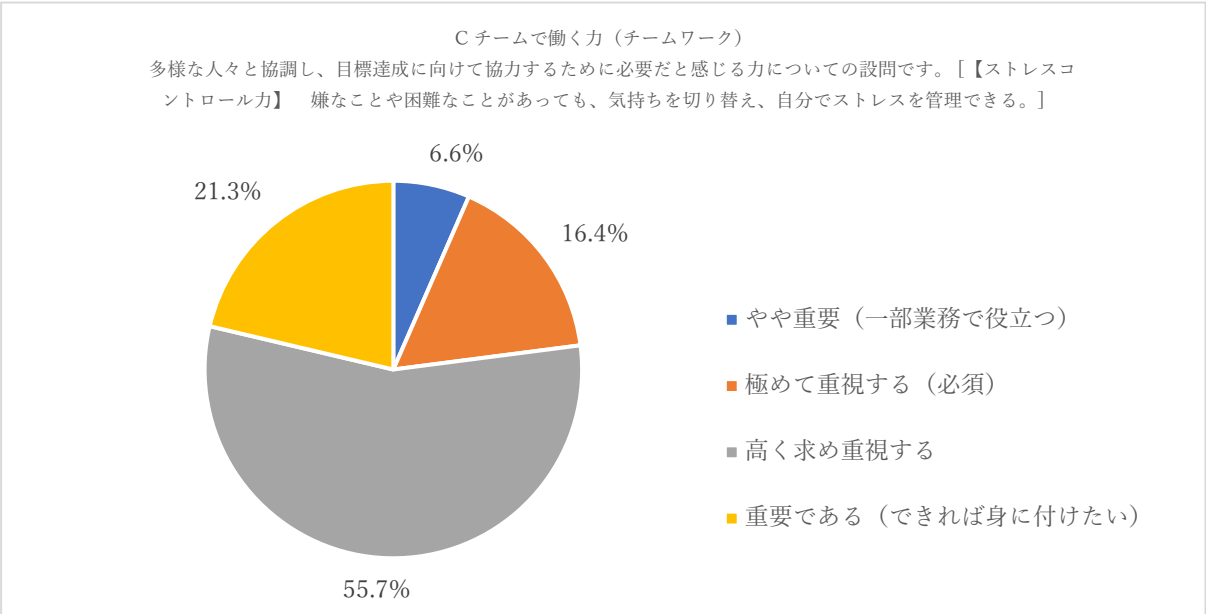
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 31 件(50.8%)、重要である(できれば身に付けたい)18 件(29.5%)、極めて重視する(必須)9 件(14.8%)であった。前設問同様の特徴が見られる。

●規律性



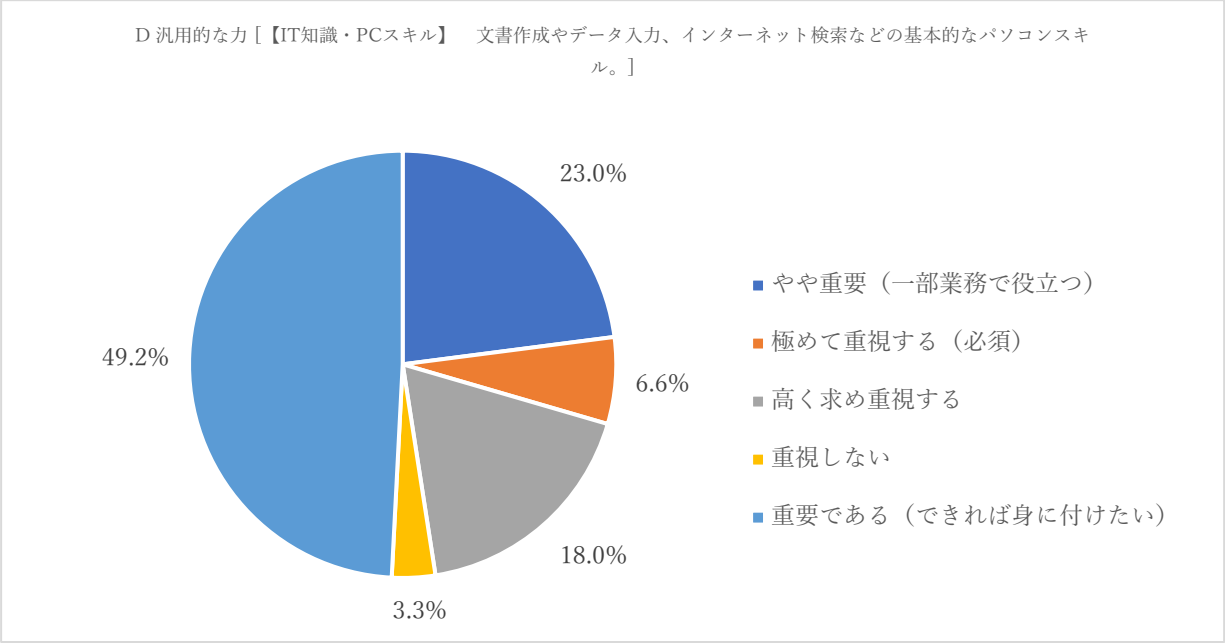
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 28 件(46.7%)、極めて重視する(必須)24 件(40.0%)、重要である(できれば身に付けたい)6 件(10.0%)であった。「極めて重視する」が 4 割を占め、「高く求め重視する」と合計して全体の約 9 割を占めていることから、多くの企業で特に重要な点としていることがわかる。

●ストレスコントロール



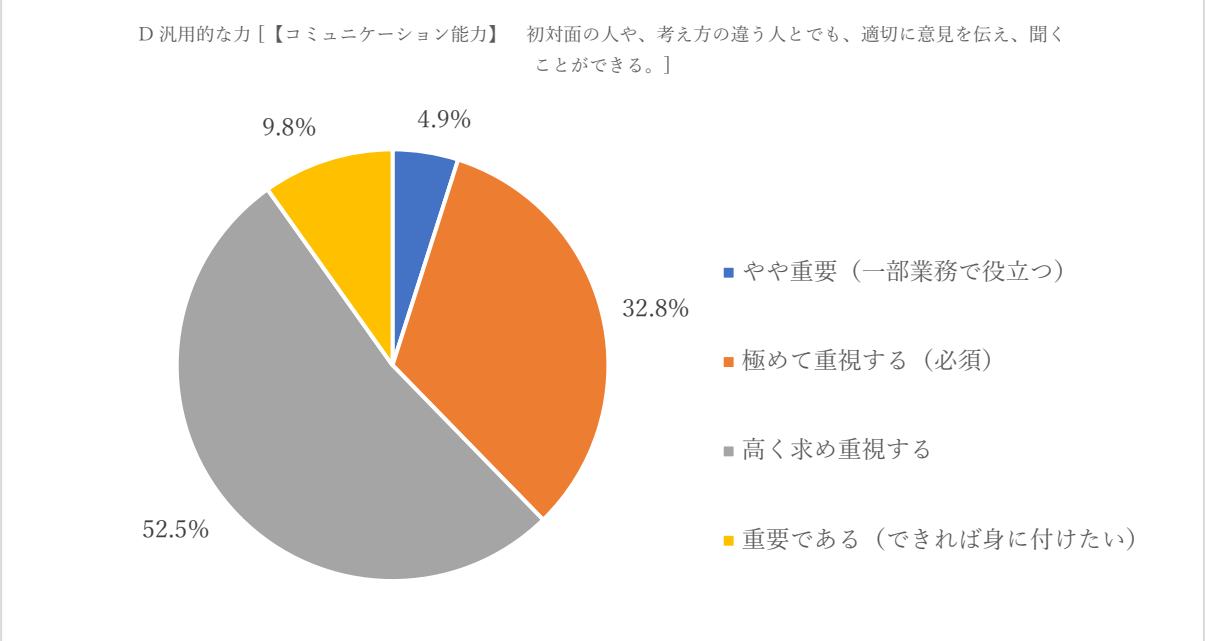
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 34 件(55.7%)、重要である(できれば身に付けたい)13 件(21.3%)、極めて重視する(必須)10 件(16.4%)であった。こちらも約 3 割が「重要である」以下の回答となった。

●IT 知識･PC スキル



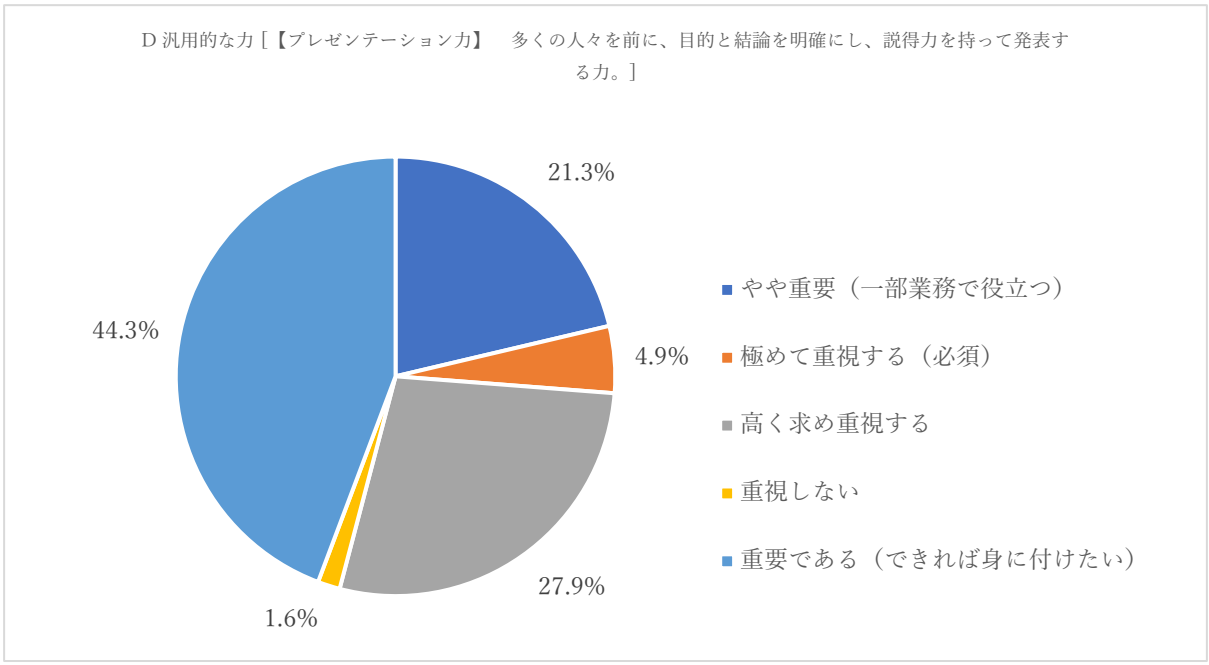
本調査の回答で多いものから順に、重要である(できれば身に付けたい)30 件(49.2%)、やや重要(一部業務で役立つ)14 件(23.0%)、高く求め重視する 11 件(18.0%)であった。パソコンスキルを必須としている企業は少ない。

●コミュニケーション能力



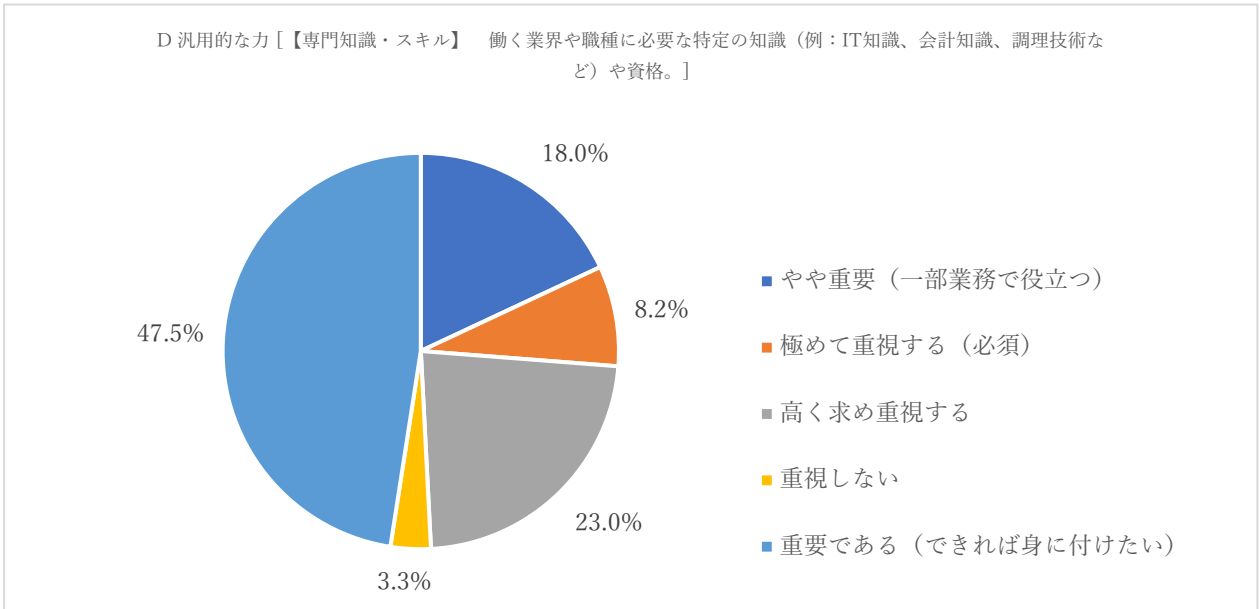
本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 32 件(52.5%)、極めて重視する(必須)20 件(32.8%)、重要である(できれば身に付けたい)6 件(9.8%)であった。対人スキルに重点を置く企業が多い。

●プレゼンテーション力



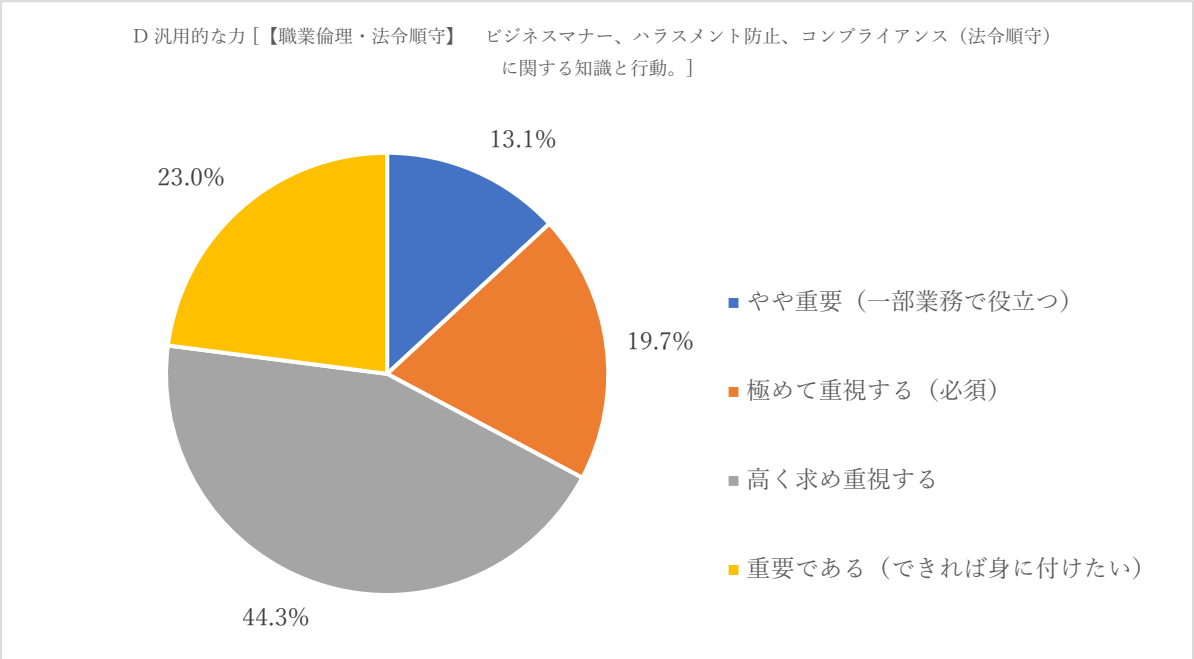
本調査の回答で多いものから順に、重要である（できれば身に付けたい）27 件（44.3%）、高く求め重視する 17 件（27.9%）、やや重要（一部業務で役立つ）13 件（21.3%）であった。採用時点においては、他項目と比べると重要視する企業が少ない様子がうかがえる。

●専門的知識・スキル



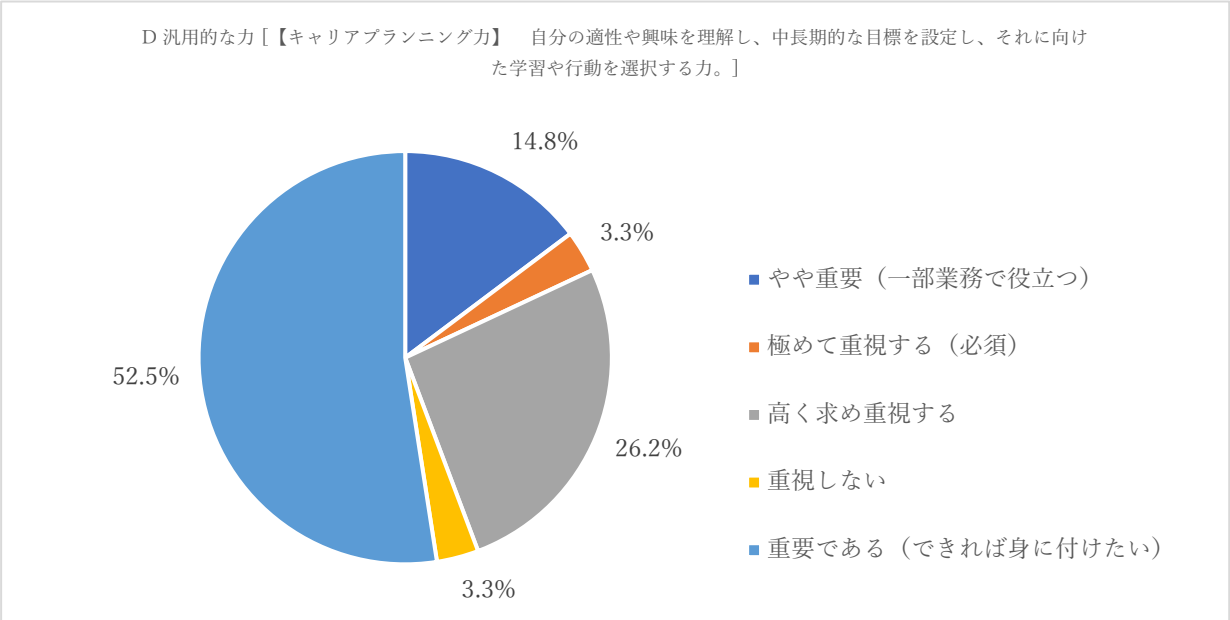
本調査の回答で多いものから順に、重要である（できれば身に付けたい）29 件（47.5%）、高く求め重視する 14 件（23.0%）、やや重要（一部業務で役立つ）11 件（18.0%）であった。採用時点においては、他項目と比べると重要視する企業が少ない様子がうかがえる。

●所業倫理･法令順守



本調査の回答で多いものから順に、高く求め重視する 27 件(44.3%)、重要である(できれば身に付けたい)14 件(23.0%)、極めて重視する(必須)12 件(19.7%)であった。社会や会社のルールを重要視する企業が多いことに比例した結果となった。

●キャリアプランニング



本調査の回答で多いものから順に、重要である(できれば身に付けたい)32 件(52.5%)、高く求め重視する 16 件(26.2%)、やや重要(一部業務で役立つ)9 件(14.8%)であった。「極めて重視する」と回答した企業も少なく、他設問と比べると企業の重要度はそれほど高くない。

【問13】貴社で採用したいと考える人材の能力で上記以外に特に必要だと思われるものを教えてください。(自由記述)

・専門学校、大学の学科が情報系にシフトする動きから、ものづくりの担い手減少が顕著である(1)
・情報系資格の取得(1)
・WEB関係に強い人材(1)
・ものづくりへの興味(1)
・人の役に立ちたいという思い(1)
・継続力／継続できる気持ちのある人財(2)
・信用、コミュニケーション能力(1)
・自分の強みや弱味を理解し、弱味について周りの方に助けてくださいと言えること
言えると周りも助けやすいし、自分も気持ちがラクになると思います。お互い様の謙虚な気持ちで取り組めば、どんなときも道が開くと思います。(1)
・柔軟性・状況把握力を持ち、自身の知識や知っていることだけで状況を推し量らず(断定せず)、相手の立場を思考できる視野の広さ(1)

【問14】貴社の採用活動において感じている課題があれば教えて下さい。(自由記述)

・職種が多様であるため、多くの学科が応募対象であることが伝えられていない(1)
・どんな仕事をする職種かを対象者に理解してもらう事が課題(1)
・業界、職務内容の理解(説明)不足／仕事内容の伝えづらさ(2)
・自社の魅力をいかにして伝えるか／自社 PR が十分でないこと(2)
・不動産業界の良さが伝わらない(1)
・営業職というだけで敬遠されてしまう(1)
・女性の職務偏在(女生徒の職域が広がらない)(1)
・人材確保が難しい(1)
・充分な応募者を確保できない(1)
・応募がない(1)
・応募者の減少(1)
・母体(エントリー者、応募者)が年々減少している(1)
・母集団形成(2)
・学生への認知(1)
・学生さんとの接触機会が少ない(1)
・若年層に、地元で働く魅力をどうアピールするか(1)

・新卒(大学・高卒)からの応募が少ない(1)

・広島が近いため、学生が広島に流れてしまう(1)

・売手市場が顕著で、採用につながらない(1)

・初任給の上昇など年々厳しくなる(1)

・他社さんの給料や賞与の掛け率には驚きます(1)

・処遇、待遇、環境面の改善(1)

・他社と比較して当社を選んでもらうための決め手(1)

・自分の能力を活かしたいという人とうまくマッチングできないか考えております(1)

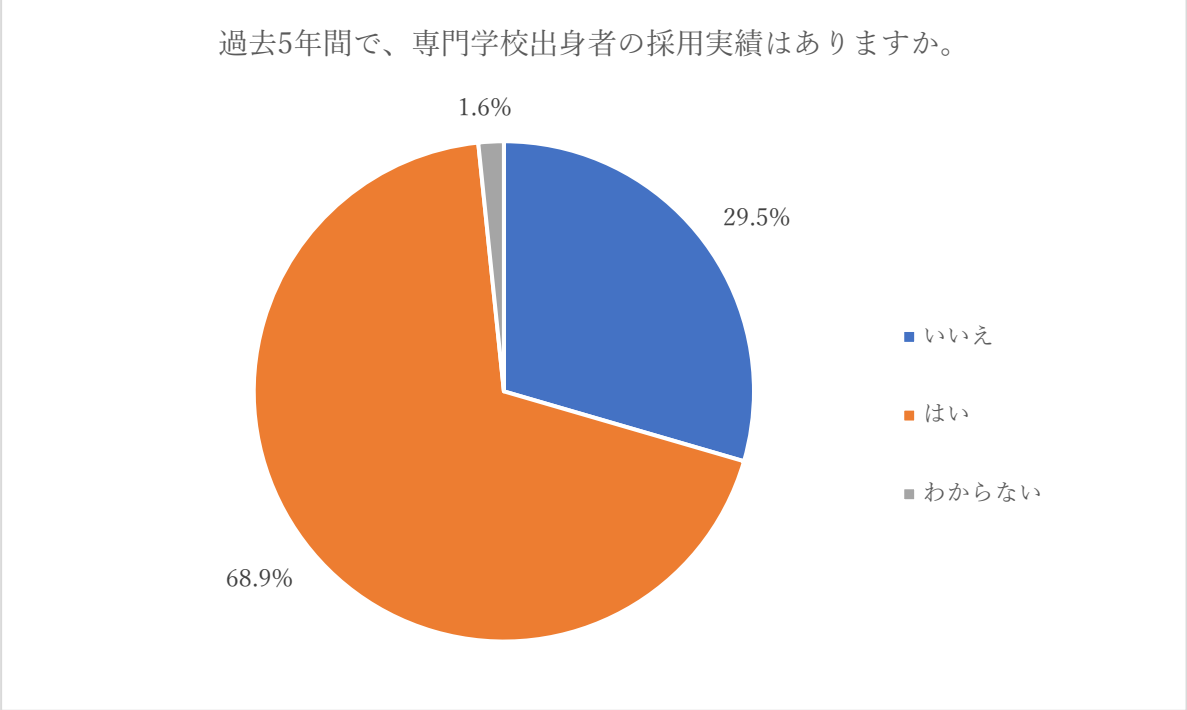
・インターンシップなどが一般的になりつつあり、採用活動の長期化していること(1)

・採用活動に専念できる人材不足／採用のお金とマンパワーも不足(2)

・特になし(1)

【問15】過去 5 年間で、専門学校出身者の採用実績がありますか。

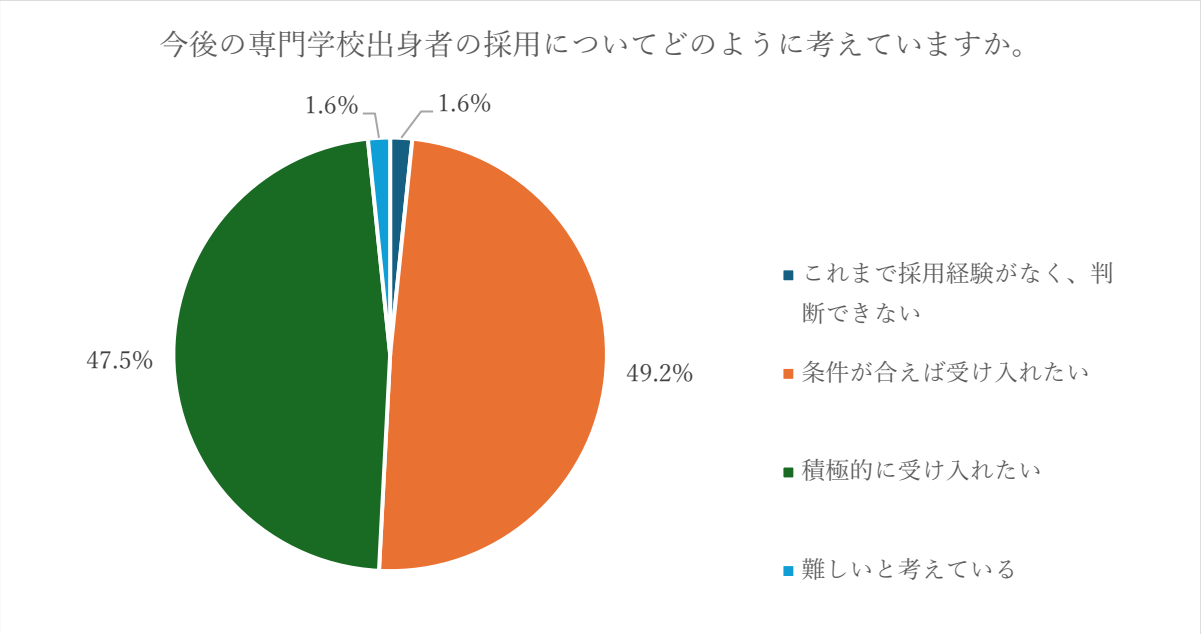
いいえ	18
はい	42
わからない	1



本調査の回答で多いものから順に、はい 42 件(68.9%)、いいえ 18 件(29.5%)、であった。7 割近くの企業が専門学校卒業生の採用実績がある。

【問16】今後の専門学校出身者の採用についてどのように考えていますか。

これまで採用経験がなく、判断できない	1
条件が合えば受け入れたい	30
積極的に受け入れたい	29
難しいと考えている	1



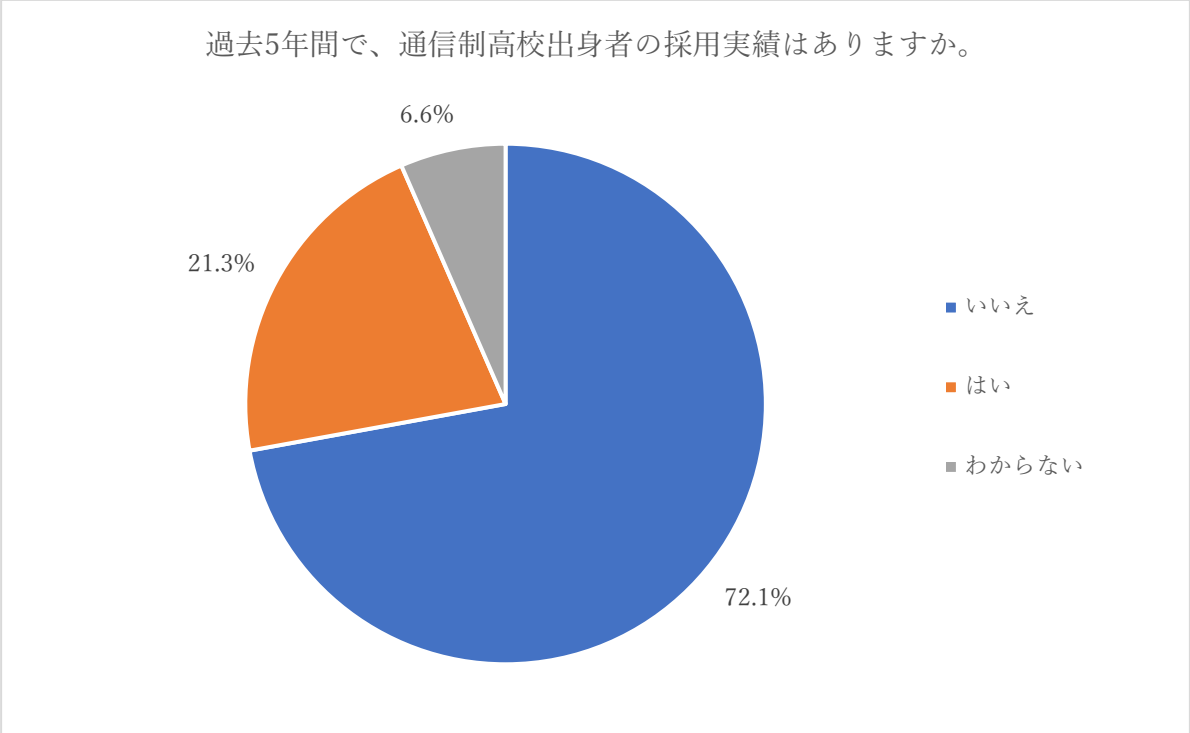
本調査の回答で多いものから順に、条件が合えば受け入れたい30件(49.2%)、積極的に受け入れたい29件(47.5%)であった。多くの企業が専門学校出身者の採用について前向きに捉えている。

【問17】貴社で専門学校出身者を採用する場合に重要な要素、期待することがあれば教えてください。(自由記入)

・自動車整備の知識を持っている学生に、整備士用マニュアル作成の仕事に興味を持ってほしい(1)
・公務員(消防士、警察官)を目指す学生がキャリアチェンジを考えた時の選択肢として、弊社の自動車関連企業構内の消防・警備職があることを周知したい(1)
・情報系資格の取得状況(1)
・資格取得に対する意識の高さ(1)
・専門技術・知識(2)
・ある程度の専門性を持っている事(1)
・上記の回答及び多少の専門性(1)
・社会人基礎力
・主体性(3)
・自分で考える力(1)
・WEBに関する技術と営業に必要なコミュニケーション力(1)
・継続力(1)
・自分の学んだことを活かしたいと思う人(1)
・コミュニケーション能力(4)
・コミュニケーションが問題なく取れて、自身の意見をある程度自由に述べられること(1)
・周りと協働する力(1)
・人柄や前向きに取り組む姿勢(1)
・【ものづくり】に興味のある方、男女も問いませんし、文系理系も問いません。(1)

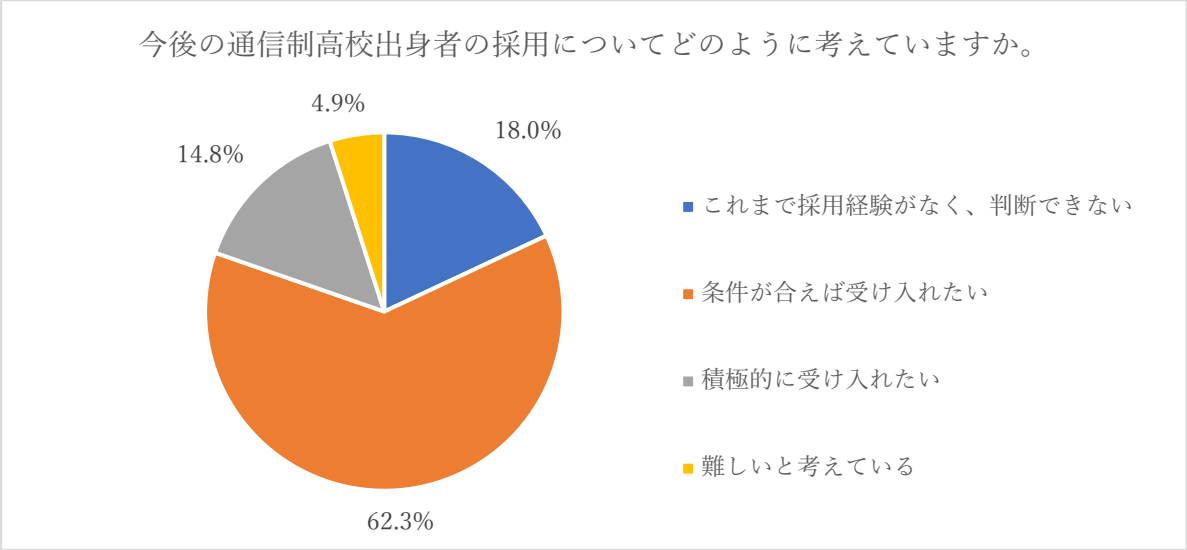
【問18】過去 5 年間で、通信制高校出身者の採用実績はありますか。

いいえ	44
はい	13
わからない	4



本調査の回答で多いものから順に、いいえ 44 件(72.1%)、はい 13 件(21.3%)であった。専門学校出身者の受け入れと比べると、通信制高校出身者の受け入れ実績は少ない。

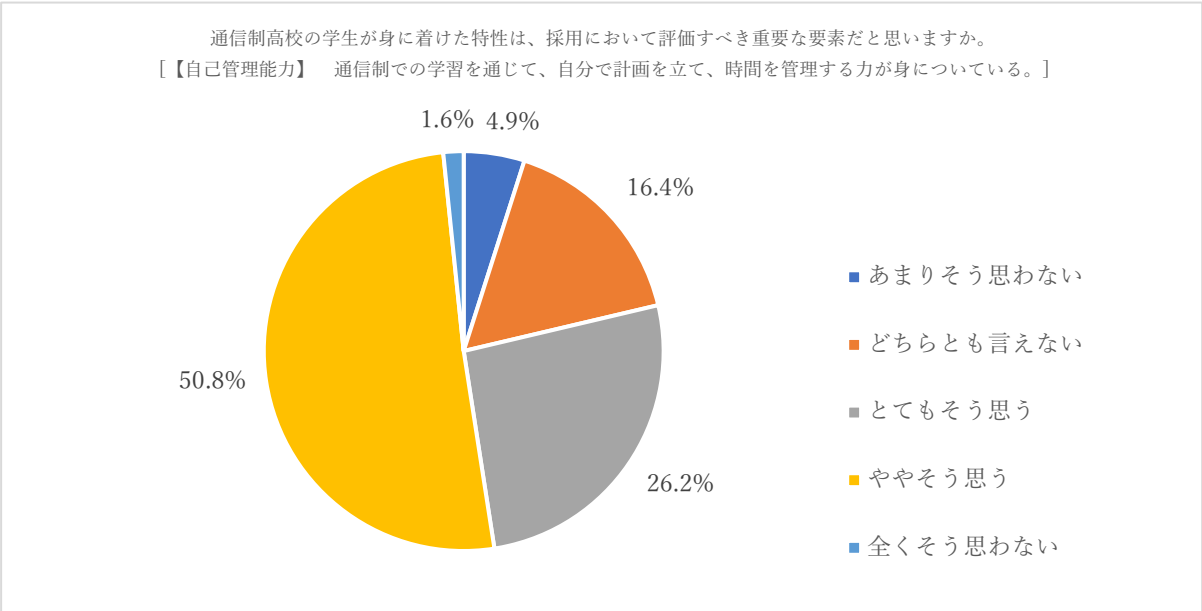
【問 19】 今後の通信制高校出身者の採用についてどのように考えていますか。



本調査の回答で多いものから順に、条件が合えば受け入れたい 38 件(62.3%)、これまで採用経験がなく、判断できない 11 件(18.0%)、積極的に受け入れたい 9 件(14.8%)であった。専門学校出身者受け入れと比べると、「これまで採用経験がなく、判断できない」に多くの回答があり、実績がないことへの不安が読み取れる。

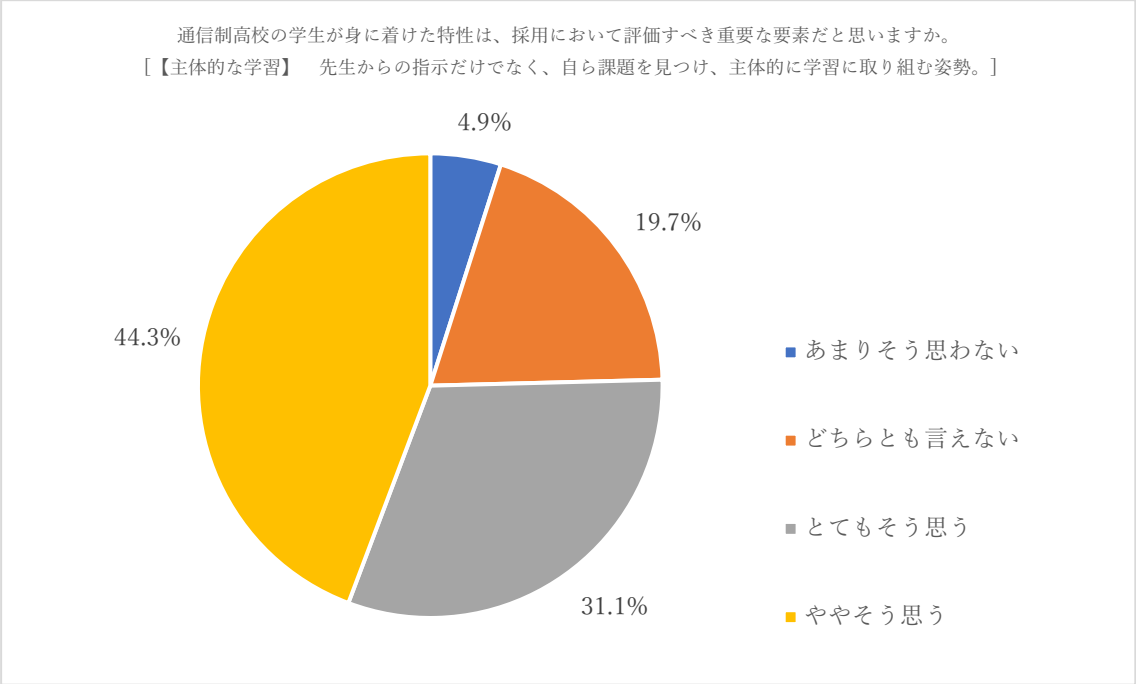
【問 20】 通信制高校の学生が身に着けた特性は、採用において評価すべき重要な要素だと思いますか。

●自己管理能力



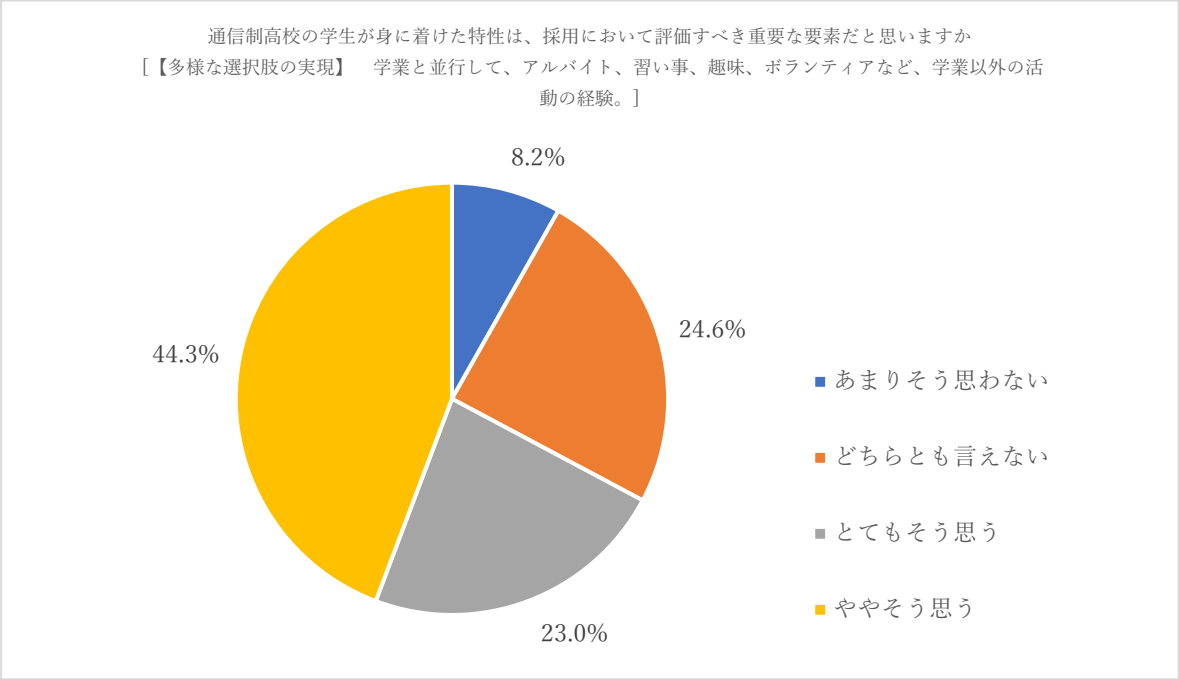
本調査の回答で多いものから順に、ややそう思う 31 件(50.8%)、とてもそう思う 16 件(26.2%)、どちらとも言えない 10 件(16.4%)であった。多くの企業では重視する傾向が強いことが分かる。

●主体的な学習



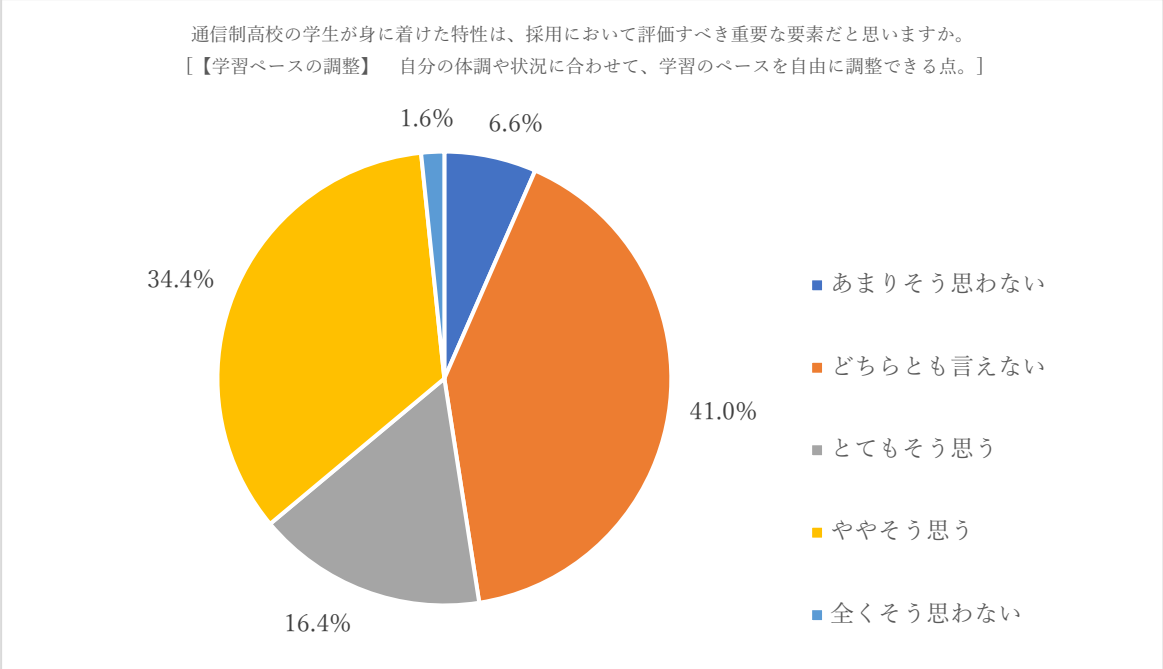
本調査の回答で多いものから順に、ややそう思う 27 件(44.3%)、とてもそう思う 19 件(31.1%)、どちらとも言えない 12 件(19.7%)であった。7 割以上の企業が重要な要素として捉えている。

●多様な選択肢の実現



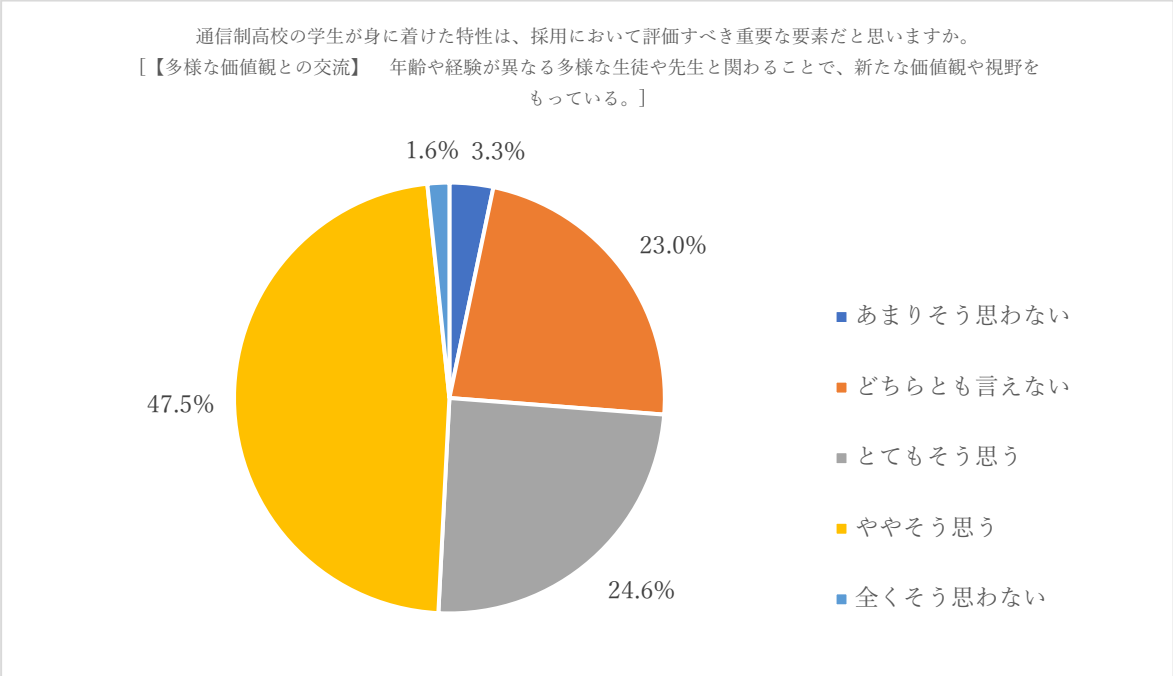
本調査の回答で多いものから順に、ややそう思う 27 件(44.3%)、どちらとも言えない 15 件(24.6%)、とてもそう思う 14 件(23.0%)であった。全体の 1/4 が「どちらとも言えない」に回答しており、他設問と比べると回答に迷う企業が多いことが分かる。

●学習ベースの調整



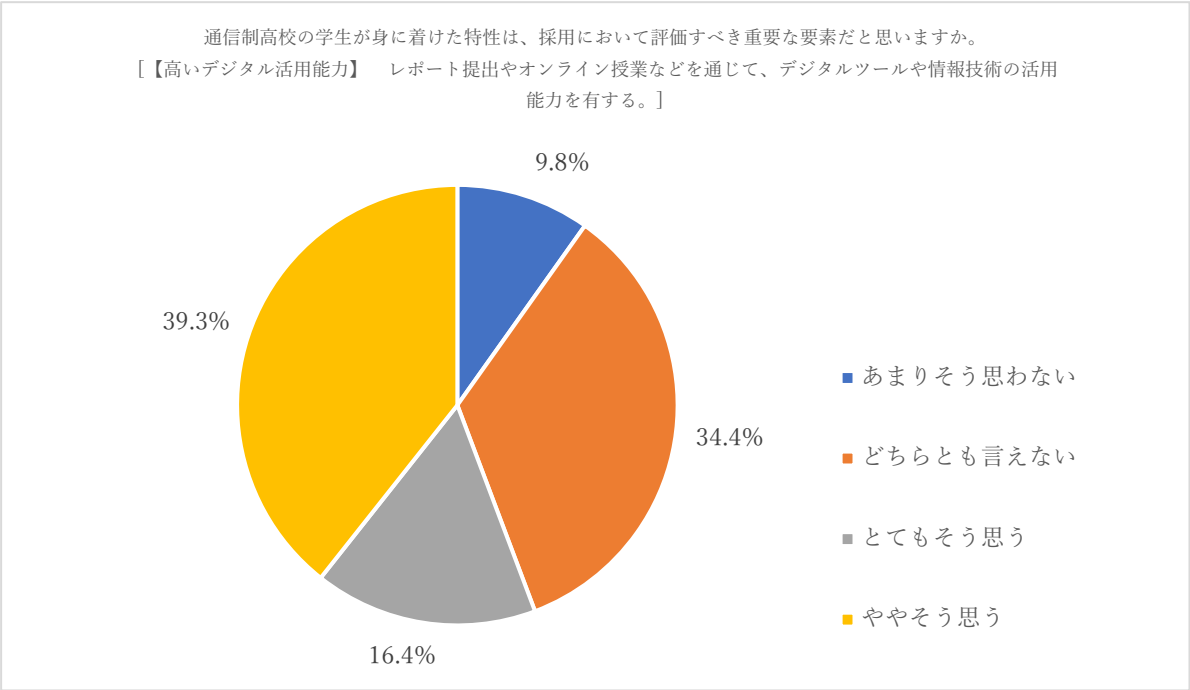
本調査の回答で多いものから順に、どちらとも言えない 25 件(41.0%)、ややそう思う 21 件(34.4%)、とてもそう思う 10 件(16.4%)であった。企業として採用経験が少ないこともあってか、回答に迷う企業が多い。

●多様な価値観との交流



本調査の回答で多いものから順に、ややそう思う 29 件(47.5%)、とてもそう思う 15 件(24.6%)、どちらとも言えない 14 件(23.0%)であった。対人コミュニケーションを重視する企業が多いことが本調査の結果にも影響している様子がうかがえる。

●高いデジタル活用能力



本調査の回答で多いものから順に、ややそう思う 24 件(39.3%)、どちらとも言えない 21 件(34.4%)、とてもそう思う 10 件(16.4%)であった。パソコンスキル関連は必須としない企業が多い。

【問 21】 貴社で通信制高校出身者を採用したいと考える人材の能力で上記以外に特に必要だと思われるものを教えてください。(自由記入)

・通信制であろうが全日制であろうが、通学形態や学習方法には拘らない。同等の試験を経て採用を決定するので、人材として重視する点に変わりはない(1)

・通信制の方は自ら進んでやろうという力が身につくと思いますので、是非、採用を考えていきたいと思っております(1)

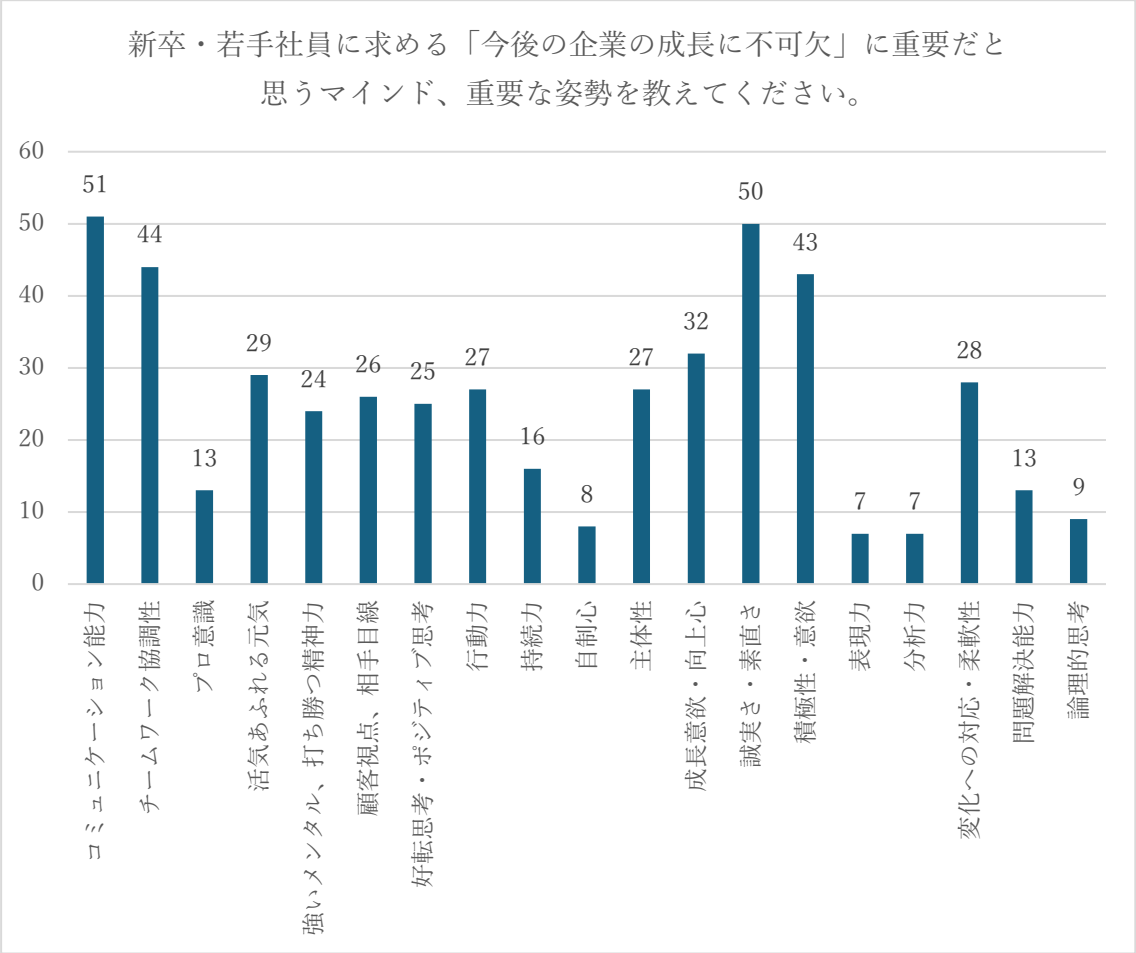
・情報系資格の取得状況(1)

・継続力(1)

・協調性や分からないことを周りに聞く積極性(1)

・特になし(1)

【問 22】新卒・若手社員に求める「今後の企業の成長に不可欠」に重要だと思うマインド、重要な姿勢を教えてください。（複数回答可）



本調査の回答で多いものから順に、コミュニケーション能力 51 件、誠実さ・素直さ 50 件、チームワーク協調性 44 件であった。また「積極性・意欲」も次に高いため、仕事の基本を中心に真面目に働くという姿勢を多くの企業は求めていることがわかる。

【問 23】 上記以外で、貴社が新卒・若手社員に求めるマインド、重要な姿勢があれば具体的に教えてください。（自由記入）

・何事も楽しむ心、ライフワークバランスが保てる（1）

・継続力（1）

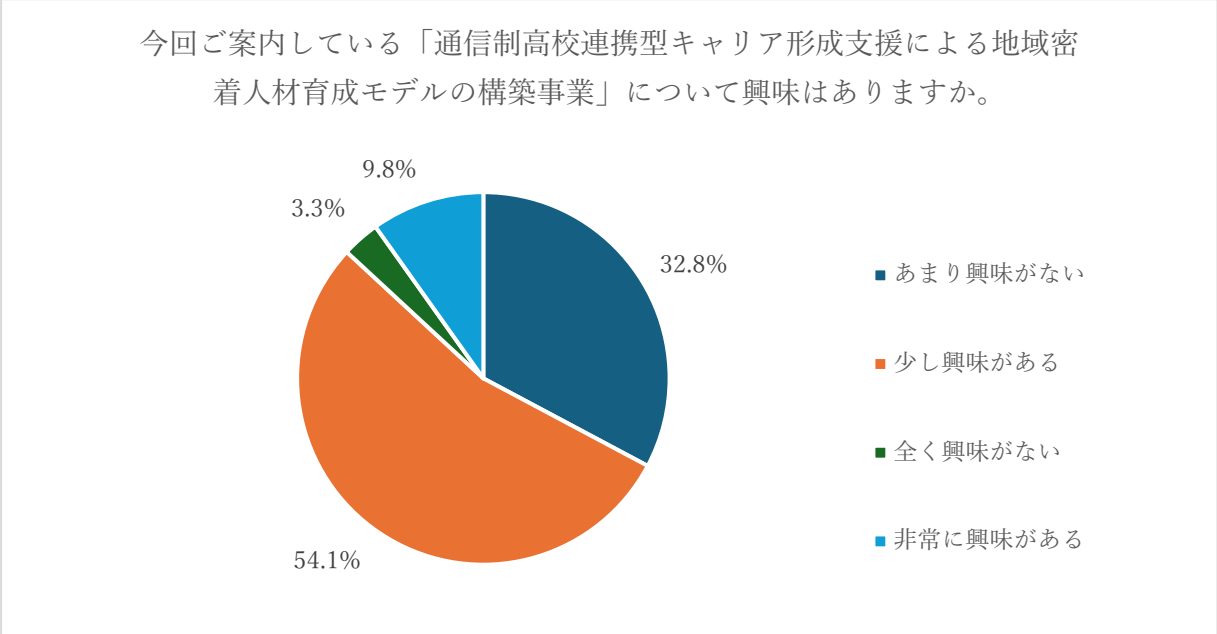
・やる気が大事だと思います（1）

・向上心があり、好奇心がある方（1）

・メンタルの強い方が理想です（1）

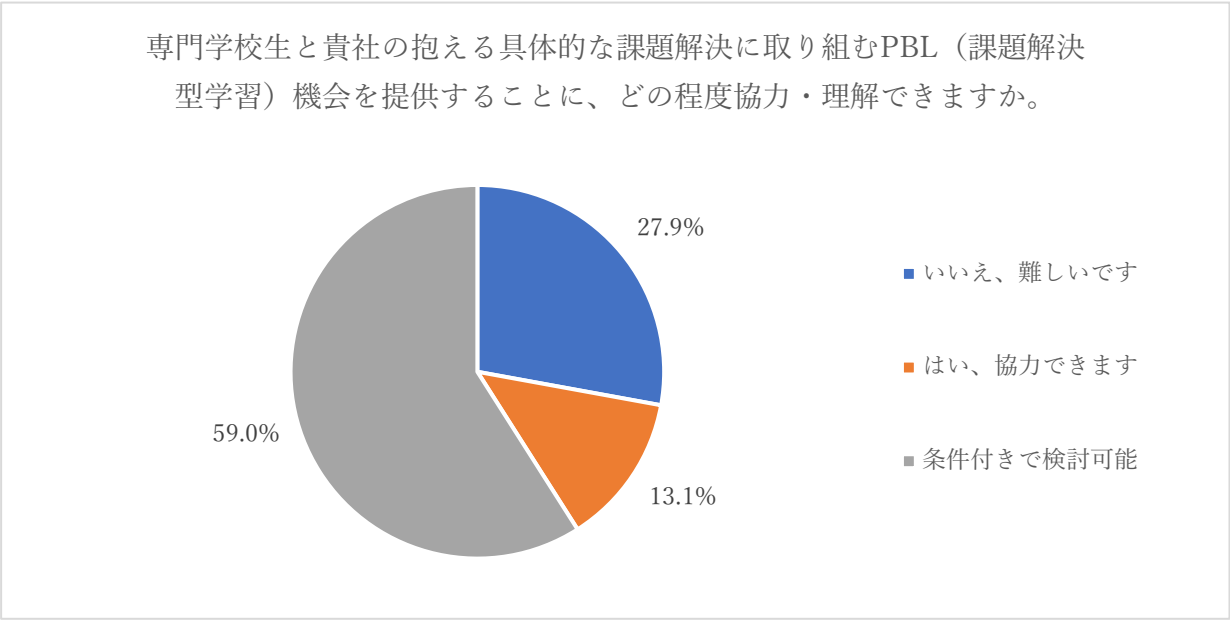
・なし（1）

【問 24】 今回ご案内している「通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業」について興味はありますか。



本調査の回答で多いものから順に、少し興味がある 33 件(54.1%)、あまり興味がない 20 件(32.8%)、非常に興味がある 6 件(9.8%)であった。非常に興味があると少し興味があるの2つを合わせると約 7 割近くの企業が本事業について興味をもっている。

【問 25】 専門学校生と貴社の抱える具体的な課題解決に取り組む PBL(課題解決型学習)機会を提供することに、どの程度協力・理解できますか。



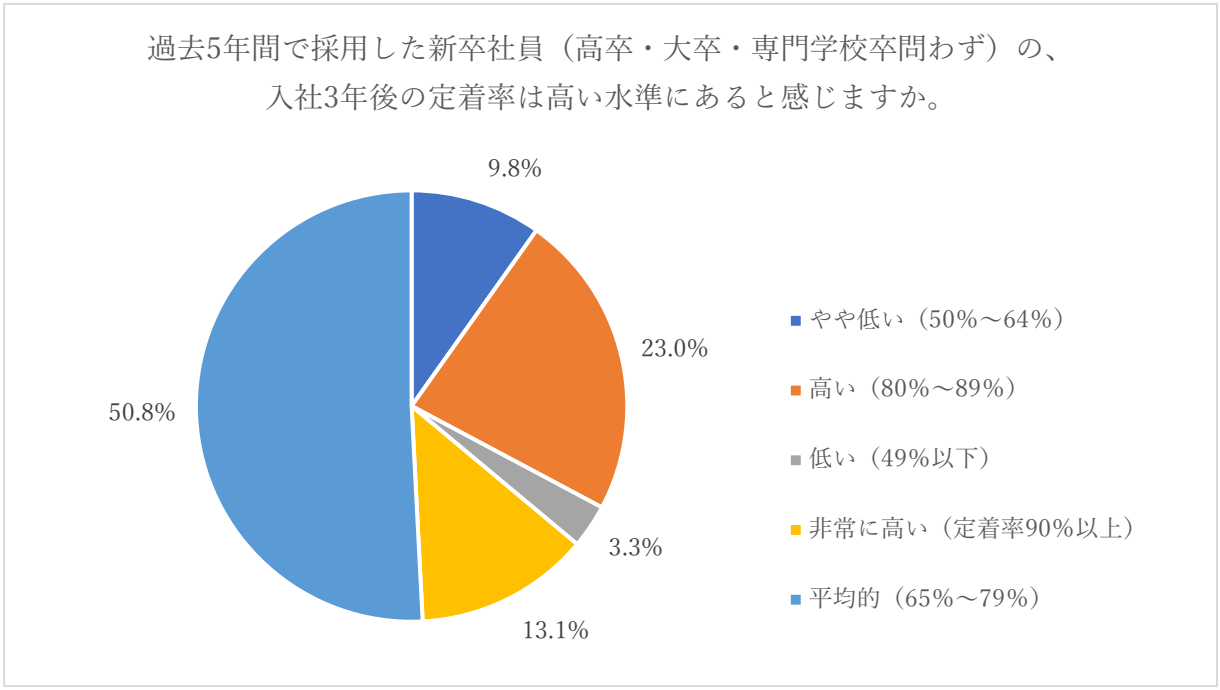
本調査の回答で多いものから順に、条件付きで検討可能 36 件(59.0%)、いいえ、難しいです 17 件(27.9%)、はい、協力できます 8 件(13.1%)であった。条件付きで検討可能としている企業もあるが授業等の連携については約 7 割の企業が協力・理解を示している。

【問 26】上記でいいえと回答した方はお答えください。受け入れる際、貴社にとって最も大きな課題となることは何ですか。(自由記入)

・社員の工数確保(1)
・担当者の負担(1)
・社内に対応できる人材の不足(3)
・安全面での受け入れ環境の制約及び業務形態(請負)による体制上の制約(1)
・情報セキュリティの規則上(1)
・受入体制の整備(1)
・リソース不足、社内調整(1)
・上司への確認が必要となるため、検討可能とさせてください(1)

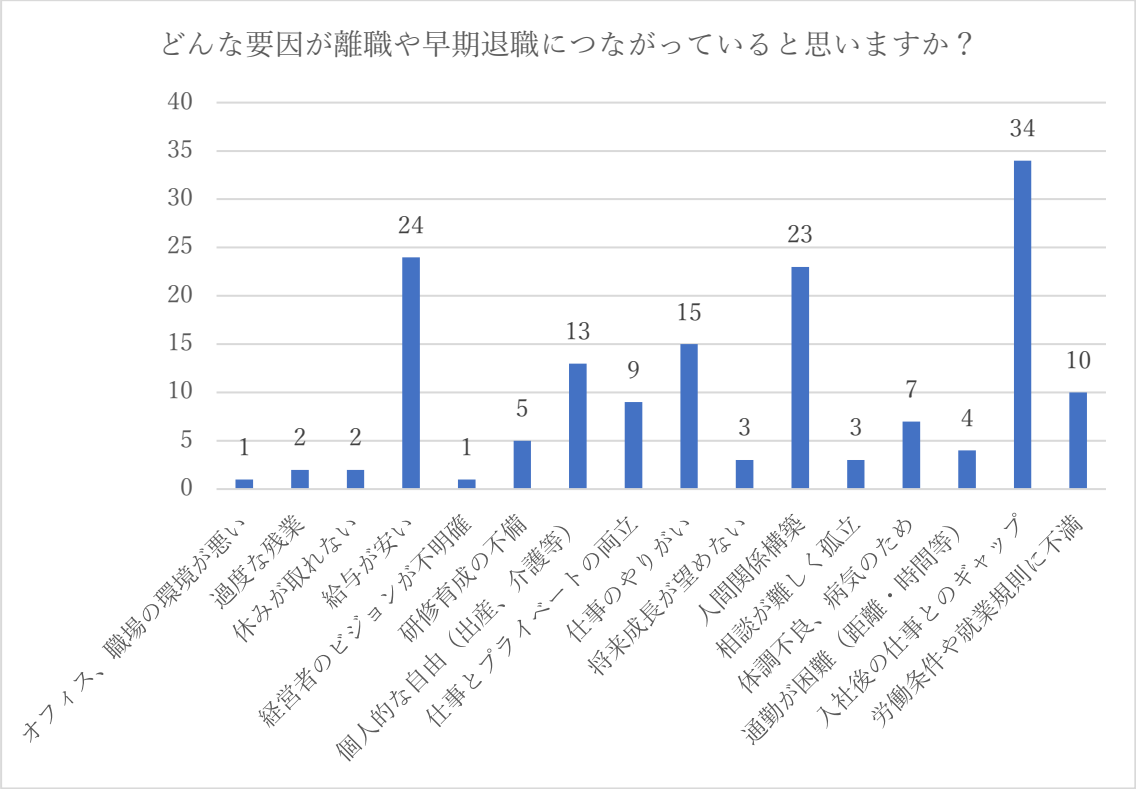
【問 27】過去 5 年間で採用した新卒社員(高卒・大卒・専門学校卒問わず)の、入社 3 年後の定着率は高い水準にあると感じますか。

やや低い(50%～64%)	6
高い(80%～89%)	14
低い(49%以下)	2
非常に高い(定着率 90%以上)	8
平均的(65%～79%)	31



本調査の回答で多いものから順に、平均的(65%～79%)31 件(50.8%)、高い(80%～89%)14 件(23.0%)、非常に高い(定着率 90%以上)8 件(13.1%)であった。9 割近くの企業が平均以上を感じている。

【問 28】どんな要因が離職や早期退職につながっていると思いますか？（複数回答可）



本調査の回答で多いものから順に、入社後の仕事とのギャップ 34 件、給与が安い 24 件、人間関係構築 23 件であった。他選択肢と比べても上位三つは特に多く回答される結果となった。

【問 29】上記以外で貴社での早期退職につながると思われることがあれば教えてください。（自由記入）

・自分でキャリアプランを設計するスキル不足（1）
・新しくやりたい事を見つけた（1）
・賃金（他社との比較）／給料・賞与についての話をよく聞きます（2）
・コミュニケーション不足（1）
・平日が定休日のため、土日に休みが取りにくい（1）
・なし（1）

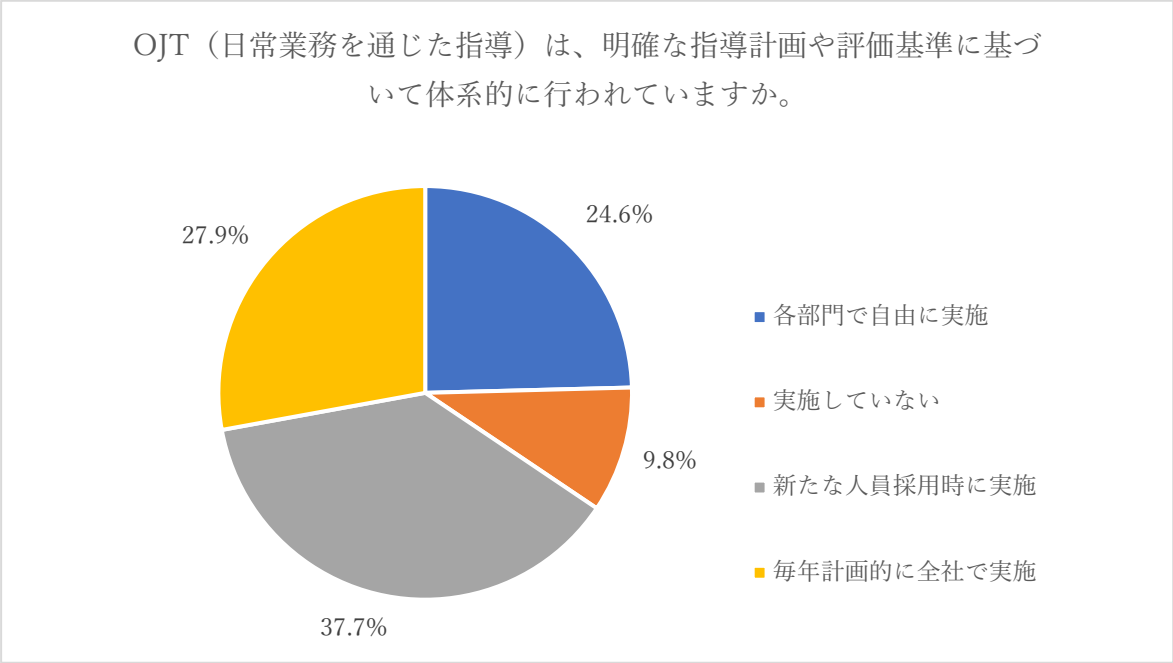
【問 30】貴社で実施している効果的な定着支援策があれば教えてください。（自由記入）

・充実した福利厚生（定期的なベースアップ、柔軟な働き方、有給休暇・育児休暇の取得奨励）（1）
・会社による Netflix の加入、奨学金返済支援（1）
・有給休暇の消化率 100%の取り組み（1）
・キャリアコンサルティング（1）
・定期面談・個別人事面談（3）
・メンター制度（3）
・積極的なコミュニケーション（1）

・ノー残業 DAY や社内コミュニケーションの場をしっかりともうけている(1)
・自己申告制度(1)
・本社スタッフとのヒアリング(1)
・研修(1)
・研修期間を延ばすことや、現場実践のペースを従来よりゆっくりすること(1)
・社内・事務所間異動(1)
・給料を上げることとは思いますが、なかなか難しいと考えます(1)

【問 31】OJT(日常業務を通じた指導)は、明確な指導計画や評価基準に基づいて体系的に行われていますか。

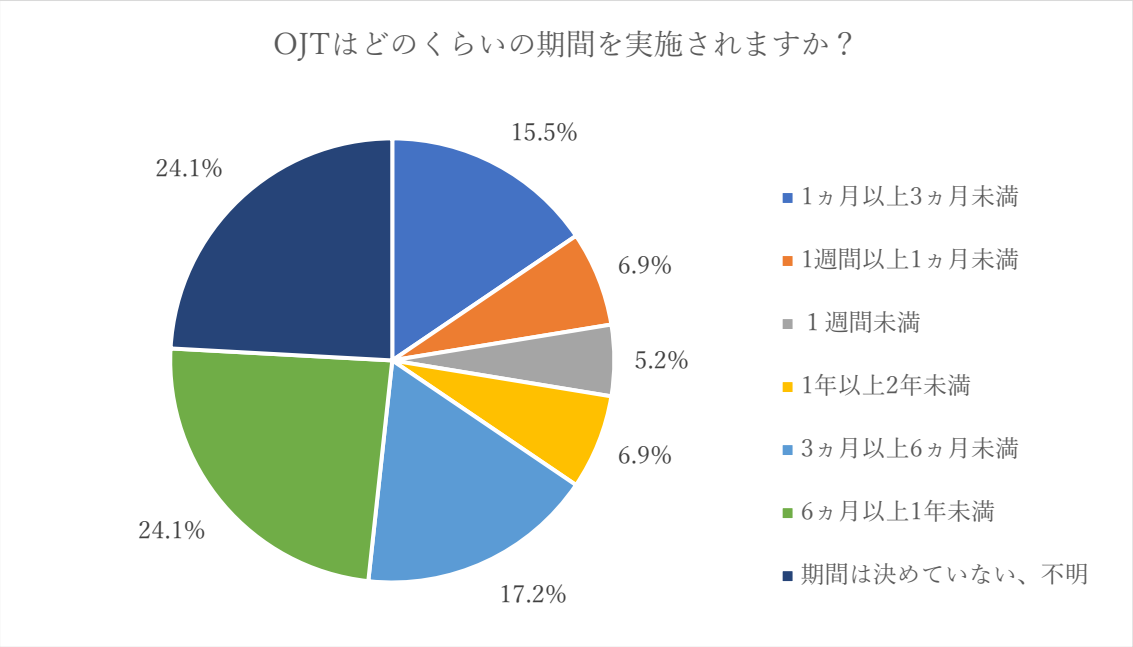
各部門で自由に実施	15
実施していない	6
新たな人員採用時に実施	23
毎年計画的に全社で実施	17



本調査の回答で多いものから順に、新たな人員採用時に実施 23 件(37.7%)、毎年計画的に全社で実施 17 件(27.9%)、各部門で自由に実施 15 件(24.6%)であった。年間通して計画的に行っている企業は少ない。

【問 32】OJT はどのくらいの期間を実施されますか？（問.31 で「実施していない」以外の方はお答えください。）

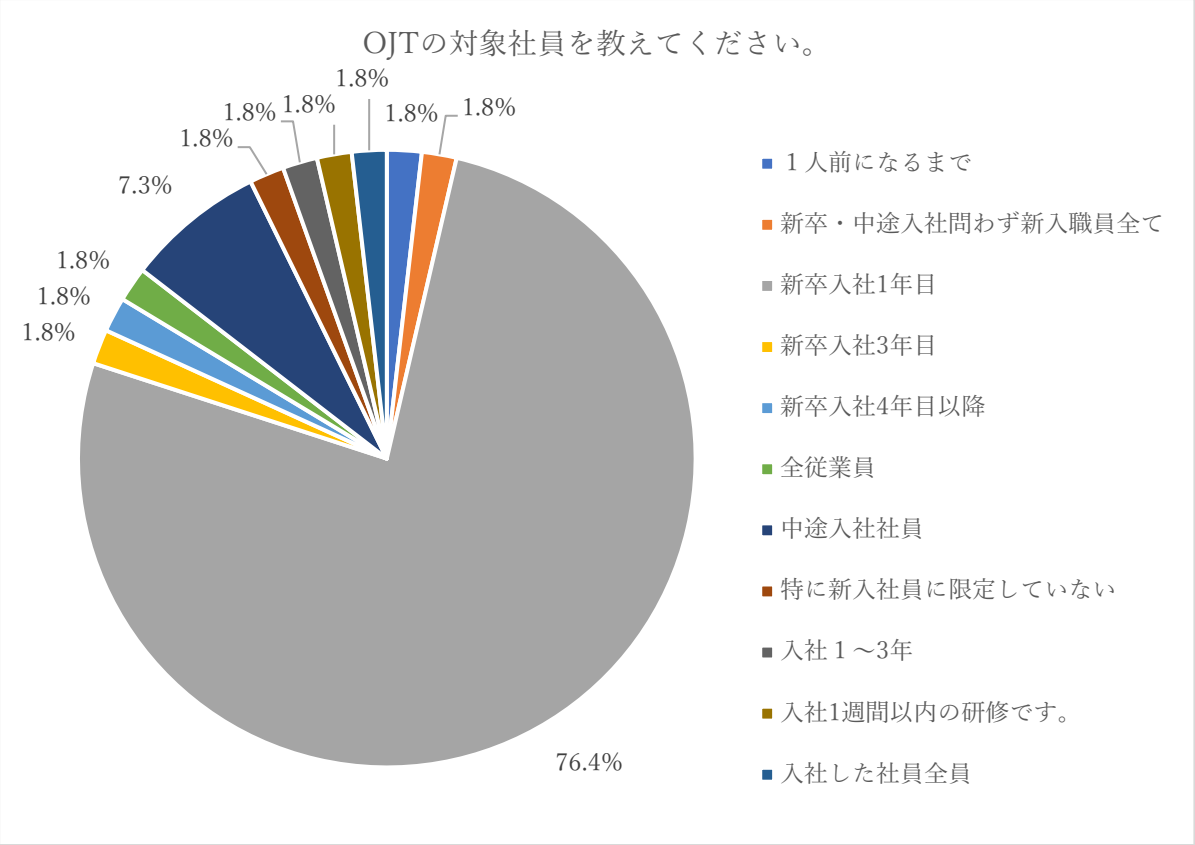
1 ヵ月以上 3 ヵ月未満	9
1 週間以上 1 ヵ月未満	4
1週間未満	3
1 年以上 2 年未満	4
3 ヵ月以上 6 ヵ月未満	10
6 ヵ月以上 1 年未満	14
期間は決めていない、不明	14



本調査の回答で多いものから順に、6ヵ月以上1年未満・期間は決めていない、不明14件（24.1%）、3 ヵ月以上 6 ヵ月未満 10 件（17.2%）であった。3 ヶ月～1 年の企業が約 4 割になるのと同じく、三か月未満の企業も約3割を占める。

【問 33】OJT の対象社員を教えてください。(問.31 で「実施していない」以外の方はお答えください。)

1人前になるまで	1
新卒・中途入社問わず新入職員全て	1
新卒入社１年目	42
新卒入社３年目	1
新卒入社４年目以降	1
全従業員	1
中途入社社員	4
特に新入社員に限定していない	1
入社1～3 年	1
入社１週間以内の研修です。	1
入社した社員全員	1



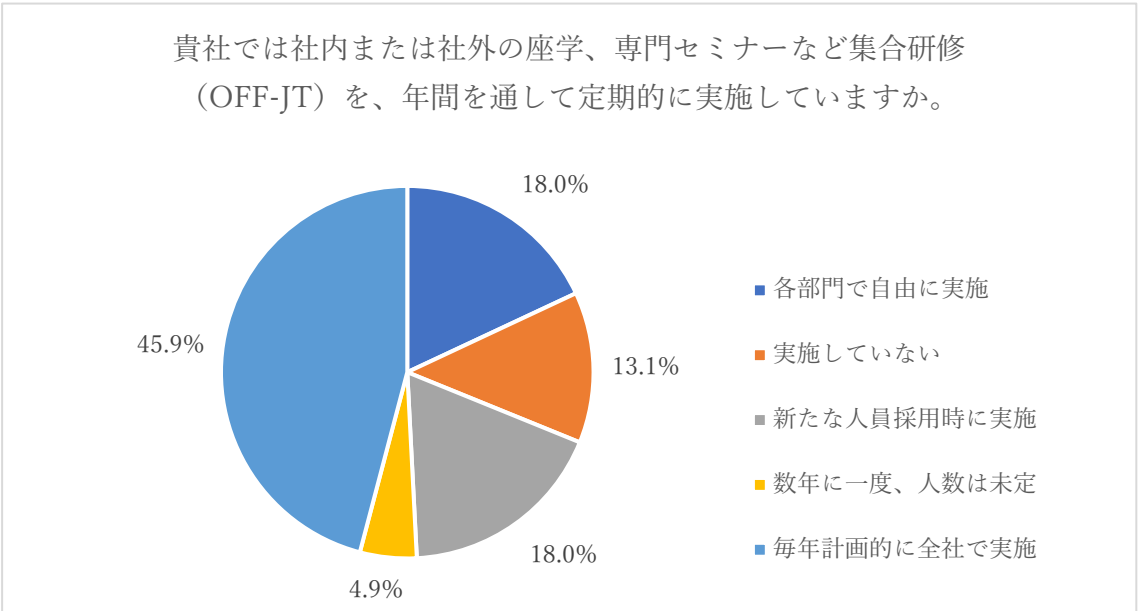
本調査の回答で多いものから順に、新卒入社 1 年目 42 件(76.4%)、中途入社社員 4 件(7.3%)であった。新卒入社 1 年目を対象にした OJT を実施している企業が圧倒的に多い。

【問 34】OJT を行う上での課題を教えてください。(問.31 で「実施していない」以外の方はお答えください)(自由記入)

・OJT を実施する先輩社員の指導力スキルが低い／OJT に関する教育がない(2)
・指導者の工数確保が困難(1)
・人材不足(部署によっては適任者が少ない)(1)
・業務毎に習得計画が異なる／同じ業務でも個人の習得状況により習得期間にばらつきがある(2)
・個人の資質、特徴に合わせた育成(1)
・教育者や環境によって教育内容の差が生まれること(1)
・職場間の取り組みの温度差(1)
・日々の確認、ミーティング(1)
・計画と記録・・・本人や第三者にもわかる体制づくり(1)
・もっと深く研修するべきと考えます(1)
・法人での統一化(1)
・特になし(1)

【問 35】貴社では社内または社外の座学、専門セミナーなど集合研修(OFF-JT)を、年間を通して定期的に実施していますか。

各部門で自由に実施	11
実施していない	8
新たな人員採用時に実施	11
数年に一度、人数は未定	3
毎年計画的に全社で実施	28



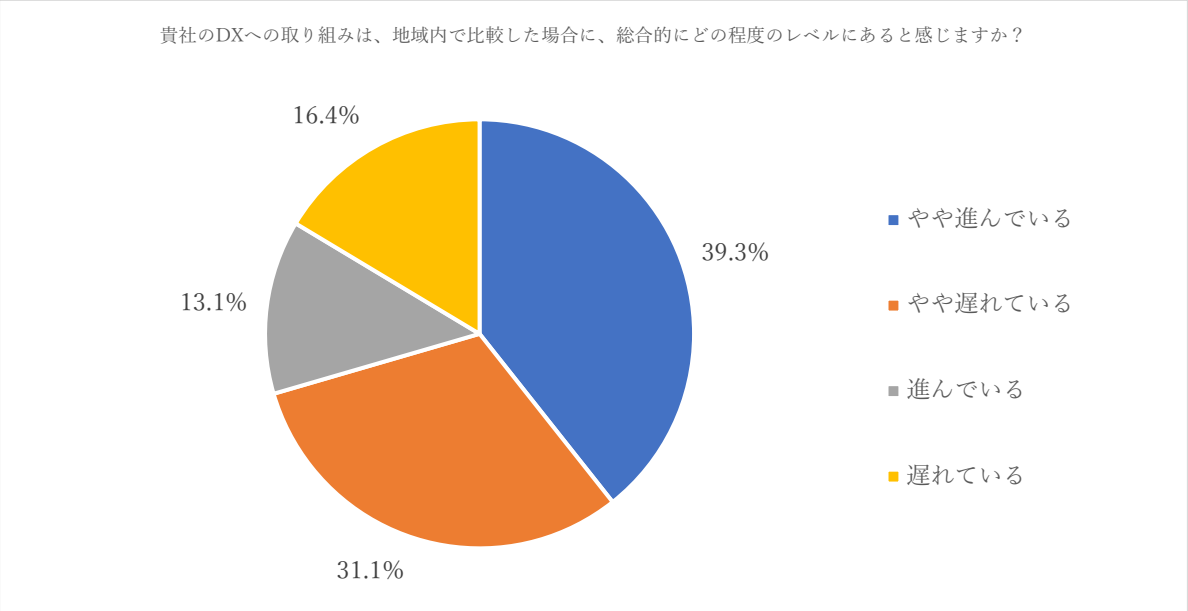
本調査の回答で多いものから順に、毎年計画的に全社で実施 28 件(45.9%)、新たな人員採用時に実施・各部門で自由に実施 11 件(18.0%)であった。OJT と比べて毎年計画的に実施している企業が多い。

【問 36】OFF-JT や自己研鑽、リスキング等で貴社が従業員に求める能力・スキルについて入社後に取得させている資格等を教えてください。(自由記入)

・職種によって異なる。電気工事士、FP、簿記、整備士など(1)
・クラウド系の資格(1)
・危険物乙種4類(必須資格／全員取得させている)、その他は就いた業務及びその役職に必要な資格を取得したり、スキルを磨くよう研修などを受講させている(1)
・基本情報処理、AWS 認定試験(1)
・IT パスポート、基本情報、応用情報、DX 認定など(1)
・フォークリフト、運転免許、検査員(1)
・危険物等、会社の規定に対象リストがある(1)
・部署により違いますが、【ものづくり】の関係では、技能講習関係は取得してもらいます(1)
・ビジネスキャリア検定(1)
・DX、ESG認定(1)
・マネジメント能力(1)
・特に決まった資格はありません(1)

【問 37】貴社の DX への取り組みは、地域内で比較した場合に、総合的にどの程度のレベルにあると感じますか。

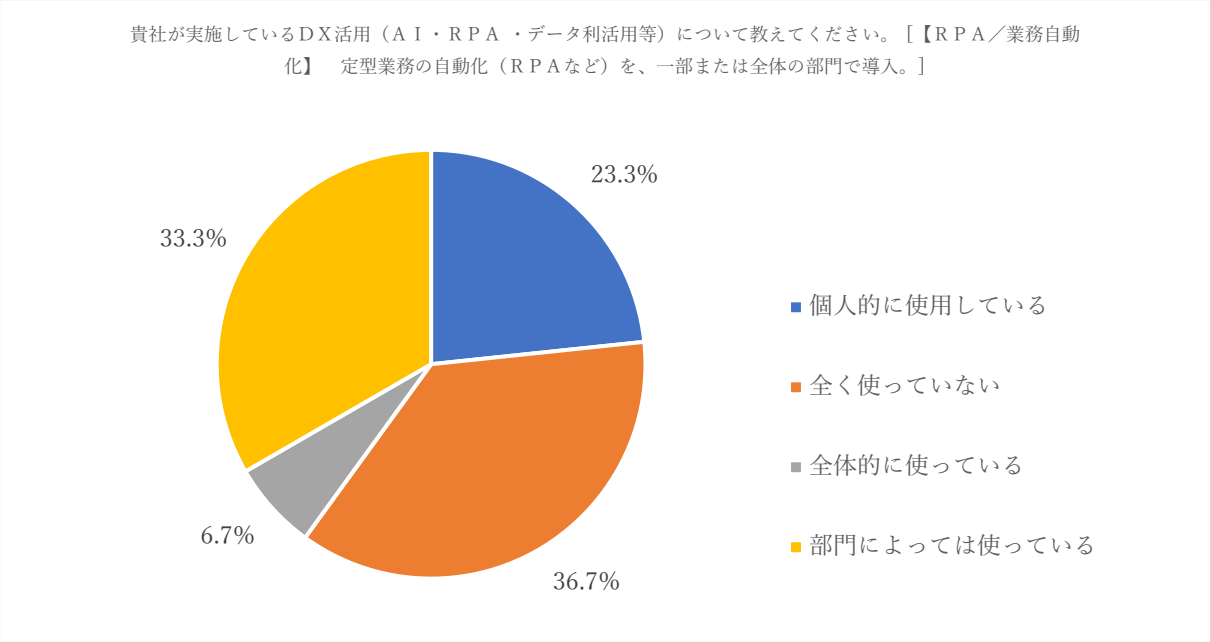
やや進んでいる	24
やや遅れている	19
進んでいる	8
遅れている	10



本調査の回答で多いものから順に、やや進んでいる 24 件(39.3%)、やや遅れている 19 件(31.1%)、遅れている 10 件(16.4%)であった。「進んでいる」「やや進んでいる」と回答した企業は全体の半数を超えている。

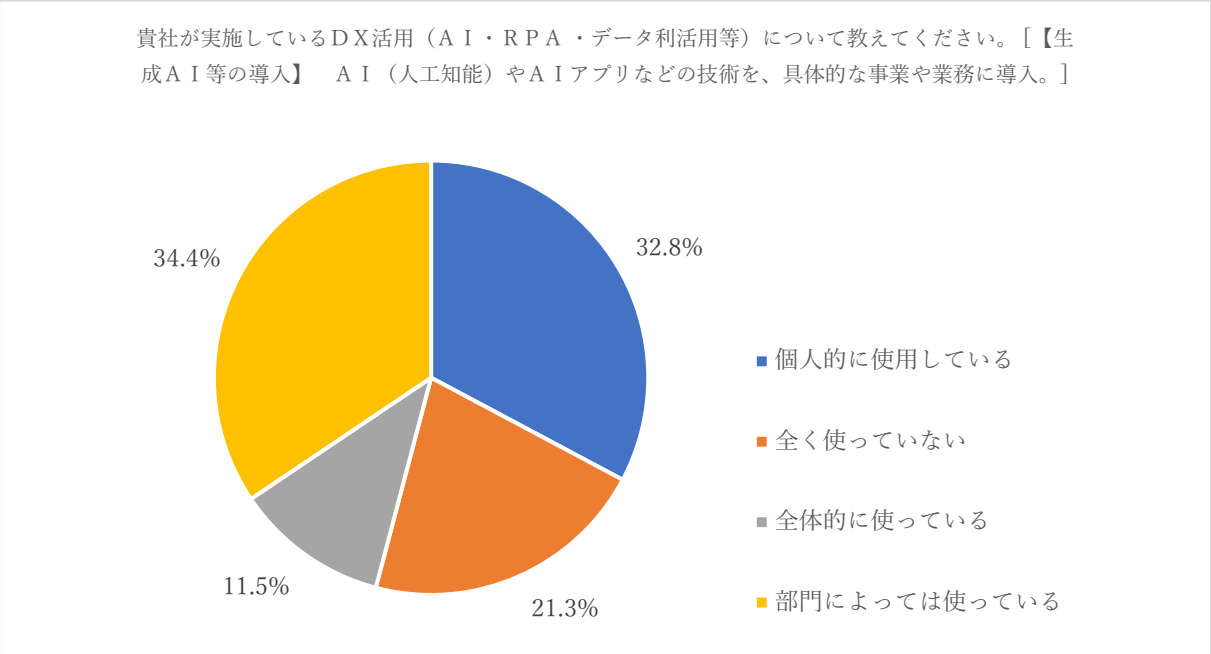
【問 38】貴社が実施しているDX活用(AI･RPA ･データ利活用等)について教えてください。[【RPA／業務自動化】 定型業務の自動化(RPAなど)を、一部または全体の部門で導入。]

●RPA／業務自動化



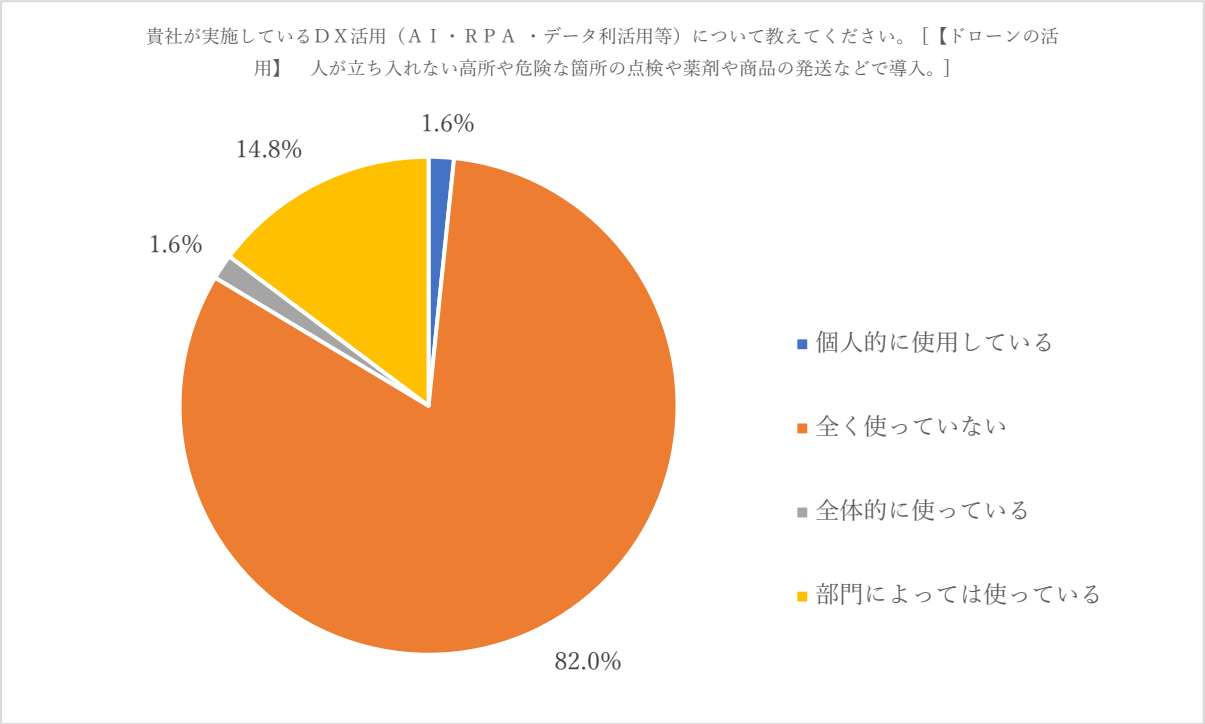
本調査の回答で多いものから順に、全く使っていない 22 件(36.7%)、部門によっては使っている 20 件(33.3%)、個人的に使用している 14 件(23.3%)であった。全体的な使用頻度は高くないことがわかる。

●生成 AI の導入



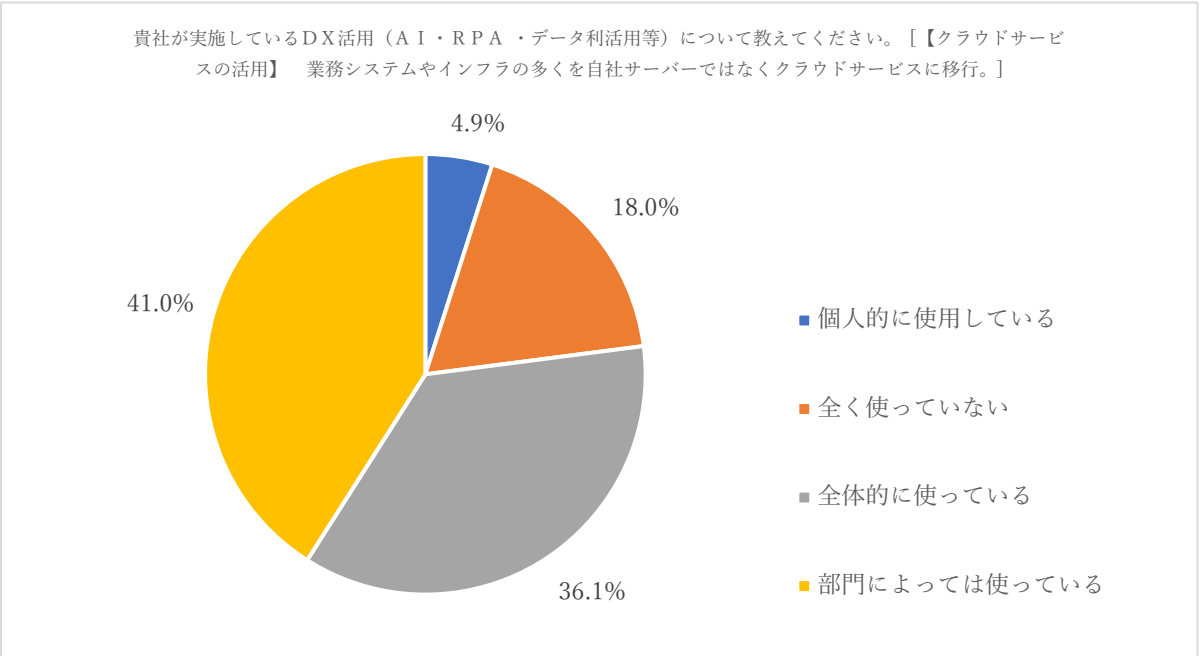
本調査の回答で多いものから順に、部門によっては使っている 21 件(34.4%)、個人的に使用している 20 件(32.8%)、全く使っていない 13 件(21.3%)であった。社会的な普及もあり、「個人的に使用している」と回答する企業も多くなっている。

●ドローンの活用



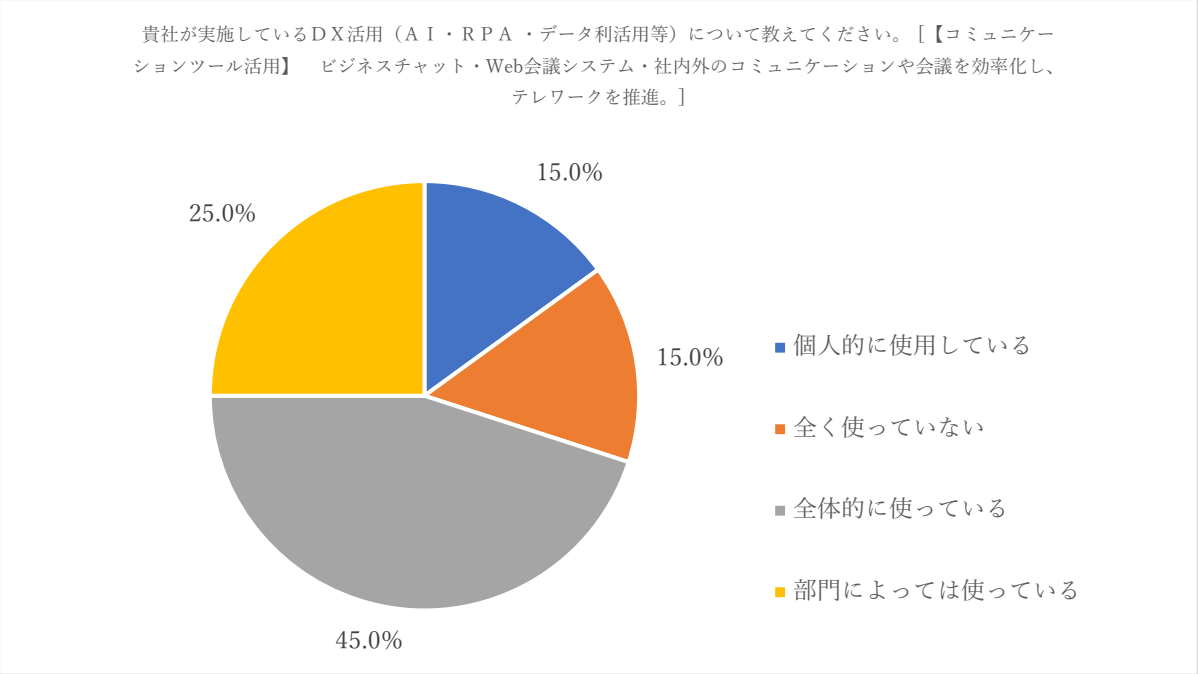
本調査の回答で多いものから順に、全く使っていない 50 件(82.0%)、部門によっては使っている 9 件(14.8%)であった。8 割の企業で使用されていない。

●クラウドサービスの活用



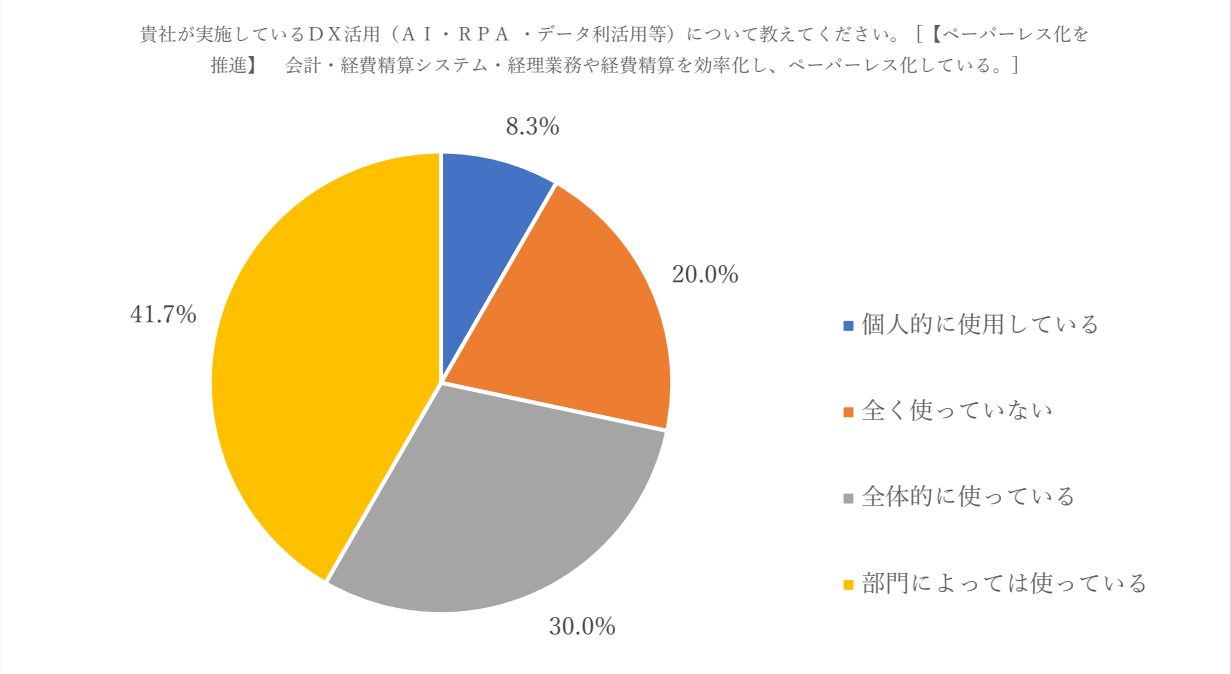
本調査の回答で多いものから順に、部門によっては使っている 25 件(41.0%)、全体的に使っている 22 件(36.1%)、全く使っていない 11 件(18.0%)であった。クラウドサービスの普及により使用している企業は多い。

●コミュニケーションツールの活用



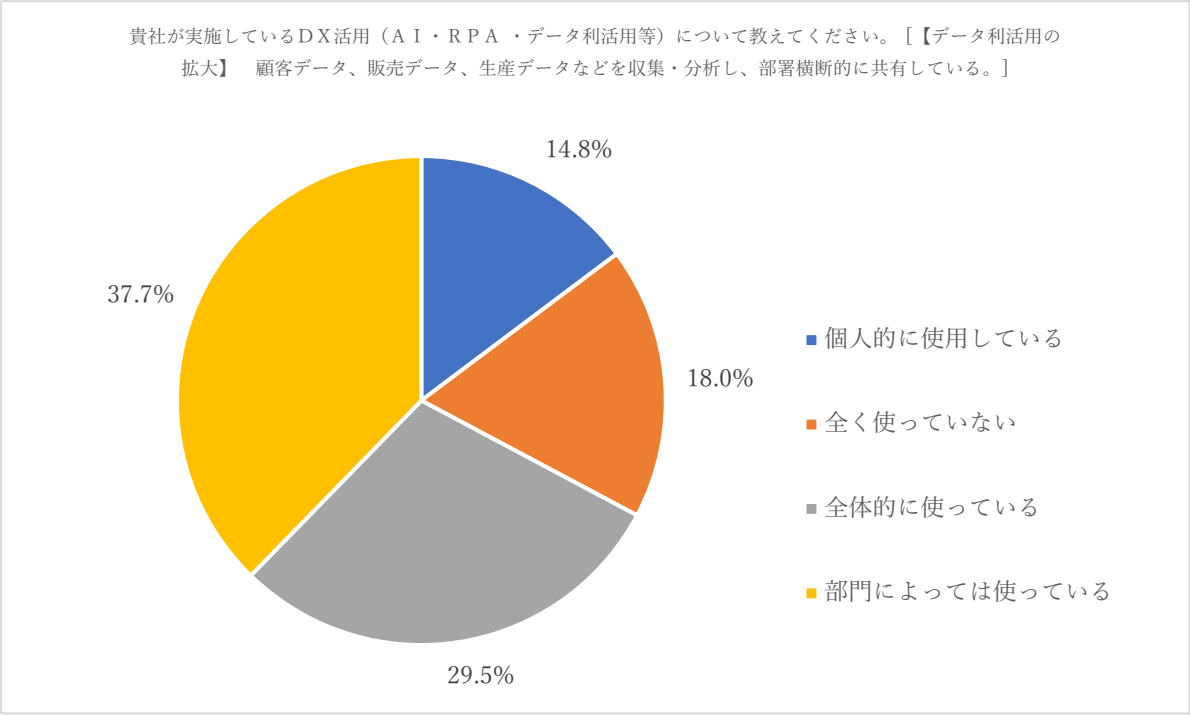
本調査の回答で多いものから順に、全体的に使っている 27 件(45.0%)、部門によっては使っている 15 件(25.0%)、個人的に使用している･全く使っていない 9 件(15.0%)であった。コロナ情勢をきっかけに導入している企業が多いことが分かる。

●ペーパーレス化を推進



本調査の回答で多いものから順に、部門によっては使っている 25 件(41.7%)、全体的に使っている 18 件(30.0%)、全く使っていない 12 件(20.0%)であった。電子化の動きが広がりつつも、3 割の企業では会社としての取り組みを行っていない。

●データ利活用の拡大



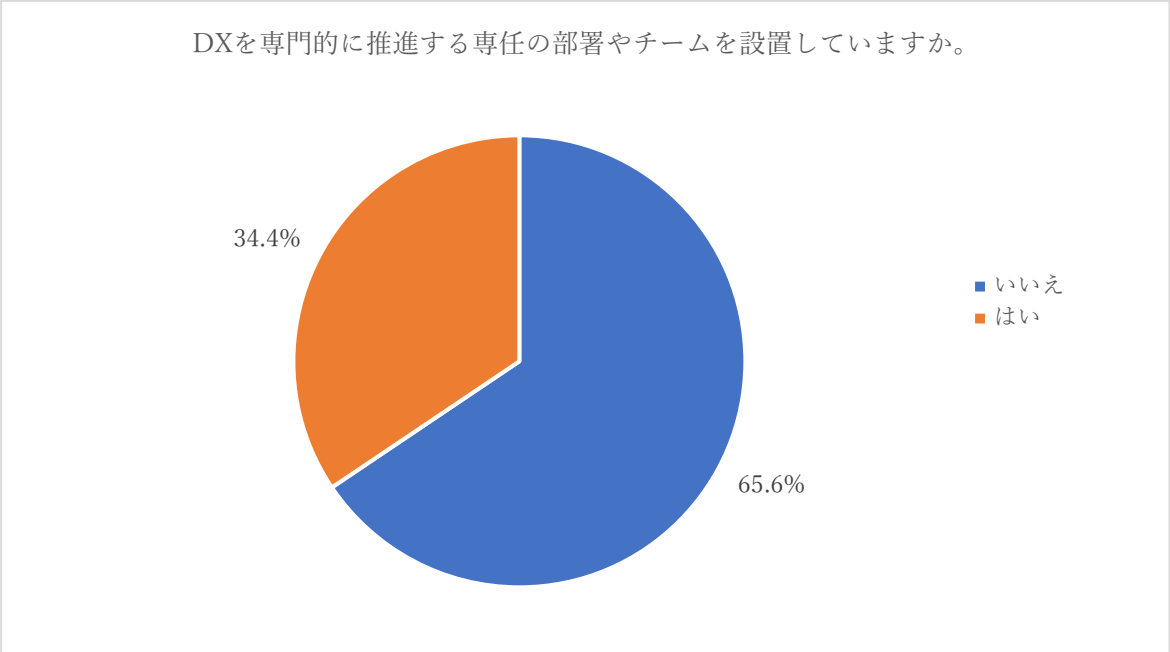
本調査の回答で多いものから順に、部門によっては使っている 23 件(37.7%)、全体的に使っている 18 件(29.5%)、全く使っていない 11 件(18.0%)であった。部門ごとでの使用が高く、社内全体への広がりは高くない。

【問 39】貴社が DX 活用を実践していることがあれば教えてください。(自由記入)

・ペーパーレス(電子化)(1)
・手書きの日報などを無くし、電子化(タブレット入力)している(1)
・自動発注(1)
・建設業の CHATAI アプリやドローンにより、現場の 3D 化、機械の ICT 化を行っている(1)
・ノーコードツールの活用、クラウドサービスの利用(1)
・時代的に必要とは考えていますが、弊社は遅れていると思います(1)

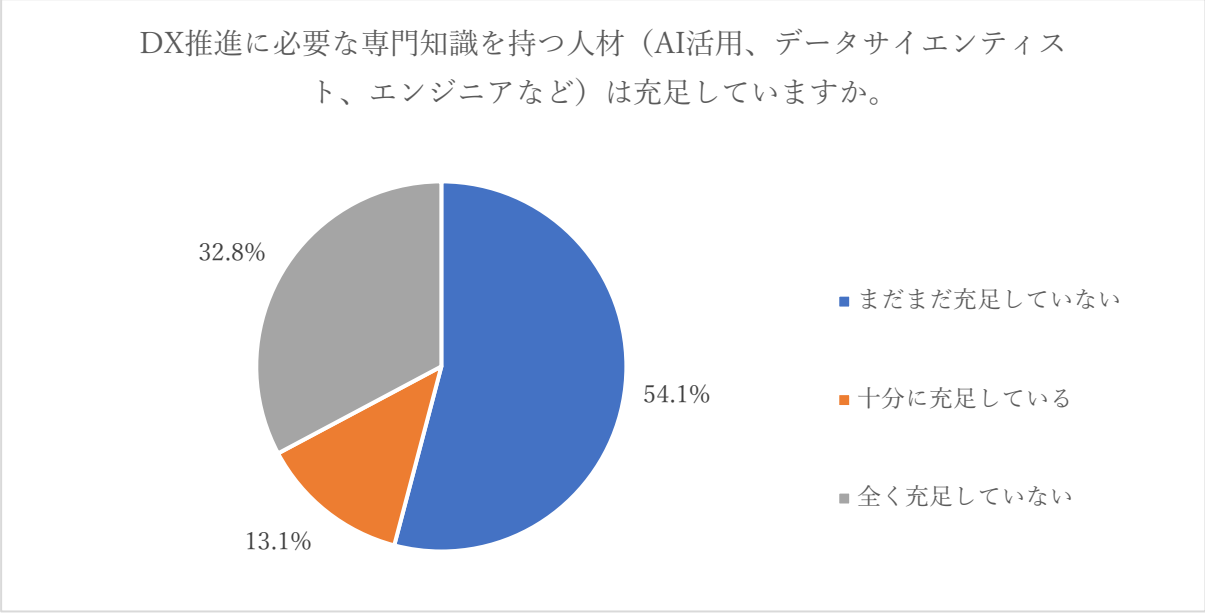
【問 40】DX を専門的に推進する専任の部署やチームを設置していますか。

いいえ	40
はい	21



本調査の回答で多いものから順に、いいえ 40 件(65.6%)、はい 21 件(34.4%)であった。積極的な取り組みを見せる企業は未だ多くない。

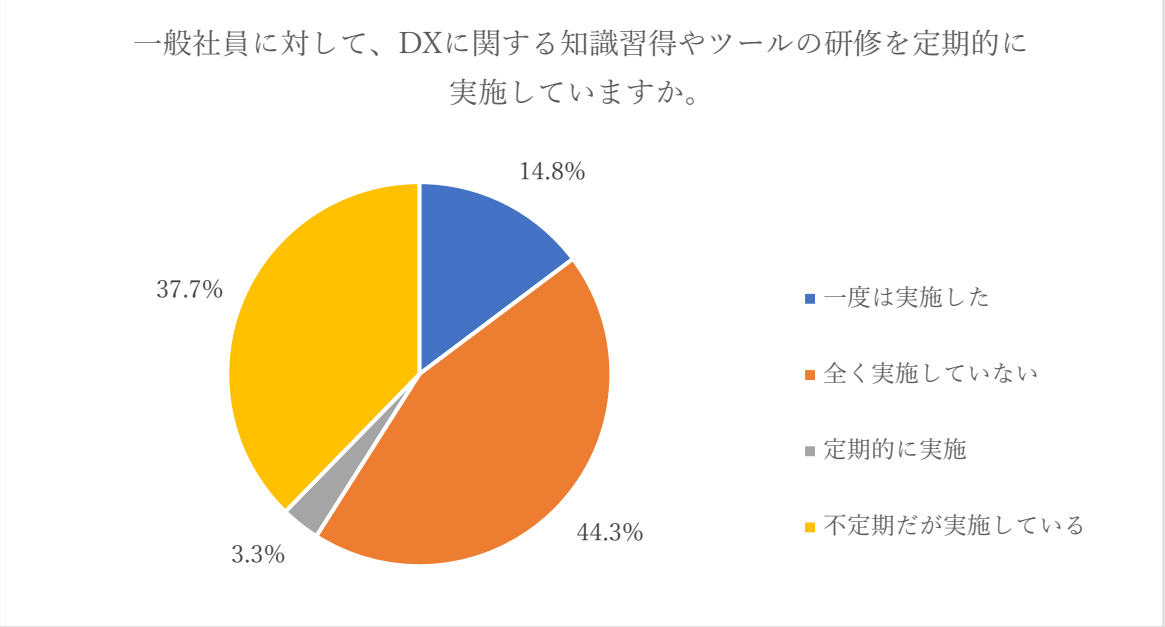
【問 41】DX 推進に必要な専門知識を持つ人材(AI 活用、データサイエンティスト、エンジニアなど)は充足していますか。



本調査の回答で多いものから順に、まだまだ充足していない 33 件(54.1%)、全く充足していない 20 件(32.8%)、十分に充足している 8 件(13.1%)であった。9 割近い企業が不足を感じており、担い手不足が読み取れる。

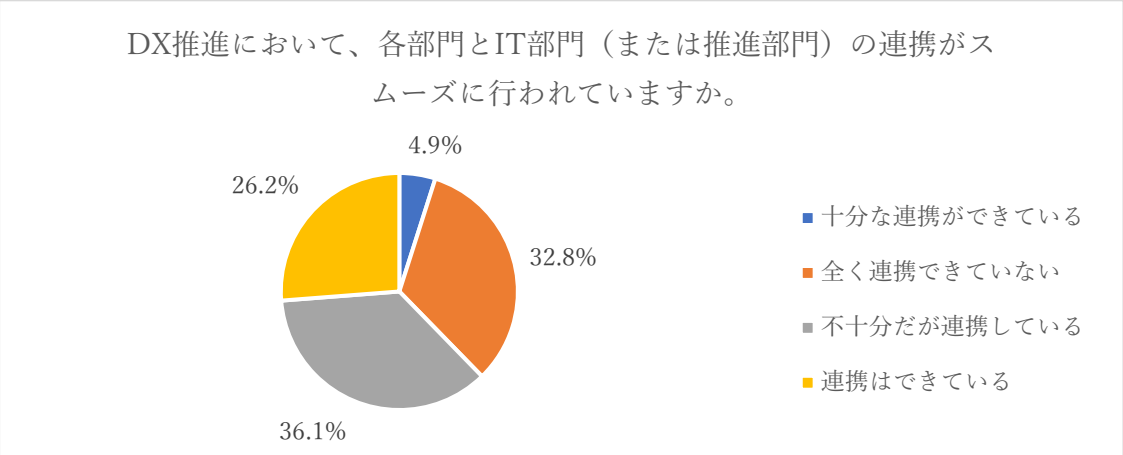
【問 42】一般社員に対して、DX に関する知識習得やツールの研修を定期的に実施していますか。

一度は実施した	9
全く実施していない	27
定期的に実施	2
不定期だが実施している	23



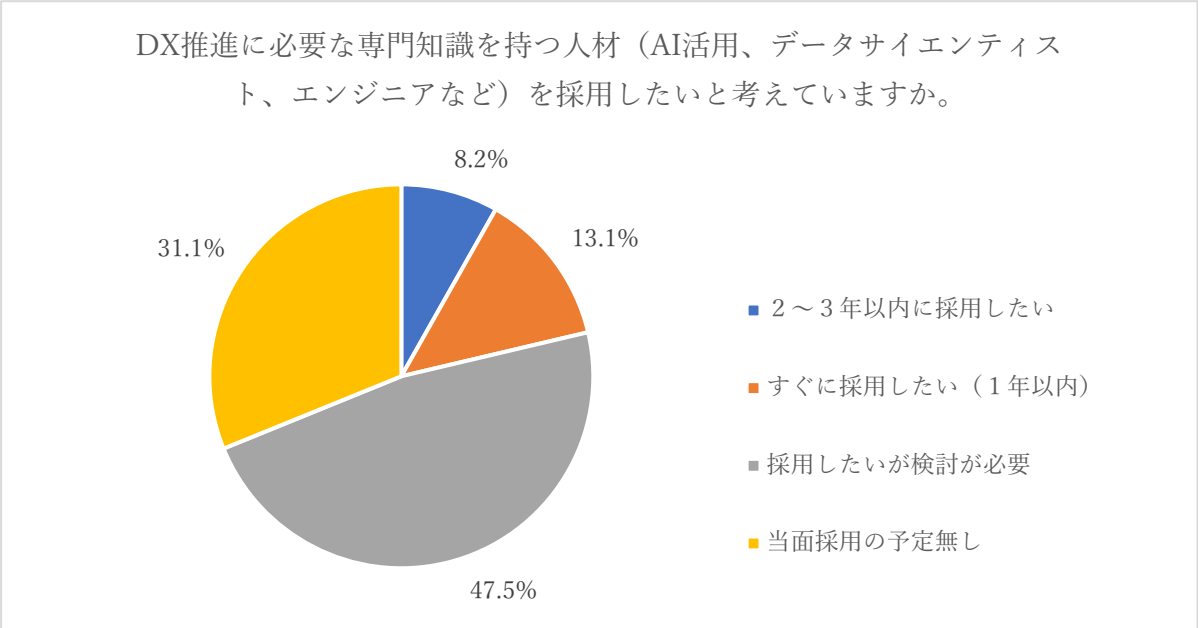
本調査の回答で多いものから順に、全く実施していない 27 件(44.3%)、不定期だが実施している 23 件(37.7%)、一度は実施した 9 件(14.8)であった。定期的に実施している企業は一割にも満たず、担い手不足の解消に至らない要因の一つとなっている。

【問 43】DX 推進において、各部門と IT 部門(または推進部門)の連携がスムーズに行われていますか。



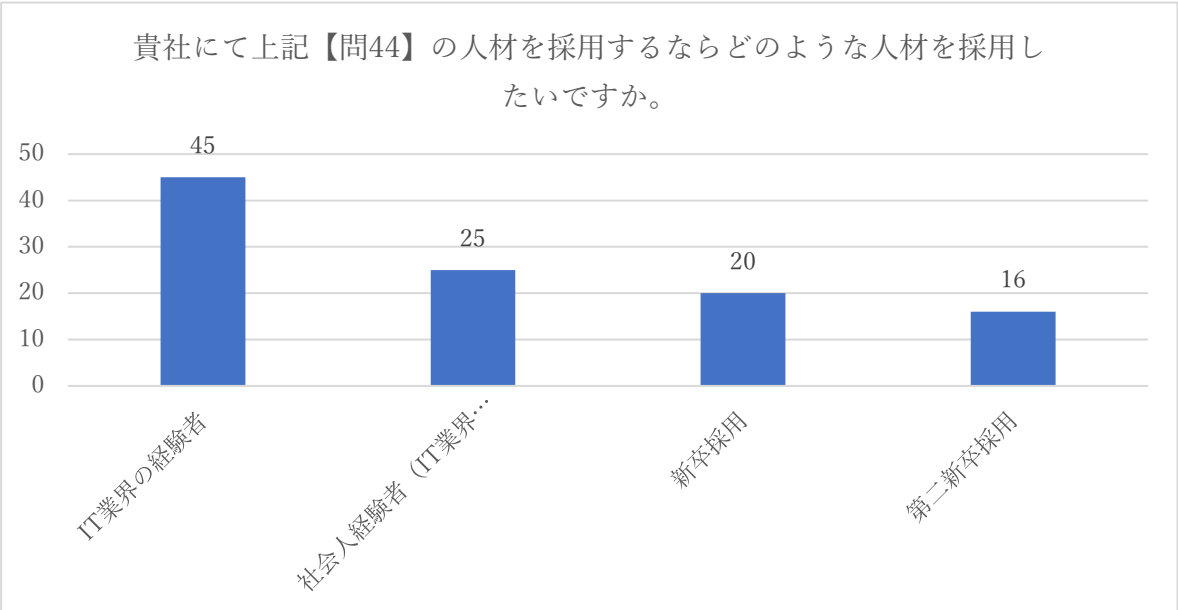
本調査の回答で多いものから順に、不十分だが連携している 22 件(36.1%)、全く連携できていない 20 件(32.8%)、連携はできている 16 件(26.2%)となっている。多くの企業では連携の難しさを感じている。

【問 44】DX 推進に必要な専門知識を持つ人材(AI 活用、データサイエンティスト、エンジニアなど)を採用したいと考えていますか。



本調査の回答で多いものから順に、採用したいが検討が必要 29 件(47.5%)、当面採用の予定無し 19 件(31.1%)、すぐに採用したい(1年以内)8 件(13.1%)であった。企業側の受け入れ態勢の準備が効果的に行えていない様子がうかがえる。

【問 45】貴社にて上記問.44 の人材を採用するならどのような人材を採用したいですか。(複数選択可)



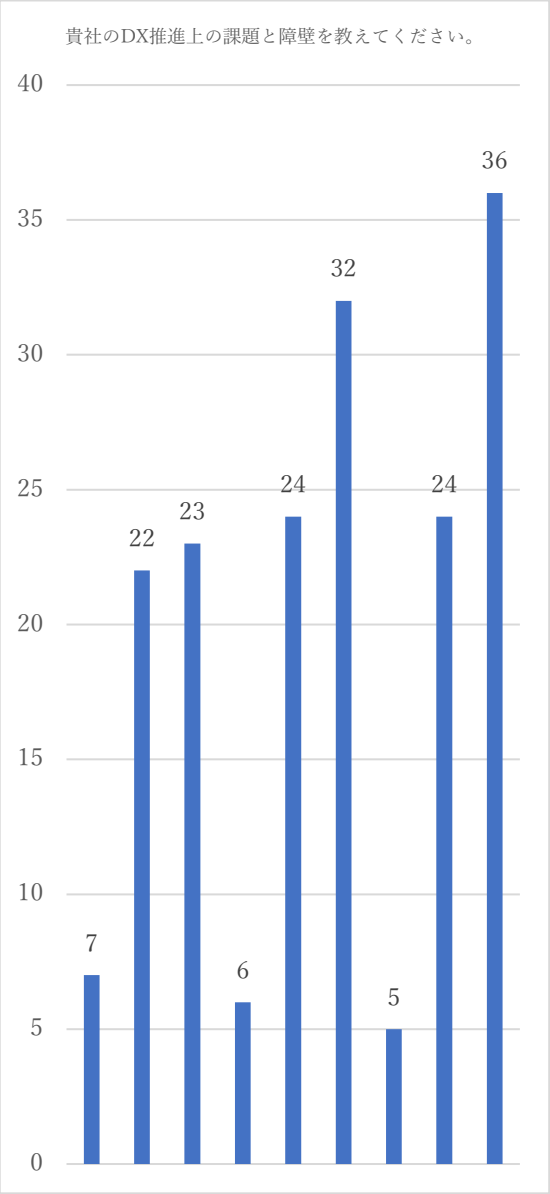
本調査の回答で多いものから順に、IT 業界の経験者 45 件、社会人経験者(IT 業界以外)25 件、新卒採用 20 件であった。より専門的な知識を持つ人材を採用したいという意向が読み取れる。

【問 46】貴社が DX 活用人材の採用で重要視することがあれば教えてください。(自由記入)

・本社にIT・DX推進に関する専門部署があるので、そこのサポートが得られるため、重要視する事項はない(1)
・スキル(1)
・専門知識、即戦力(1)
・コミュニケーション能力、協働する力(1)
・時代に乗り遅れないようにしたいと思います(1)

【問 47】貴社の DX 推進上の課題と障壁を教えてください。(複数回答可)

【DX に有効なツールが無い】DX 推進に必要なデジタルツールが見つからない。	7
【サイバーセキュリティ対策】DX 推進による増大したセキュリティリスクへの対策が大きな課題。	22
【レガシーシステム】既存の古いシステムが、新しいデジタル技術の導入を妨げる大きな要因。	23
【経営者の理解不足】DX 推進に経営者の理解が得られず、現場のデジタルツール等の活用が進まない。	6
【社風・組織文化】失敗を恐れる文化や変化を嫌う社風が、新しいデジタル技術の導入や活用を妨げている。	24
【日常業務が多忙、人手不足】通常の日常業務が多忙で DX 推進が進まない。推進できる人がいない。	32
【法制度・規則、商慣習】業界特有の法規制や制度が、DX 推進を妨げる要因となっている。	5
【目的・ゴールの明確性】DX 推進によって何を達成したいのか(目的)が明確になってない、全社員に浸透しない。	24
【予算(費用)の確保】DX 推進に必要なシステム投資や人件費などの予算確保は大きな課題。	36



本調査の回答で多いものから順に、【予算(費用)の確保】DX 推進に必要なシステム投資や人件費などの予算確保は大きな課題 36 件、【日常業務が多忙、人手不足】通常の日常業務が多忙で DX 推進が進まない。推進できる人がいない 32 件、【社風・組織文化】失敗を恐れる文化や変化を嫌う社風が、新しいデジタル技術の導入や活用を妨げている・【目的・ゴールの明確性】DX 推進によって何を達成したいのか(目的)が明確になってない、全社員に浸透しない 24 件であった。金銭面と時間の問題が顕著に表れたが、導入自体に反対する企業の層は少ない

【問 48】貴社で課題と感じていること、障壁となっていることがあれば教えてください。(自由記入)

・自社で DX を専門的に推進する専任の部署やチームはないが、本社にそのチームがあり、必要な時には相談できる体制である(1)

・セキュリティ上、規制が厳しく、便利と思っても IT 専門部署の許可が得られなければ使用できないこと(1)

・会社規模的に判断が難しい。現状で問題ないところだが…(1)

・マンパワー不足(1)

・人材、能力不足(1)

・問 47 の全チェックは、弊社は DX について全く遅れていることからそうさせていただきました(1)

・なし／特にありません(2)

【クロス集計1】若手に求める人物像(社会人基礎力)を分析するクロス集計

●1-1 業種(問 3) × 不足している職種(問 9)

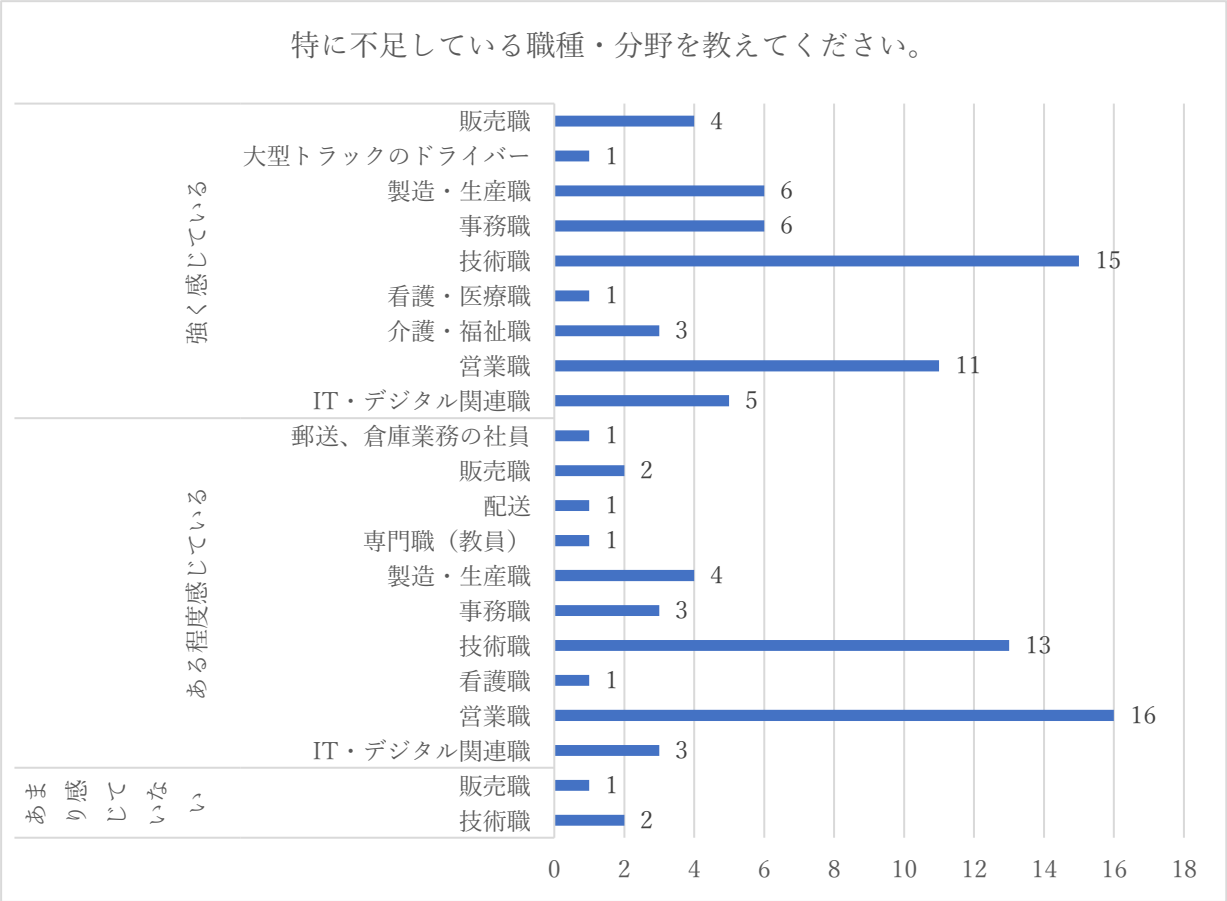
	特に不足している職種・分野を教えてください。						
業種	IT・デジタル関連職	事務職	介護・福祉職	営業職	大型トラックのドライバー	専門職(教員)	技術職
サービス業(他に分類されないもの)	0	1	0	2	0	0	2
不動産・物品賃貸業	0	0	0	1	0	0	2
医療・福祉	0	1	2	0	0	0	2
卸売業・小売業	1	2	0	10	0	0	4
学術研究・専門・技術サービス業	0	1	0	0	0	0	0
宿泊業・飲食サービス	0	0	0	1	0	0	0
建設業	0	0	0	4	0	0	8
情報・通信業	4	0	0	3	0	0	2
教育・学習支援業	0	0	0	0	0	1	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0	0	0	1
製造業	3	4	0	6	0	0	8
農業・林業	0	0	0	0	0	0	1
運輸業・郵便業	0	0	0	0	1	0	0

	特に不足している職種・分野を教えてください。					
業種	看護・医療職	看護職	製造・生産職	販売職	郵送、倉庫業務の社員	配送
サービス業(他に分類されないもの)	0	0	0	0	0	0
不動産・物品賃貸業	0	0	0	0	0	0
医療・福祉	1	1	0	0	0	0
卸売業・小売業	0	0	1	6	0	1
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	0	0	0
宿泊業・飲食サービス	0	0	0	0	0	0
建設業	0	0	1	0	0	0
情報・通信業	0	0	0	0	0	0
教育・学習支援業	0	0	0	0	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	0	1	0	0
製造業	0	0	8	0	0	0
農業・林業	0	0	0	0	0	0
運輸業・郵便業	0	0	0	0	1	0

100

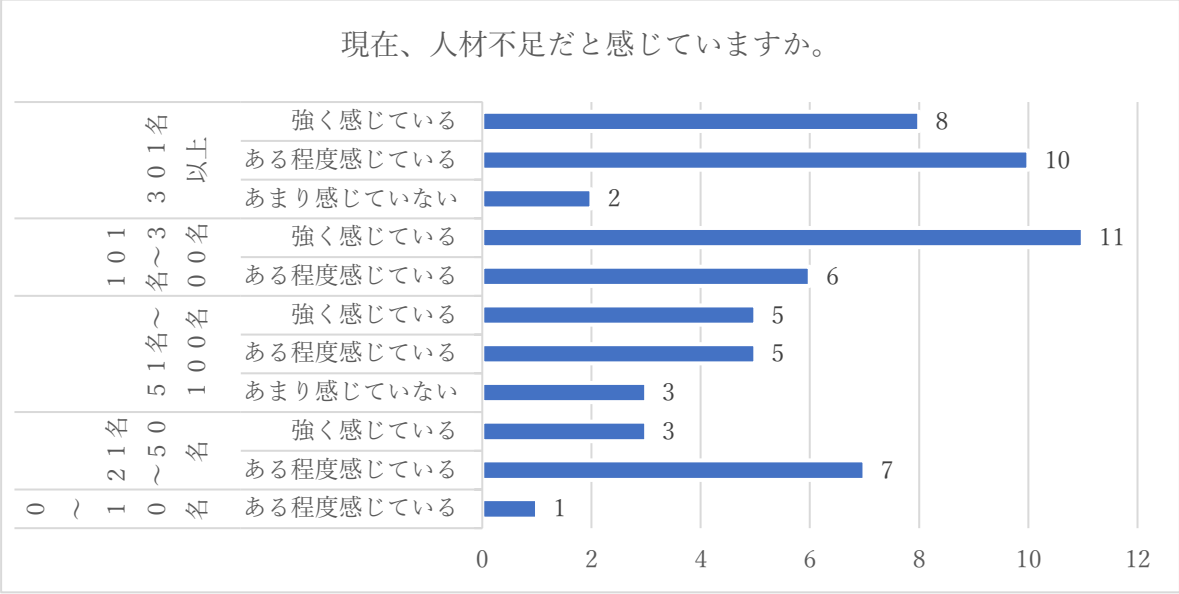
業種と不足している職種・分野のクロス集計を行った。回答数が多かった「卸売業・小売業」「建設業」「情報・通信業」「製造業」のいずれも一定以上の営業職の不足を感じている。それ以外では、卸売業・小売業には販売職、製造業には技術職・生産職、情報・通信業には IT・デジタル関連職といったように、各業種に必要な知識・スキルを持った職種に不足を感じている。

●1-2 人材不足の程度(問 8) × 不足している職種(問 9)



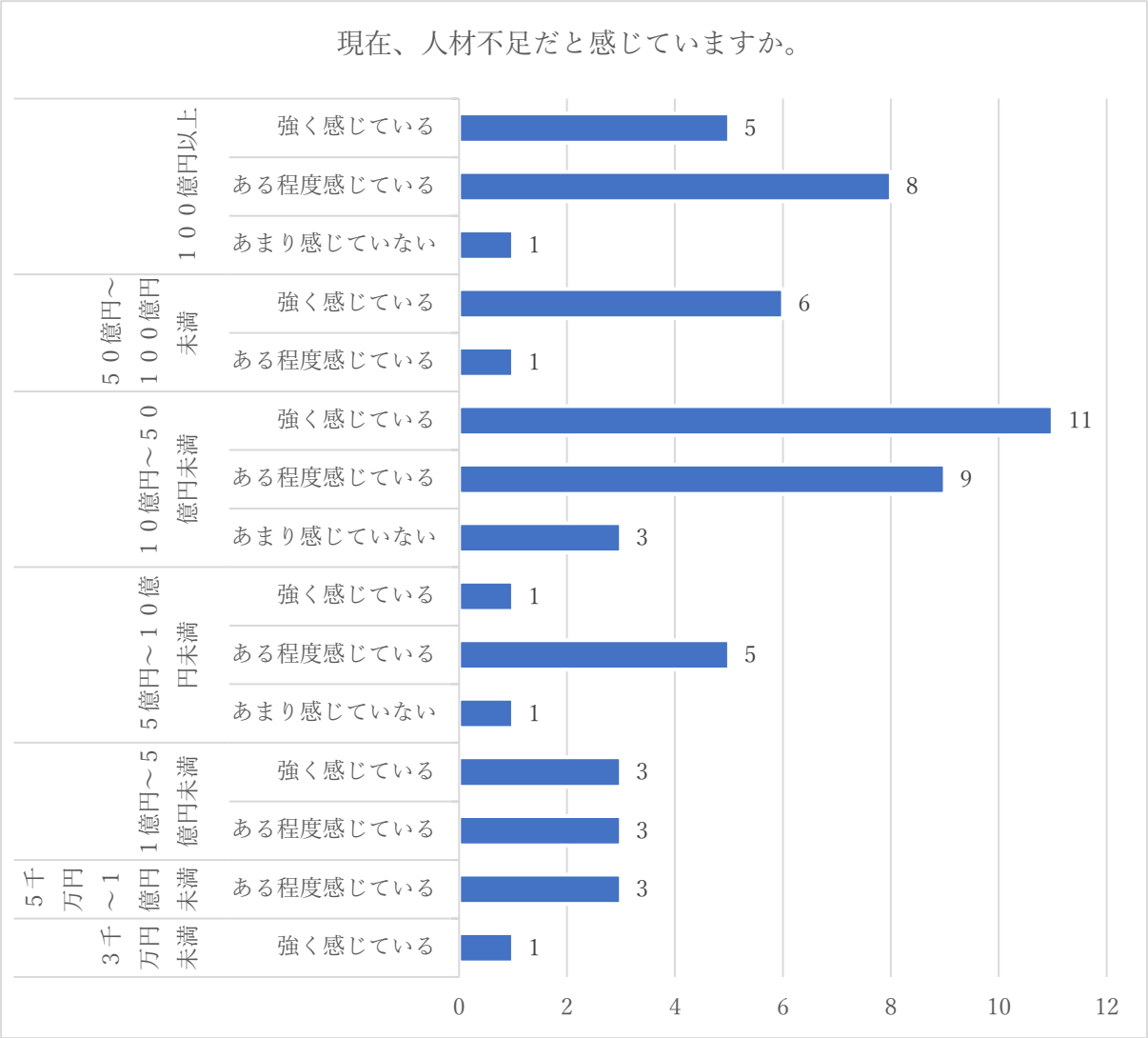
人材不足の程度と不足している職種・分野のクロス集計を行った。人材不足を感じている企業はいずれも営業職・技術職を特に必要としており、その他業種もまんべんなく回答がされている。一方で人材不足をあまり感じていない企業は、不足している職種もほとんど回答がなかった。

●1-3 従業員規模(問 4) × 人材不足の程度(問 8)



従業員規模と人材不足の程度のクロス集計を行った。従業員規模が大きいほど人材不足を感じている企業が多い。

●1-4 売上規模(問 5) × 人材不足の程度(問 8)



売上規模と人材不足の程度のクロス集計を行った。1億円～5 億円未満・10 円～50 円未満・100 億円以上の企業では「ある程度感じている」と「強く感じている」の回答数に大きな差はみられない。それ以外の企業ではある程度の差がみられる。

●1-5 業種(問 3) × 重視する基礎力(問 12) ＝コミュニケーション能力

	D 汎用的な力 [【コミュニケーション能力】 初対面の人や、考え方の違う人とでも、適切に意見を伝え、聞くことが初対面の人や、考え方の違う人とでも、適切に意見を伝え、聞くことができる。				
業種	重要しない	やや重要 (一部業務で役立つ)2	重要である (できれば身に付けたい)	高く求め重視する	極めて重視する(必須)
サービス業(他に分類されないもの)	0	0	1	2	1
不動産・物品賃貸業	0	0	0	2	0
医療・福祉	0	0	1	1	2
卸売業・小売業	0	1	1	7	6
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	0	1
宿泊業・飲食サービス	0	0	0	2	0
建設業	0	1	1	6	1
情報・通信業	0	0	1	2	2
教育・学習支援業	0	0	0	0	1
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	0	1	0
製造業	0	1	1	7	5
農業・林業	0	0	0	1	0
運輸業・郵便業	0	0	0	1	1
					61

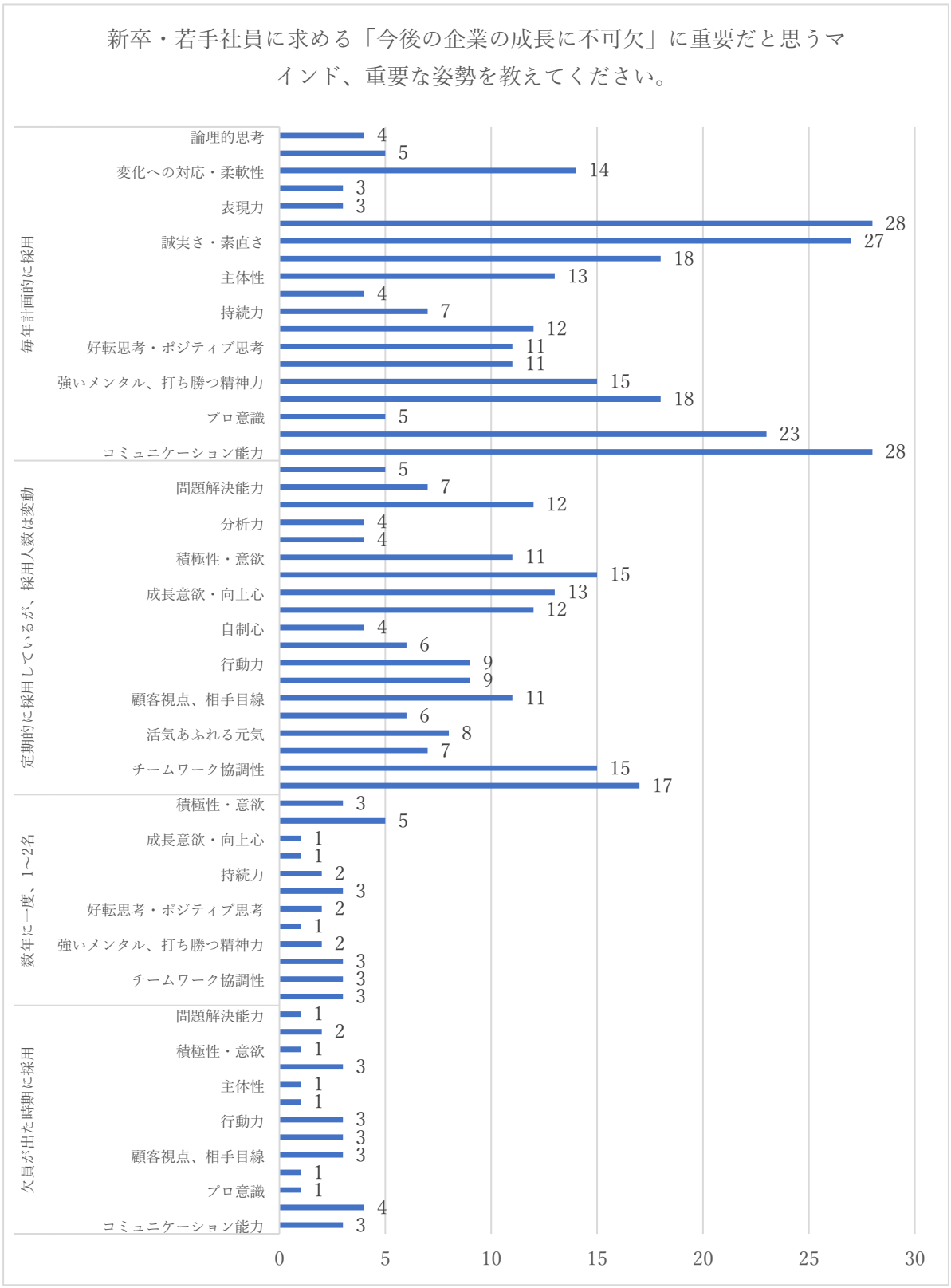
業種を問わず、コミュニケーション能力は汎用的かつ極めて重要な基礎力として認識されている。特に「卸売業・小売業」「製造業」「建設業」では「極めて重視する(必須)」とする回答が多数を占めており、実務における必須スキルとして位置づけられていることがうかがえる。

●1-5 業種(問 3) × 重視する基礎力(問 12) ＝専門知識・スキル

	D 汎用的な力 [【専門知識・スキル】 働く業界や職種に必要な特定の知識(例:IT知識、会計知識、調理技術など)や資格。]				
業種	重視しない	やや重要 (一部業務で役立つ)	重要である (できれば身に付けたい)	高く求め重視する	極めて重視する (必須)
サービス業(他に分類されないもの)	0	1	3	0	0
不動産・物品賃貸業	0	0	0	1	1
医療・福祉	0	1	1	0	2
卸売業・小売業	0	3	8	4	0
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	1	0
宿泊業・飲食サービス	0	1	0	1	0
建設業	1	2	3	3	0
情報・通信業	0	0	2	1	2
教育・学習支援業	0	0	1	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0	0
製造業	1	2	8	3	0
農業・林業	0	1	0	0	0
運輸業・郵便業	0	0	2	0	0
					61

業種と専門知識・スキルの重視度についてクロス集計を行った結果、業種によってその重要性の認識には差があることが明らかとなった。特に「情報通信業」「医療・福祉」「不動産・物品賃貸業」では「極めて重視する(必須)」との回答が見られ、資格や専門的なスキルが直接業務に関わる職種においては、専門性が強く求められている傾向がうかがえる。

●1-6 新卒採用意欲(問 11) × 求めるマインド(問 22)



新卒採用意欲と求めるマインドのクロス集計を行った。いずれの企業も積極性、誠実さ、チームワーク、コミュニケーション能力に重点を置いており、特に毎年採用する企業は誠実さ、積極性、コミュニケーション能力に関心が高いため、周囲と安定して仕事ができる人材に重点を置いている様子がうかがえる。

●1-7 専門学校採用意欲(問 16-17) × 業種(問 3)

	今後の専門学校出身者の採用についてどのように考えていますか。			
業種	難しいと考えている	これまで採用経験がなく、判断できない2	条件が合えば受け入れたい	積極的に受け入れたい
サービス業(他に分類されないもの)	0	0	1	3
不動産・物品賃貸業	0	0	1	1
医療・福祉	0	0	3	1
卸売業・小売業	0	0	6	9
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	1
宿泊業・飲食サービス	0	0	2	0
建設業	0	0	4	5
情報・通信業	0	0	1	4
教育・学習支援業	0	0	1	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0
製造業	0	0	9	5
農業・林業	1	0	0	0
運輸業・郵便業	0	1	1	0
				61

専門学校採用意欲と業種のクロス集計を行った。情報・通信業、建設業、卸売業、サービス業は広く受け入れの姿勢を示している。その他企業も条件次第で受け入れを検討しており、全体的に受け入れの体制を検討している。

●1-8 通信制高校出身者採用意欲(問 20–21)＝自己管理能力 × 業種(問 3)

	通信制高校の学生が身に着けた特性は、採用において評価すべき重要な要素だと思いますか。[【自己管理能力】 通信制での学習を通じて、自分で計画を立て、時間を管理する力が身についている。]				
業種	全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	とてもそう思う
サービス業(他に分類されないもの)	0	0	0	4	0
不動産・物品賃貸業	0	0	0	0	2
医療・福祉	0	0	0	3	1
卸売業・小売業	0	1	3	8	3
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	0	1
宿泊業・飲食サービス	0	0	1	1	0
建設業	0	0	0	6	3
情報・通信業	0	0	0	2	3
教育・学習支援業	0	0	1	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0	0
製造業	1	2	4	6	1
農業・林業	0	0	0	0	1
運輸業・郵便業	0	0	0	1	1
					61

通信制高校出身者採用意欲【自己管理能力】と業種のクロス集計を行った。不動産、農業、情報では「とてもそう思う」の回答が多いが、その他企業では全体的に「ややそう思う」の回答が多い。採用時の条件として重要度はそれほど高くない。

●1-8 通信制高校出身者採用意欲(問 20-21) ＝主体的な学習× 業種(問 3)

	通信制高校の学生が身に着けた特性は、採用において評価すべき重要な要素だと思いますか。[【主体的な学習】 先生からの指示だけでなく、自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組む姿勢。]				
業種	全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	とてもそう思う
サービス業(他に分類されないもの)	0	0	1	3	0
不動産・物品賃貸業	0	0	0	0	2
医療・福祉	0	0	0	3	1
卸売業・小売業	0	0	4	6	5
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	0	1
宿泊業・飲食サービス	0	0	1	1	0
建設業	0	0	0	5	4
情報・通信業	0	0	0	2	3
教育・学習支援業	0	0	1	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0	0
製造業	0	3	4	6	1
農業・林業	0	0	0	0	1
運輸業・郵便業	0	0	0	1	1
					61

通信制高校出身者採用意欲【主体的な学習】と業種のクロス集計を行った。前設問同様、不動産、農業、情報では「とてもそう思う」の回答が多いが、その他企業では全体的に「ややそう思う」の回答が多い。採用時の条件として重要度はそれほど高くない。

●1-8 通信制高校出身者採用意欲(問 20–21)＝多様な選択肢の実現 × 業種(問 3)

	通信制高校の学生が身に着けた特性は、採用において評価すべき重要な要素だと思いますか。 [【多様な選択肢の実現】 学業と並行して、アルバイト、習い事、趣味、ボランティアなど、学業以外の活動の経験。]				
業種	全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	とてもそう思う
サービス業(他に分類されないもの)	0	1	0	3	0
不動産・物品賃貸業	0	0	0	1	1
医療・福祉	0	0	2	1	1
卸売業・小売業	0	1	3	7	4
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	1	0
宿泊業・飲食サービス	0	0	2	0	0
建設業	0	1	0	4	4
情報・通信業	0	0	2	1	2
教育・学習支援業	0	1	0	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	0	1	0
製造業	0	1	6	7	0
農業・林業	0	0	0	0	1
運輸業・郵便業	0	0	0	1	1
					61

通信制高校出身者採用意欲【多様な選択肢の実現】と業種のクロス集計を行った。不動産、農業、建設業、運輸業では重要な要素と感じる企業が多い。その他業種ではあまり重要な要素と感じない企業も一定数いるよう。

●1-8 通信制高校出身者採用意欲(問 20–21)＝学習ペースの調整 × 業種(問 3)

	通信制高校の学生が身に着けた特性は、採用において評価すべき重要な要素だと思いますか。 [【学習ペースの調整】 自分の体調や状況に合わせて、学習のペースを自由に調整できる点。]				
業種	全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	とてもそう思う
サービス業(他に分類されないもの)	0	0	2	2	0
不動産・物品賃貸業	0	0	0	2	0
医療・福祉	0	0	2	1	1
卸売業・小売業	0	0	7	7	1
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	0	1
宿泊業・飲食サービス	0	0	2	0	0
建設業	0	0	1	6	2
情報・通信業	0	0	2	0	3
教育・学習支援業	0	1	0	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0	0
製造業	1	3	7	3	0
農業・林業	0	0	0	0	1
運輸業・郵便業	0	0	1	0	1
					61

通信制高校出身者採用意欲【学習ペースの調整】と業種のクロス集計を行った。多くの業種で重要な要素と感じる企業とそうでない企業が二極化となっている。企業によって考え方の違いがうかがえる。

●1-8 通信制高校出身者採用意欲(問 20–21)＝多様な価値観 × 業種(問 3)

	通信制高校の学生が身に着けた特性は、採用において評価すべき重要な要素だと思いますか。 [【多様な価値観との交流】 年齢や経験が異なる多様な生徒や先生と関わることで、新たな価値観や視野をもっている。]				
業種	全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	とてもそう思う
サービス業(他に分類されないもの)	0	1	1	2	0
不動産・物品賃貸業	0	0	0	1	1
医療・福祉	0	0	1	1	2
卸売業・小売業	0	0	2	9	4
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	1	0
宿泊業・飲食サービス	0	0	1	1	0
建設業	0	0	2	5	2
情報・通信業	0	0	2	1	2
教育・学習支援業	0	0	0	0	1
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0	0
製造業	1	1	4	7	1
農業・林業	0	0	0	0	1
運輸業・郵便業	0	0	0	1	1
					60

通信制高校出身者採用意欲【多様な価値観】と業種のクロス集計を行った。いくつかの業種で「どちらともいえない」に回答する企業が目立つが、全体的には「ややそう思う」と回答する企業が多く、特に製造業、建設業、卸売業で多い。

●1-8 通信制高校出身者採用意欲(問 20–21)＝高いデジタル活用能力 × 業種(問 3)

	通信制高校の学生が身に着けた特性は、採用において評価すべき重要な要素だと思いますか。[【高いデジタル活用能力】 レポート提出やオンライン授業などを通じて、デジタルツールや情報技術の活用能力を有する。]				
業種	全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	とてもそう思う
サービス業(他に分類されないもの)	0	1	1	1	1
不動産・物品賃貸業	0	0	1	1	0
医療・福祉	0	0	0	4	0
卸売業・小売業	0	1	5	8	1
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	0	1
宿泊業・飲食サービス	0	0	2	0	0
建設業	0	0	4	4	1
情報・通信業	0	0	0	2	3
教育・学習支援業	0	0	0	0	1
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0	0
製造業	0	3	6	4	1
農業・林業	0	1	0	0	0
運輸業・郵便業	0	0	1	0	1
					61

通信制高校出身者採用意欲【高いデジタル活用能力】と業種のクロス集計を行った。情報、教育、学術研究では特に重要性を感じているが、その他業種では「どちらともいえない」の回答も一定数あり、仕事で活用する環境にあるかどうかに大きく左右されることが要因であるといえる。

●1-9 事業への興味(問 24) × 業種(問 3)

	今回ご案内している「通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業」について興味はありますか。			
業種	非常に興味がある	少し興味がある	あまり興味がない	全く興味がない
サービス業(他に分類されないもの)	0	4	0	0
不動産・物品賃貸業	0	2	0	0
医療・福祉	0	1	1	2
卸売業・小売業	3	8	4	0
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	1	0
宿泊業・飲食サービス	0	2	0	0
建設業	2	3	4	0
情報・通信業	0	2	3	0
教育・学習支援業	1	0	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	1	0	0
製造業	0	8	6	0
農業・林業	0	1	0	0
運輸業・郵便業	0	1	1	0
				61

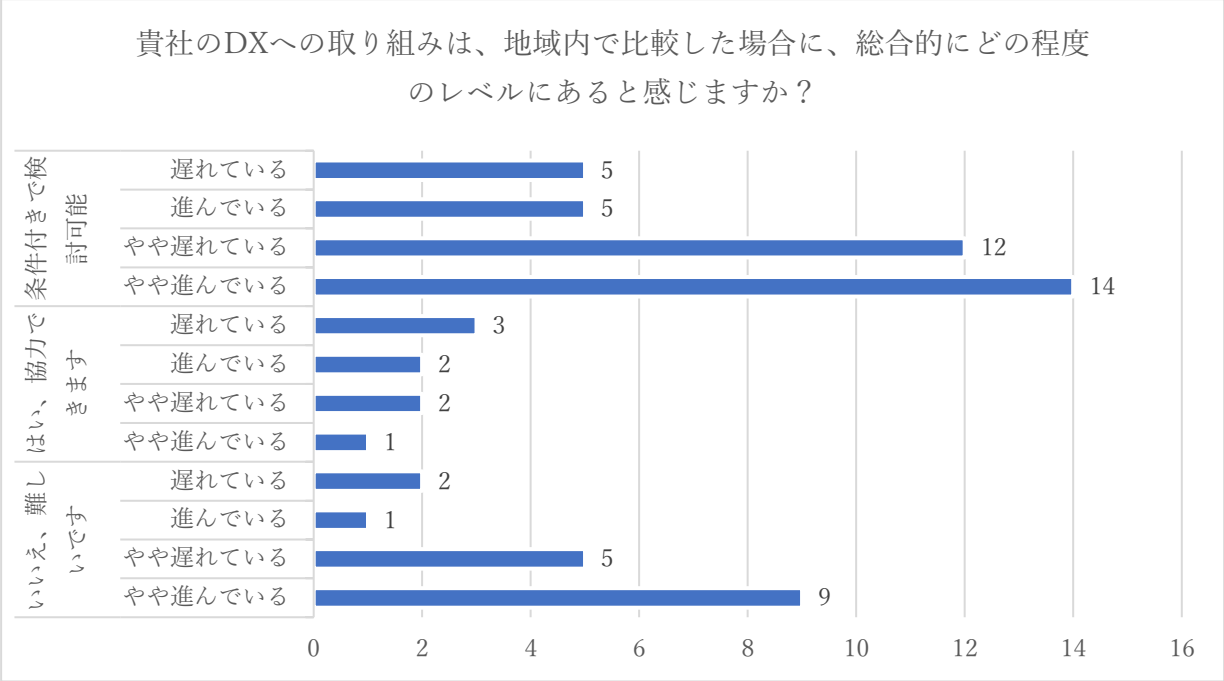
事業への興味と業種のクロス集計を行った。製造業、卸売業、サービス業で「少し興味がある」と回答した企業が多いが、情報、建設業、医療では興味を持たれる企業は少ない。

●1-10　PBL 協力度(問 25）×業種(問 3）

	専門学校生と貴社の抱える具体的な課題解決に取り組むPBL(課題解決型学習)機会を提供することに、どの程度協力・理解できますか。		
業種	はい、協力できます	条件付きで検討可能	いいえ、難しいです
サービス業(他に分類されないもの)	0	3	1
不動産・物品賃貸業	0	2	0
医療・福祉	1	1	2
卸売業・小売業	5	6	4
学術研究・専門・技術サービス業	0	1	0
宿泊業・飲食サービス	0	2	0
建設業	2	5	2
情報・通信業	0	2	3
教育・学習支援業	0	1	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	1	0
製造業	0	10	4
農業・林業	0	1	0
運輸業・郵便業	0	1	1
			61

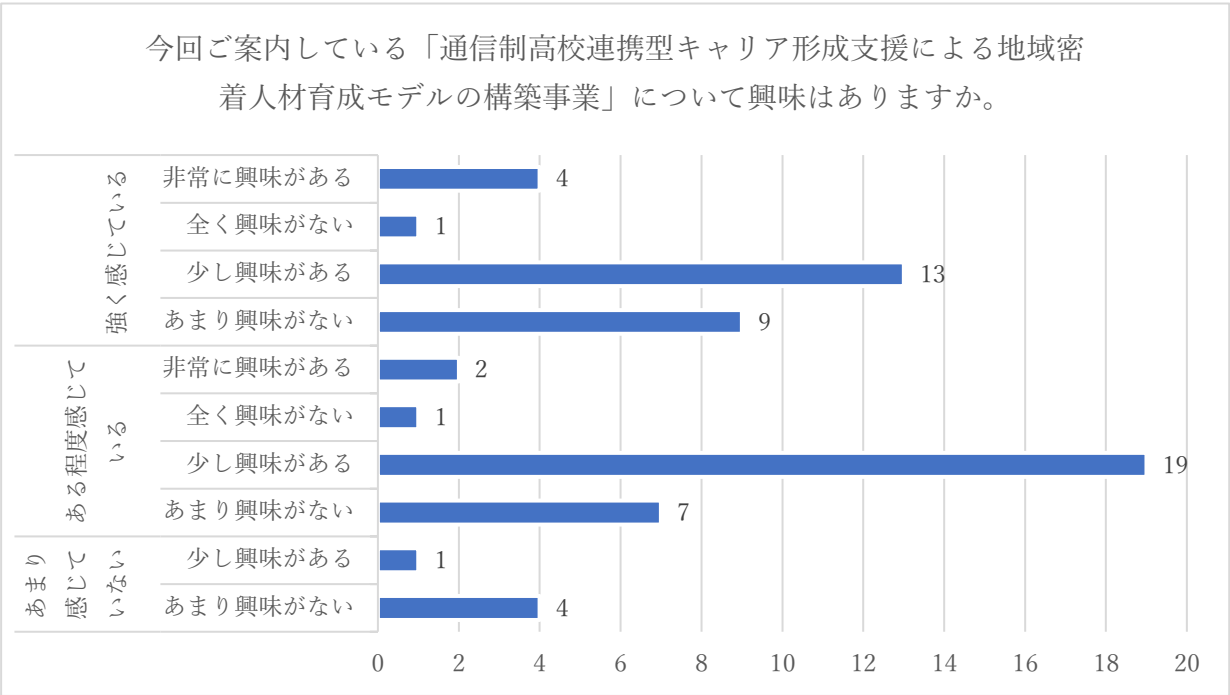
PBL 協力度と業種のクロス集計を行った。多くの業種で「条件付きで検討可能」と回答した企業が多かった。協力できると答えた企業は 3 業種にとどまった。

●1-11 PBL 協力度(問 25) × DX レベル(問 37)



PBL 協力度と DX レベルのクロス集計を行った。協力できると答えた企業でも DX レベルが遅れていると回答した企業が多い。その他企業でも DX レベルの差は大きくは見られない。

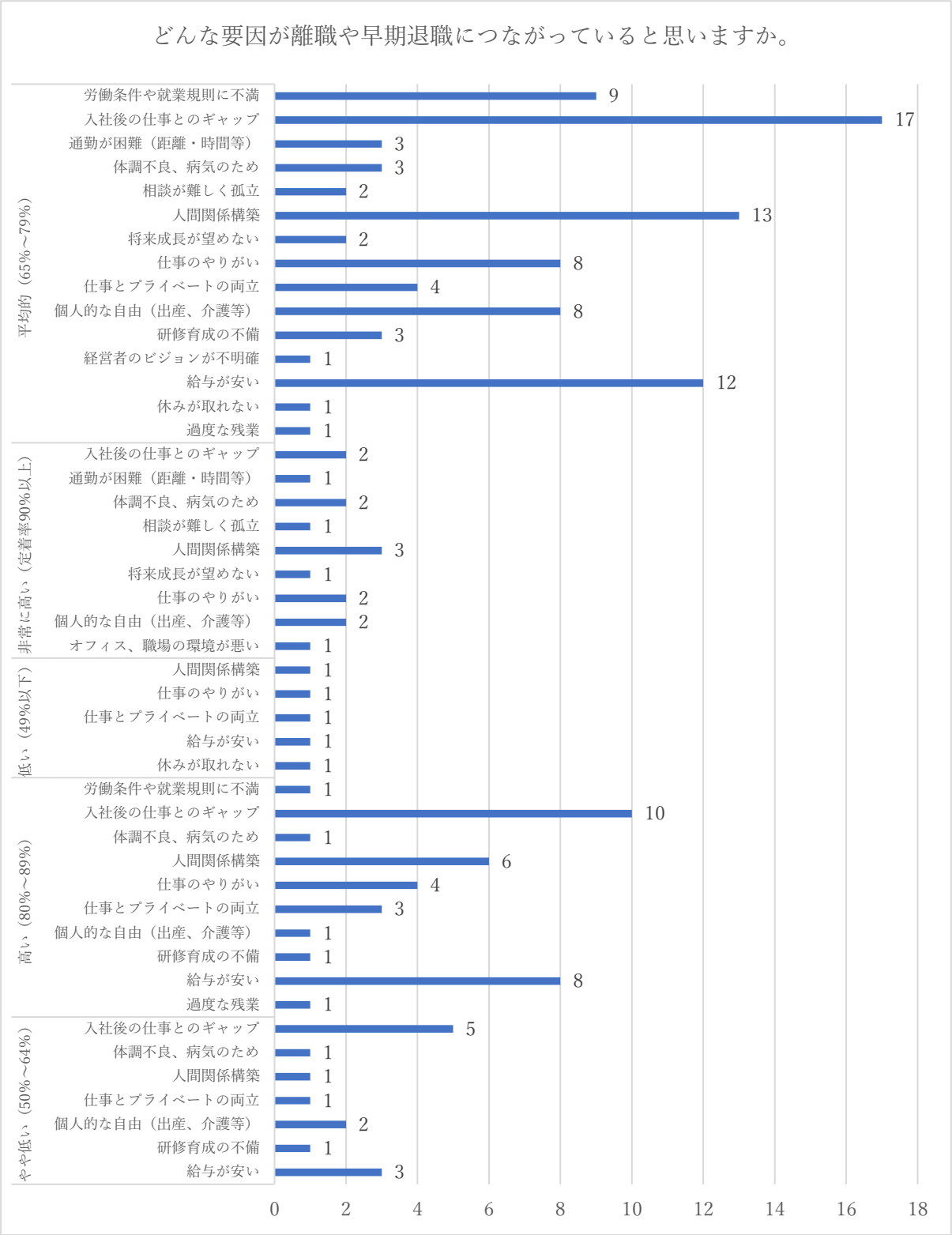
●1-12 企業の人材不足(問 8) × 本事業への興味(問 24)



企業の人材不足と本事業への興味のクロス集計を行った。人材不足を感じている企業は、事業に興味を示す傾向が見られる。人材不足をあまり感じていない企業は、事業に対してもあまり興味を示していない。

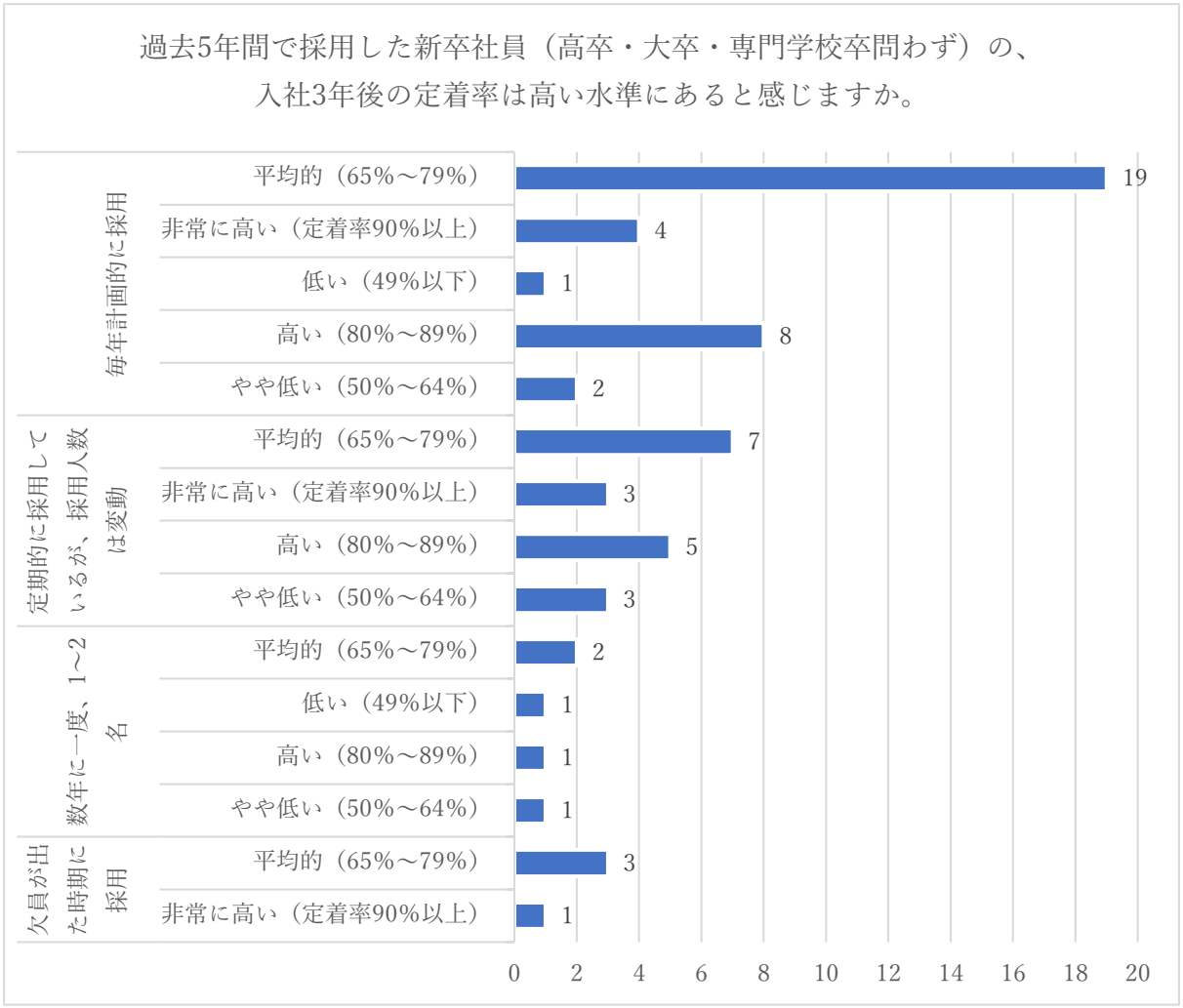
【クロス集計2】若年者の採用・定着状況を分析する

●2-1　定着率（問 27）×離職要因（問 28）



定着率と離職要因のクロス集計を行った。定着率が低い企業では、特に人間関係、仕事のギャップ、給与面を理由とした離職が多い。

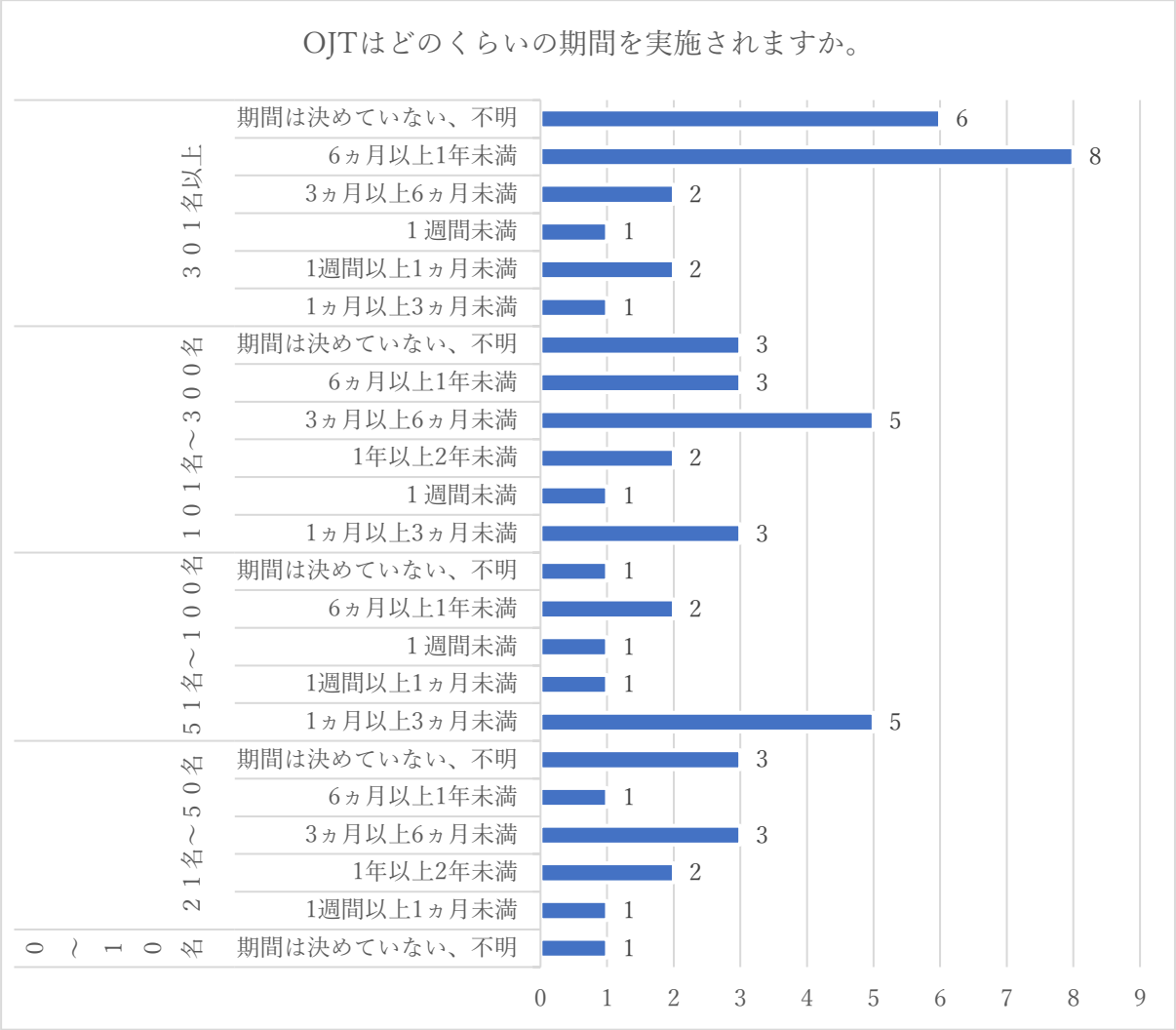
●2-2 新卒採用の積極度(問 11) × 定着率(問 27)



新卒採用の積極度と定着率のクロス集計を行った。毎年度計画的に採用している企業は、平均以上の定着率を感じている企業が多い。

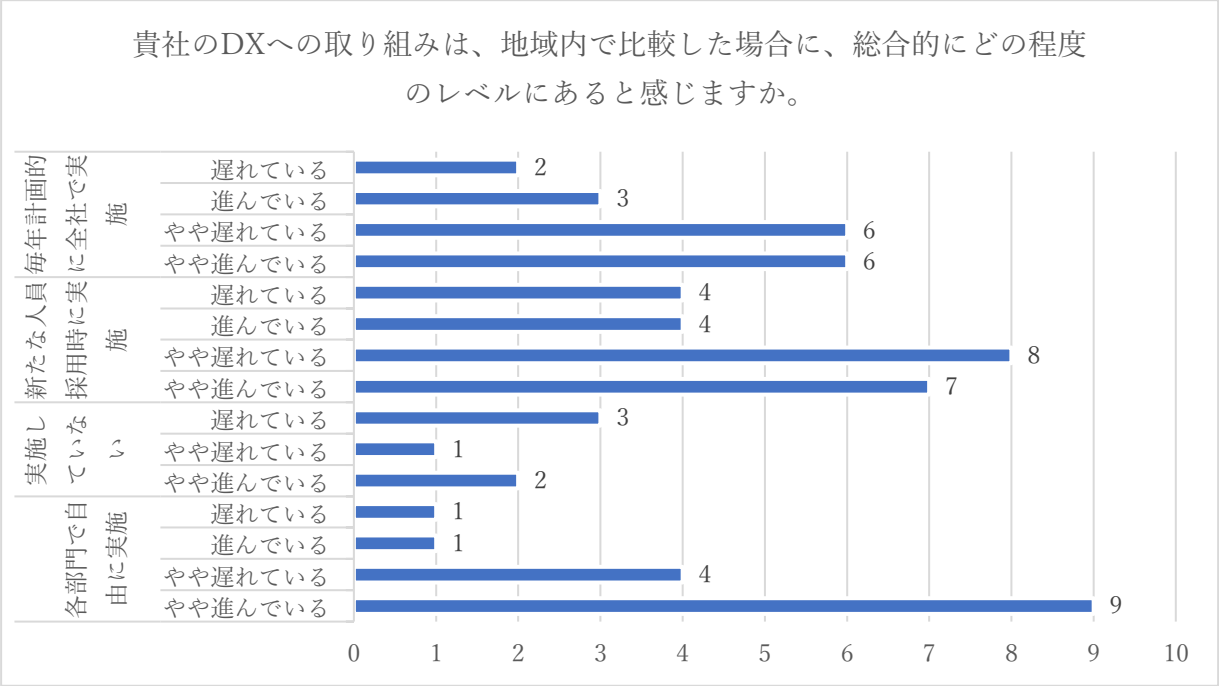
【クロス集計3】人材育成･教育(OJT･OFF-JT)の取組状況

●3-1　従業員数(問 4) × OJT 期間(問 32)



従業員数と OJT 期間のクロス集計を行った。従業員数が多い企業は1年未満の長い期間で取り組む傾向が強く、従業員数が少ない企業ほど OJT 期間が短くなる傾向がある。

●3-2 OJT の体系性(問 31) × DX 活用度(問 37-38)=総合



OJT の体系性と DX 活用度のクロス集計を行った。OJT を実施していない企業はレベルの遅れを感じている。各部門で自由に実施している企業はレベルが進んでいると感じている。それ以外の企業では特に大きな差は見られない。

●3-3 OJT 期間(問 32) × 定着率(問 27)

	過去5年間で採用した新卒社員(高卒・大卒・専門学校卒問わず)の、入社3年後の定着率は高い水準にあると感じますか。				
OJT期間	低い (49%以下)	やや低い (50%~64%)	平均的 (65%~79%)	高い (80%~89%)	非常に高い (定着率90%以上)
期間は決めていない、不明	1	2	7	2	2
1週間未満	0	1	2	0	0
1週間以上1ヵ月未満	0	0	3	1	0
1ヵ月以上3ヵ月未満	0	0	5	3	1
3ヵ月以上6ヵ月未満	0	1	6	3	0
6ヵ月以上1年未満	1	1	7	1	4
1年以上2年未満	0	0	0	3	1
					56

OJT 期間と定着率のクロス集計を行った。1 年以上 OJT 期間がある企業は、定着率が高いとする回答が得られた。OJT 期間が 1 年未満の企業は、定着率が平均的とする回答が多く見られた。

●3-4 OFF-JT 実施状況(問 35) × 定着率(問 27)

	過去5年間で採用した新卒社員(高卒・大卒・専門学校卒問わず)の、入社3年後の定着率は高い水準にあると感じますか。				
採用実施頻度	低い (49%以下)	やや低い (50%~64%)	平均的 (65%~79%)	高い (80%~89%)	非常に高い (定着率90%以上)
各部門で自由に実施	0	1	7	3	0
実施していない	1	3	3	1	0
新たな人員採用時に実施	0	1	4	4	2
数年に一度、人数は未定	0	0	3	0	0
毎年計画的に全社で実施	1	1	14	6	6
					59

OFF-JT 実施状況と定着率のクロス集計を行った。どの企業も定着率は平均的という回答が最も多いが、OJT を毎年計画的に実施している企業では、定着率が高いとの回答も一定数あった。

【クロス集計4】DX 推進への取組状況

●4-1 DX レベル(問 37) × 業種(問 3)

	貴社のDXへの取り組みは、地域内で比較した場合に、総合的にどの程度のレベルにあると感じますか。			
業種	進んでいる	やや進んでいる	やや遅れている	遅れている
サービス業(他に分類されないもの)	1	1	1	1
不動産・物品賃貸業	0	1	0	1
医療・福祉	0	1	3	0
卸売業・小売業	3	3	6	3
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	1	0
宿泊業・飲食サービス	0	1	0	1
建設業	2	2	3	2
情報・通信業	1	4	0	0
教育・学習支援業	0	1	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	0	1	0	0
製造業	1	7	4	2
農業・林業	0	1	0	0
運輸業・郵便業	0	1	1	0
				53

DX レベルと業種のクロス集計を行った。製造業、建設業、卸売業では同一業種内でも進んでいる企業と遅れを感じている企業に分かれており、医療・福祉では遅れを感じている企業が多い。

●4-2 DX 人材需要(問 44) ×業種(問 3)

	DX推進に必要な専門知識を持つ人材(AI活用、データサイエンティスト、エンジニアなど)を採用したいと考えていますか。			
業種	すぐに採用したい(1年以内)	2～3年以内に採用したい	採用したいが検討が必要	当面採用の予定無し
サービス業(他に分類されないもの)	0	0	2	2
不動産・物品賃貸業	0	0	1	1
医療・福祉	1	0	2	1
卸売業・小売業	2	2	7	4
学術研究・専門・技術サービス業	0	0	1	0
宿泊業・飲食サービス	0	1	1	0
建設業	1	0	4	4
情報・通信業	2	0	2	1
教育・学習支援業	0	0	0	1
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	1	0
製造業	2	2	7	3
農業・林業	0	0	0	1
運輸業・郵便業	0	0	1	1
				61

DX 人材需要と業種のクロス集計を行った。積極的な採用を検討しているのは卸売業・小売業、情報・通信業、製造業で目立つが、それ以外の業種では検討が必要と回答した企業が多い。

2－4. 講評

はじめに

本報告書は、令和 7 年度 文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の一環として実施した、山口県内中小企業を対象とするアンケート調査の集計結果に基づき、地域企業における人材育成および人材確保の実態を整理・分析し、その結果を報告するものである。

本調査では、特に通信制高校との連携を含むキャリア形成支援の可能性、デジタルトランスフォーメーション（DX）の活用状況、ならびに若年層の定着支援体制の現状に着目し、企業側の認識や課題意識を把握することを目的とした。

調査対象は、当初、山口県内の中小企業約 30 社程度を想定していたが、最終的には 61 件の有効回答を得ることができた。ここでは、企業属性、経営戦略、人材確保・育成、定着支援、DX 活用の実態を整理し、講評する。

第 1 節 回答企業の属性と経営戦略

1-1. 回答企業の属性

- 回答企業の地理的分布

回答企業の所在地は、山口県内が 57 件（93.4%）、山口県外が 4 件（6.6%）であった。回答者の大半が山口県内企業で占められており、本調査の目的である「地域中小企業」の実態把握に資する結果となっている。

市町別に見ると、回答数が多い順に山口市（28 件）、宇部市（23 件）、周南市（21 件）であった。これらの市は、県内において人口規模や経済活動が比較的集中している地域であり、企業の集積度が高いことが回答数にも反映されたものと考えられる。一方で、本調査結果は主要都市圏の企業意見が中心となっている点に留意し、今後の分析においては地域特性を踏まえた解釈が必要である。

- 業種別分布

業種別では、卸売業・小売業が 15 件（24.6%）と最も多く、次いで製造業 14 件（23.0%）、建設業 9 件（14.8%）となった。卸売業・小売業と製造業の二業種で全体の約半数（47.6%）を占めており、これら地域産業の中核を担う業種における人材確保や人材育成、DX への取り組みに関する課題が、本調査結果の特徴を形成していると考えられる。

- 従業員規模別分布

従業員規模別では、301 名以上が 20 件（32.8%）と最も多く、次いで 101 名～300 名が 17 件（27.9%）、51 名～100 名が 13 件（21.3%）であった。従業員数 101 名以上の企業が全体の 60.7%を占めており、「中小企業」という枠組みの中でも、比較的規模の大きい企業からの回答が多い傾向が見られる。このことから、一定の組織規模を有する企業ほど、人材育成や DX 推進に対する関心を持ち、調査への協力が得られやすかった可能性が示唆される。

- 売上高別分布

売上高別では、10 億円～50 億円未満が 23 件（37.7%）と最も多く、次いで 100 億円以上が 14 件（23.0%）であった。従業員規模が比較的大きい企業の回答が多かったことに対応し、売上高においても一定規模以上の企業が多く含まれる結果となっている。企業規模の違いが、経営戦略や

人材育成、DX への取り組み姿勢に影響を与えている可能性がうかがえる。

1-2. 今後の事業展開における重点施策

今後の事業展開において「重要性が高い」とされた施策は、多い順に、既存顧客への深耕・取引拡大（37 件）、コスト削減や生産効率の向上（34 件）、人材育成・専門スキル再構築・リスキリング（33 件）であった。これらの結果から、回答企業の多くが、新規事業の拡大よりも、既存事業基盤の強化と内部経営資源の最適化を重視している状況が読み取れる。特に「人材育成・専門スキル再構築・リスキリング」が上位に位置している点は、人材不足を背景に、人材の確保に加えて既存人材の育成・再教育を経営課題として捉えている企業が多いことを示している。

また、職場の労働環境、報酬、人間関係などの改善（29 件）や、デジタル技術（DX）の推進、AI・RPA などのデジタル化、IT ツール活用（27 件）も比較的多く選択されており、人手不足への対応と生産性向上の両面から、職場環境の整備とデジタル活用を進めようとする意向が一定程度うかがえる。

第 2 節　人材確保・採用に関する実態

2-1. 人材不足の認識と求める職種

- 人材不足の認識

人材不足については、「ある程度感じている」が 29 件（47.5%）、「強く感じている」が 27 件（44.3%）となり、両者を合わせると全体の 91.8%に達した。多くの企業が人材不足を認識しており、地域中小企業において人材確保が重要な経営課題となっている状況がうかがえる。

- 不足している職種

不足している職種としては、技術職が 30 件（30.0%）と最も多く、次いで営業職 27 件（27.0%）、製造・生産職 10 件（10.0%）であった。技術職と営業職で全体の半数以上を占めており、専門性を要する現場人材や、収益に直結する営業人材の不足が顕著であることが読み取れる。

特に技術職の不足は、事業の継続や高度化に直結する課題であり、後述する DX 推進への関心の高さとも関連して、デジタル化や生産性向上を担う人材の確保が企業にとって重要なテーマとなっていることが示唆される。

- 人材が採用できない要因

人材が採用できない要因として最も多かったのは「応募者が少ない」で 44 件（29.5%）であった。次いで「給与・待遇の競争が厳しい」および「仕事の魅力が伝わりにくい」がともに 23 件（15.4%）で続いている。これらの結果から、採用における課題は、単に企業側の情報発信の不足にとどまらず、労働市場全体における地域企業の競争環境、特に給与・待遇面における制約が影響している可能性がうかがえる。新卒学生の採用募集に関しては、応募者の母集団形成に苦慮している企業が多く、今後の採用においては、仕事の内容や魅力を適切に伝える工夫とともに、地域内外の人材動向を踏まえた対策が求められる。

- 採用計画の有無

採用計画については、「毎年計画的に採用している」が 34 件（55.7%）と最も多く、次いで「定期的に採用しているが、採用人数は変動する」が 18 件（29.5%）であった。全体として、約 9 割の企業が何らかの形で継続的な採用活動を行っており、人材不足を背景に、計画的な採用を重視している

実態が確認された。

2-2. 採用において重視する人物像・スキル

本調査では、採用時に重視する能力・スキルについて複数の項目を設定し、その重要度を把握した。以下では、「高く求め重視する」および「極めて重視する（必須）」と回答された割合が高い項目を中心に整理する。

【態度・意欲・対人スキル】

態度や意欲、対人スキルに関する項目は、全体として極めて高い重要度が示された。協調性・チームワークや社会・会社のルール（ビジネスマナーなど）については、9 割以上の企業が「重要である」以上と回答しており、主体性、積極性・意欲、顧客視点・相手目線についても同様の傾向が見られた。また、目標達成への意欲・粘り強さについては、「極めて重視する（必須）」が 24 件（40.0%）と比較的高く、誠実さ・素直さについても、ほぼすべての企業が「重要である」以上と評価している。対人コミュニケーション能力については、「高く求め重視する」と「極めて重視する（必須）」を合わせて 85.3%となり、多くの企業が重視していることが確認された。

これらの結果から、地域中小企業では、専門的な知識や技術以上に、社会人としての基本的な姿勢や倫理観、チームで円滑に業務を進めるための対人能力、仕事に対する前向きな姿勢を重視する傾向が強いことが明らかとなった。

【専門性・思考力・その他】

IT リテラシーやデジタル活用能力については、「高く求め重視する」および「極めて重視する（必須）」を合わせて 78.0%となっており、一定の重要性が認識されている。これは、前節で示した事業戦略における DX 推進への関心と整合する結果である。

特定の専門知識・技術については、「極めて重視する（必須）」が 17 件（27.9%）と比較的高く、特に技術職を中心に、専門性を有する人材へのニーズが存在していることがうかがえる。一方、PC スキル（Word、Excel など）については、「重要である（できれば身に付けたい）」が最も多く、必須条件というよりも、業務上望ましい基礎スキルとして位置付けられていると考えられる。

第 3 節　特定の人材の受入意向とキャリア形成支援

3-1. 専門学校・通信制高校出身者の受入意向

- 専門学校卒業生の採用実績

専門学校卒業生の採用実績については、「はい」が 42 件（68.9%）となり、約 7 割の企業がこれまでに専門学校卒業生を採用した経験を有していることが分かった。

- 専門学校卒業生の今後の受入意向

今後の受入意向については、「条件が合えば受け入れたい」が 30 件（49.2%）、「積極的に受け入れたい」が 29 件（47.5%）となり、両者を合わせると 96.7%の企業が専門学校出身者の採用に前向きな姿勢を示している。この結果から、専門学校が育成する実践的な専門知識や技術について、多くの企業が一定の評価を行っていることがうかがえる。特に、技術職不足を感じている企業にとっては、専門学校出身者が人材確保の有力な選択肢の一つとして認識されている可能性が示唆される。

- 通信制高校出身者の採用実績

通信制高校出身者の採用実績については、「いいえ」が 44 件（72.1%）と最も多く、専門学校卒業生と比較すると、採用実績は限定的であることが明らかとなった。

- 通信制高校出身者の今後の受入意向

今後の受入意向については、「条件が合えば受け入れたい」が 38 件（62.3%）と最も多かった。一方で、「これまで採用経験がなく、判断できない」が 11 件（18.0%）と、「積極的に受け入れたい」9 件（14.8%）を上回っており、採用実績の少なさが、評価基準や育成方法に対する不安や判断の難しさにつながっている様子がうかがえる。ただし、通信制高校出身者の受入に対して否定的な回答は少なく、「通信制高校でどのような教育を受けて、何を学び何ができるか」という情報開示、企業側の条件整備や通信高校への情報提供、キャリア形成支援の枠組みが明確になれば、受入が進む余地があることが示唆される。

3-2. 若者就職における評価要素

若者の就職に際して企業が重視する評価要素について整理した結果、対人能力や社会性に関わる項目が特に重視されていることが明らかとなった。

コミュニケーション能力については、「ややそう思う」が 31 件（50.8%）、「とてもそう思う」が 16 件（26.2%）となり、両者を合わせて 77.0%の企業が重要な評価要素であると回答している。この傾向は、第 2 節における採用時に重視する能力・スキルの結果とも一致しており、若手人材に求める基礎的要素として、コミュニケーション能力が重視されていることが確認された。

社会経験・アルバイト経験については、「ややそう思う」が 27 件（44.3%）、「とてもそう思う」が 19 件（31.1%）であり、75.4%の企業が重要視している。これは、就職前の社会経験を通じて、基礎的なビジネスマナーや社会性が一定程度身に付いていることへの期待を反映した結果と考えられる。

部活動・クラブ活動経験については、「ややそう思う」が 27 件（44.3%）と最も多く、「どちらとも言えない」が 15 件（24.6%）であった。活動内容そのものよりも、チームワークや継続的に取り組む姿勢といった汎用的な能力の獲得という観点から評価する企業がある一方で、評価の位置付けが必ずしも定まっていない企業も一定数存在している。

高校時代に専門教育を履修した経験については、「どちらとも言えない」が 25 件（41.0%）と最多であった。通信制高校出身者の採用経験が少ないことに加え、履修内容と自社業務との関連性を判断しにくい企業が多いことが、評価の難しさにつながっていると考えられる。

以上を踏まえた総合的な人物像として、企業が重視する項目は、コミュニケーション能力（51 件）、誠実さ・素直さ（50 件）、チームワーク・協調性（44 件）が上位を占めた。多くの企業が、業務遂行における基本的な姿勢や対人関係能力を重視しており、若手社員が組織の一員として定着し、継続的に成長していくことへの期待が強いことがうかがえる。

3-3. キャリア形成支援への関心

専修学校との連携・協業によるキャリア支援への関心については、「少し興味がある」が 33 件（54.1%）と過半数を占めた一方で、「あまり興味がない」も 20 件（32.8%）存在している。「非常に興味がある」は 6 件（9.8%）にとどまり、現時点では、専修学校との連携に対して強い関心を持つ企業は限定的であることが示された。

インターンシップ・職場体験等の受入意向については、「条件付きで検討可能」が 36 件（59.0%）

と最も多く、「はい、協力できます」が 8 件(13.1%)であった。両者を合わせると 72.1%の企業が、何らかの形での協力可能性を示している。一方で、「条件付き」が多数を占めていることから、指導体制の確保や業務負荷、受入期間などが、取組導入に際しての主な課題となっていることが読み取れる。今後は、専修学校側が企業の負担軽減を意識した「低負荷型の企業実習」としてスモールステップで連携できる受入設計や支援体制を提示することが重要である。

第 4 節　定着支援体制と OJT・Off-JT の実態

4-1. 従業員の定着率と離職要因

新卒・中途採用者の定着率については、「平均的(65%～79%)」が 31 件(50.8%)と最も多く、「高い(80%～89%)」が 14 件(23.0%)、「非常に高い(定着率 90%以上)」が 8 件(13.1%)であった。これらを合わせると、87.0%の企業が自社の定着率を「平均以上」と認識している。多くの企業が人材不足を課題として認識する一方で、一定の定着水準を維持していると捉える企業が多く、各社において何らかの定着に向けた取組が行われている可能性がうかがえる。

若手社員の離職要因として最も多かったのは「入社後の仕事とのギャップ」(34 件)であり、次いで「給与が安い」(24 件)、「人間関係構築」(23 件)が続いた。「入社後の仕事とのギャップ」は、採用時の情報提供や業務内容に対する期待値と実態との不一致が影響している可能性を示しており、採用段階での丁寧な説明と、入社後の継続的なフォローアップ体制の重要性を示唆している。また、「給与が安い」は、第 2 節で示した採用困難要因とも共通しており、地域中小企業が抱える賃金面での構造的課題が、採用のみならず定着にも影響を及ぼしている状況が読み取れる。

4-2. OJT および Off-JT の実施状況

- OJT(On-the-Job Training)の実施方法

OJT の実施方法については、「新たな人員採用時に実施」が 23 件(37.7%)、「毎年計画的に全社で実施」が 17 件(27.9%)であり、これらを合わせても 65.6%にとどまっている。OJT を計画的かつ継続的に実施している企業は、必ずしも多数派ではないことが分かる。

- OJT の対象者

OJT の対象者としては、「新卒入社 1 年目」が 42 件(76.4%)と圧倒的に多かった。この結果から、OJT は主に新卒者の早期戦力化を目的として実施されている一方で、中途採用者や既存社員を対象とした継続的なスキル向上の仕組みとしては、十分に活用されていない可能性が示唆される。

- Off-JT(Off-the-Job Training)の実施方法

Off-JT については、「毎年計画的に全社で実施」が 28 件(45.9%)と最も多かった。OJT と比較すると、Off-JT の方が計画的な実施体制が整っている企業が多く、外部研修や集合研修など、体系的な教育機会を重視する傾向がうかがえる。

第 5 節 DX 活用とデジタル人材確保の実態

5-1. DX 推進の進捗状況とツール活用状況

- DX 推進の進捗状況

「やや進んでいる」(24 件, 39.3%)と「進んでいる」(8 件)を合わせ、52.3%の企業が前向きな回答をしている。地域中小企業においても、DX への意識は高まりつつあることが示された。

- デジタルツールの活用状況

ツール	全体的に使っている＋部門によっては使っている	全く使っていない
クラウドサービス	77.1%	18.0%
Web 会議システム	70.0%	15.0%
電子契約	71.7%	20.0%
RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）	36.7%	36.7%
AI 関連ツール	16.4%	82.0%

デジタルツールの活用状況を見ると、クラウドサービス、Web 会議システム、電子契約といった、業務効率化やペーパーレス化に直結するツールは 7 割前後の企業で導入が進んでいる。一方で、RPA や AI 関連ツールについては、「全く使っていない」とする回答が多く、特に AI 関連ツールでは 8 割以上の企業が未導入であった。

5-2. デジタル人材確保と育成の課題

- DX 推進を担う人材の充足度

DX 推進を担う人材の充足度については、「まだまだ充足していない」が 33 件（54.1%）、「全く充足していない」が 20 件（32.8%）であり、合わせて 86.9%の企業がデジタル人材の不足を感じている。

- デジタル人材の育成状況

デジタル人材の育成については、「全く実施していない」が 27 件（44.3%）と最も多く、「定期的に実施している」は 2 件（3.3%）にとどまった。多くの企業がデジタル人材の必要性を認識しつつも、体系的な育成の仕組みを構築するには至っていない状況がうかがえる。

- 外部教育機関との連携

外部教育機関との連携状況については、「不十分だが連携している」が 22 件（36.1%）と最も多く、「全く連携できていない」が 20 件（32.8%）であった。大学や専修学校などの教育機関との連携が十分に進んでいないことも、デジタル人材育成を進める上での課題の一つと考えられる。

- DX 人材の採用意向

DX 人材の採用意向については、「採用したいが検討が必要」が 29 件（47.5%）と最も多かった。採用に前向きな姿勢を示す企業は一定数存在するものの、受入体制や求める人材像の具体化に課題を抱えている様子がうかがえる。

- 採用したい DX 人材の経験

採用したい DX 人材の経験としては、「IT 業界の経験者」が 45 件と最も多く、即戦力となる専門的知識・経験を有する人材への期待が高いことが読み取れる。

- DX 推進における課題

DX 推進における課題として最も多かったのは「予算（費用）の確保」（36 件）であり、次いで「日常業務が多忙、人手不足」（32 件）、「社風・組織文化」（24 件）、「目的・ゴールの明確性」（24 件）が続いた。これらの結果から、資金や人的リソースの制約に加え、組織文化や方向性の共有といった非金銭的要因も、DX 推進を進める上での重要な課題となっていることが示唆される。

第 6 節　総合考察と今後の提言

6-1. 総合考察

本調査結果から、山口県内の中小企業の多くが人材不足を重要な経営課題として認識しており、事業の継続と成長に向けて、「既存顧客への深耕」および「人材育成・リスキリング」を重視している状況が確認された。

【人材に関する課題】

採用において企業が重視する要素は、専門知識や高度な技能よりも、「誠実さ・素直さ」「チームワーク」「コミュニケーション能力」といった基礎的なポータブルスキルであることが明らかとなった。これは、若手人材に対して早期の定着と組織内での継続的な成長を期待している企業が多いことを反映した結果と考えられる。

専門学校出身者については、多くの企業が採用実績を有し、今後の受入にも前向きな姿勢を示している。一方、通信制高校出身者については、採用実績の少なさから評価や育成方法に戸惑いを感じている企業が一定数存在するものの、受入自体に否定的な企業は少ない。通信制高校出身者の基礎能力やポータブルスキルを整理・可視化し、企業と連携したキャリア形成支援の仕組みを構築することで、受入が進む可能性が示唆される。

【定着に関する課題】

若手社員の離職要因として最も多かったのは「入社後の仕事とのギャップ」であり、採用時の情報提供のあり方や、入社後の育成・フォロー体制が定着に大きく影響していることが確認された。OJT は新卒入社 1 年目を中心に実施され、Off-JT は比較的計画的に行われているものの、育成の継続性や中途採用者への対応については、今後の課題として整理できる。

【DX に関する課題】

DX 推進への関心は一定程度高まっている一方で、「予算の確保」や「人手不足」といったリソース面の制約が、推進上の大きな課題となっている。デジタルツールの導入は進みつつあるものの、AI や RPA などの高度な技術活用は限定的であり、「デジタル人材の不足」や「体系的な育成体制の未整備」が DX 推進の障壁となっている。また、外部教育機関との連携が十分に進んでいないことも、地域全体でのデジタル化を進める上での課題の一つである。

6-2. 教育プログラム・キャリア支援設計への提言

本調査結果を踏まえ、専修学校による地域密着型人材育成モデルの構築に向け、以下の提言を行う。

1. 企業ニーズに即したポータブルスキル（※）育成の強化

企業が採用時に重視する「誠実さ・素直さ」「コミュニケーション能力」「チームワーク・協調性」を中核とした教育プログラムを体系的に設計することが重要である。通信制高校との連携においては、社会経験やアルバイト経験等を通じて培われたこれらの能力を言語化し、企業に提示できるキャリアシート等の整備が有効である。

2. 入社後ギャップの解消と定着支援を目的とした教育連携の推進

離職要因として多く挙げられた「入社後の仕事とのギャップ」を軽減するため、インターンシップや職場体験を活用した教育連携が求められる。その際、「条件付きで検討可能」とする企業が多い実態を踏まえ、教員による指導支援や短期・モジュール型実習など、企業負担を軽減する仕組みの構築が重要である。

3. 地域 DX 推進を支えるリスキリング・Off-JT 連携の推進

デジタル人材不足への対応として、企業の業務実態に配慮したオンライン型や短期集中型の Off-JT プログラムの開発が求められる。特に、IT リテラシーやデジタル活用能力を基盤とし、企業内で DX 推進を担う人材の育成を支援する取組が重要である。

4. 通信制高校出身者のキャリア評価基準の整備

通信制高校出身者の評価に迷う企業が多い現状を踏まえ、専修学校が中心となり、履修内容や課外活動、就労経験等を通じて身に付けた汎用的能力を可視化する評価基準を整備し、企業に提示することで、採用時の不安軽減につなげることが期待される。

まとめ

本調査は、山口県内の中小企業 61 社を対象に実施し、人材確保・育成、定着支援、ならびにデジタルトランスフォーメーション（DX）に関する実態を定量的に整理したものである。その結果、地域中小企業においては、人材不足と DX 推進に関する課題が重要な経営テーマとなっていることが明らかとなった。

人材確保の面では、基礎的なポータブルスキルを重視する傾向が強く、若手人材の定着と成長への期待が高いことが確認された。また、専門学校出身者の受入には高い関心が示される一方、通信制高校出身者については評価や育成方法に課題が残るものの、条件整備や支援の工夫により新たな人材供給源となる可能性が示唆される。DX 推進については、業務効率化を中心とした取組が進む一方で、デジタル人材の不足や育成体制の未整備、リソース面の制約が課題として整理された。

以上を踏まえ、専修学校には、通信制高校との連携を軸に、企業ニーズに即した人材育成とキャリア支援を担う役割が期待される。企業の負担軽減に配慮した教育連携や、地域 DX を支える人材育成の取組を通じて、若者の地域定着と地域産業の持続的発展に寄与することが求められる。

（※）ポータブルスキルとは、特定の職種・業界・会社に限定されず、どの仕事や環境でも活用できる汎用的な能力・姿勢・行動特性を指します

3.通信制高校生ニーズ等のアンケート調査

3－1. 調査方法

（1） 調査手法

①通信制高校生：学生アンケート協力依頼のプリント配布後、Google フォームにて
アンケート調査を実施した。

②通信制教職員：対面にてヒアリング調査を実施した。

（2） 調査対象

山口県内の通信制高校（3校）を対象とした。

（3） アンケート・ヒアリング実施（内訳）

対象　A 高等学校（69 名）
B 高等学校（76 名）
C 高等学校（188 名）

合計　3校
回答数　333 件（アンケート）

（4） 調査日程

令和 7 年 11 日 11 日～令和 7 年 11 月 26 日

3－2. 調査項目

（1） 通信制高校生　アンケート調査

1　学生情報
・学年、学科コース、性別、居住地、通学時の方法 ・学習習慣、時間の把握 ・学校のICT設備、オンライン学習環境の把握
2　学生が現在考えている進路の意向の把握
・希望する進路 ・将来目指す進路（職業）の分野 ・学校の進路指導に対する満足度
3　進学の障壁となる要因の把握
・専門学校進学に障壁となる要因（情報・学習面・経済面・心理面等）
4　通信制高校の学生たちが興味を持っているものや、どのような将来を抱いているかを把握
・興味を持っている関心事（AI、e-Sports、動画編集名等） ・余暇や自由時間の過ごし方 ・将来就きたい業界、やってみたい職業
5　社会へ出る上で必要と思う力「社会人基礎力（12の能力要素）」と自己評価
・地域社会や職場で仕事をしていくために必要だと思う能力（スキル） ・現在の自分自身の能力評価（スキル） ・自分の能力（スキル）を伸ばすために取り組んでいること

（2） 通信制教職員 ヒアリング調査

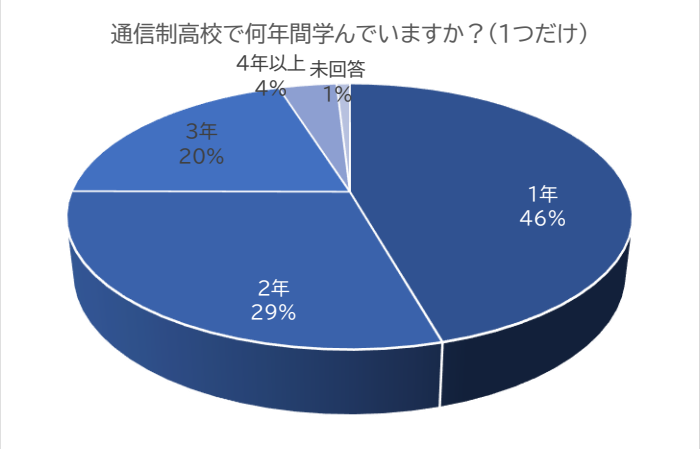
1 学校・教職員情報
・学校、所属・役職、所在地、教職員数 等
2 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援
・進学就職等の卒業後の進路 ・目指す進路（職業）の分野 ・生徒の進路決定で特に難しい点 ・今後必要と思う支援
3 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ
・連携経験がある外部機関及び連携する上での課題 ・地元の専門学校と新たに連携したい分野や内容
4 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題
・授業や進路指導におけるICT活用度 ・利用しているツール（LMS、Google、Teams、Zoom、その他） ・必要と思う授業改善やICT環境の改善内容

3－3. 通信制高校生アンケート調査結果

（1）学生情報

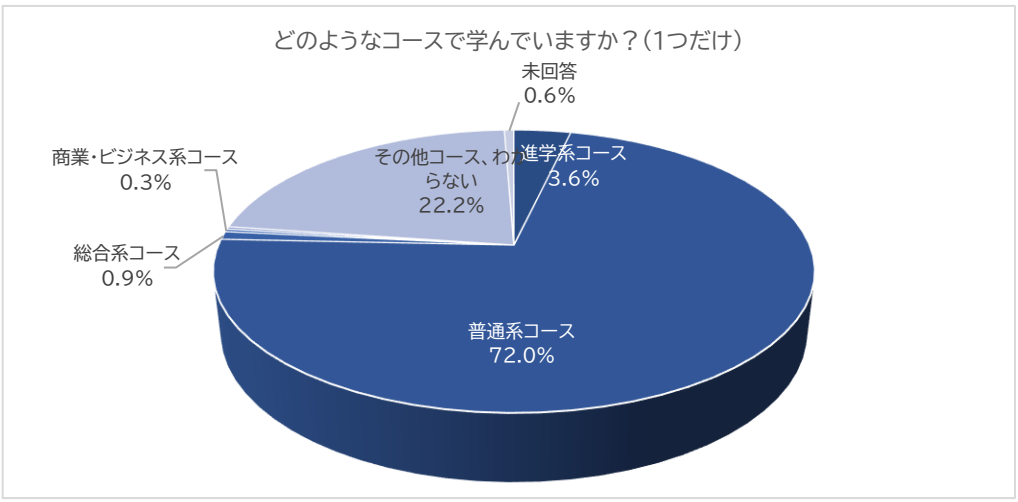
【Q1】　通信制高校で何年間学んでいますか？（1 つだけ）

1 年	150 名
2 年	97 名
3 年	66 名
4 年以上	13 名
未回答	3 名



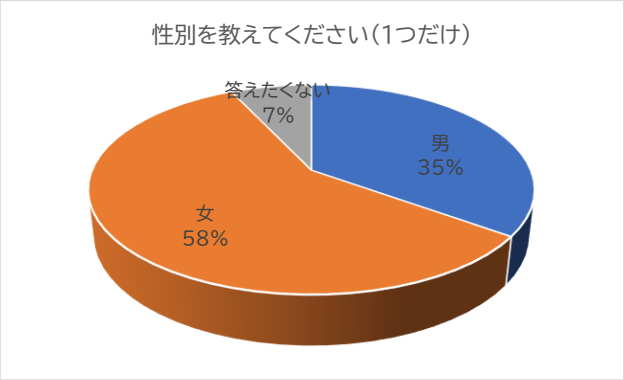
【Q2】　どのようなコースで学んでいますか？（1 つだけ）

進学系コース	12 名
普通系コース	237 名
総合系コース	3 名
商業･ビジネス系コース	1 名
医療･福祉系コース	0 名
情報系コース	0 名
調理系コース	1 名
その他コース、わからない	73 名
未回答	2 名



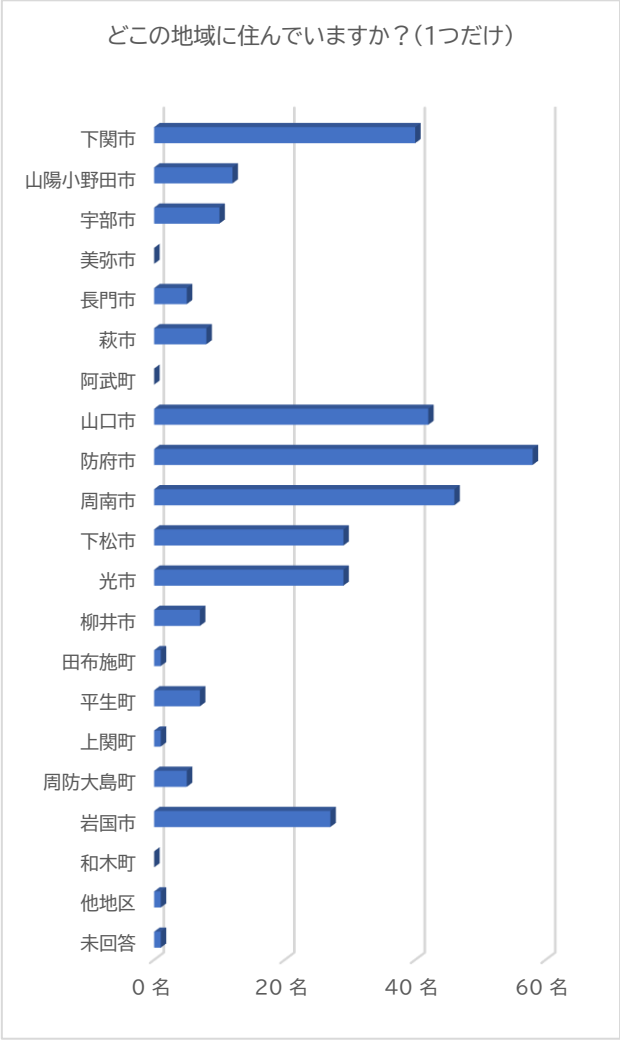
【Q3】　性別を教えてください。(1 つだけ)

男	115 名
女	191 名
答えたくない	23 名
未回答	0 名



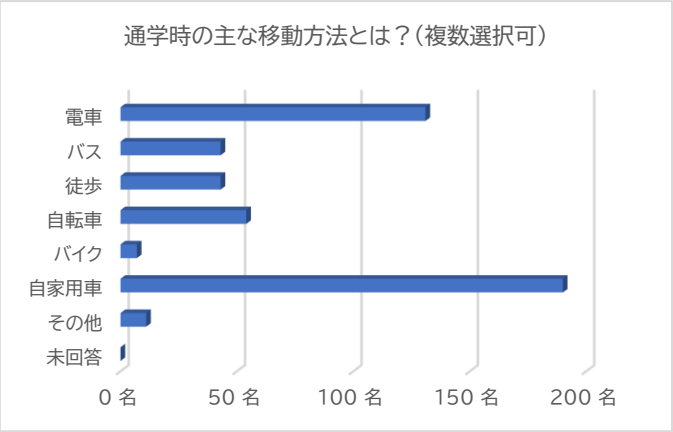
【Q4】　どこの地域に住んでますか？(1 つだけ)

下関市	40 名
山陽小野田市	12 名
宇部市	10 名
美弥市	0 名
長門市	5 名
萩市	8 名
阿武町	0 名
山口市	42 名
防府市	58 名
周南市	46 名
下松市	29 名
光市	29 名
柳井市	7 名
田布施町	1 名
平生町	7 名
上関町	1 名
周防大島町	5 名
岩国市	27 名
和木町	0 名
他地区	1 名
未回答	1 名



【Q5】　通学時の主な移動方法とは？（複数回答可）

電車	131 名
バス	43 名
徒歩	43 名
自転車	54 名
バイク	7 名
自家用車	190 名
その他	11 名
未回答	0 名



（2）学習習慣、時間の把握

【Q6】　通信制高校を選択した理由は？（複数回答可）

自分のペースで学びたい	172 名
興味ある専門分野の学習	8 名
学校の雰囲気が気に入った	32 名
登校回数の少なさ	126 名
自分のライフスタイルに合う	94 名
家庭や仕事の事情	27 名
家族や保護者の勧め	34 名
他の人の勧め	25 名
全日制での学びが困難	90 名
高卒資格の取得	94 名
学業以外の活動との両立	28 名
体調･健康上の理由	82 名
社会･仕事の早期経験	11 名
進学のため学習時間確保	8 名
その他	8 名
未回答	2 名



≪その他内容≫

･他の高校【全日制、定時制】に落ちたため、就職前に高校に行くことは決めていたから通信制を選んだ

･前の学校で色々あったため

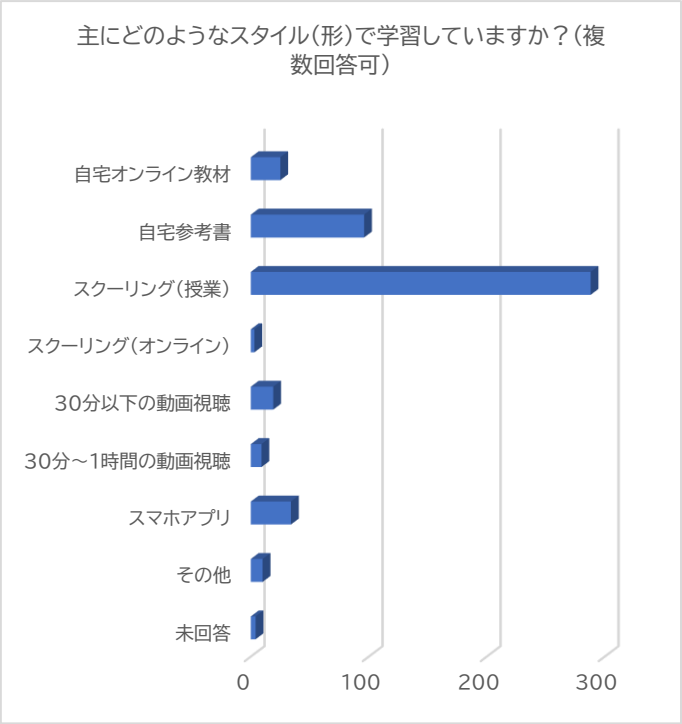
･全日に行っていたが自分に合わなかったから

･学校嫌いだから先生も子供も人間も嫌い

･転校

【Q7】　主にどのようなスタイル(形)で学習していますか？(複数回答可)

自宅オンライン教材	25 名
自宅参考書	96 名
スクーリング(授業)	288 名
スクーリング(オンライン)	3 名
30分以下の動画視聴	19 名
30分～1時間の動画視聴	9 名
スマホアプリ	34 名
その他	10 名
未回答	4 名

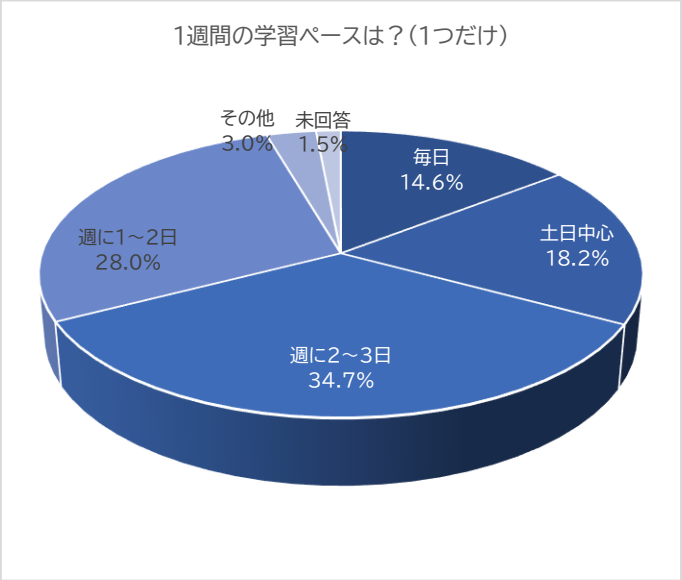


≪その他内容≫

・いろいろ
・レポート
・教科書、授業プリント、レポート
・塾

【Q8】　1 週間の学習ペースは？(1 つだけ)

毎日	48 名
土日中心	60 名
週に2～3日	114 名
週に1～2日	92 名
その他	10 名
未回答	5 名

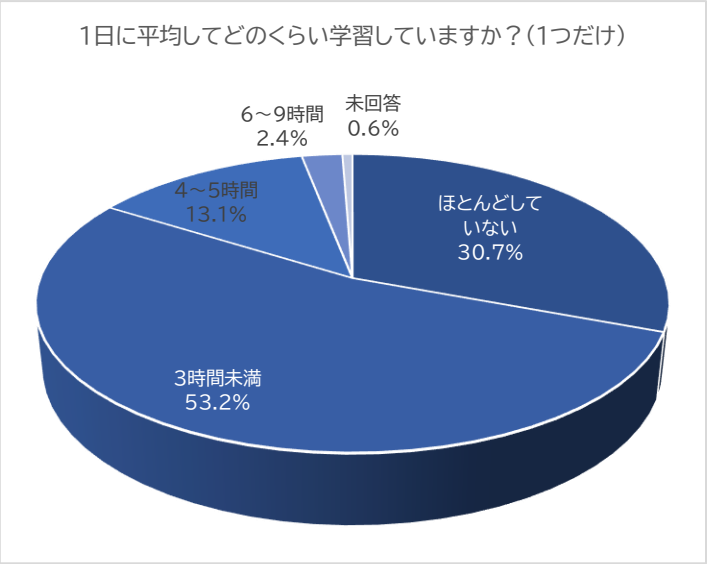


≪その他内容≫

・1 週間で一気に
・4～5
・4～5 日
・していない
・やろうと思った時
・週に 3～4 日
・週に 4～6 日ほど、アルバイトのあいまに
・週に 4 日から 5 日
・平日のみ
・平日中心

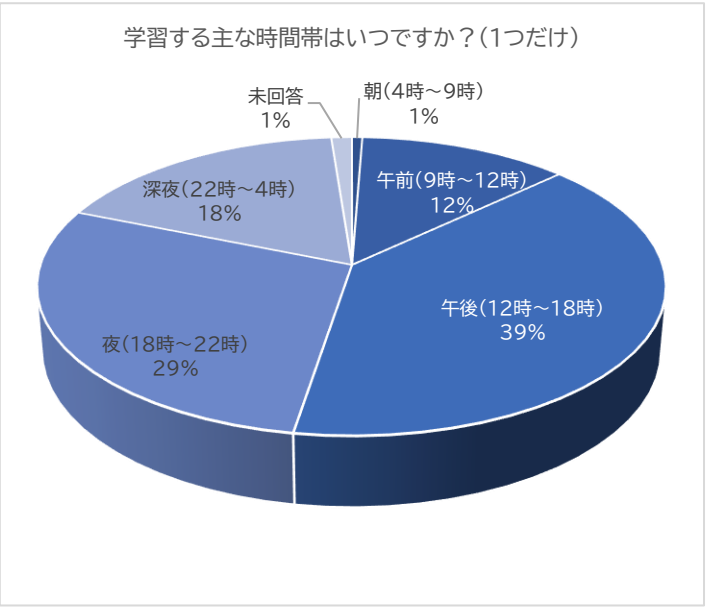
【Q9】 １日に平均してどのくらい学習していますか？(1 つだけ)

ほとんどしていない	101 名
3時間未満	175 名
4～5時間	43 名
6～9時間	8 名
10時間以上	0 名
未回答	2 名



【Q10】学習する主な時間帯はいつですか？(1 つだけ)

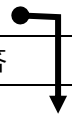
朝(4時～9時)	2 名
午前(9時～12時)	41 名
午後(12時～18時)	130 名
夜(18時～22時)	94 名
深夜(22時～4時)	58 名
未回答	4 名



【Q11】 アルバイトの経験はありますか？(1 つだけ)

【Q12】 どのようなお仕事のアルバイトをしていますか

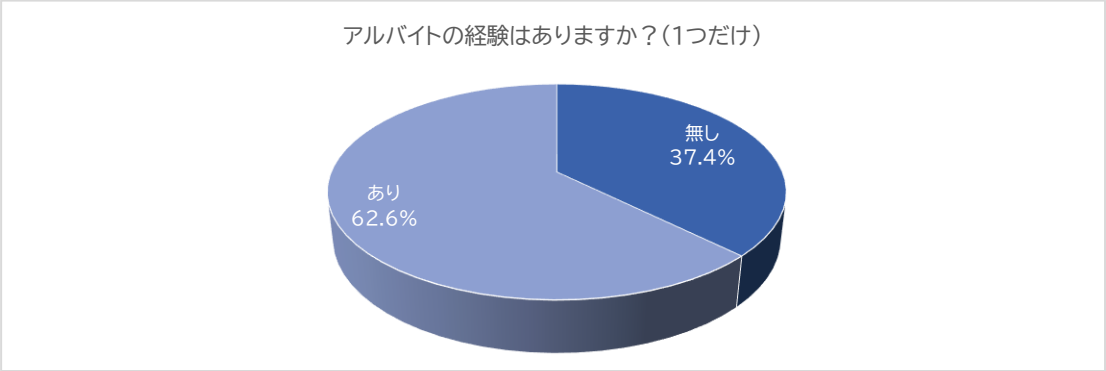
無し	123 名
あり	206 名
未回答	0 名



アパレル
アミューズメントスタッフ
レストランスタッフ
イベントスタッフ
ガストのフロアで接客業務
ガソリンスタンド
カフェ
カフェ、書店、ジム受付
ケーキ屋、コンビニ
コメダ珈琲店
コンビニ
コンビニ、キッチンカー
サービス業
スーパー
スシロー
スターリーカフェ
セブンイレブン
チェーン飲食店
ドラッグストア
バー
はま寿司
はま寿司とセブン

パンを製作
ファストフード店
ファミリーマート
フード系
プールの監視員、飲食店
プールの受付
ポスティング
ホテル清掃 居酒屋ホール
マックスバリューのデリカ
マルキと花子
レジ・品出し
介護
海人
喫茶店
居酒屋
業務用スーパー
警備員
現場
工場
広告の挟み込み
皿洗い
寿司屋

書店店員
焼肉屋
食品工場
水道工事
清掃　調理
接客業
設計関係
全部
惣菜
中古ホビーショップ
通夜、葬儀の受付
塗装
馬の世話
販売仕事。
服飾関係
弁当を作る
老人ホーム　厨房
飲食業
飲食業、電化製品店
飲食店、給食室
ラーメン
家電量販店で主に品出し、接客
就労継続支援 B 型【現在は金魚ちょうちんの作成等】
アルバイトの求人やってるとこの半分は最悪なとこ



【Q13】通信制高校で学んでよかったことは？（複数回答可）

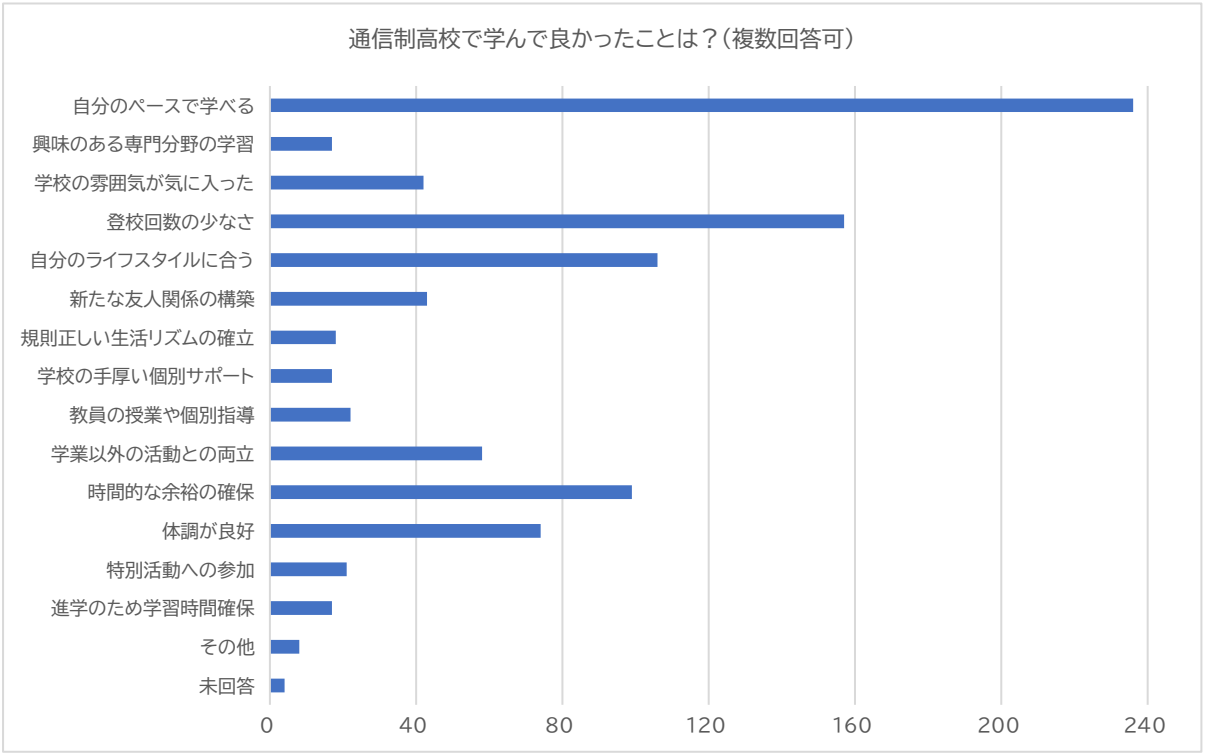
自分のペースで学べる	236 名
興味のある専門分野の学習	17 名
学校の雰囲気が気に入った	42 名
登校回数の少なさ	157 名
自分のライフスタイルに合う	106 名
新たな友人関係の構築	43 名
規則正しい生活リズムの確立	18 名
学校の手厚い個別サポート	17 名
教員の授業や個別指導	22 名
学業以外の活動との両立	58 名
時間的な余裕の確保	99 名
体調が良好	74 名
特別活動への参加	21 名
進学のため学習時間確保	17 名
その他	8 名
未回答	4 名

≪その他内容≫

・外に出るようになった

・ない

・良い先生が多い



（3）学校の ICT 設備、オンライン学習環境の把握

【Q14】学校で使用できる ICT 機器（パソコン・タブレットなど）はどのようなものがありますか？（複数回答可）

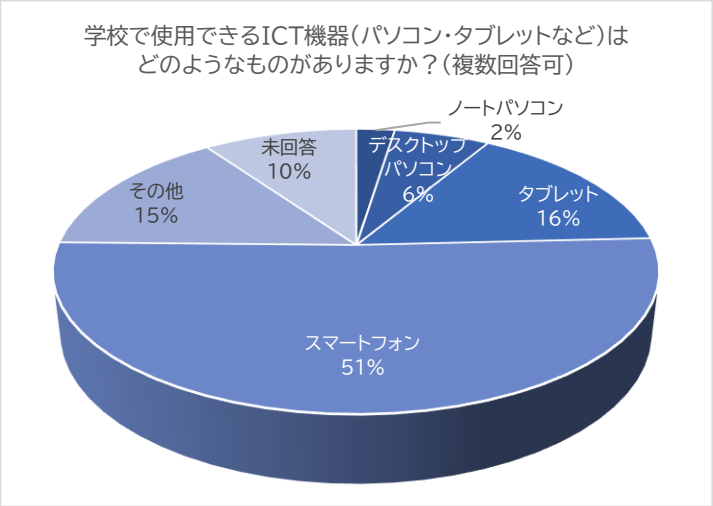
ノートパソコン	10 名
デスクトップパソコン	25 名
タブレット	64 名
スマートフォン	209 名
その他	61 名
未回答	40 名

≪その他内容≫

・なし

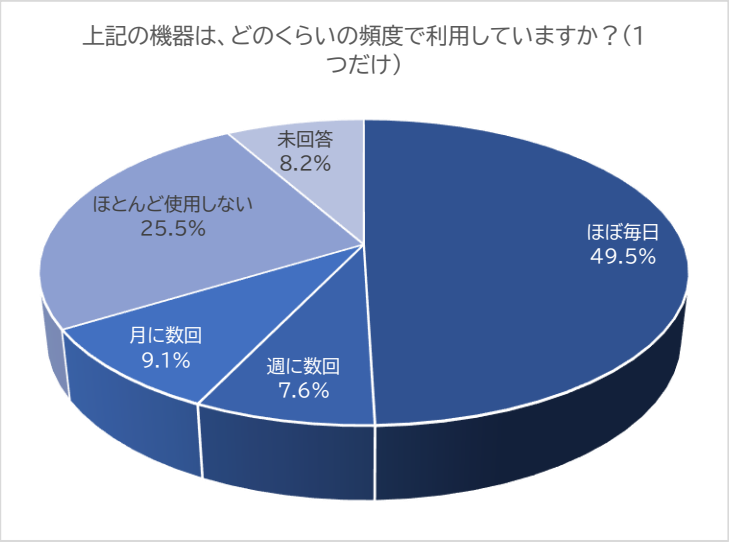
・無い

・分からない



【Q15】Q14 の機器は、どのくらいの頻度で利用していますか？（1 つだけ）

ほぼ毎日	163 名
週に数回	25 名
月に数回	30 名
ほとんど使用しない	84 名
未回答	27 名



【Q16】Q14 の機器を使用する目的は何ですか？（複数回答可）

授業	92 名
課題提出	30 名
レポート作成	74 名
連絡・出欠確認	62 名
オンライン面談・相談	7 名
動画視聴など自由に利用	130 名
その他	69 名
未回答	49 名

≪その他内容≫

・アンケート

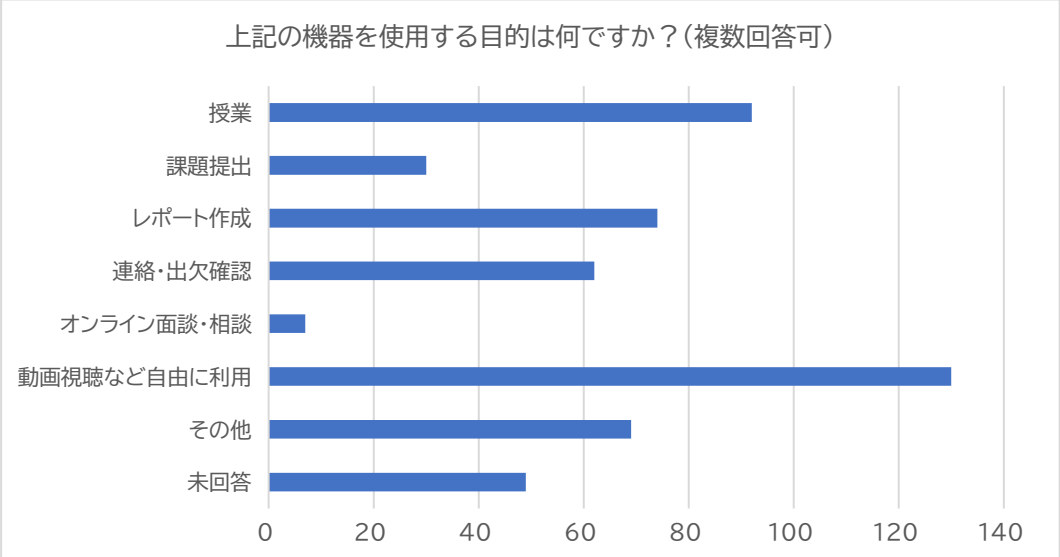
・調べ物

・分からない

・なし

・現実逃避

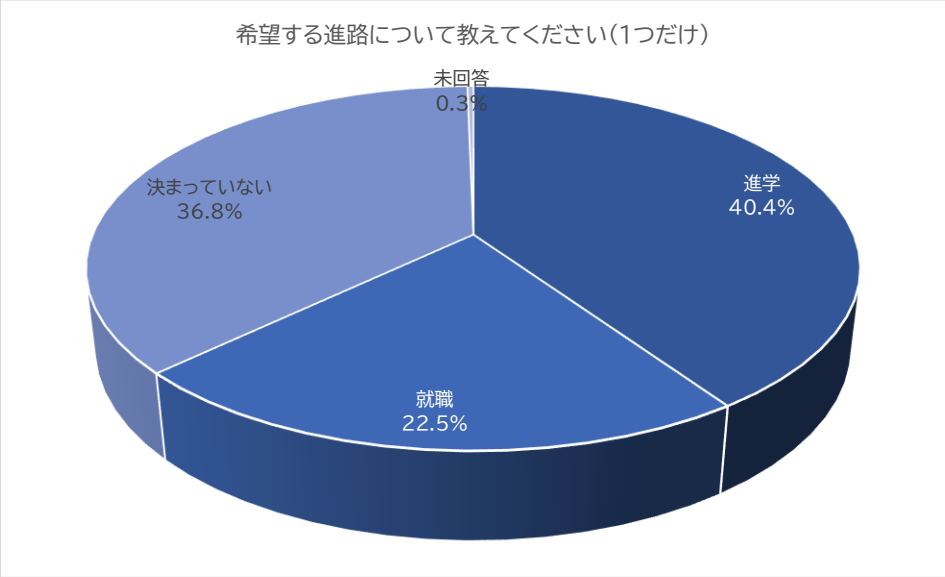
・部活動



（4）学生が現在考えている進路の意向の把握

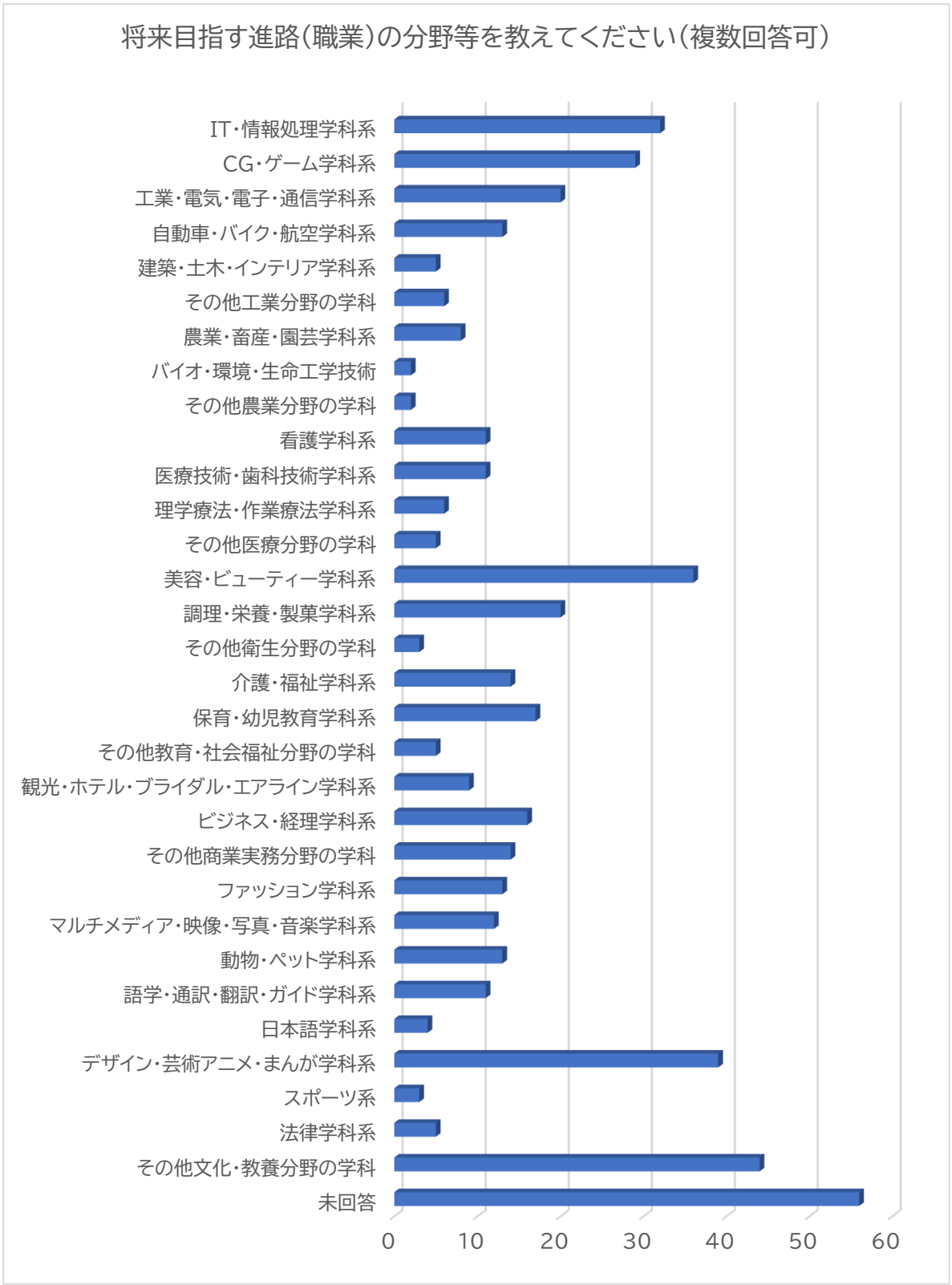
【Q17】希望する進路について教えてください(1 つだけ)

進学	133 名
就職	74 名
決まっていない	121 名
未回答	1 名



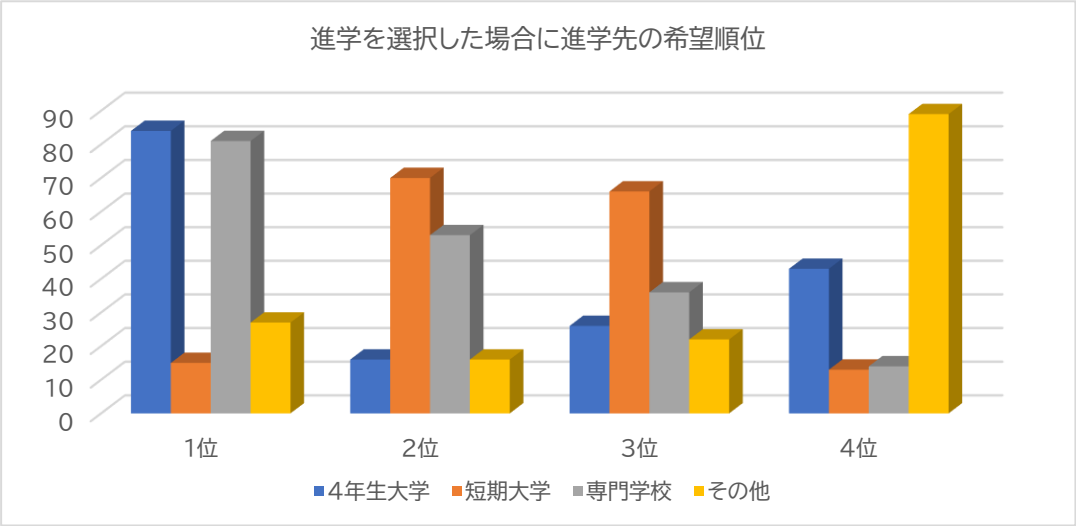
【Q18】 将来目指す進路(職業)の分野を教えてください(複数回答可)

IT・情報処理学科系	32 名
CG・ゲーム学科系	29 名
工業・電気・電子・通信学科系	20 名
自動車・バイク・航空学科系	13 名
建築・土木・インテリア学科系	5 名
その他工業分野の学科	6 名
農業・畜産・園芸学科系	8 名
バイオ・環境・生命工学技術	2 名
その他農業分野の学科	2 名
看護学科系	11 名
医療技術・歯科技術学科系	11 名
理学療法・作業療法学科系	6 名
その他医療分野の学科	5 名
美容・ビューティー学科系	36 名
調理・栄養・製菓学科系	20 名
その他衛生分野の学科	3 名
介護・福祉学科系	14 名
保育・幼児教育学科系	17 名
その他教育・社会福祉分野の学科	5 名
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系	9 名
ビジネス・経理学科系	16 名
その他商業実務分野の学科	14 名
ファッション学科系	13 名
マルチメディア・映像・写真・音楽学科系	12 名
動物・ペット学科系	13 名
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系	11 名
日本語学科系	4 名
デザイン・芸術アニメ・まんが学科系	39 名
スポーツ系	3 名
法律学科系	5 名
その他文化・教養分野の学科	44 名
未回答	56 名


将来目指す進路(職業)の分野等を教えてください(複数回答可)
IT・情報処理学科系
CG・ゲーム学科系
工業・電気・電子・通信学科系
自動車・バイク・航空学科系
建築・土木・インテリア学科系
その他工業分野の学科
農業・畜産・園芸学科系
バイオ・環境・生命工学技術
その他農業分野の学科
看護学科系
医療技術・歯科技術学科系
理学療法・作業療法学科系
その他医療分野の学科
美容・ビューティー学科系
調理・栄養・製菓学科系
その他衛生分野の学科
介護・福祉学科系
保育・幼児教育学科系
その他教育・社会福祉分野の学科
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系
ビジネス・経理学科系
その他商業実務分野の学科
ファッション学科系
マルチメディア・映像・写真・音楽学科系
動物・ペット学科系
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系
日本語学科系
デザイン・芸術アニメ・まんが学科系
スポーツ系
法律学科系
その他文化・教養分野の学科
未回答
0
10
20
30
40
50
60

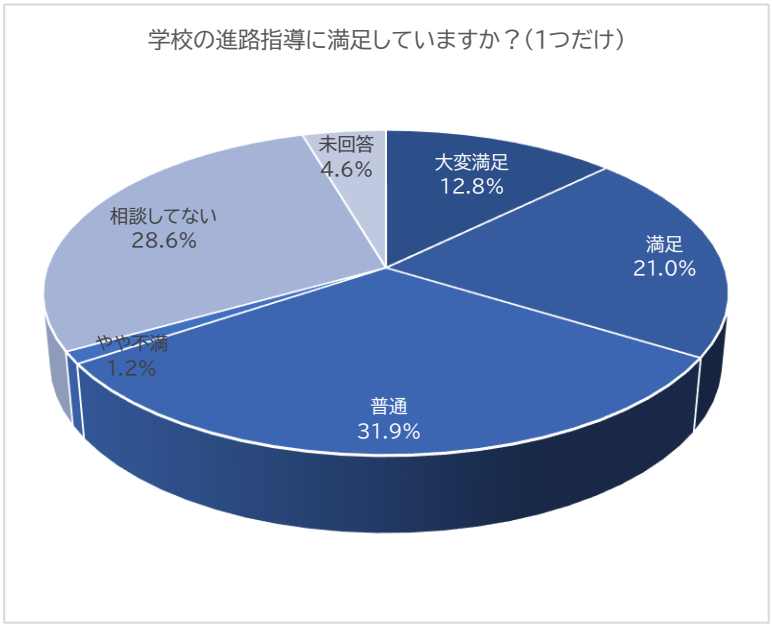
【Q19】進学を選択した場合に進学先の希望順位

	1位	2位	3位	4位	未回答
4年生大学	84	16	26	43	160
短期大学	15	70	66	13	165
専門学校	81	53	36	14	145
その他	27	16	22	89	175



【Q20】学校の進路指導に満足していますか？(1 つだけ)

大変満足	42 名
満足	69 名
普通	105 名
やや不満	4 名
不満	0 名
相談してない	94 名
未回答	15 名



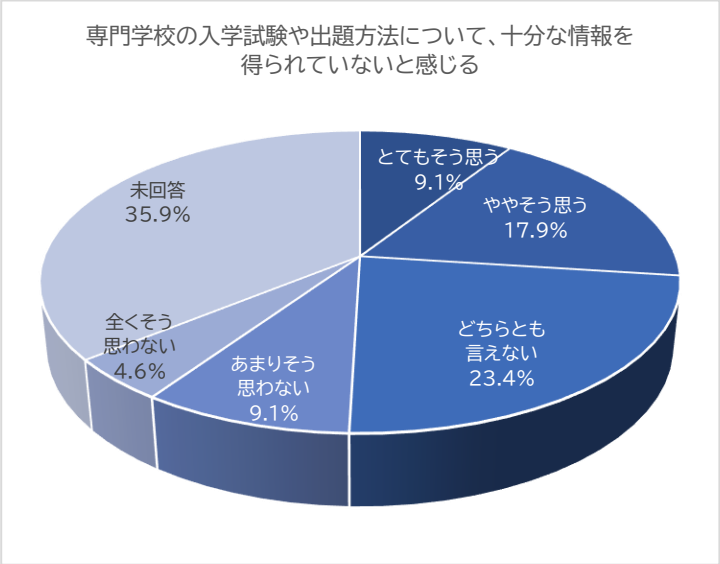
（5）進学の障壁となる要因の把握

【Q21】専門学校進学に障壁となる要因を教えてください（専門学校進学希望者）

①-1　専門学校進学に関する情報や必要な支援

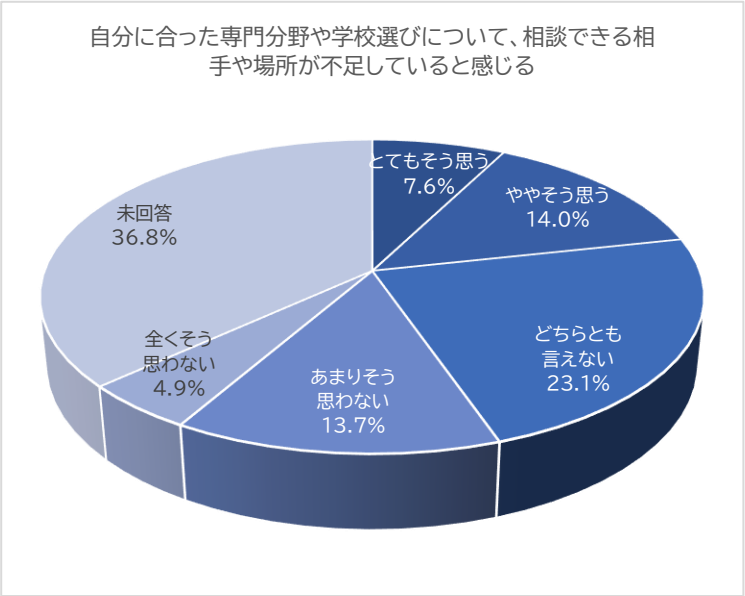
専門学校の入学試験や出題方法について、十分な情報を得られていないと感じる

とてもそう思う	30 名
ややそう思う	59 名
どちらとも言えない	77 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	15 名
未回答	118 名



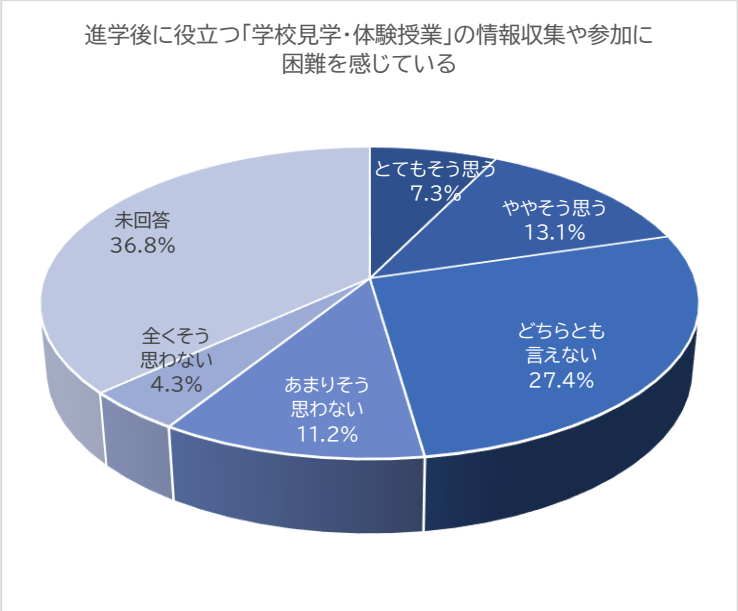
①-2　自分に合った専門分野や学校選びについて、相談できる相手や場所が不足していると感じる

とてもそう思う	25 名
ややそう思う	46 名
どちらとも言えない	76 名
あまりそう思わない	45 名
全くそう思わない	16 名
未回答	121 名



①-3　進学後に役立つ「学校見学・体験授業」の情報収集や参加に困難を感じている

とてもそう思う	24 名
ややそう思う	43 名
どちらとも言えない	90 名
あまりそう思わない	37 名
全くそう思わない	14 名
未回答	121 名



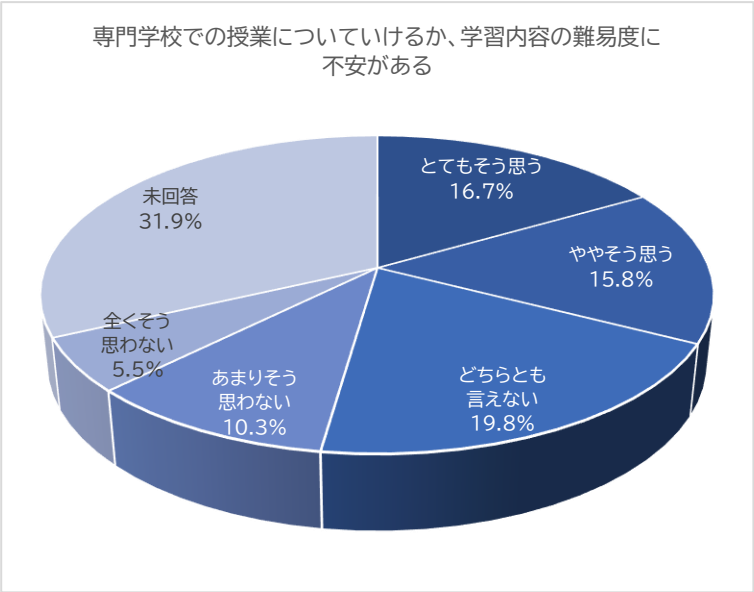
進学に向けて、学校（通信高校）に支援を強化してほしいことはありますか？（自由記載）

- カウンセリング
- レポート返ってくるのが遅くて間に合わないオンラインで提出できるレポートがあれば嬉しい
- 遠方進学に関して。遠方のため知識がない部分を補える資料を豊富にして欲しい。
- 過去問の充実
- 個人的な意見としては、面接指導、進学相談辺りの支援を強化して欲しいと感じています。
- 就職などの相談
- 就職先
- 奨学金制度
- 小論文対策、面接対策
- 上記だけではまだ分からない事が多いため現場の見学等を取り入れた方が良いと感じる
- 進学相談、面接指導
- 進学相談を対面以外でしたい（メールなど）
- 進路相談ができるイベントの開催、またそれの告知
- 生徒の自己啓発向上になる発言や灯火の案内
- 相談をどのタイミングでどの人にすればいいのか分からない
- 卒業生の就職先
- 他の人の相談や解決方法を開示してほしい。
- 大学に向けての入試対策や対策の教科書の配布などしてもっと入試に心の余裕ができるようにしてほしいです
- 分校でもイベントしてほしい
- 面接指導
- 面接指導、進学指導
- 特になし

②-1　　学習、学力面での課題、問題、不安

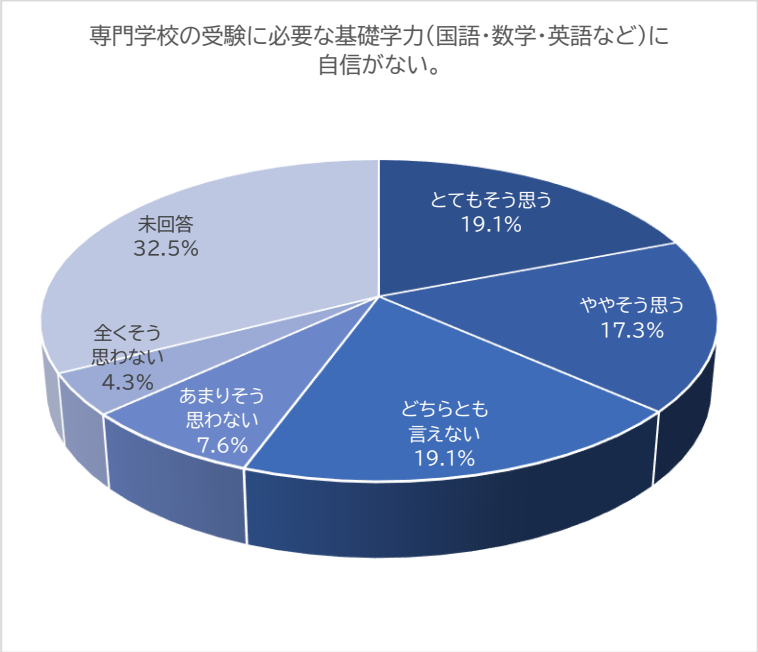
専門学校での授業についていけるか、学習内容の難易度に不安がある

とてもそう思う	55 名
ややそう思う	52 名
どちらとも言えない	65 名
あまりそう思わない	34 名
全くそう思わない	18 名
未回答	105 名



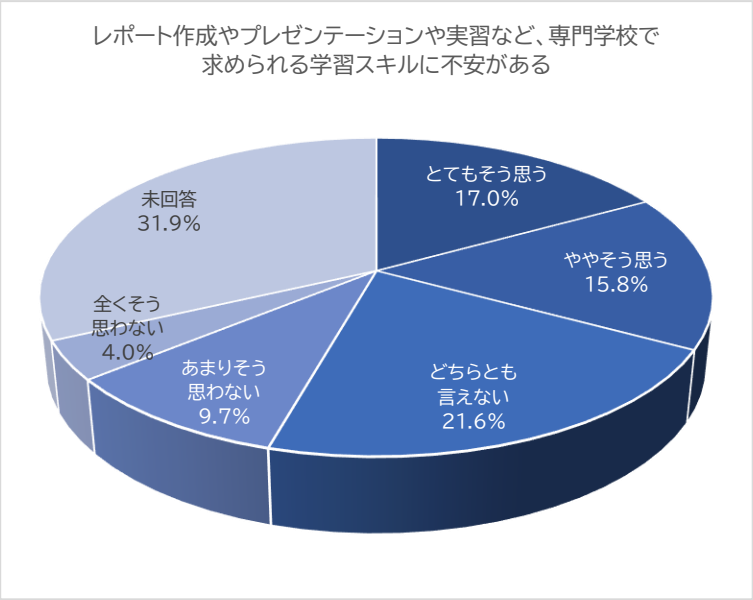
②-2　　専門学校の受験に必要な基礎学力(国語・数学・英語)に自信がない。

とてもそう思う	63 名
ややそう思う	57 名
どちらとも言えない	63 名
あまりそう思わない	25 名
全くそう思わない	14 名
未回答	107 名



②-3　レポート作成やプレゼンテーションや実習など、専門学校で求められる学習スキルに不安がある

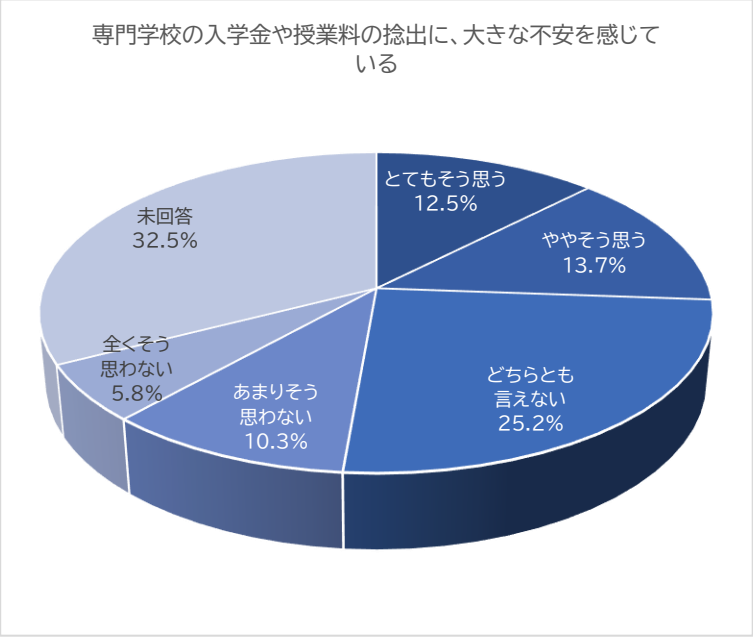
とてもそう思う	56 名
ややそう思う	52 名
どちらとも言えない	71 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	13 名
未回答	105 名



③-1　経済的(学費、生活費、交通費等)な課題、問題

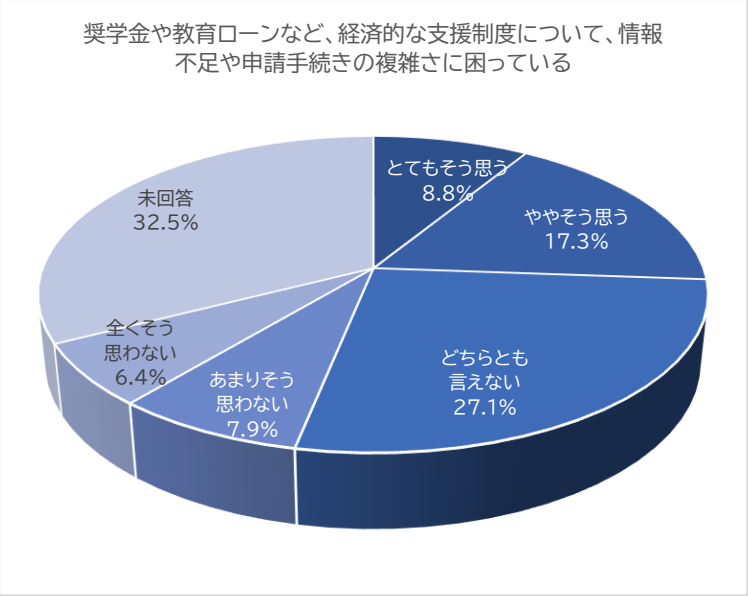
専門学校の入学金や授業料捻出に、大きな不安を感じている

とてもそう思う	41 名
ややそう思う	45 名
どちらとも言えない	83 名
あまりそう思わない	34 名
全くそう思わない	19 名
未回答	107 名



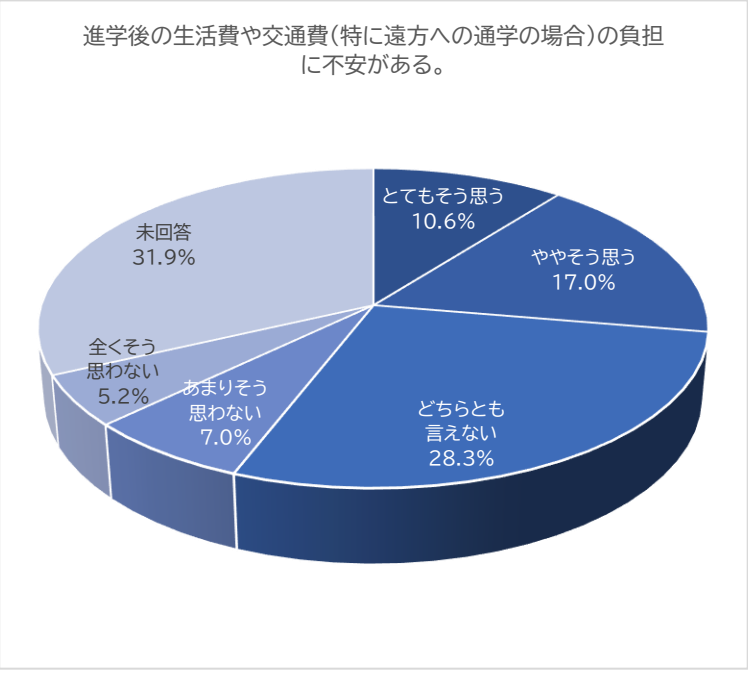
③-2　奨学金や教育ローンなど、経済的な支援制度について、情報不足や申請手続きの複雑さに困っている

とてもそう思う	29 名
ややそう思う	57 名
どちらとも言えない	89 名
あまりそう思わない	26 名
全くそう思わない	21 名
未回答	107 名



③-3　進学後の生活費や交通費(特に遠方への通学の場合)の負担に不安がある。

とてもそう思う	35 名
ややそう思う	56 名
どちらとも言えない	93 名
あまりそう思わない	23 名
全くそう思わない	17 名
未回答	105 名



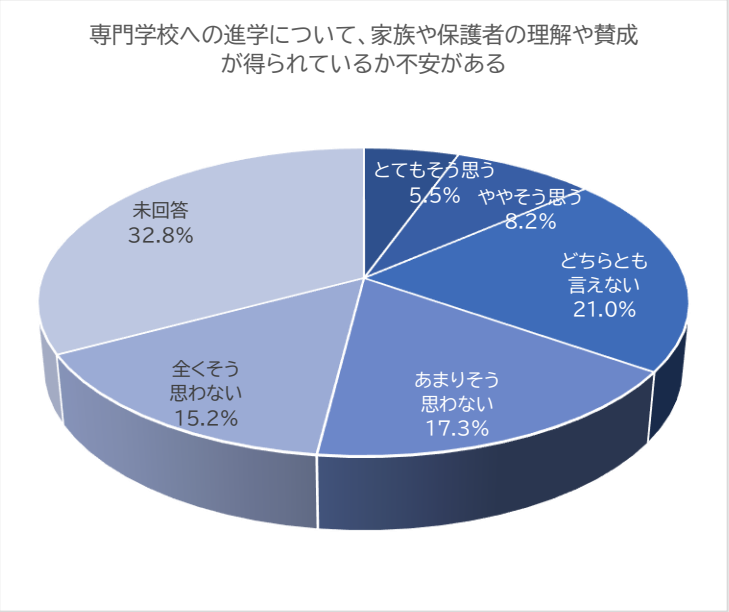
進学を実現するために、経済的に特に不足している費用はありますか？（自由記載）

- **おそらく学費**
- **学費、生活費等**
- **生活費**
- **通学費用**
- **日常の生活費不足**
- **入学金**
- **分からない**
- **特になし**
- **進学後の生活費、学費、現在の生活費、現在必要な資料や塾等費用、現在から進学後の交通費**

④-1　心理的（家族の理解、孤立メンタル等）な課題問題

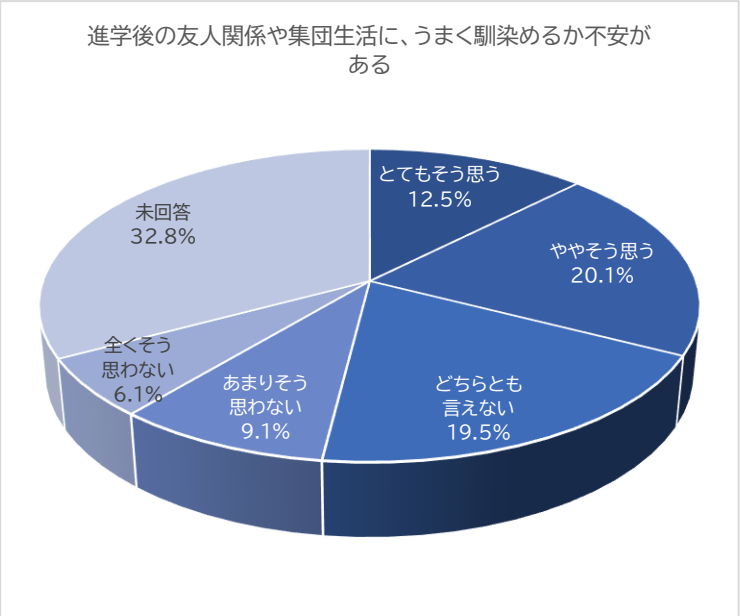
専門学校への進学について、家族や保護者の理解や賛成が得られているか不安がある

とてもそう思う	18 名
ややそう思う	27 名
どちらとも言えない	69 名
あまりそう思わない	57 名
全くそう思わない	50 名
未回答	108 名



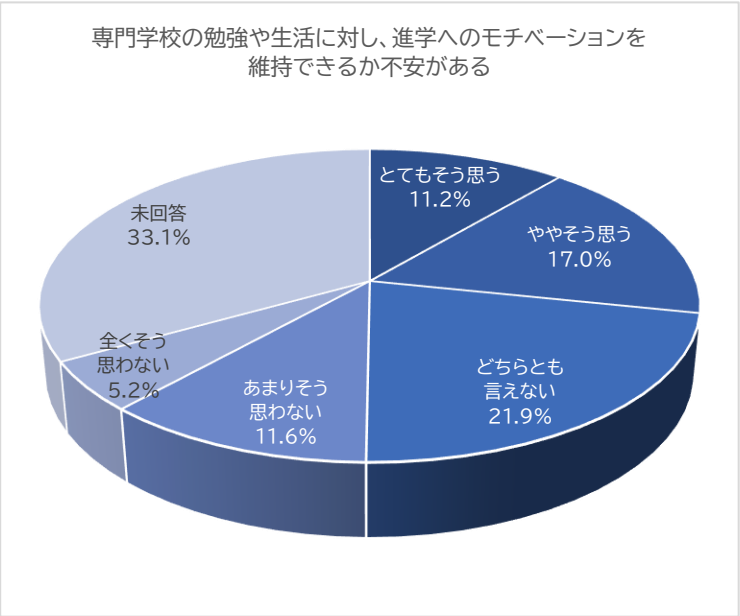
④-2　進学後の友人関係や集団生活に、うまく馴染めるか不安がある

とてもそう思う	41 名
ややそう思う	66 名
どちらとも言えない	64 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	20 名
未回答	108 名



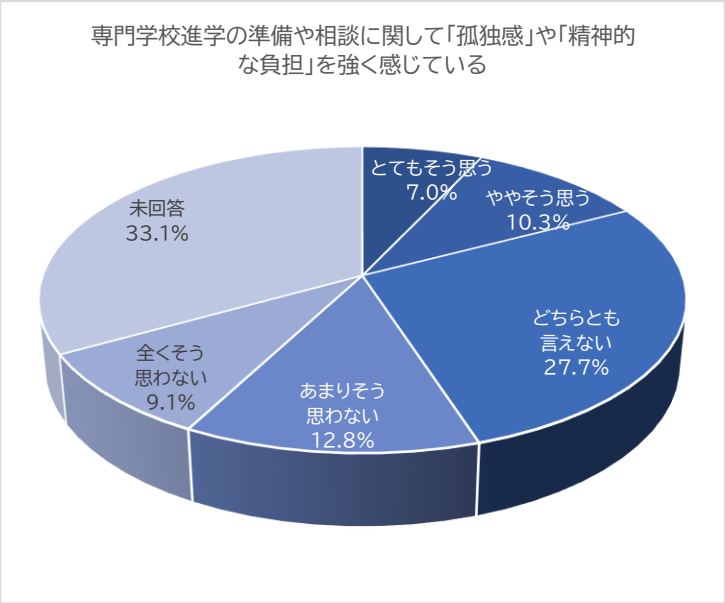
④-3　専門学校の勉強や生活に対し、進学へのモチベーションを維持できるか不安がある

とてもそう思う	37 名
ややそう思う	56 名
どちらとも言えない	72 名
あまりそう思わない	38 名
全くそう思わない	17 名
未回答	109 名



④-4　専門学校進学の準備や相談に関して「孤独感」や「精神的な負担」を強く感じている

とてもそう思う	23 名
ややそう思う	34 名
どちらとも言えない	91 名
あまりそう思わない	42 名
全くそう思わない	30 名
未回答	109 名



【Q22】上記（Q21）以外で、あなたが専門学校への進学に向けて、最も大きな「障壁」になっていると感じることを具体的にお書きください（自由記述）

- 学力、目指す目標がイマイチ定まってない、モチベーション
- クラスの雰囲気や先生方の雰囲気が自分に合うかどうか。
- 課題の提出期限を守れるか心配
- 学習面
- 学費
- 学力不足
- 現在の体調、進学後に体調が変化し生活が困難になる可能性があること。遠方へ進学すると、支援先が見つからない可能性があること。
- 支援無しに生活費を賄うため、学業とアルバイトの両立を続けなければならないこと
- 自身のやる気がわかず先行き不透明で意欲がないこと
- 上記と同じような事だか金銭面や学習能力の面が障壁になるとおもいます、他の事に関しては特におもいあたりません
- 情報収集
- 人とのコミュニケーション
- 人見知り
- 単位
- 通学に使用するお金
- 特にない
- 勉強
- 勉強について行けるか

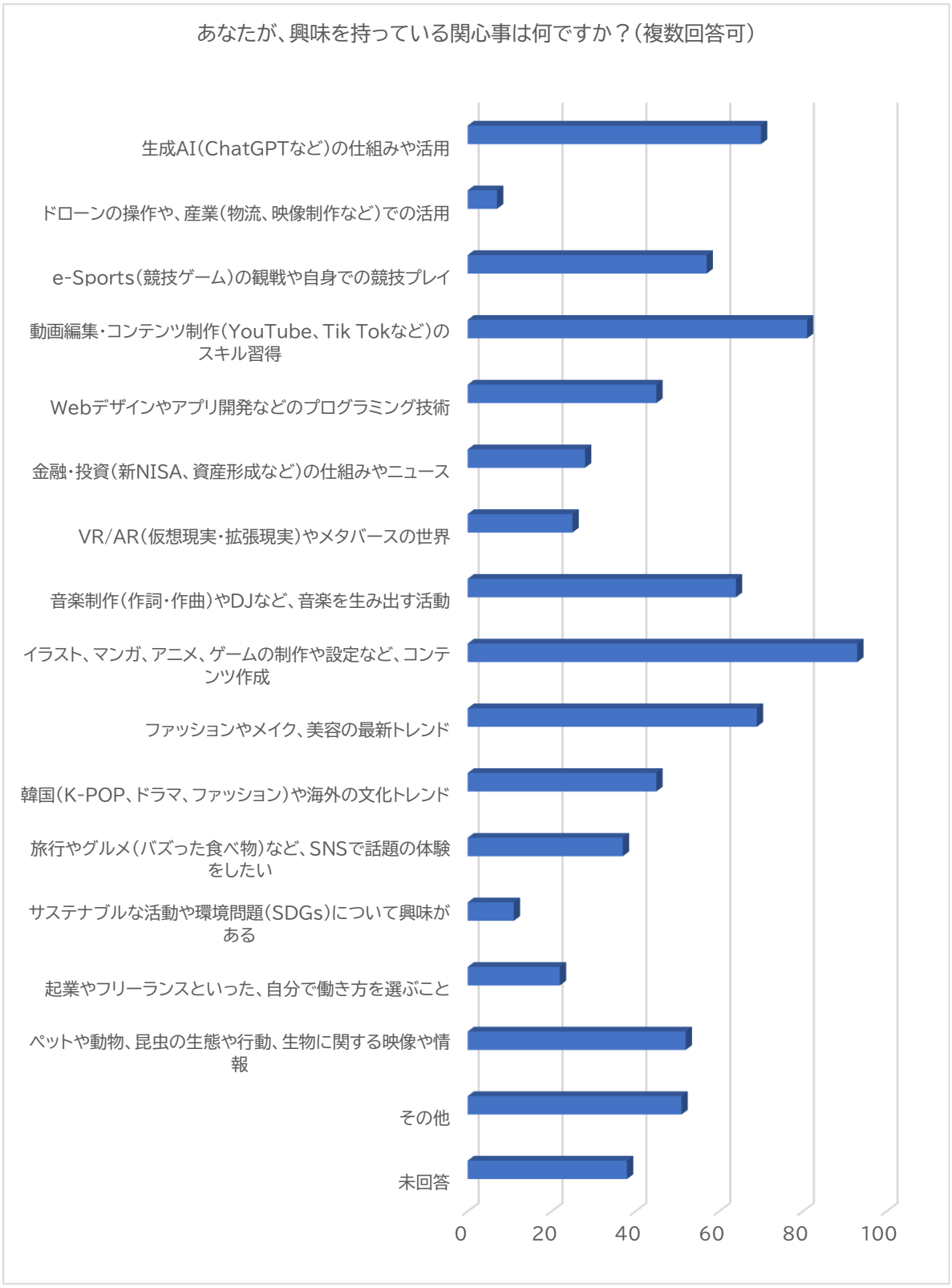
（6）通信制高校の学生たちが興味を持っているものや、どのような将来を抱いているかを把握

【Q23】あなたが、興味を持っている関心事は何ですか？（複数回答可）

生成 AI（ChatGPT など）の仕組みや活用	70 名
ドローンの操作や、産業（物流、映像制作など）での活用	7 名
e-Sports（競技ゲーム）の観戦や自身での競技プレイ	57 名
動画編集・コンテンツ制作（YouTube、Tik Tok など）のスキル習得	81 名
Web デザインやアプリ開発などのプログラミング技術	45 名
金融・投資（新 NISA、資産形成など）の仕組みやニュース	28 名
VR/AR（仮想現実・拡張現実）やメタバースの世界	25 名
音楽制作（作詞・作曲）や DJ など、音楽を生み出す活動	64 名
イラスト、マンガ、アニメ、ゲームの制作や設定など、コンテンツ作成	93 名
ファッションやメイク、美容の最新トレンド	69 名
韓国（K-POP、ドラマ、ファッション）や海外の文化トレンド	45 名
旅行やグルメ（バズった食べ物）など、SNS で話題の体験をしたい	37 名
サステナブルな活動や環境問題（SDGs）について興味がある	11 名
起業やフリーランスといった、自分で働き方を選ぶこと	22 名
ペットや動物、昆虫の生態や行動、生物に関する映像や情報	52 名
その他	51 名
未回答	38 名

※その他内容

- 文学、哲学
- スクールカウンセラー
- 心理学
- ルアー作り
- 自動車
- 植物、フラワーデザイナー
- 精神的な健康について
- 公務員
- 無し
- 心理学
- 美容師
- 心理学


あなたが、興味を持っている関心事は何ですか？(複数回答可)
生成AI(ChatGPTなど)の仕組みや活用
ドローンの操作や、産業(物流、映像制作など)での活用
e-Sports(競技ゲーム)の観戦や自身での競技プレイ
動画編集・コンテンツ制作(YouTube、Tik Tokなど)のスキル習得
Webデザインやアプリ開発などのプログラミング技術
金融・投資(新NISA、資産形成など)の仕組みやニュース
VR/AR(仮想現実・拡張現実)やメタバースの世界
音楽制作(作詞・作曲)やDJなど、音楽を生み出す活動
イラスト、マンガ、アニメ、ゲームの制作や設定など、コンテンツ作成
ファッションやメイク、美容の最新トレンド
韓国(K-POP、ドラマ、ファッション)や海外の文化トレンド
旅行やグルメ(バズった食べ物)など、SNSで話題の体験をしたい
サステナブルな活動や環境問題(SDGs)について興味がある
起業やフリーランスといった、自分で働き方を選ぶこと
ペットや動物、昆虫の生態や行動、生物に関する映像や情報
その他
未回答
0
20
40
60
80
100

【Q24】余暇や自由時間の過ごし方について教えてください（複数回答可）

動画視聴（YouTube、Netflix、アニメなど）	266 名
SNS の閲覧・投稿（Instagram、X、Tik Tok、LINE など）	188 名
ゲーム（スマホゲーム、コンシューマー、PC ゲームなど）	187 名
e-Sports の観戦や競技プレイ	35 名
音楽サブスクやラジオの聴取	116 名
動画やイラストの編集・制作	44 名
オンライン通話（Discord、Zoom など）での友人との交流	53 名
睡眠や休憩、ゴロゴロするなど、リラックスして過ごす	151 名
マンガや書籍、雑誌を読む	109 名
楽器の演奏、作曲作詞などの創作活動を行う	19 名
写真、絵画、手芸など、趣味の創作活動を行う	47 名
料理やお菓子作りをする	55 名
ペットと遊んだり、世話をしたりする	76 名
家族との会話や団らんを楽しむ	70 名
友人や恋人と会い、直接的な会話や遊び	64 名
ショッピングやウィンドウショッピングをする	50 名
スポーツや運動（部活でも可）をする	34 名
カラオケや映画、テーマパークなどの娯楽施設に行く	82 名
資格取得や進路に関する勉強	23 名
アルバイトをする	99 名
その他	14 名
未回答	11 名

※その他内容

・ 配信のアーカイブやそれらの編集、投稿


余暇や自由時間の過ごし方について教えてください（複数回答可）
動画視聴（YouTube、Netflix、アニメなど）
SNSの閲覧・投稿（Instagram、X、Tik Tok、LINEなど）
ゲーム（スマホゲーム、コンシューマー、PCゲームなど）
e-Sportsの観戦や競技プレイ
音楽サブスクやラジオの聴取
動画やイラストの編集・制作
オンライン通話（Discord、Zoomなど）での友人との交流
睡眠や休憩、ゴロゴロするなど、リラックスして過ごす
マンガや書籍、雑誌を読む
楽器の演奏、作曲作詞などの創作活動を行う
写真、絵画、手芸など、趣味の創作活動を行う
料理やお菓子作りをする
ペットと遊んだり、世話をしたりする
家族との会話や団らんを楽しむ
友人や恋人と会い、直接的な会話や遊び
ショッピングやウィンドウショッピングをする
スポーツや運動（部活でも可）をする
カラオケや映画、テーマパークなどの娯楽施設に行く
資格取得や進路に関する勉強
アルバイトをする
その他
未回答
0
100
200
300

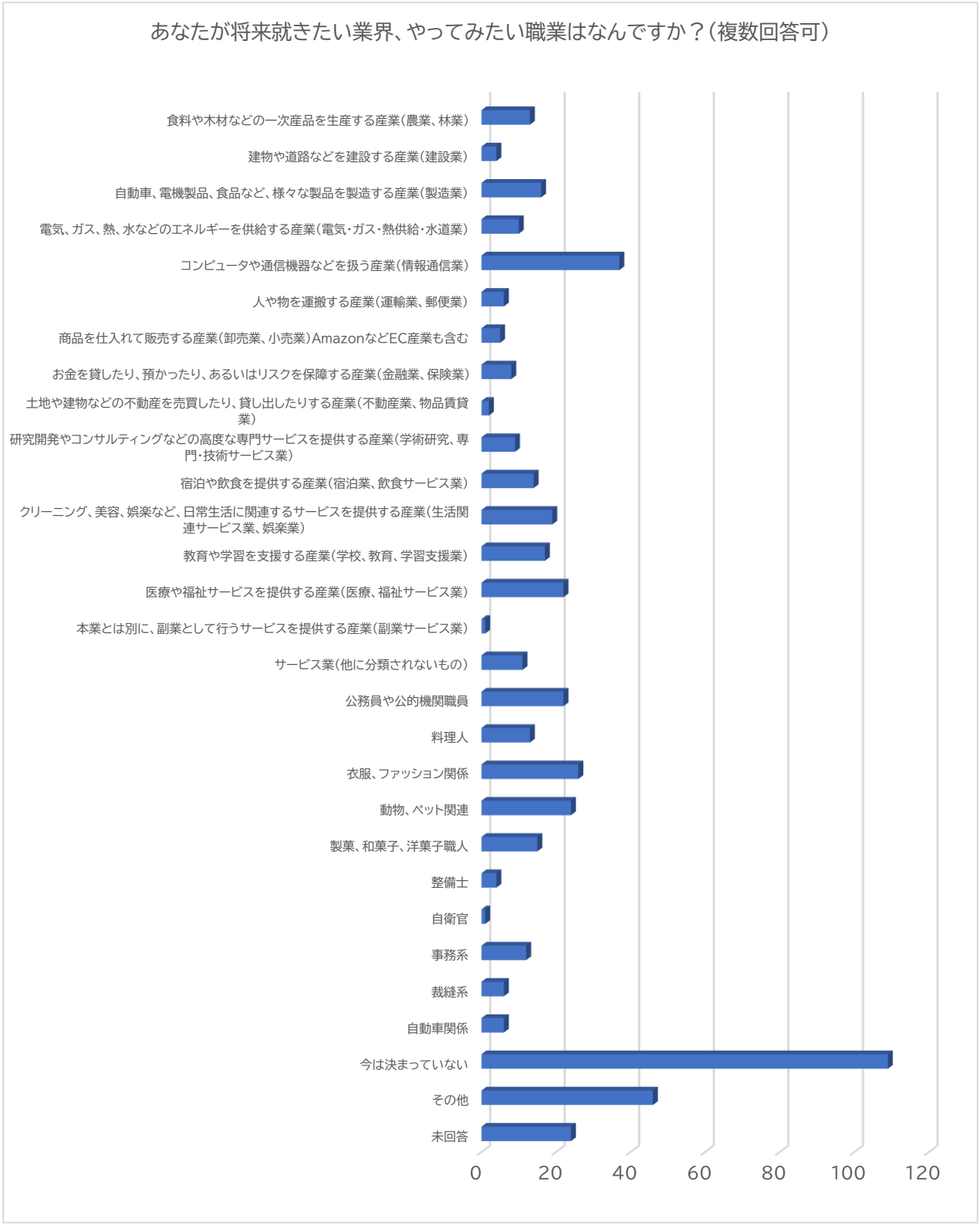
【Q25】あなたが将来就きたい業界、やってみたい職業はなんですか？（複数回答可）

食料や木材などの一次産品を生産する産業（農業、林業）	13 名
建物や道路などを建設する産業（建設業）	4 名
自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業（製造業）	16 名
電気、ガス、熱、水などのエネルギーを供給する産業（電気・ガス・熱供給・水道業）	10 名
コンピュータや通信機器などを扱う産業（情報通信業）	37 名
人や物を運搬する産業（運輸業、郵便業）	6 名
商品を仕入れて販売する産業（卸売業、小売業）Amazon など EC 産業も含む	5 名
お金を貸したり、預かったり、あるいはリスクを保障する産業（金融業、保険業）	8 名
土地や建物などの不動産を売買したり、貸し出したりする産業（不動産業、物品賃貸業）	2 名
研究開発やコンサルティングなどの高度な専門サービスを提供する産業（学術研究、専門・技術サービス業）	9 名
宿泊や飲食を提供する産業（宿泊業、飲食サービス業）	14 名
クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業（生活関連サービス業、娯楽業）	19 名
教育や学習を支援する産業（学校、教育、学習支援業）	17 名
医療や福祉サービスを提供する産業（医療、福祉サービス業）	22 名
本業とは別に、副業として行うサービスを提供する産業（副業サービス業）	1 名
サービス業（他に分類されないもの）	11 名
公務員や公的機関職員	22 名
料理人	13 名
衣服、ファッション関係	26 名
動物、ペット関連	24 名
製菓、和菓子、洋菓子職人	15 名
整備士	4 名
自衛官	1 名
事務系	12 名
裁縫系	6 名
自動車関係	6 名
今は決まっていない	109 名
その他	46 名
未回答	24 名

※その他内容

- イベントの企画・運営
- 美容師
- モデラー
- 精神科みたいなの
- 水商売
- 音楽関係

- 魔王を倒す勇者の手伝い
- 母の起業した納棺師業
- 心理カウンセラー
- フラワーデザイナー
- イラストレーター
- 鉄道系
- 音楽関係
- 声優・俳優
- スポーツ系
- メイク関連
- 釣り関係
- デザイン系
- アニメーター
- 動画編集者
- アニメーター



【Q26】上記（Q25）の希望の職業に就くために必要な能力（スキル）や必要となる資格は何だと思いますか？（自由記述）

- 日商簿記
- 簿記
- メイクの技術さ
- 調理師資格
- 公務員試験を受ける
- 高卒
- トーク力
- ボランティア精神
- モデリング技術
- 勉強を続けること
- 分からない
- パソコン
- 栄養士
- 調理士　栄養士
- 分からない
- ひ人と関わる能力
- 保育士資格
- 国家資格
- 特にないです。
- 知識をつけて、責任感を持つ
- こみゅに
- 期限を守る
- 免許
- 色彩検定
- 問題点を見つけ、解決する力
- 気遣いと思いやり、先を読む力
- 基礎デッサン、デッサン力、人体解剖学
- 特になし
- 協動性
- 特になし
- 臨床心理士、公認心理師
- ない
- 相手とのコミュニケーション能力や発想力
- 国家資格
- 運転免許を取るために勉強をする
- 調理師免許
- わからない
- 第二種電気工事士
- コミュニティケーション能力
- 初任者研修など
- 勉強すること
- グローバル化による多言語の取得
- 人とのコミュニケーション
- コミュニケーション
- 発想力・判断力
- 専門学校卒業、圧倒的に滑舌
- 英語
- 建築士の資格、整備士の資格
- 人の意見や要望を聞きすぐに対応できる力、食品衛生についての資格
- バイト経験、コミュニケーション能力、その作業を行う上で必要な資格
- 必要な資格は職種によって変わるが、一般教養やマナー等は身につけておくべきだと思う。
- コミュニケーション能力、発想力、情報収集、色彩検定、Illustrator クリエイター能力検定、Photoshop クリエイター能力検定、グラフィックデザイン検定

（7）社会へ出る上で必要と思う力「社会人基礎力（12 の能力要素）」と自己評価

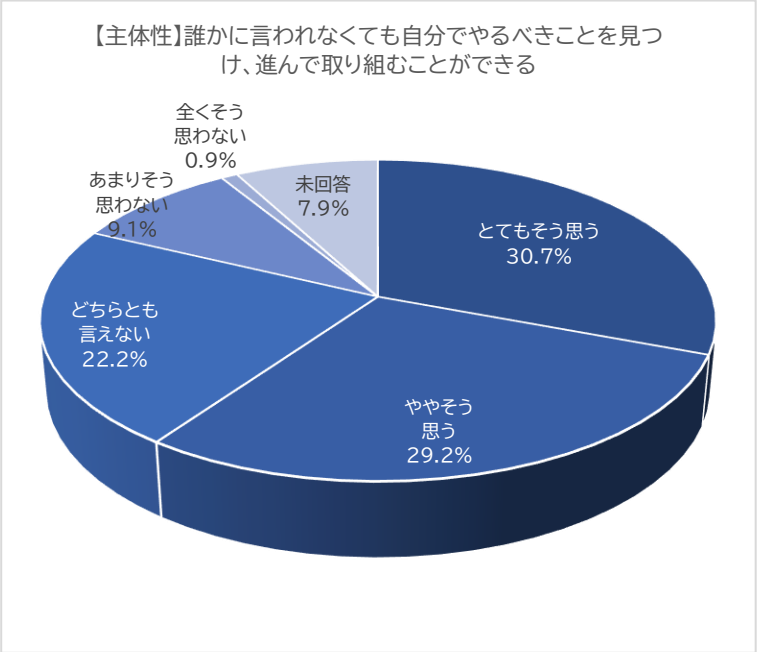
【Q27】あなたが地域社会や職場で仕事をしていくために必要だと思う能力（スキル）は何ですか？

A･･･前に踏み出す力（アクション）

物事に進んで取り組み、失敗を恐れずに挑戦するために必要だと感じる力についての設問

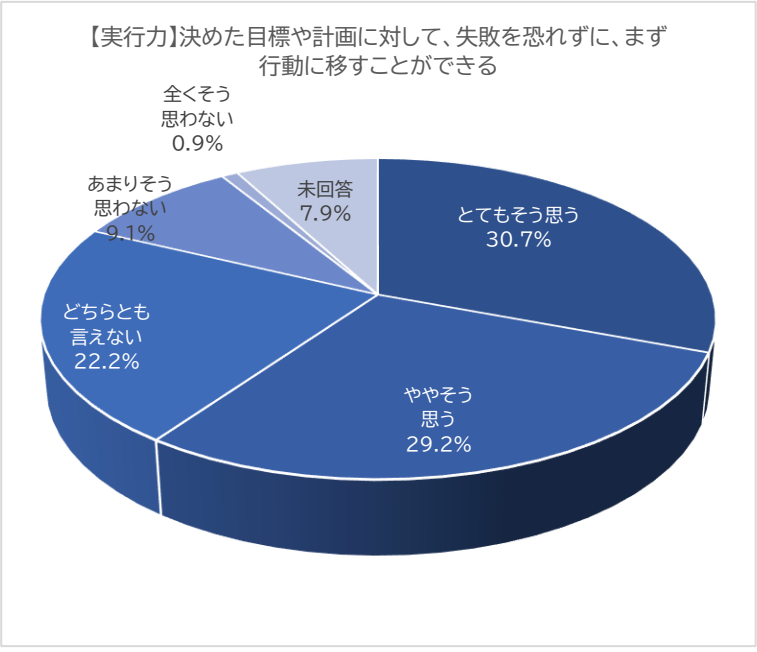
A-1　【主体性】誰かに言われなくても自分でやるべきことを見つけ、進んで取り組むことができる

とてもそう思う	101 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	73 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	3 名
未回答	26 名



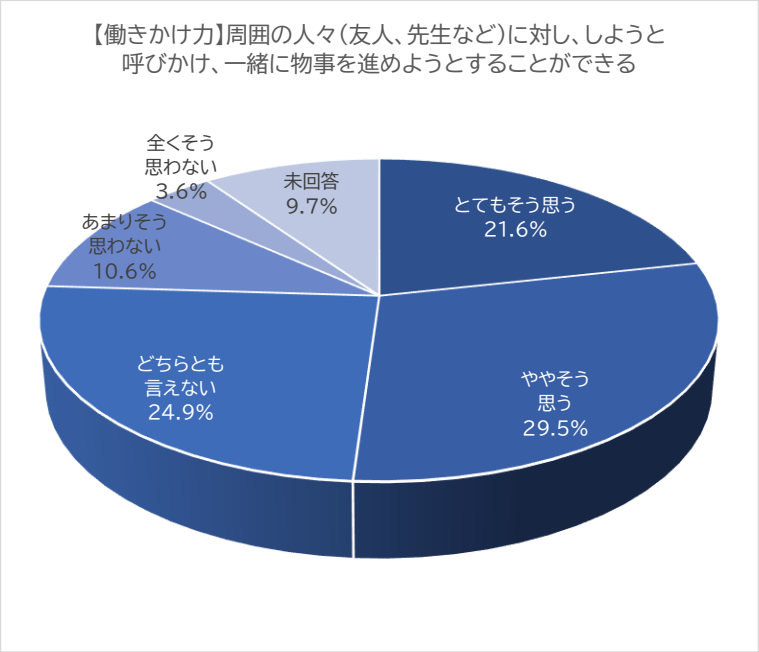
A-2　【実行力】決めた目標や計画に対して、失敗を恐れずに、まず行動に移すことができる

とてもそう思う	100 名
ややそう思う	83 名
どちらとも言えない	71 名
あまりそう思わない	39 名
全くそう思わない	5 名
未回答	31 名



A-3　【働きかけ力】周囲の人々（友人、先生など）に対し、しようと呼びかけ、一緒に物事を進めようとすることができる

とてもそう思う	71 名
ややそう思う	97 名
どちらとも言えない	82 名
あまりそう思わない	35 名
全くそう思わない	12 名
未回答	32 名

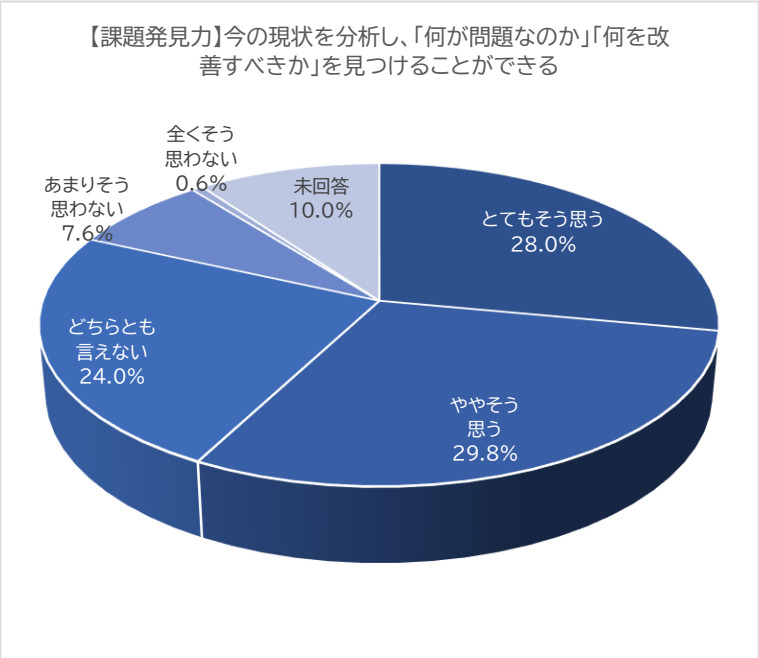


B･･･考え抜く力（シンキング）

現状を分析し、疑問を持って深く考え、問題解決のために必要な力についての設問

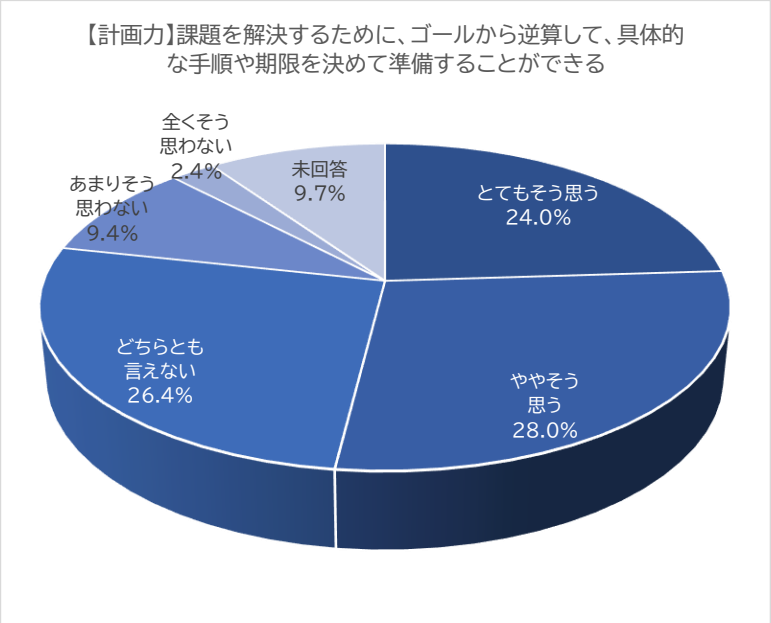
B-1　【課題発見力】今の現状を分析し、「何が問題なのか」「何を改善すべきか」を見つけることができる

とてもそう思う	92 名
ややそう思う	98 名
どちらとも言えない	79 名
あまりそう思わない	25 名
全くそう思わない	2 名
未回答	33 名



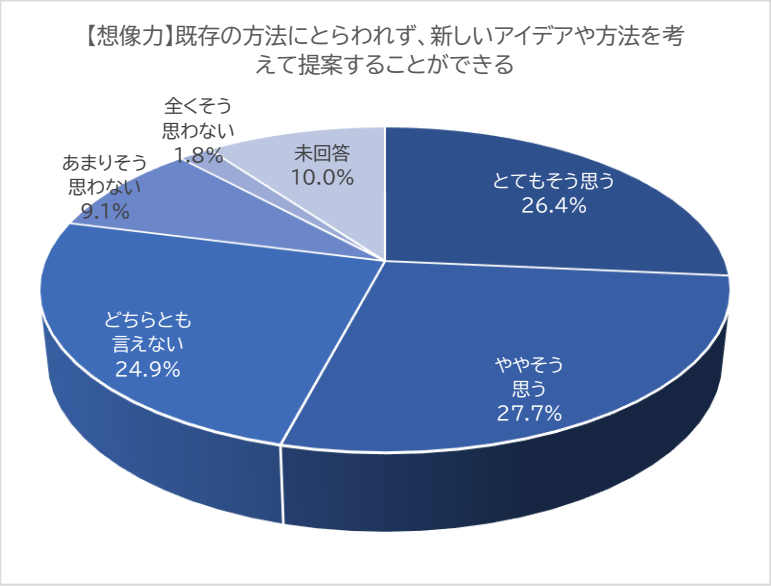
B-2　【計画力】課題を解決するために、ゴールから逆算して、具体的な手順や期限を決めて準備することができる

とてもそう思う	79 名
ややそう思う	92 名
どちらとも言えない	87 名
あまりそう思わない	31 名
全くそう思わない	8 名
未回答	32 名



B-3　【創造力】既存の方法にとらわれず、新しいアイデアや方法を考えて提案することができる

とてもそう思う	87 名
ややそう思う	91 名
どちらとも言えない	82 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	6 名
未回答	33 名

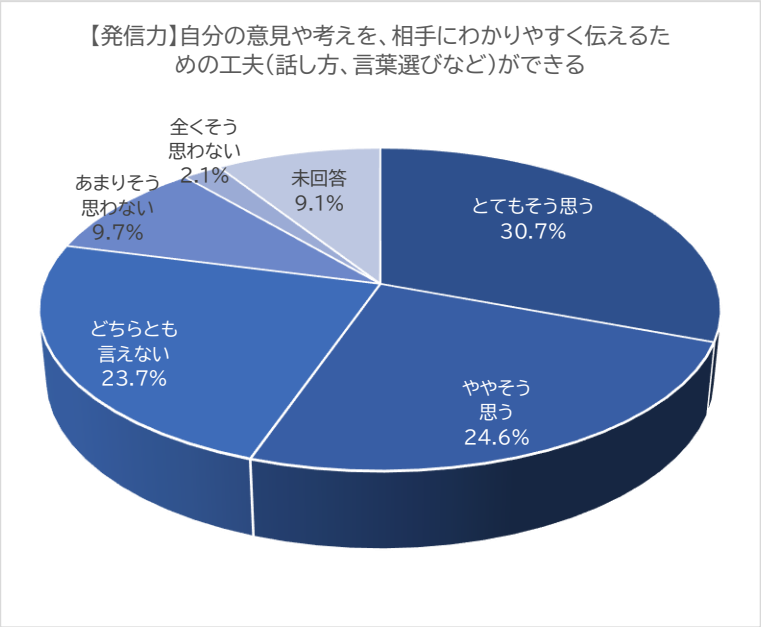


C･･･チームで働く力(チームワーク)

多様な人々と強調し、目標達成に向けて協力するために必要だと感じる力についての設問

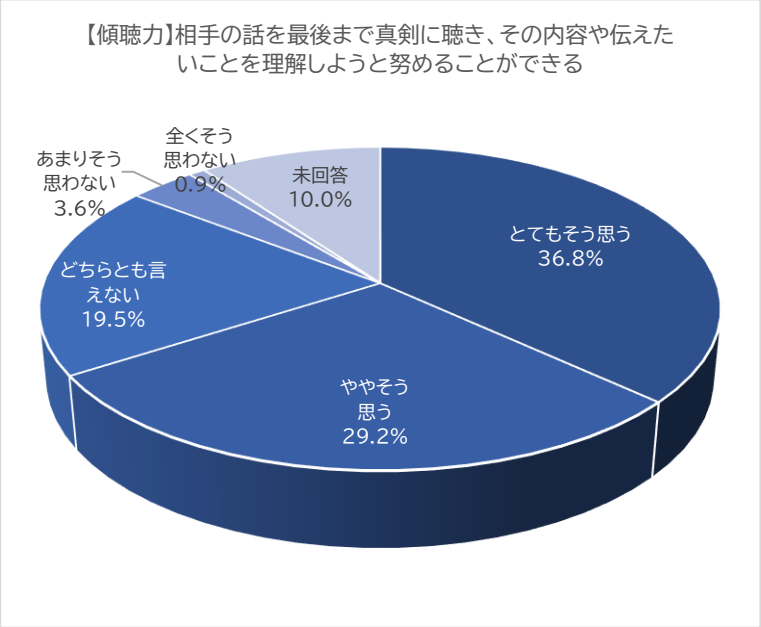
C-1【発信力】自分の意見や考えを、相手にわかりやすく伝えるための工夫(話し方、言葉選びなど)ができる

とてもそう思う	101 名
ややそう思う	81 名
どちらとも言えない	78 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	7 名
未回答	30 名



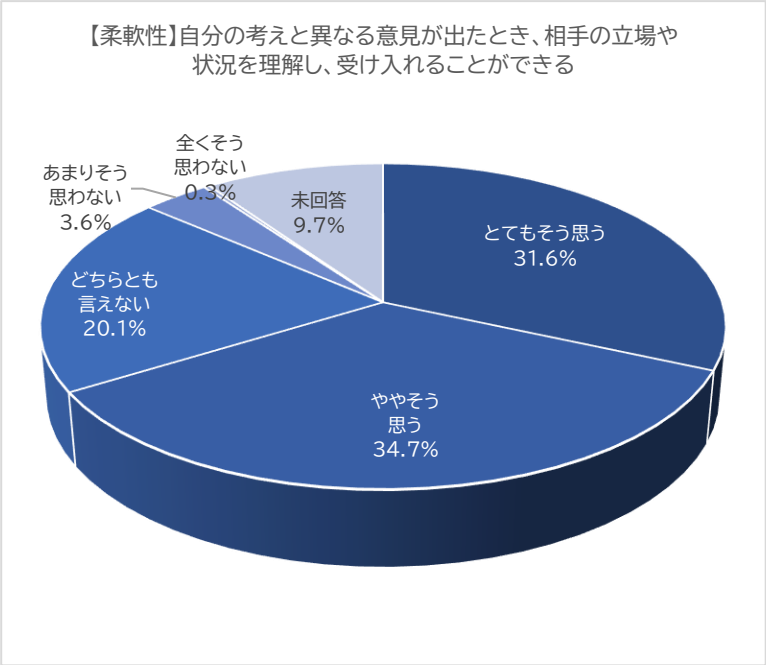
C-2　【傾聴力】相手の話を最後まで真剣に聴き、その内容や伝えたいことを理解しようと努めることができる

とてもそう思う	121 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	64 名
あまりそう思わない	12 名
全くそう思わない	3 名
未回答	33 名



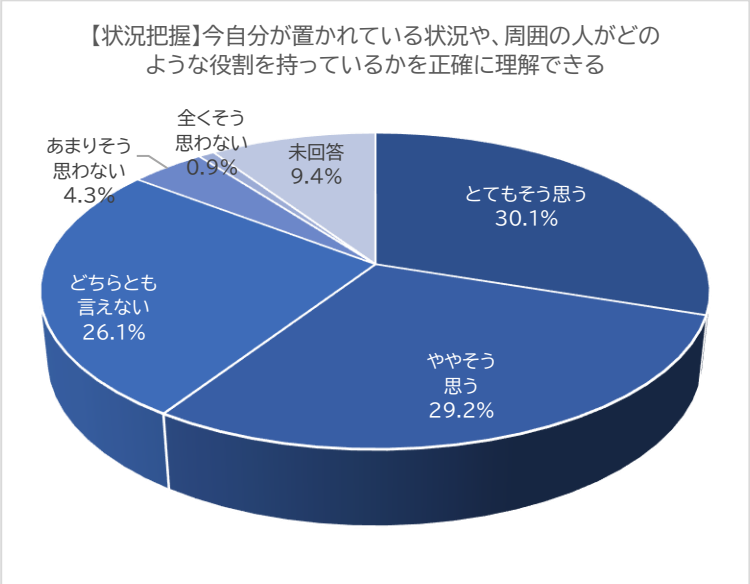
C-3　【柔軟性】自分の考えと異なる意見が出たとき、相手の立場や状況を理解し、受け入れることができる

とてもそう思う	104 名
ややそう思う	114 名
どちらとも言えない	66 名
あまりそう思わない	12 名
全くそう思わない	1 名
未回答	32 名



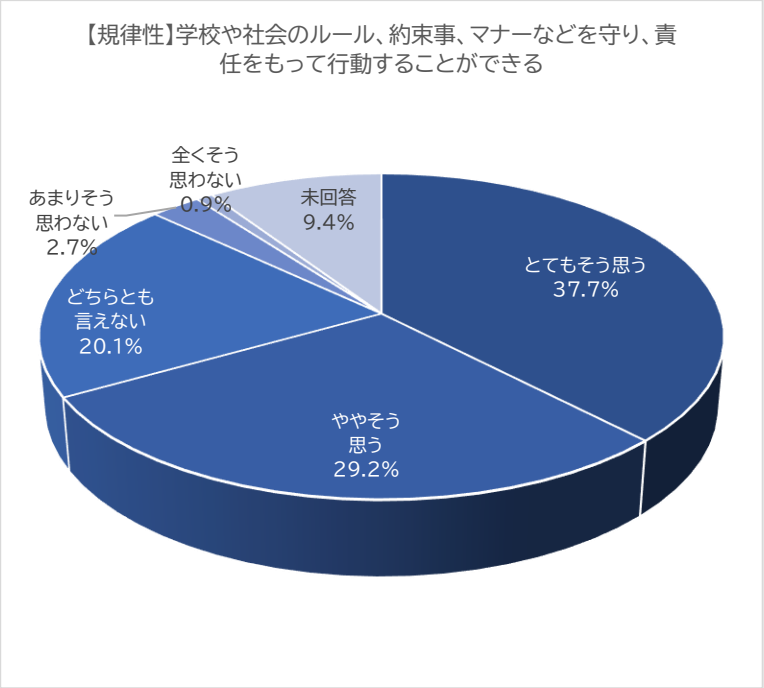
C-4　【状況把握】今自分が置かれている状況や、周囲の人がどのような役割を持っているかを正確に理解できる

とてもそう思う	99 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	86 名
あまりそう思わない	14 名
全くそう思わない	3 名
未回答	31 名



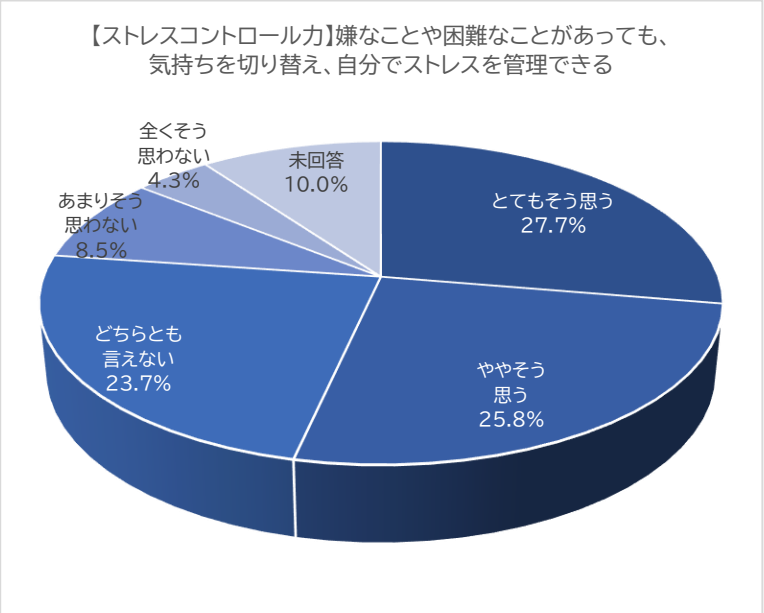
C-5　【規律性】学校や社会のルール、約束事、マナーなどを守り、責任をもって行動することができる

とてもそう思う	124 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	66 名
あまりそう思わない	9 名
全くそう思わない	3 名
未回答	31 名



C-6　【ストレスコントロール力】嫌なことや困難なことがあっても、気持ちを切り替え、自分でストレスを管理できる

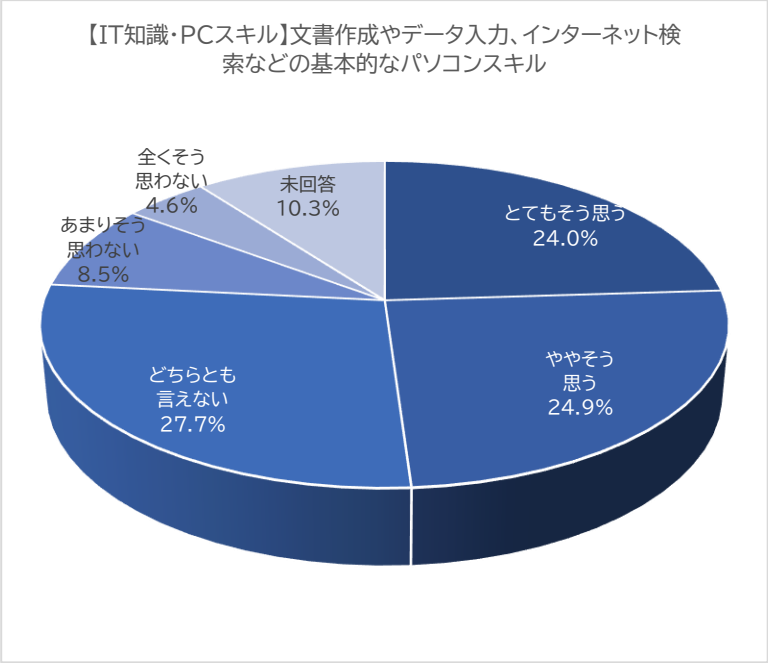
とてもそう思う	91 名
ややそう思う	85 名
どちらとも言えない	78 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	14 名
未回答	33 名



D･･･汎用的な力

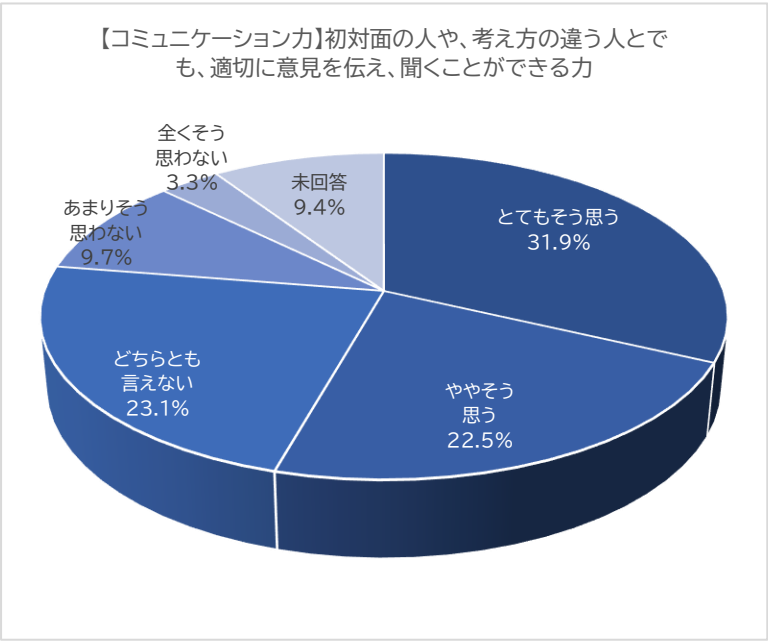
D-1　【IT 知識･PC スキル】文書作成やデータ入力、インタネット検索などの基本的なパソコンスキル

とてもそう思う	79 名
ややそう思う	82 名
どちらとも言えない	91 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	15 名
未回答	34 名



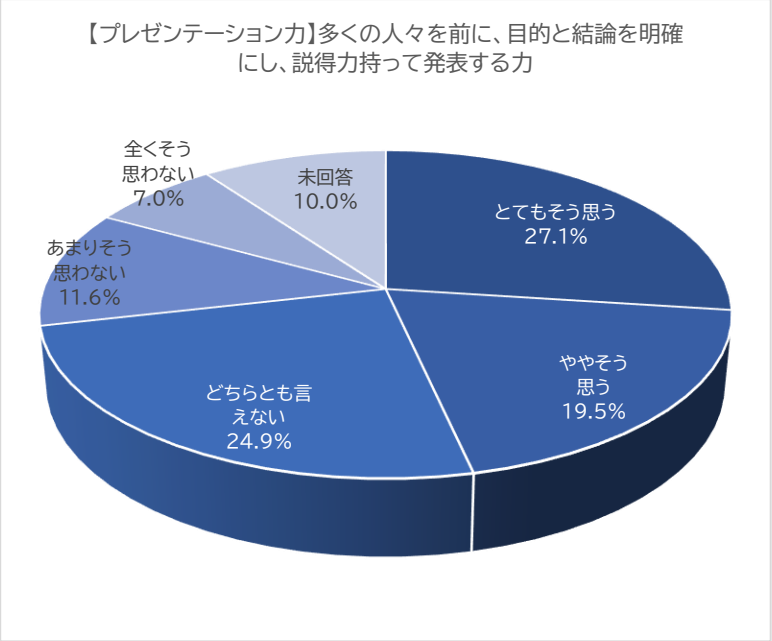
D-2　【コミュニケーション力】初対面の人や、考え方の違う人とでも、適切に意見を伝え、聞くことができる

とてもそう思う	105 名
ややそう思う	74 名
どちらとも言えない	76 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	11 名
未回答	31 名



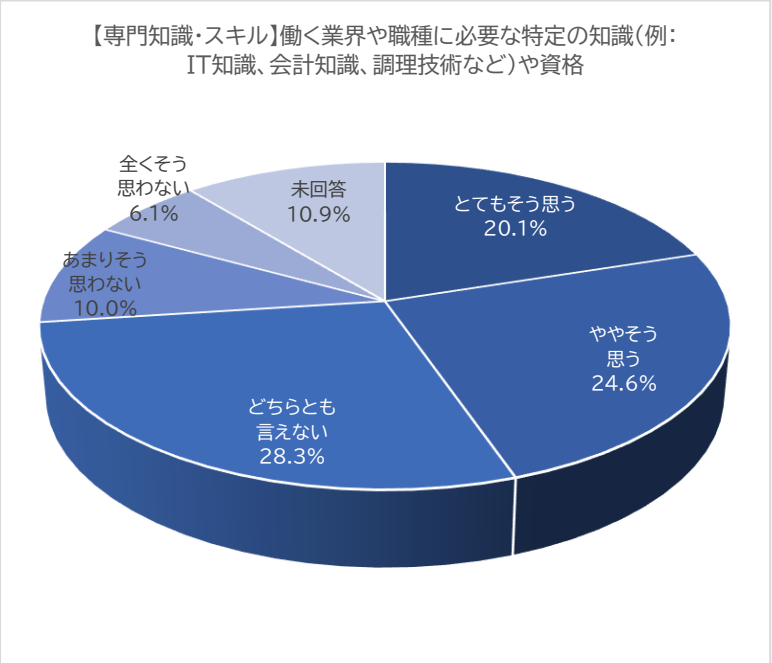
D-3　【プレゼンテーション力】多くの人々を前に、目的と結論を明確にし、説得力持って発表する力

とてもそう思う	89 名
ややそう思う	64 名
どちらとも言えない	82 名
あまりそう思わない	38 名
全くそう思わない	23 名
未回答	33 名



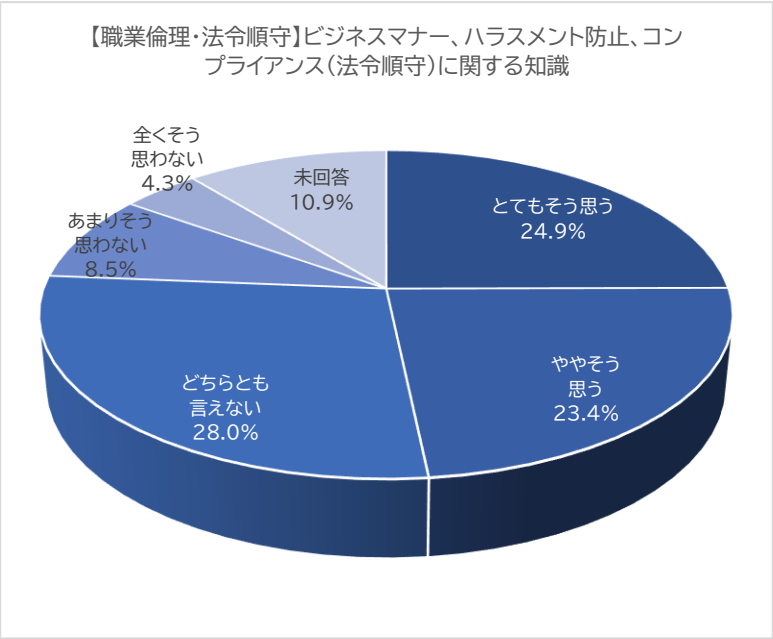
D-4　【専門知識・スキル】働く業界や職種に必要な特定の知識（例：IT 知識、会計知識、調理技術など）や資格

とてもそう思う	66 名
ややそう思う	81 名
どちらとも言えない	93 名
あまりそう思わない	33 名
全くそう思わない	20 名
未回答	36 名



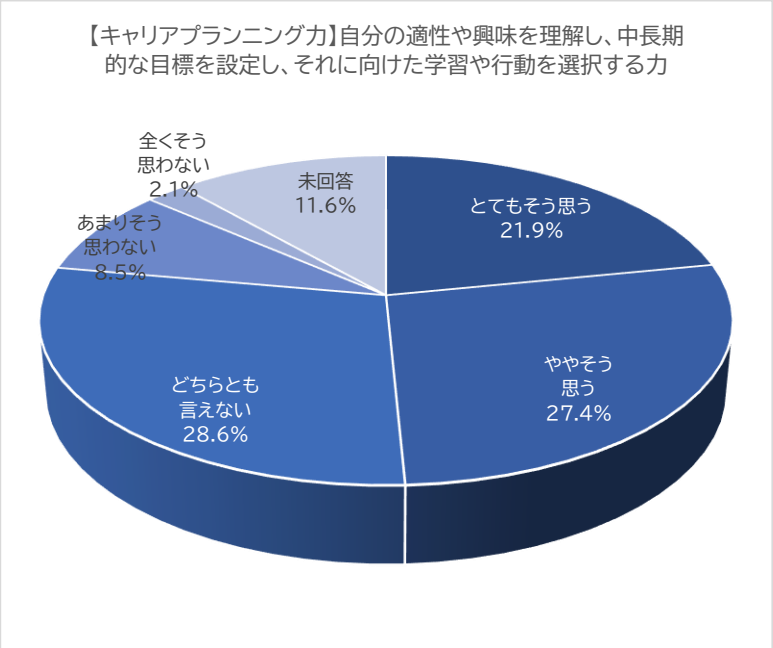
D-5　【職業倫理・法令順守】ビジネスマナー、ハラスメント防止、コンプライアンス（法令順守）に関する知識

とてもそう思う	82 名
ややそう思う	77 名
どちらとも言えない	92 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	14 名
未回答	36 名



D-6　【キャリアプランニング力】自分の適性や興味を理解し、中長期的な目標を設定し、それに向けた学習や行動を選択する力

とてもそう思う	72 名
ややそう思う	90 名
どちらとも言えない	94 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	7 名
未回答	38 名

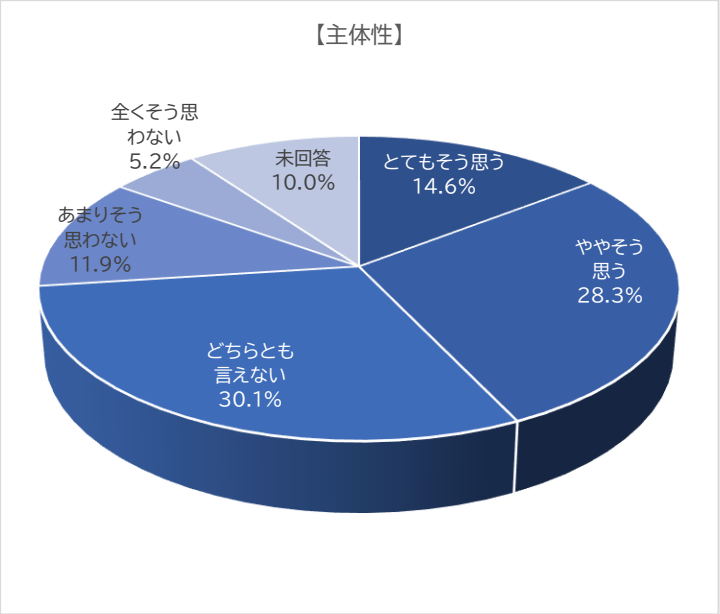


【Q28】あなたは、上記（Q27）の能力（スキル）の中で現在自分自身がどの程度できているか評価してみてください

A･･･前に踏み出す力（アクション）

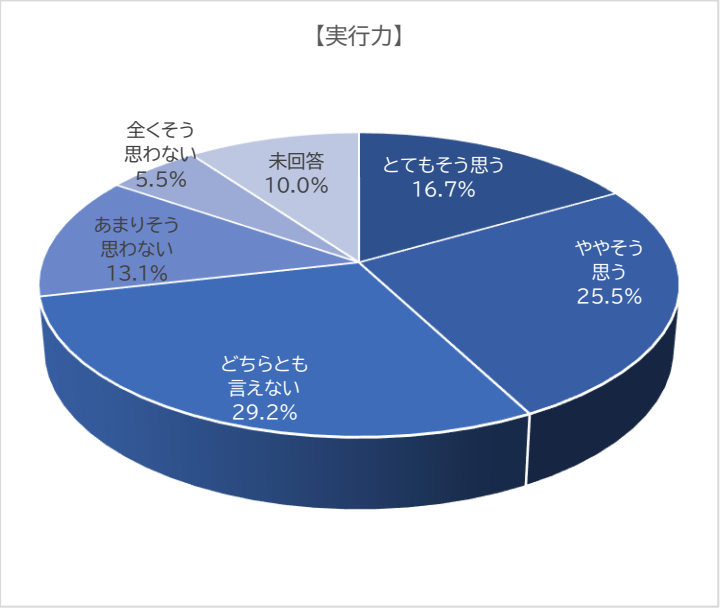
A-1　【主体性】

とてもそう思う	48 名
ややそう思う	93 名
どちらとも言えない	99 名
あまりそう思わない	39 名
全くそう思わない	17 名
未回答	33 名



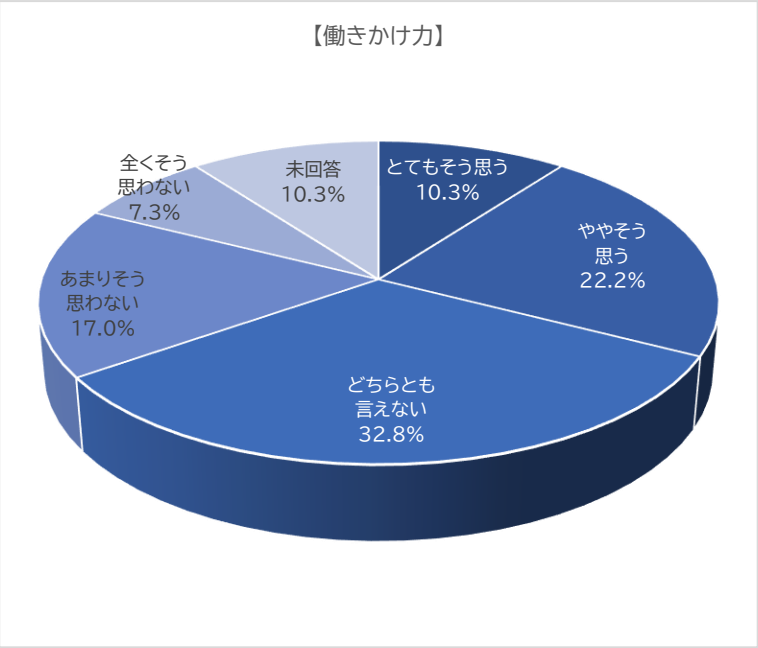
A-2　【実行力】

とてもそう思う	55 名
ややそう思う	84 名
どちらとも言えない	96 名
あまりそう思わない	43 名
全くそう思わない	18 名
未回答	33 名



A-3　【働きかけ力】

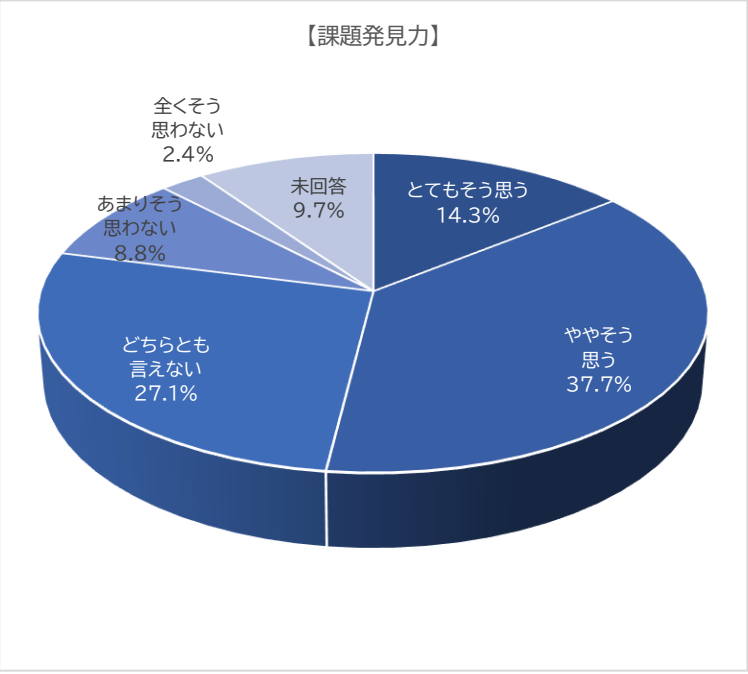
とてもそう思う	34 名
ややそう思う	73 名
どちらとも言えない	108 名
あまりそう思わない	56 名
全くそう思わない	24 名
未回答	34 名



B･･･考え抜く力(シンキング)

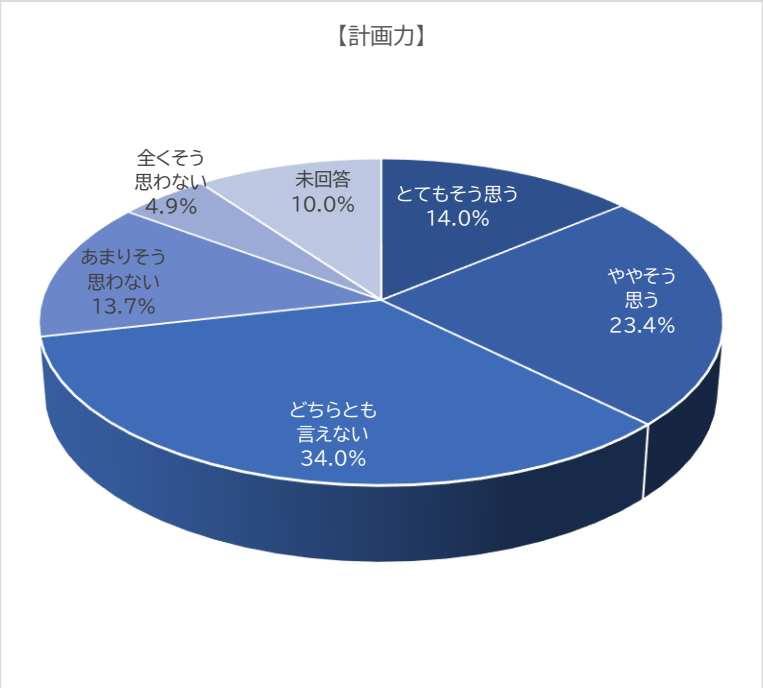
B-1　【課題発見力】

とてもそう思う	47 名
ややそう思う	124 名
どちらとも言えない	89 名
あまりそう思わない	29 名
全くそう思わない	8 名
未回答	32 名



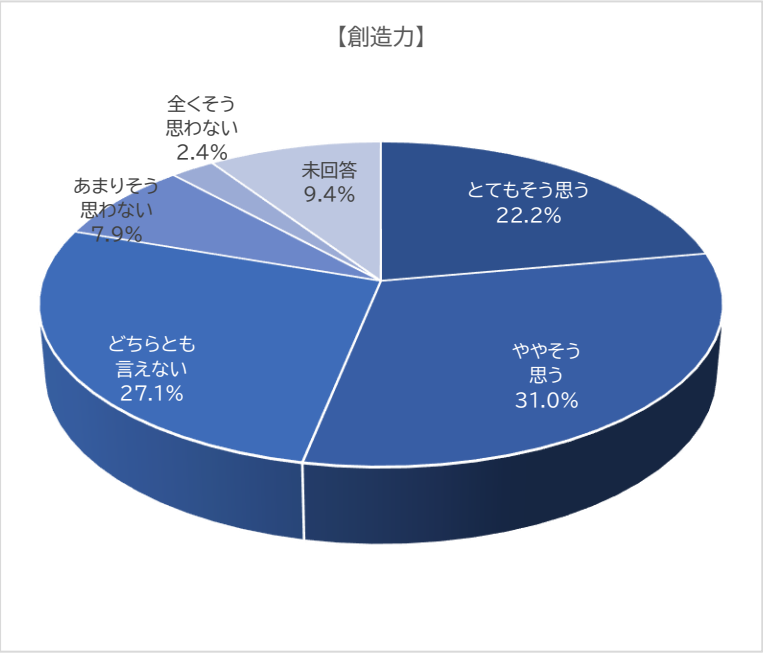
B-2　【計画力】

とてもそう思う	46 名
ややそう思う	77 名
どちらとも言えない	112 名
あまりそう思わない	45 名
全くそう思わない	16 名
未回答	33 名



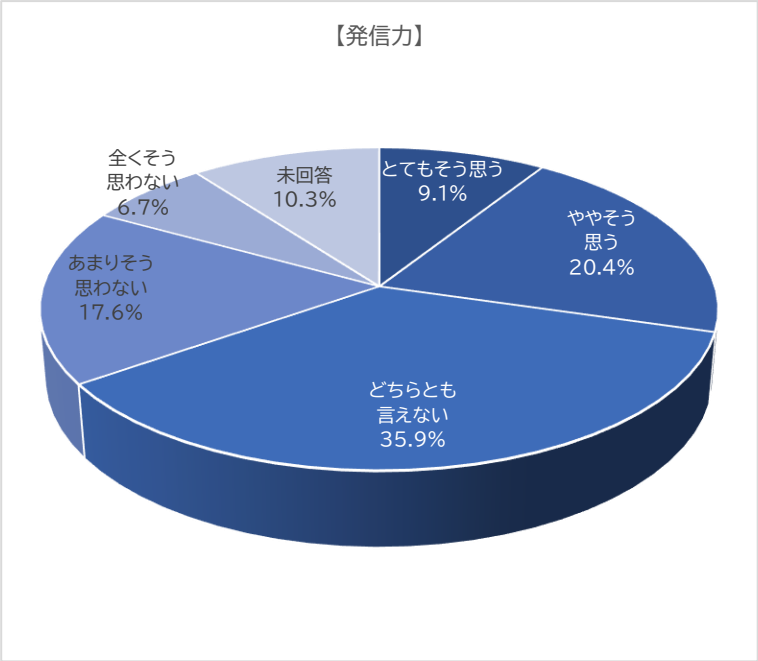
B-3　【創造力】

とてもそう思う	73 名
ややそう思う	102 名
どちらとも言えない	89 名
あまりそう思わない	26 名
全くそう思わない	8 名
未回答	31 名



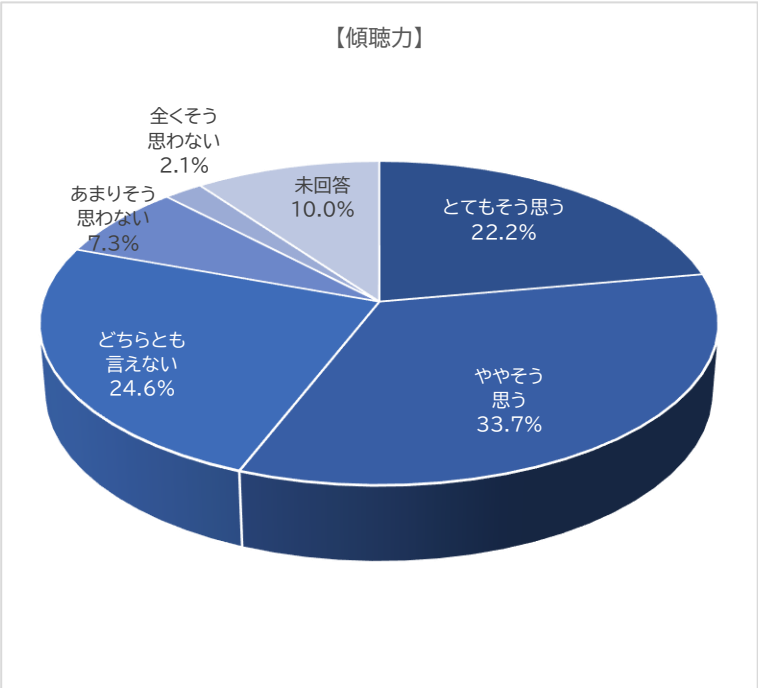
C-1　【発信力】

とてもそう思う	30 名
ややそう思う	67 名
どちらとも言えない	118 名
あまりそう思わない	58 名
全くそう思わない	22 名
未回答	34 名



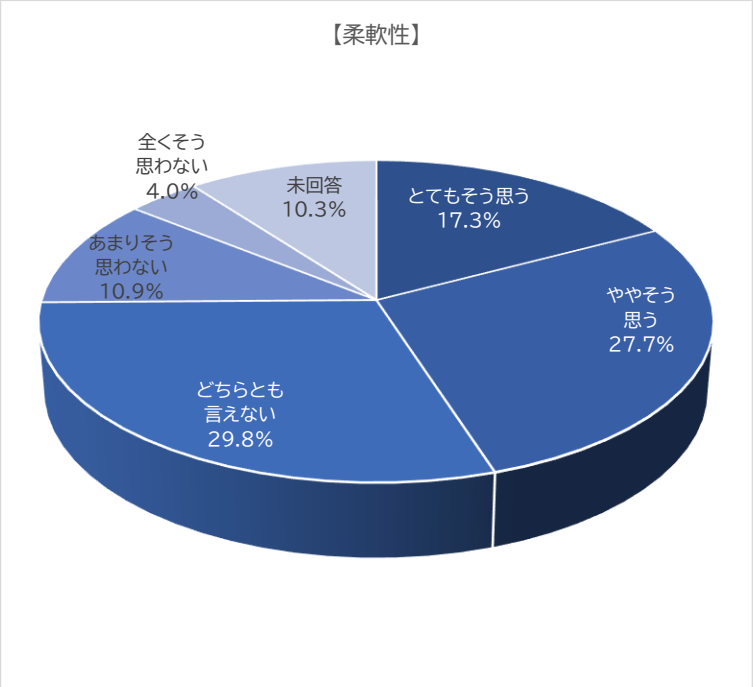
C-2　【傾聴力】

とてもそう思う	73 名
ややそう思う	111 名
どちらとも言えない	81 名
あまりそう思わない	24 名
全くそう思わない	7 名
未回答	33 名



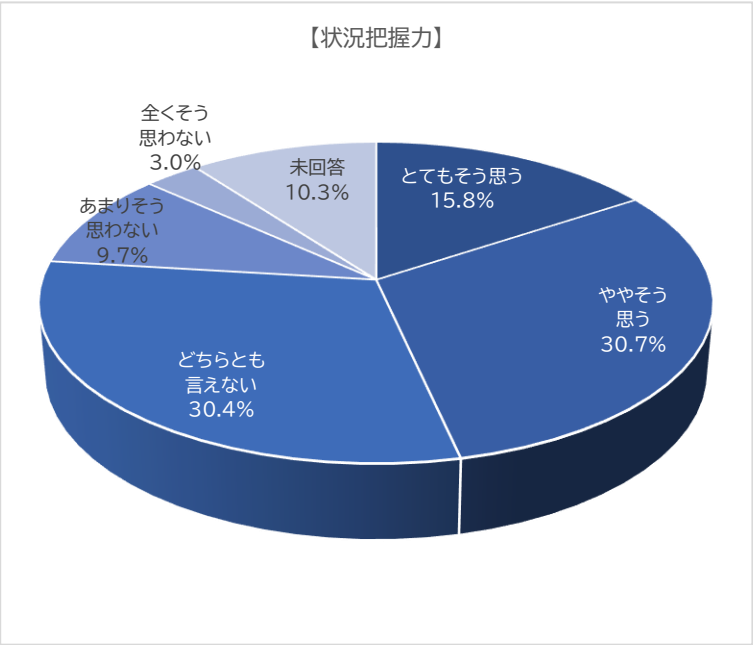
C-3　【柔軟性】

とてもそう思う	57 名
ややそう思う	91 名
どちらとも言えない	98 名
あまりそう思わない	36 名
全くそう思わない	13 名
未回答	34 名



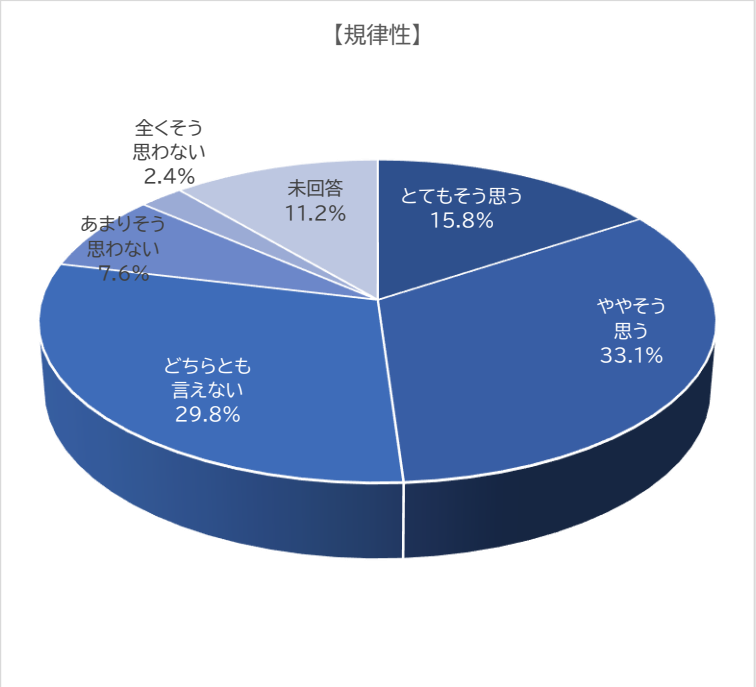
C-4　【状況把握力】

とてもそう思う	52 名
ややそう思う	101 名
どちらとも言えない	100 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	10 名
未回答	34 名



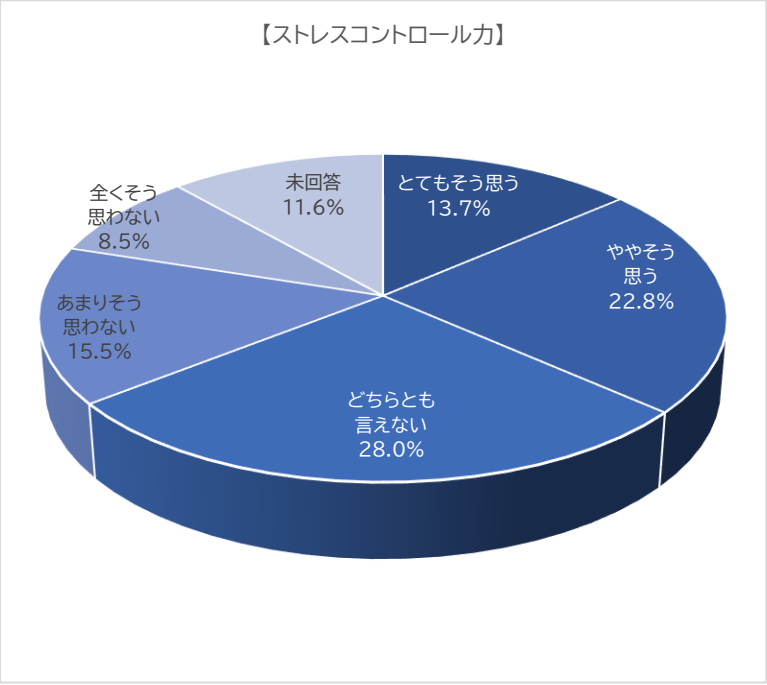
C-5　【規律性】

とてもそう思う	52 名
ややそう思う	109 名
どちらとも言えない	98 名
あまりそう思わない	25 名
全くそう思わない	8 名
未回答	37 名



C-6　【ストレスコントロール力】

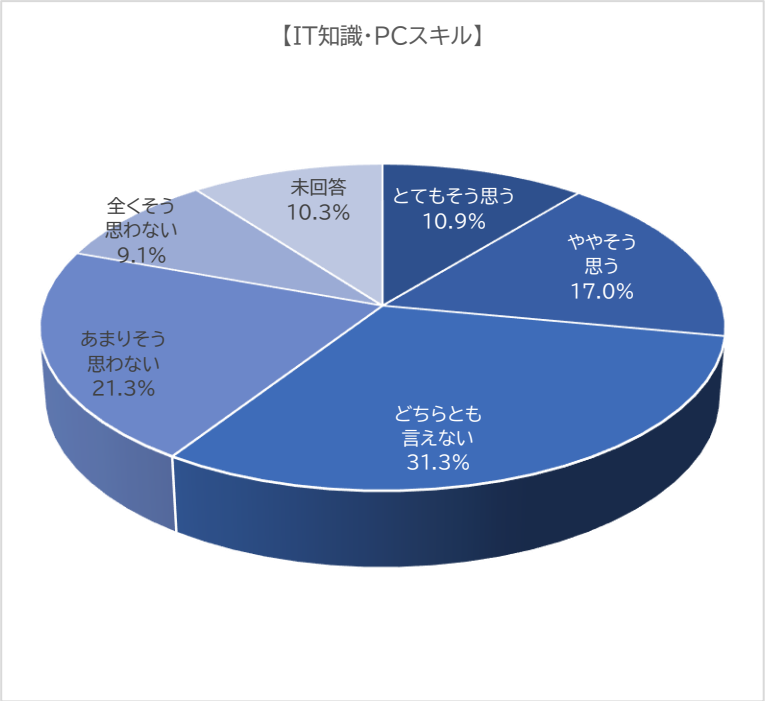
とてもそう思う	45 名
ややそう思う	75 名
どちらとも言えない	92 名
あまりそう思わない	51 名
全くそう思わない	28 名
未回答	38 名



D･･･汎用的な力

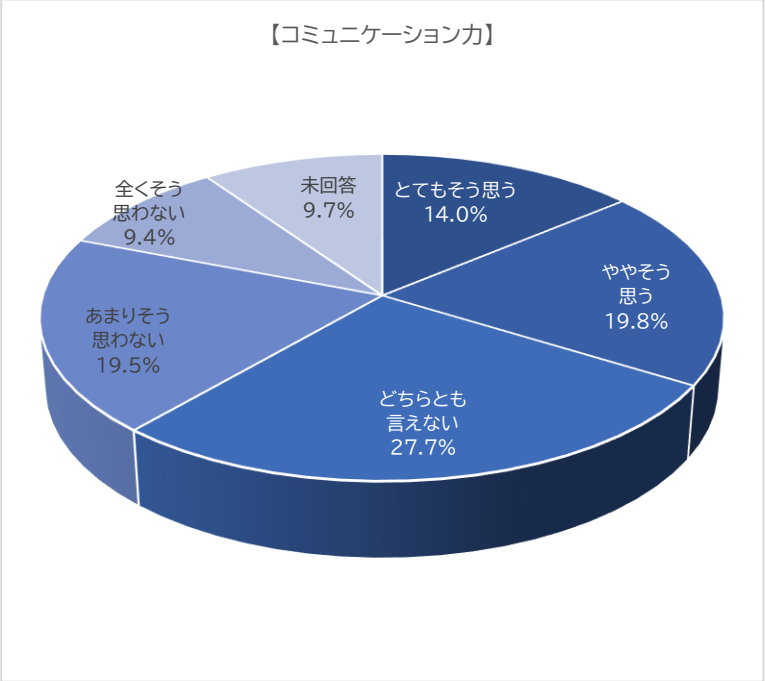
D-1　【IT 知識･PC スキル】

とてもそう思う	36 名
ややそう思う	56 名
どちらとも言えない	103 名
あまりそう思わない	70 名
全くそう思わない	30 名
未回答	34 名



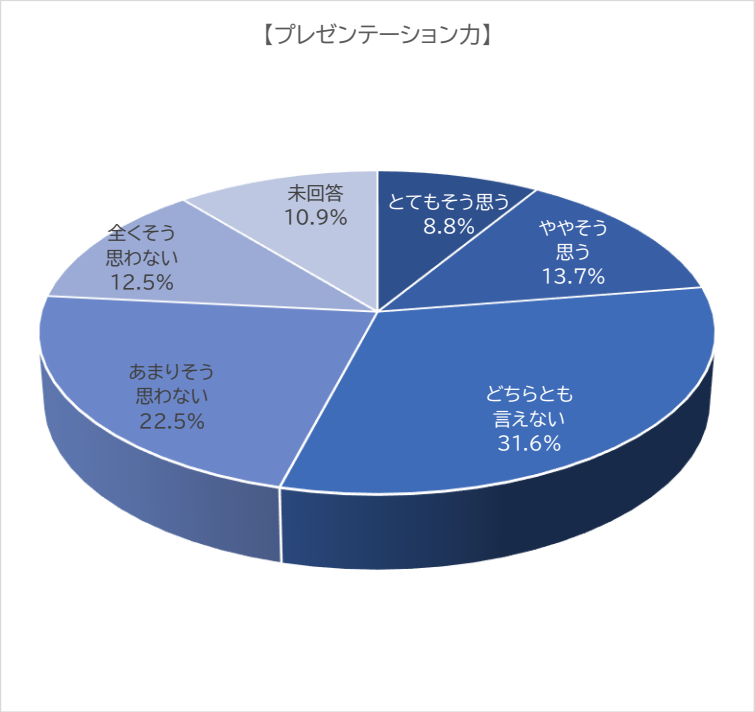
D-2　【コミュニケーション力】

とてもそう思う	46 名
ややそう思う	65 名
どちらとも言えない	91 名
あまりそう思わない	64 名
全くそう思わない	31 名
未回答	32 名



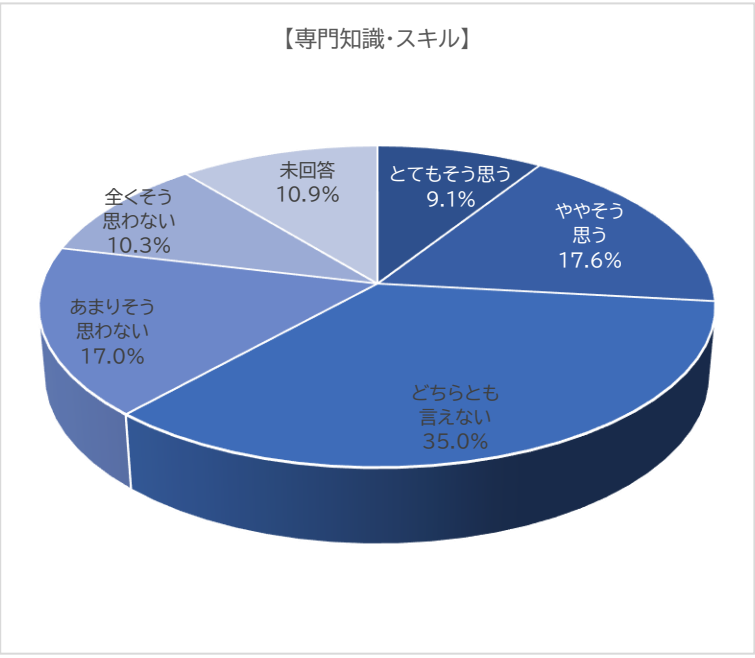
D-3　【プレゼンテーション力】

とてもそう思う	29 名
ややそう思う	45 名
どちらとも言えない	104 名
あまりそう思わない	74 名
全くそう思わない	41 名
未回答	36 名



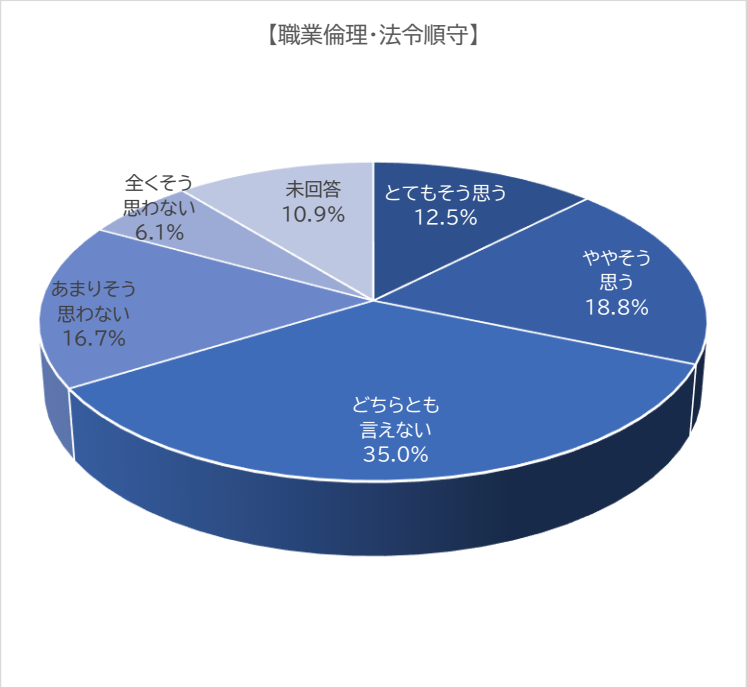
D-4　【専門知識・スキル】

とてもそう思う	30 名
ややそう思う	58 名
どちらとも言えない	115 名
あまりそう思わない	56 名
全くそう思わない	34 名
未回答	36 名



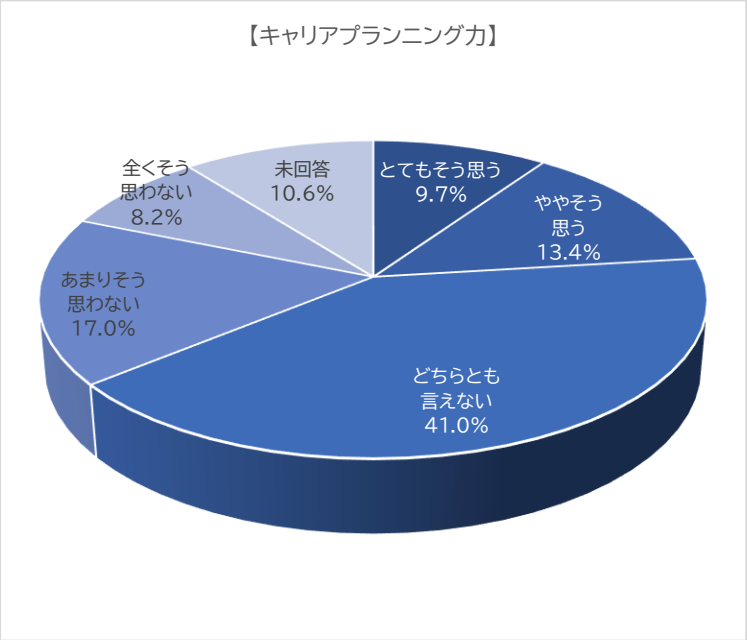
D-5　【職業倫理・法令順守】

とてもそう思う	41 名
ややそう思う	62 名
どちらとも言えない	115 名
あまりそう思わない	55 名
全くそう思わない	20 名
未回答	36 名



D-6　【キャリアプランニング力】

とてもそう思う	32 名
ややそう思う	44 名
どちらとも言えない	135 名
あまりそう思わない	56 名
全くそう思わない	27 名
未回答	35 名



【Q29】あなたが自分の能力（スキル）を伸ばすために取り組んでいることを教えて下さい（自由記述）

- 経験を積む
- 考える時間を作る
- あいさつをしっかりする
- ない
- 人と関わること
- バイト
- 特にない
- タイピング
- 無し
- 特になし
- 間違いを復習すること
- ぼき
- 筋トレをしたり、日光を浴びる。
- 画塾に通い、自習もしている
- To do リストを作る
- 特になし
- ない
- 母の仕事を手伝う
- 親に見せて感想をもらう
- IT 系の資格取得
- とくにない
- 継続する
- アルバイトをする
- 計画を立てる
- コミュニケーションに気を使っている
- 自分が将来必要だと思う資格の勉強
- 人とのコミュニケーションを取る
- アルバイト、資格勉強
- 考えてから行動する
- 様々な事に挑戦する事
- 特になし
- 特にない
- いろんな人との交流をする
- 絵や 3DCG の勉強をしています
- アルバイトなどで人と関わる機会を多く持つ。
- とにかく得られる情報は可能な限り取り込む
- まずは自分の社交不安障害を落ち着かせる

- 悩んだ時に自分のことを客観的に見て考える
- 周りの声を聴き、状況を見極められるよう全体を見ている
- いろんな人と関わる。新しいことに挑戦する。努力を積み重ねる。
- たまにポスターや名刺等のデザインをしている。
- 日常生活に取り入れる、このスキルを使わざるを得ない立場に上がる
- 気になったことは放置せず、調べる。興味のあることは放置せずしっかり向き合い更に興味を引き出す

【Q30】学校や地域にどんな学びや支援サポートの仕組みがあれば、あなたの能力（スキル）を伸ばすことができますか（自由記述）

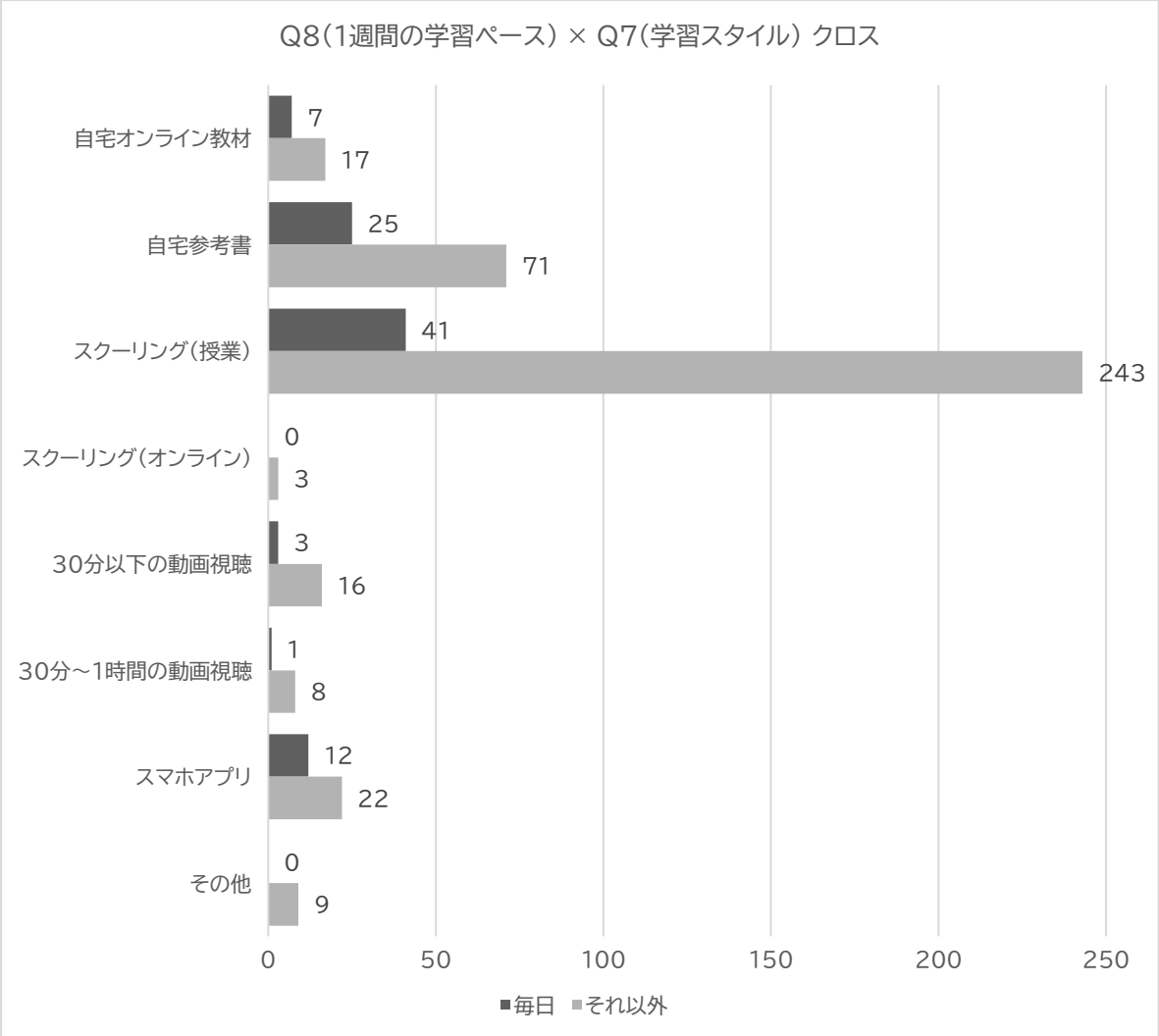
- いろんな経験を積める催しが頻繁に開催されること
- はじめの一歩を踏み出す手助け
- 勉強で分からないことを自由に聞けるサポート
- 分からない
- ボランティア参加
- いろんな外国国語の勉強
- 分からない
- 今で満足
- 分からない
- 音楽の授業
- 学習会みたいな活動
- 体験授業や行事を増やす。
- 個人個人を評価し、その人に会ったカリキュラムを提供してくれること
- 特になし
- 職場体験
- ない
- わかりません
- 地域の様々な人との交流
- 自己理解を深める活動や時間
- わからない
- コミュニケーション能力を育てるイベント、デザイン体験イベント
- 家の近くに専門学校を建てて欲しい。
- 簡単なそれぞれの分野の能力テストがあれば、伸ばしたり活かすことができるのがわかっていいなと思います。
- 主体的にプレゼンテーションを行える授業
- 分かりません。
- 学校区域の外での課外活動（体験活動など）
- 通信制オリジナルのイベントがもういくつかあれば生徒会としてバリバリ動く機会が増えるので可能であれば少し増やしていただけますと幸いです
- はい
- 専門学校や専門的な知識を持った方が身近にいたら伸ばせると思います

3－4. 通信制高校生アンケート調査結果（クロス集計）

【Q8】　1週間の学習ペースは（1 つだけ）

【Q7】　主にどのようなスタイル（形）で学習していますか？（複数回答可）

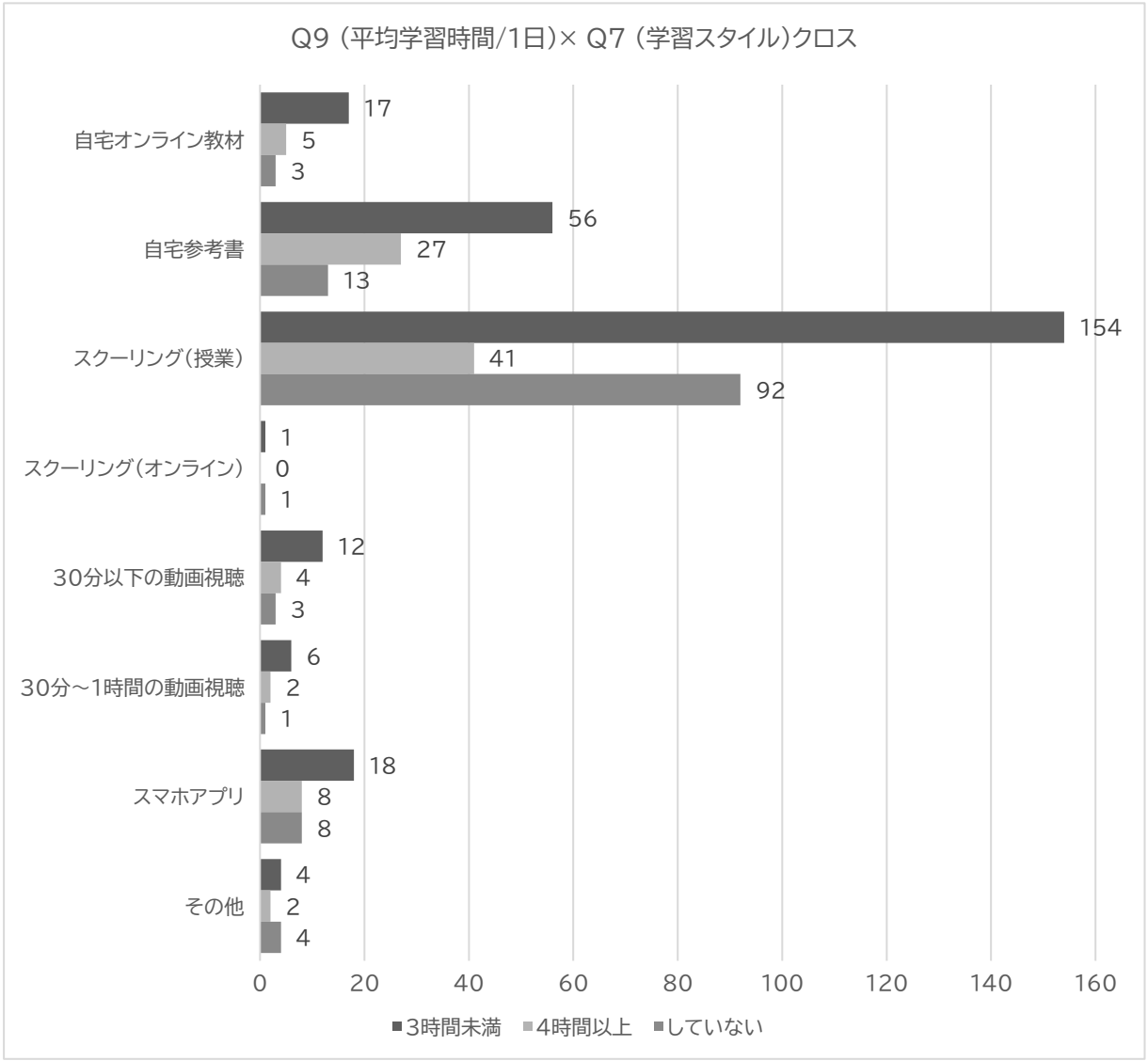
	自宅オンライン教材	自宅参考書	スクーリング（授業）	スクーリング（オンライン）	30分以下の動画視聴	30分～1時間の動画視聴	スマホアプリ	その他
毎日	7	25	41	0	3	1	12	0
それ以外	17	71	243	3	16	8	22	9
未回答	1	0	4	0	0	0	0	1



【Q9】　1日に平均してどのくらい学習していますか？(1 つだけ)

【Q7】　主にどのようなスタイル(形)で学習していますか？(複数回答可)

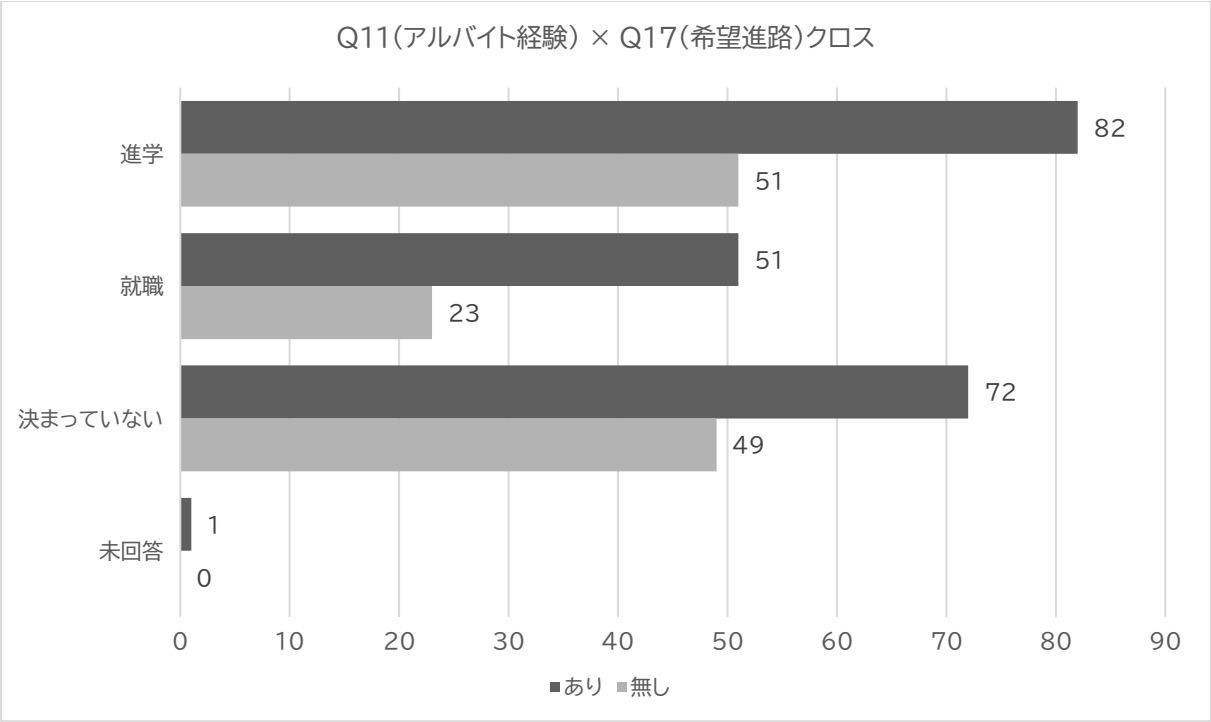
	自宅オンライン教材	自宅参考書	スクーリング(授業)	スクーリング(オンライン)	30分以下の動画視聴	30分～1時間の動画視聴	スマホアプリ	その他
3 時間未満	17	56	154	1	12	6	18	4
4 時間以上	5	27	41	0	4	2	8	2
していない	3	13	92	1	3	1	8	4
未回答	0	0	1	1	0	0	0	0



【Q11】アルバイトの経験はありますか？(1 つだけ)

【Q17】希望する進路について教えてください(1 つだけ)

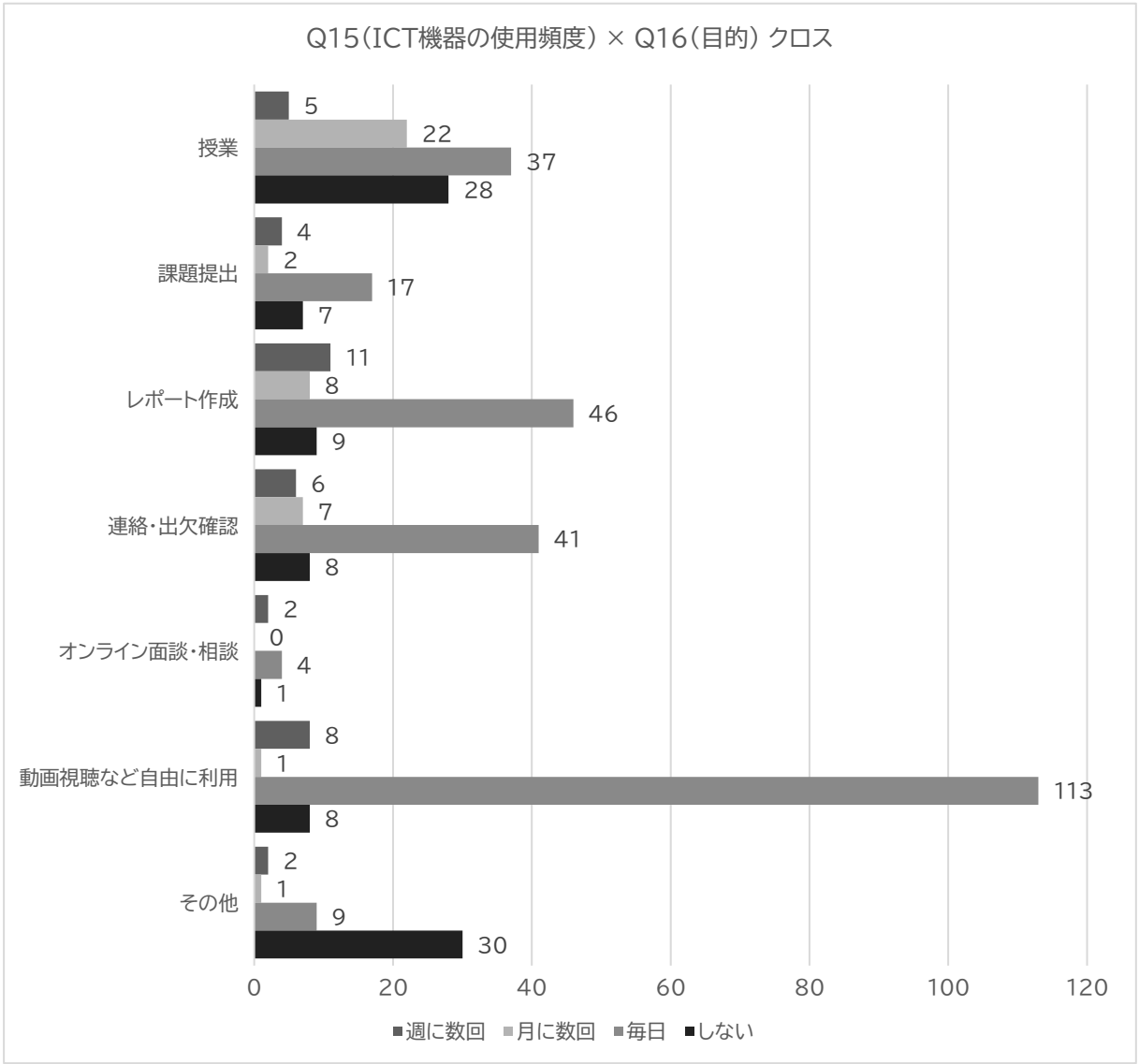
	進学	就職	決まっていない	未回答
あり	82	51	72	1
無し	51	23	49	0
未回答	0	0	0	



【Q15】学校で使用できる ICT 機器(パソコン・タブレットなど)は、どのくらいの頻度で利用していますか?(1 つだけ)

【Q16】ICT 機器を使用する目的は何ですか?(複数回答可)

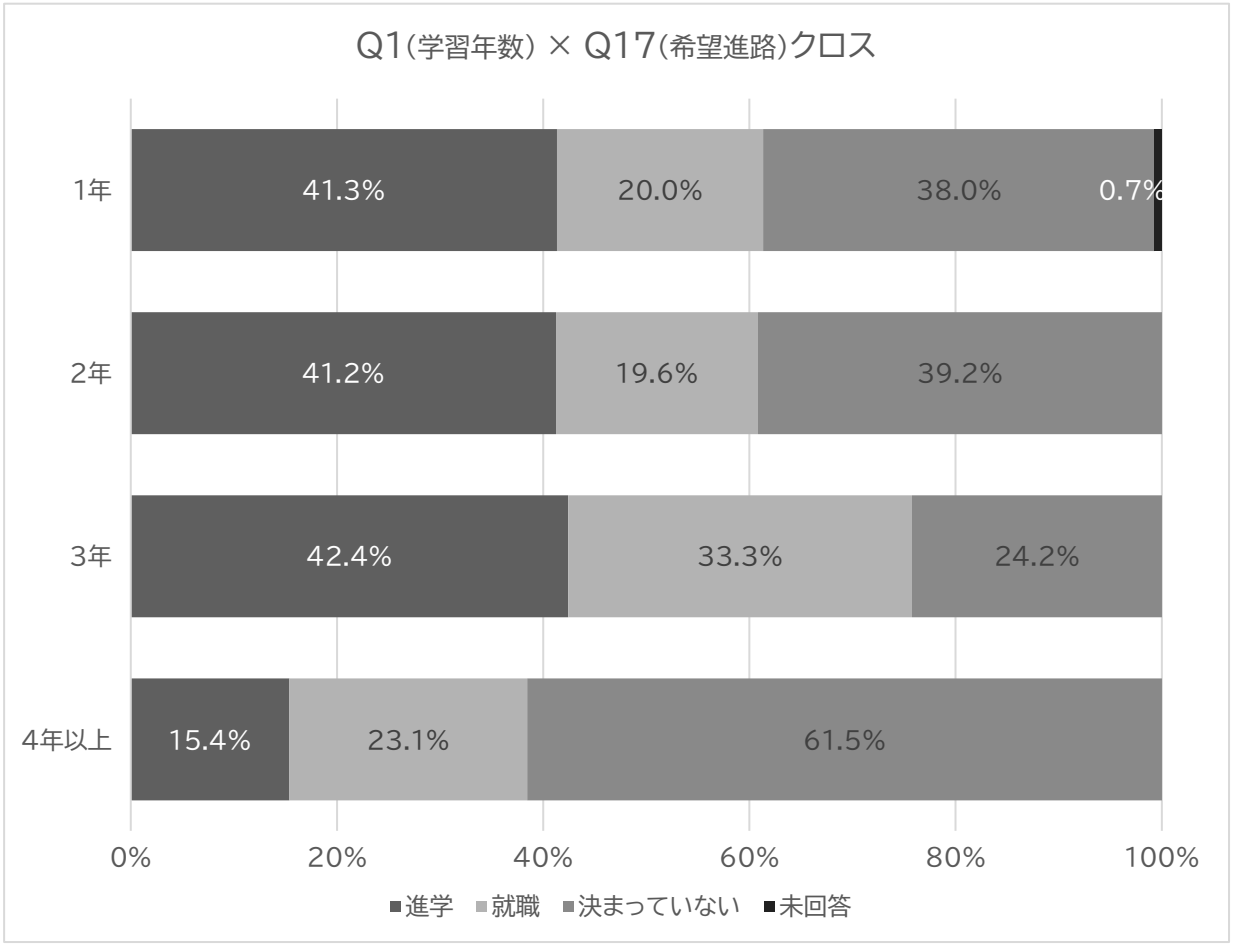
	授業	課題提出	レポート作成	連絡・出欠確認	オンライン面談・相談	動画視聴など自由に利用	その他
週に数回	5	4	11	6	2	8	2
月に数回	22	2	8	7	0	1	1
毎日	37	17	46	41	4	113	9
しない	28	7	9	8	1	8	30
未回答	0	0	0	0	0	0	27



【Q1】　通信制高校で何年間学んでいますか？（1 つだけ）

【Q17】希望する進路について教えてください。（1 つだけ）

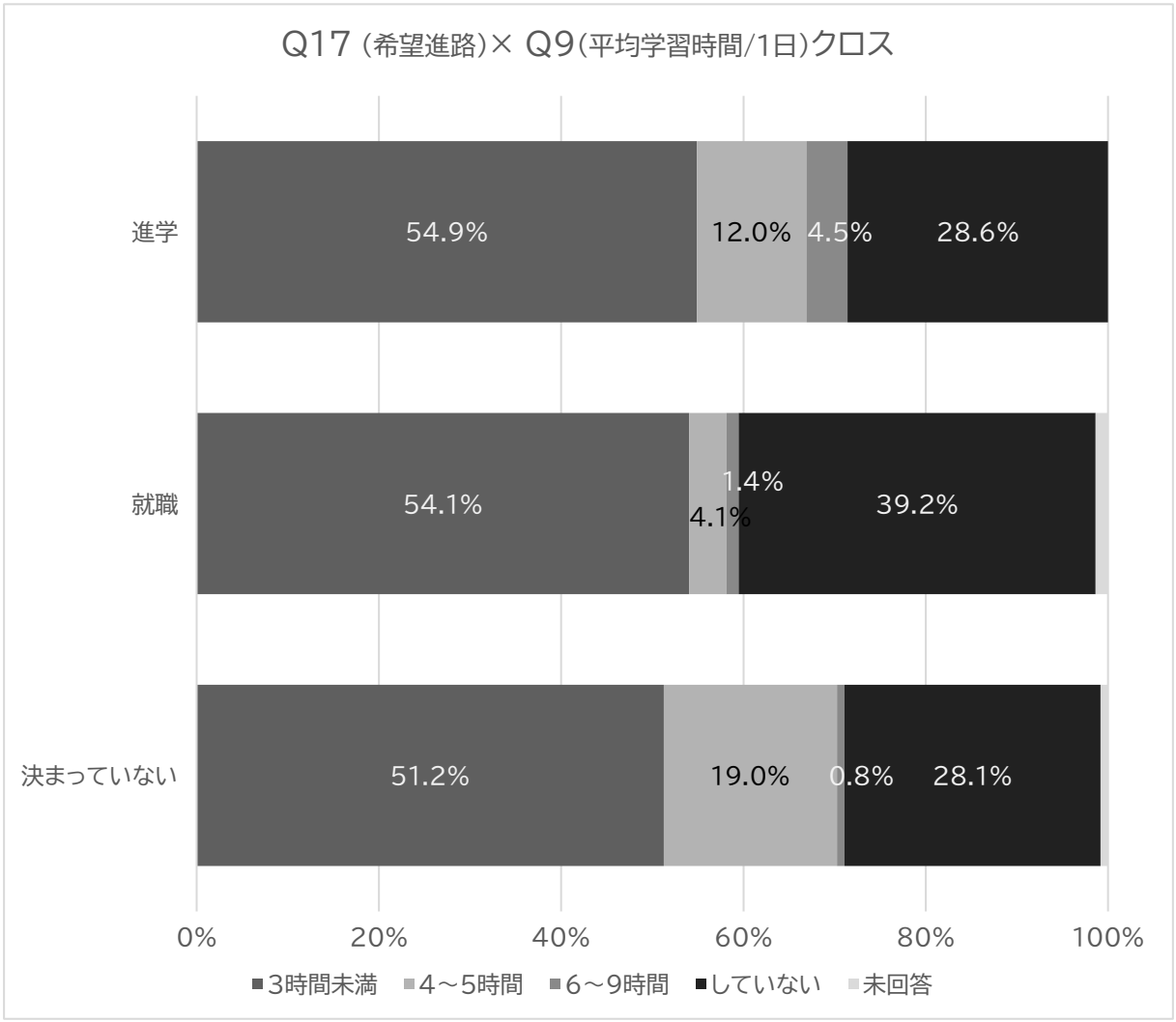
	進学	就職	決まっていない	未回答
1 年	62	30	57	1
2 年	40	19	38	0
3 年	28	22	16	0
4 年以上	2	3	8	0
未回答	1	0	2	0



【Q17】希望する進路について教えてください。(1 つだけ)

【Q9】　1日に平均してどのくらい学習していますか？(1 つだけ)

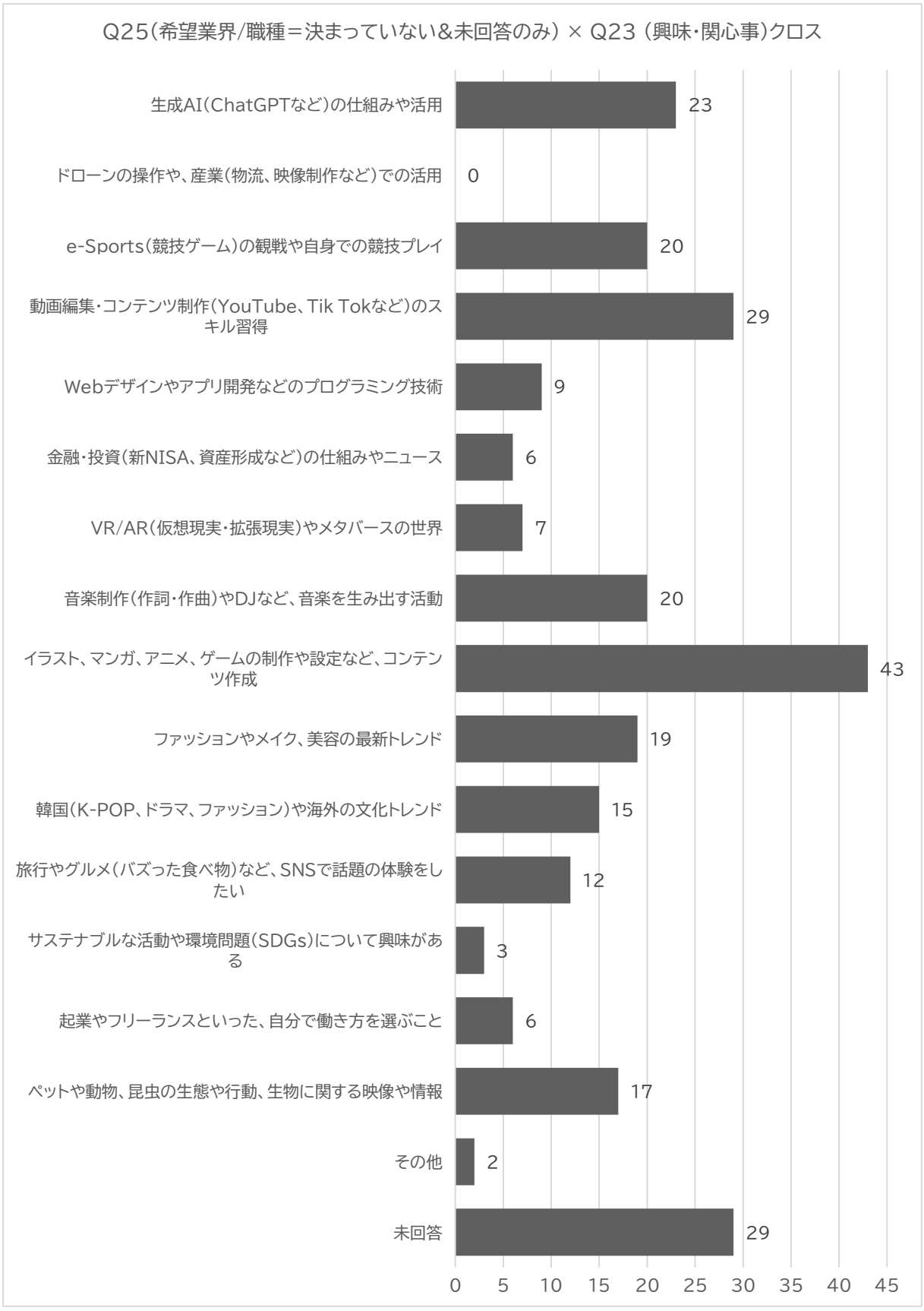
	3 時間未満	4～5 時間	6～9 時間	していない	未回答
進学	73	16	6	38	0
就職	40	3	1	29	1
決まっていない	62	23	1	34	1
未回答	0	1	0	0	0



【Q25】あなたが将来就きたい業界、やってみたい職業はなんですか？（複数回答可）

【Q23】あなたが、興味を持っている関心事は何ですか？（AI、e-Sports、動画編集名など）（複数回答可）

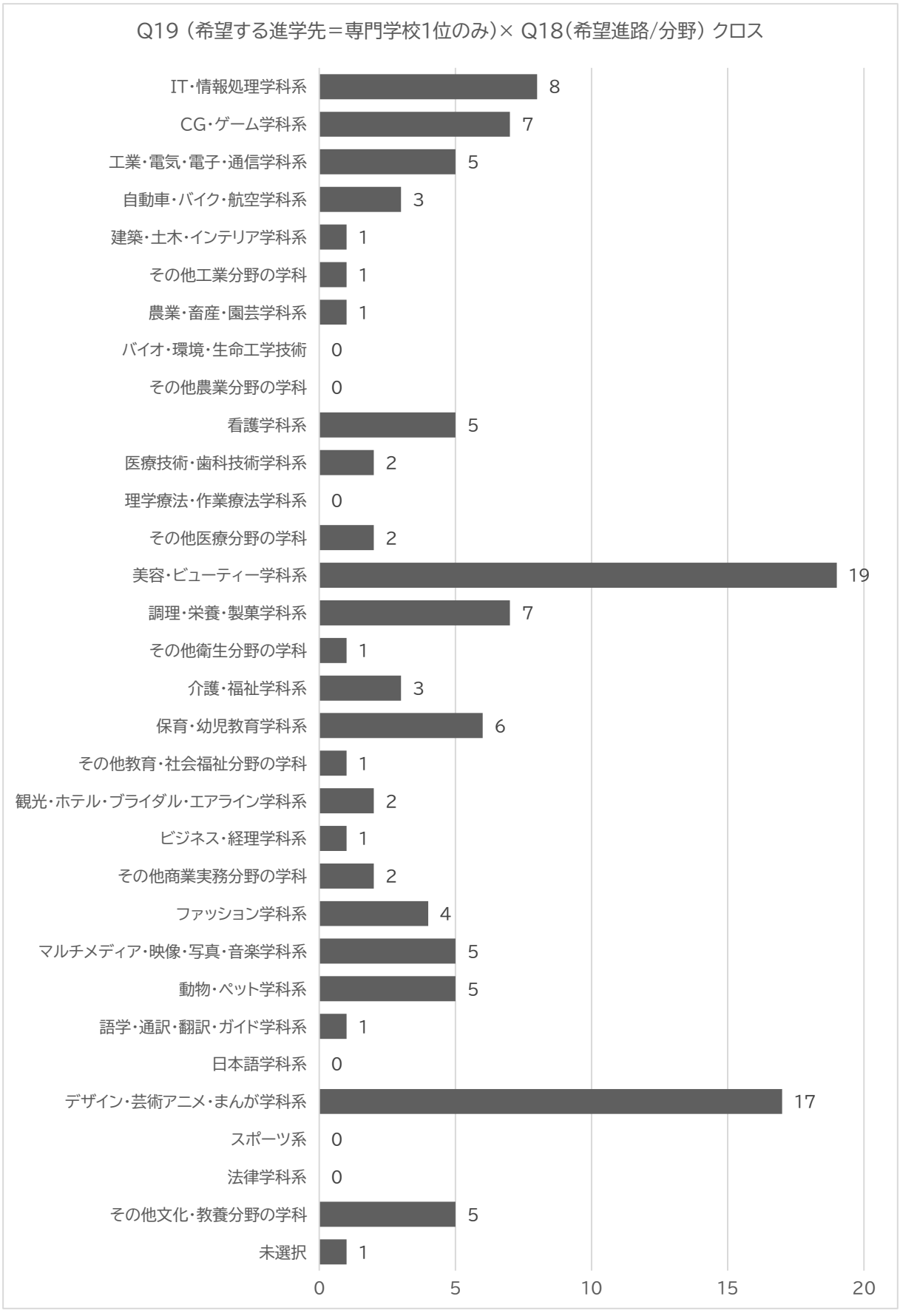
	決まっていない＆未回答	それ以外
生成 AI（ChatGPT など）の仕組みや活用	23	47
ドローンの操作や、産業（物流、映像制作など）での活用	0	7
e-Sports（競技ゲーム）の観戦や自身での競技プレイ	20	37
動画編集・コンテンツ制作（YouTube、Tik Tok など）のスキル習得	29	52
Web デザインやアプリ開発などのプログラミング技術	9	36
金融・投資（新 NISA、資産形成など）の仕組みやニュース	6	22
VR/AR（仮想現実・拡張現実）やメタバースの世界	7	18
音楽制作（作詞・作曲）や DJ など、音楽を生み出す活動	20	44
イラスト、マンガ、アニメ、ゲームの制作や設定など、コンテンツ作成	43	50
ファッションやメイク、美容の最新トレンド	19	50
韓国（K-POP、ドラマ、ファッション）や海外の文化トレンド	15	30
旅行やグルメ（バズった食べ物）など、SNS で話題の体験をしたい	12	25
サステナブルな活動や環境問題（SDGs）について興味がある	3	8
起業やフリーランスといった、自分で働き方を選ぶこと	6	16
ペットや動物、昆虫の生態や行動、生物に関する映像や情報	17	35
その他	2	11
未回答	29	9


Q25（希望業界/職種＝決まっていない&未回答のみ）× Q23 （興味・関心事）クロス
生成AI（ChatGPTなど）の仕組みや活用
23
ドローンの操作や、産業（物流、映像制作など）での活用
0
e-Sports（競技ゲーム）の観戦や自身での競技プレイ
20
動画編集・コンテンツ制作（YouTube、Tik Tokなど）のスキル習得
29
Webデザインやアプリ開発などのプログラミング技術
9
金融・投資（新NISA、資産形成など）の仕組みやニュース
6
VR/AR（仮想現実・拡張現実）やメタバースの世界
7
音楽制作（作詞・作曲）やDJなど、音楽を生み出す活動
20
イラスト、マンガ、アニメ、ゲームの制作や設定など、コンテンツ作成
43
ファッションやメイク、美容の最新トレンド
19
韓国（K-POP、ドラマ、ファッション）や海外の文化トレンド
15
旅行やグルメ（バズった食べ物）など、SNSで話題の体験をしたい
12
サステナブルな活動や環境問題（SDGs）について興味がある
3
起業やフリーランスといった、自分で働き方を選ぶこと
6
ペットや動物、昆虫の生態や行動、生物に関する映像や情報
17
その他
2
未回答
29
0 5 10 15 20 25 30 35 40 45

【Q19】進学を選択した場合に進学先の希望順位(進学先ごと１つだけ)

【Q18】将来目指す進路(職業)の分野等を教えてください。(複数回答可)

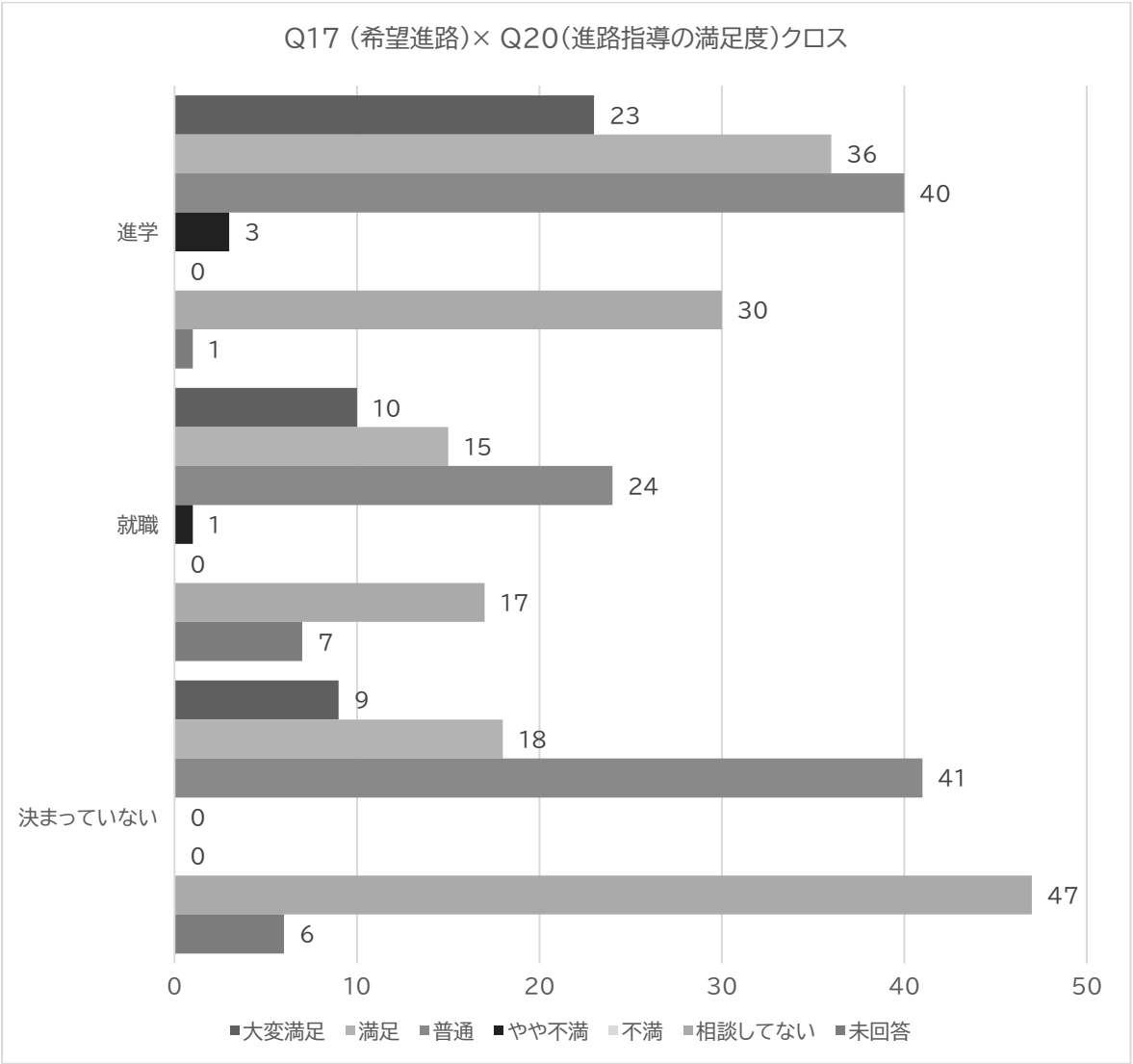
	専門学校 1位	それ以外	未回答
IT・情報処理学科系	8	16	8
CG・ゲーム学科系	7	14	8
工業・電気・電子・通信学科系	5	6	9
自動車・バイク・航空学科系	3	6	4
建築・土木・インテリア学科系	1	1	3
その他工業分野の学科	1	2	3
農業・畜産・園芸学科系	1	3	4
バイオ・環境・生命工学技術	0	0	2
その他農業分野の学科	0	1	1
看護学科系	5	4	2
医療技術・歯科技術学科系	2	6	3
理学療法・作業療法学科系	0	4	2
その他医療分野の学科	2	2	1
美容・ビューティー学科系	19	7	10
調理・栄養・製菓学科系	7	8	5
その他衛生分野の学科	1	1	1
介護・福祉学科系	3	5	6
保育・幼児教育学科系	6	7	4
その他教育・社会福祉分野の学科	1	3	1
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系	2	2	5
ビジネス・経理学科系	1	11	4
その他商業実務分野の学科	2	6	6
ファッション学科系	4	1	8
マルチメディア・映像・写真・音楽学科系	5	5	2
動物・ペット学科系	5	5	3
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系	1	6	4
日本語学科系	0	3	1
デザイン・芸術アニメ・まんが学科系	17	15	7
スポーツ系	0	1	2
法律学科系	0	3	2
その他文化・教養分野の学科	5	23	16
未選択	1	7	48


Q19（希望する進学先＝専門学校1位のみ）× Q18（希望進路/分野）クロス
IT・情報処理学科系 8
CG・ゲーム学科系 7
工業・電気・電子・通信学科系 5
自動車・バイク・航空学科系 3
建築・土木・インテリア学科系 1
その他工業分野の学科 1
農業・畜産・園芸学科系 1
バイオ・環境・生命工学技術 0
その他農業分野の学科 0
看護学科系 5
医療技術・歯科技術学科系 2
理学療法・作業療法学科系 0
その他医療分野の学科 2
美容・ビューティー学科系 19
調理・栄養・製菓学科系 7
その他衛生分野の学科 1
介護・福祉学科系 3
保育・幼児教育学科系 6
その他教育・社会福祉分野の学科 1
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系 2
ビジネス・経理学科系 1
その他商業実務分野の学科 2
ファッション学科系 4
マルチメディア・映像・写真・音楽学科系 5
動物・ペット学科系 5
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系 1
日本語学科系 0
デザイン・芸術アニメ・まんが学科系 17
スポーツ系 0
法律学科系 0
その他文化・教養分野の学科 5
未選択 1
0
5
10
15
20

【Q17】希望する進路について教えてください。(1 つだけ)

【Q20】学校の進路指導に満足していますか？(1 つだけ)

	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	相談してない	未回答
進学	23	36	40	3	0	30	1
就職	10	15	24	1	0	17	7
決まっていない	9	18	41	0	0	47	6
未回答	0	0	0	0	0	0	1



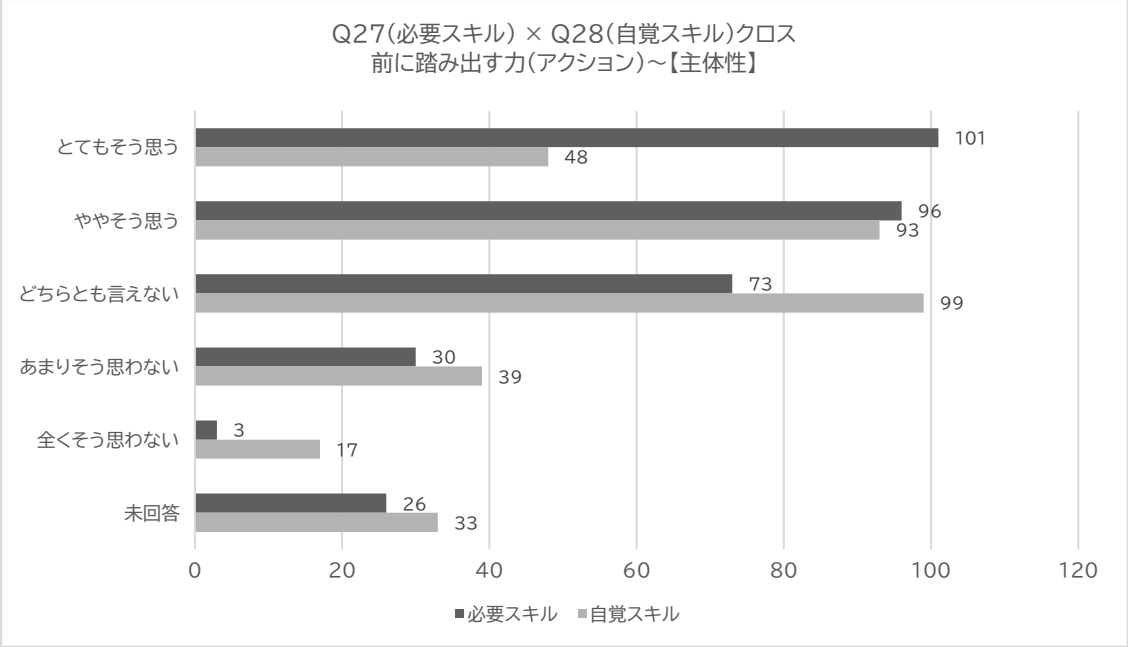
【Q27】あなたが地域社会や職場で仕事をしていくために必要だと思う能力(スキル)は何ですか？(各々1 つだけ)

【Q28】あなたは、Q27 の能力(スキル)の中で現在自分自身がどの程度できているか評価してみてください。(各々1 つだけ)

【前に踏み出す力(アクション)】・・・物事に進んで取り組み、失敗を恐れずに挑戦するために必要だと感じる力

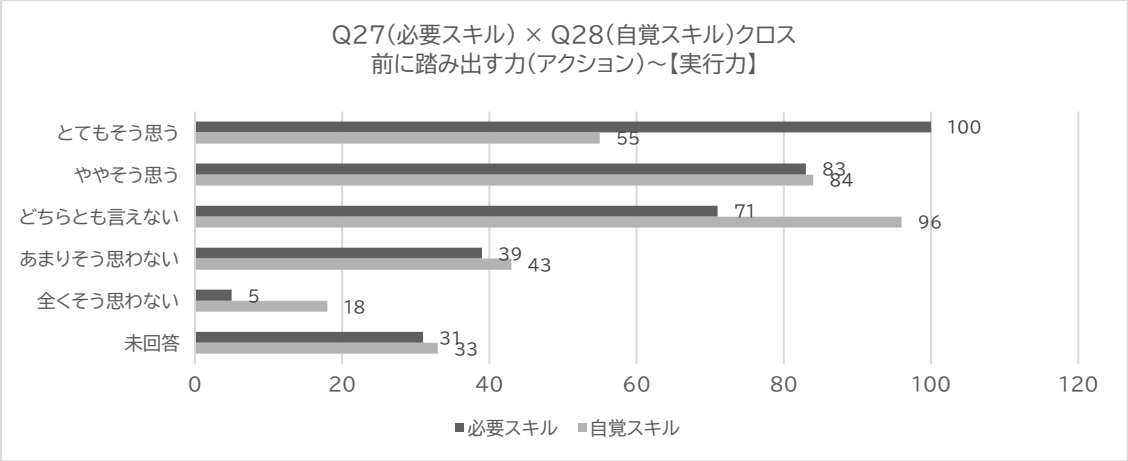
●主体性・・・誰かに言われなくても自分でやるべきことを見つけ、進んで取り組むことができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	101	48
ややそう思う	96	93
どちらとも言えない	73	99
あまりそう思わない	30	39
全くそう思わない	3	17
未回答	26	33



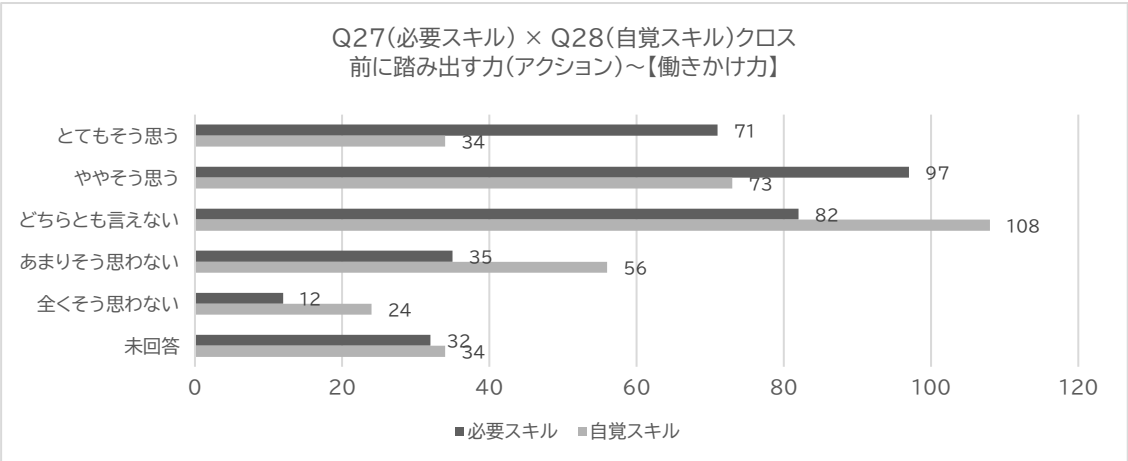
●実行力・・・決めた目標や計画に対して、失敗を恐れずに、まず行動に移すことができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	100	55
ややそう思う	83	84
どちらとも言えない	71	96
あまりそう思わない	39	43
全くそう思わない	5	18
未回答	31	33



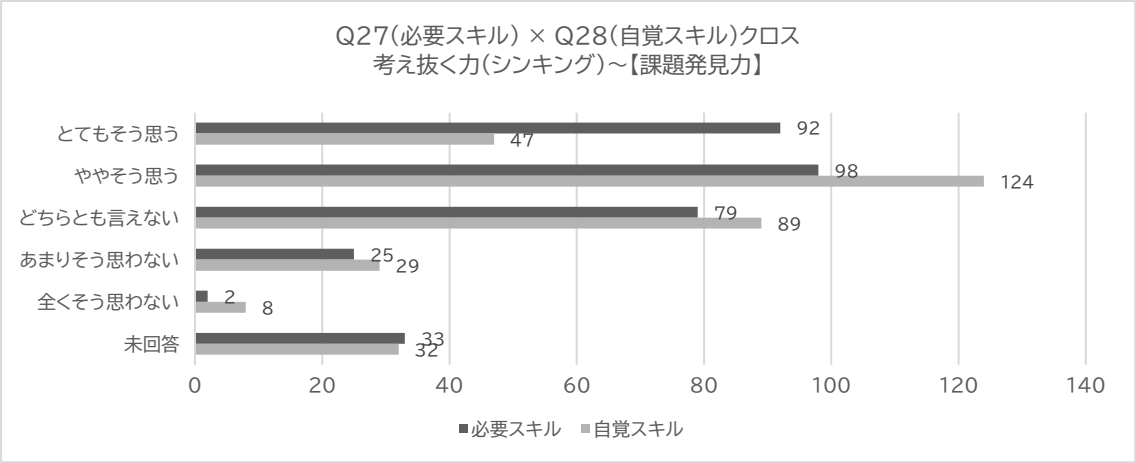
●働きかけ力・・・周囲の人々(友人、先生など)に対し、しようと呼びかけ、一緒に物事を進めようとすることができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	71	34
ややそう思う	97	73
どちらとも言えない	82	108
あまりそう思わない	35	56
全くそう思わない	12	24
未回答	32	34



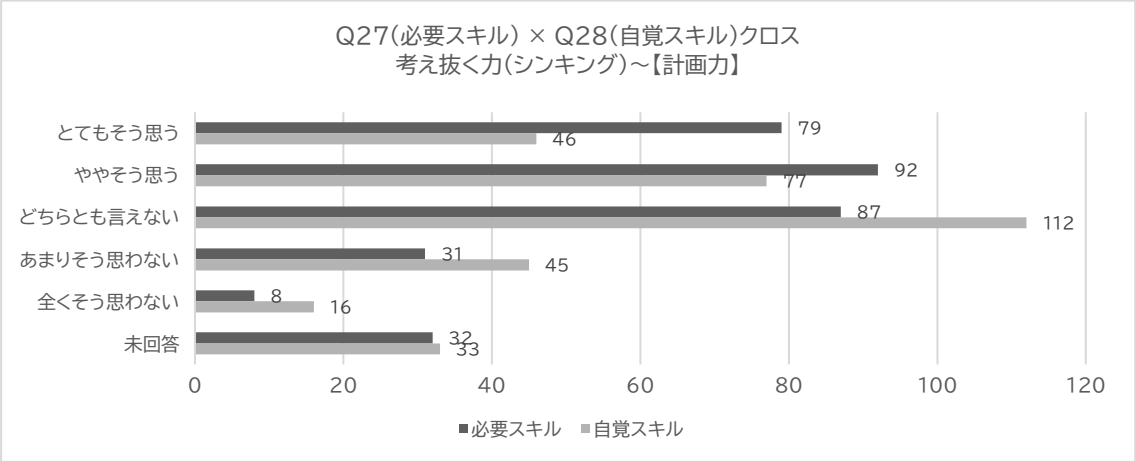
【考え抜く力(シンキング)】・・・現状を分析し、疑問を持って深く考え、問題解決のために必要な力
●課題発見力・今の現状を分析し、「何が問題なのか」「何を改善すべきか」を見つけることができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	92	47
ややそう思う	98	124
どちらとも言えない	79	89
あまりそう思わない	25	29
全くそう思わない	2	8
未回答	33	32



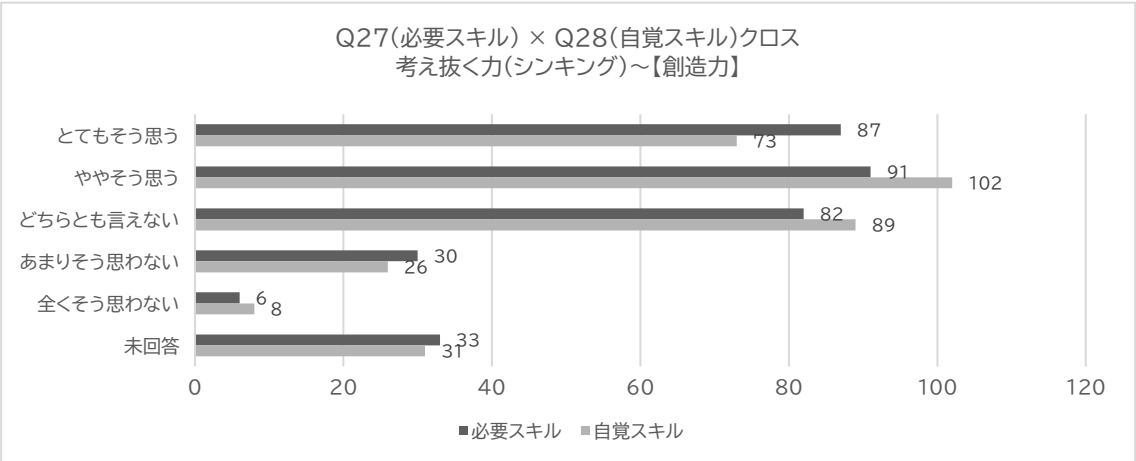
●計画力・・・課題を解決するために、ゴールから逆算して、具体的な手順や期限を決めて準備することができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	79	46
ややそう思う	92	77
どちらとも言えない	87	112
あまりそう思わない	31	45
全くそう思わない	8	16



●創造力・・・既存の方法にとらわれず、新しいアイデアや方法を考えて提案することができる。

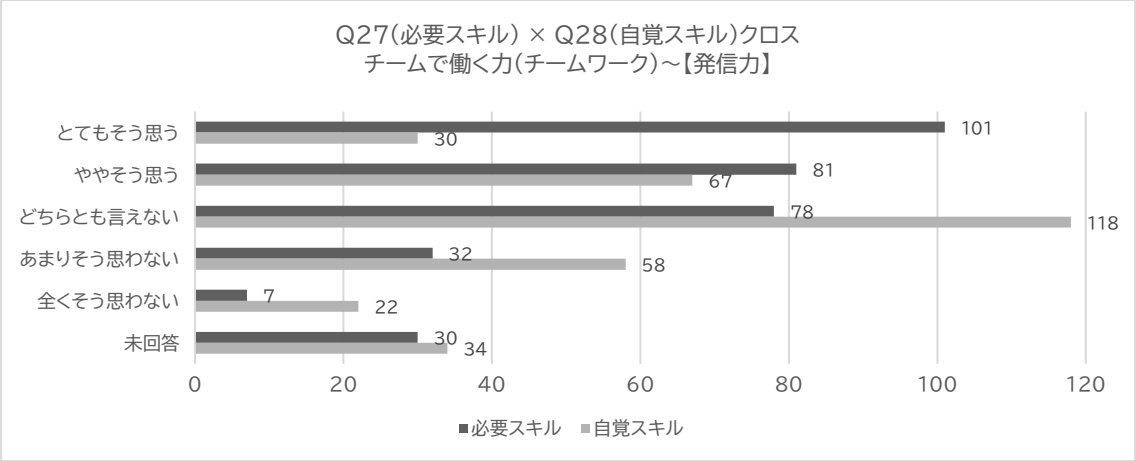
	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	87	73
ややそう思う	91	102
どちらとも言えない	82	89
あまりそう思わない	30	26
全くそう思わない	6	8
未回答	33	31



【チームで働く力(ワームワーク)】・・・多様な人々と強調し、目標達成に向けて協力するために必要だと感じる力

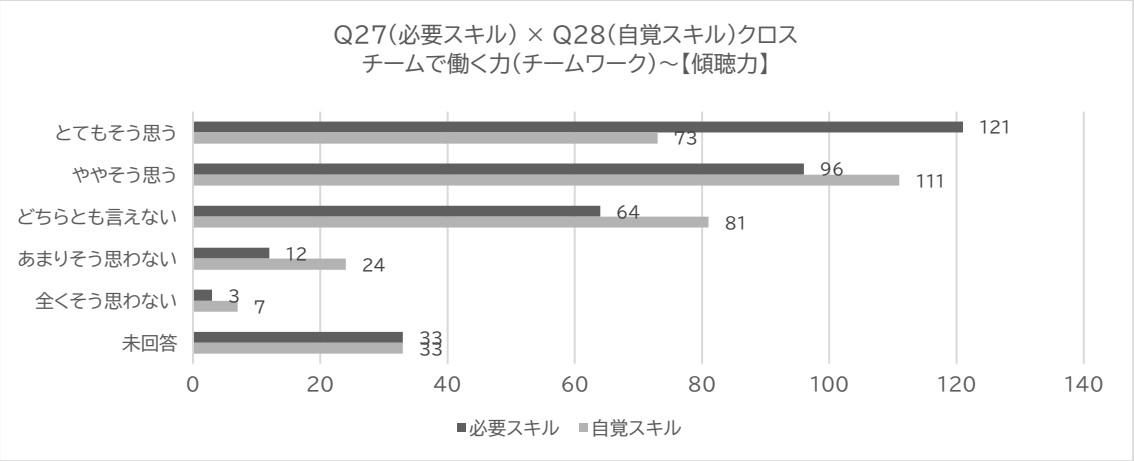
●発信力・自分の意見や考えを、相手にわかりやすく伝えるための工夫(話し方、言葉選びなど)ができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	101	30
ややそう思う	81	67
どちらとも言えない	78	118
あまりそう思わない	32	58
全くそう思わない	7	22
未回答	30	34



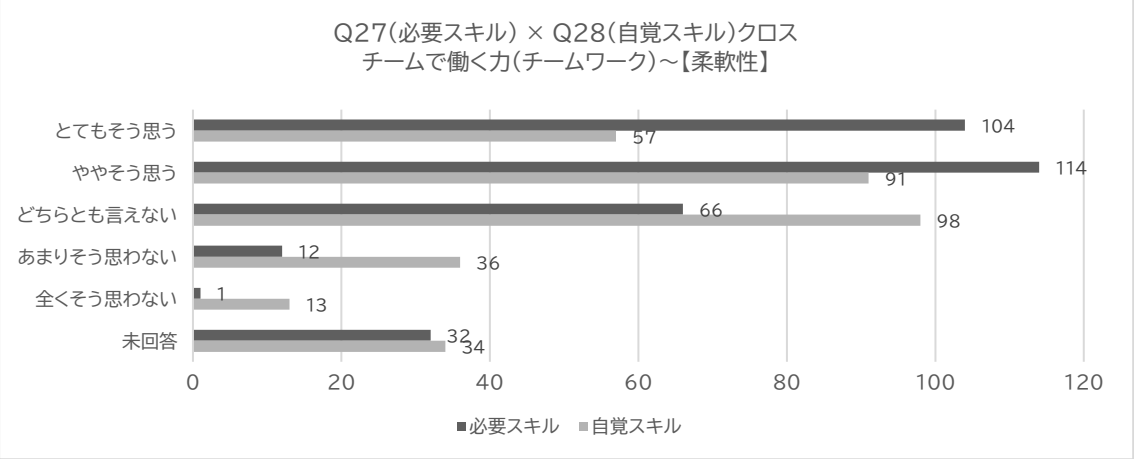
●傾聴力・・・相手の話を最後まで真剣に聞き、その内容や伝えたいことを理解しようと努めることができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	121	73
ややそう思う	96	111
どちらとも言えない	64	81
あまりそう思わない	12	24
全くそう思わない	3	7
未回答	33	33



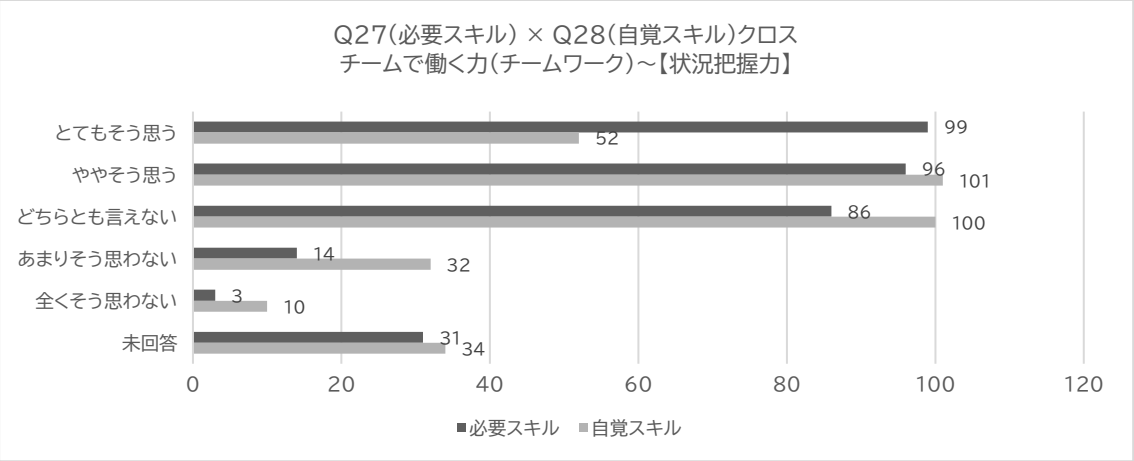
●柔軟性・・・自分の考えと異なる意見が出たとき、相手の立場や状況を理解し、受け入れることができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	104	57
ややそう思う	114	91
どちらとも言えない	66	98
あまりそう思わない	12	36
全くそう思わない	1	13
未回答	32	34



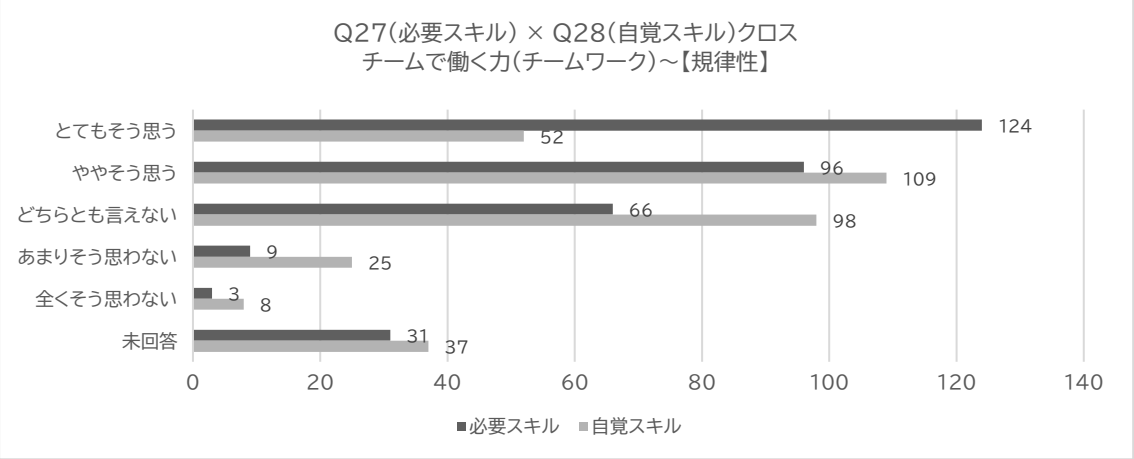
●状況把握力・・・今自分が置かれている状況や、周囲の人がどのような役割を持っているかを正確に理解できる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	99	52
ややそう思う	96	101
どちらとも言えない	86	100
あまりそう思わない	14	32
全くそう思わない	3	10
未回答	31	34



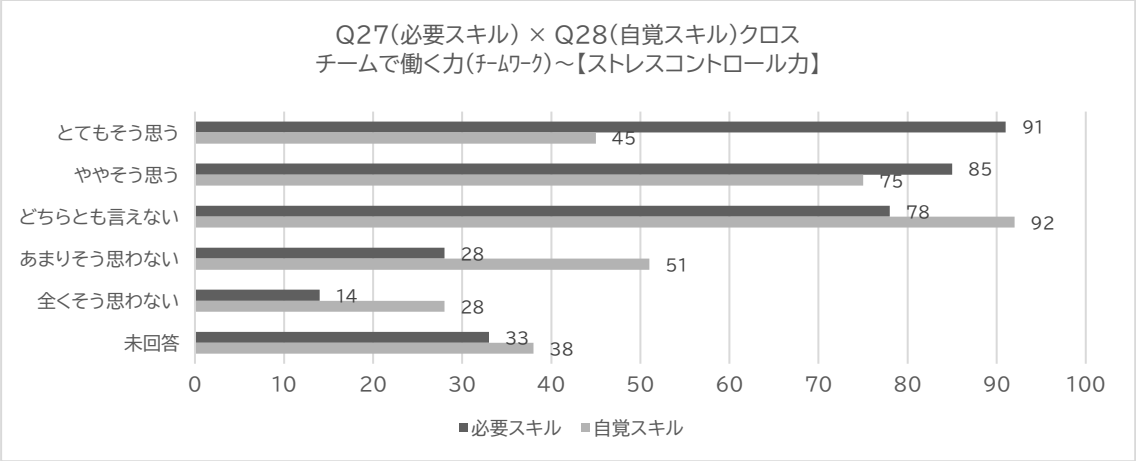
●規律性・・・学校や社会のルール、約束事、マナーなどを守り、責任をもって行動することができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	124	52
ややそう思う	96	109
どちらとも言えない	66	98
あまりそう思わない	9	25
全くそう思わない	3	8
未回答	31	37



●ストレスコントロール力・・・嫌なことや困難なことがあっても、気持ちを切り替え、自分でストレスを管理できる。

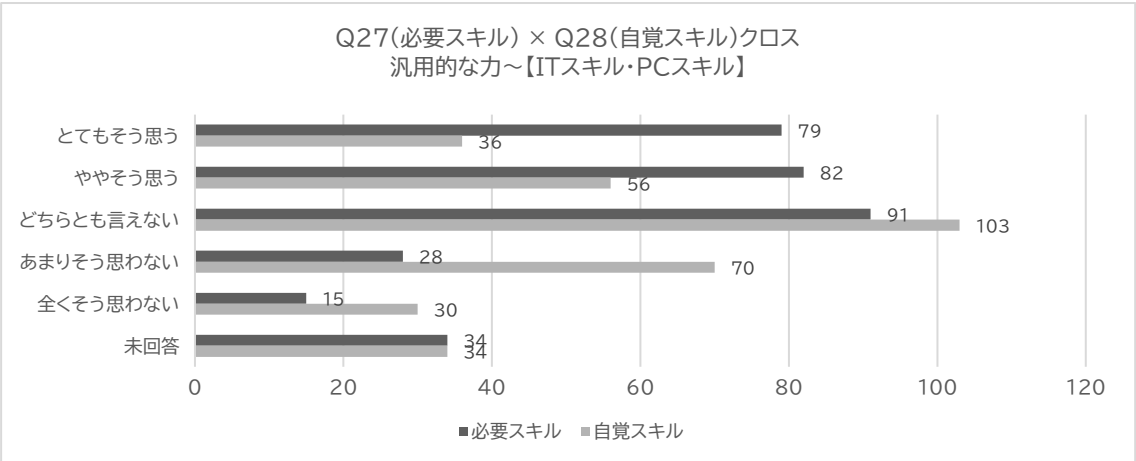
	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	91	45
ややそう思う	85	75
どちらとも言えない	78	92
あまりそう思わない	28	51
全くそう思わない	14	28
未回答	33	38



【汎用的な力】

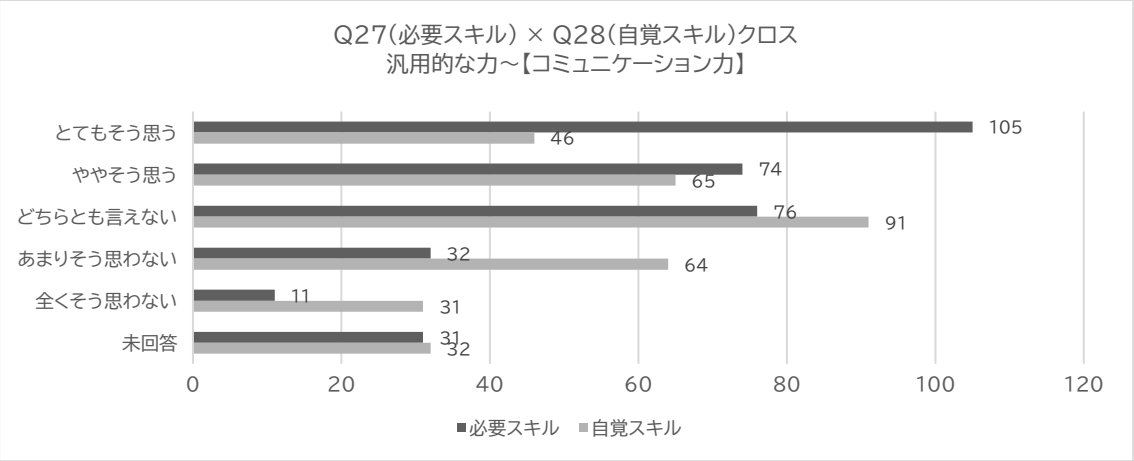
●IT 知識・PC スキル・・文書作成やデータ入力、インターネット検索などの基本的なパソコンスキル。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	79	36
ややそう思う	82	56
どちらとも言えない	91	103
あまりそう思わない	28	70
全くそう思わない	15	30
未回答	34	34



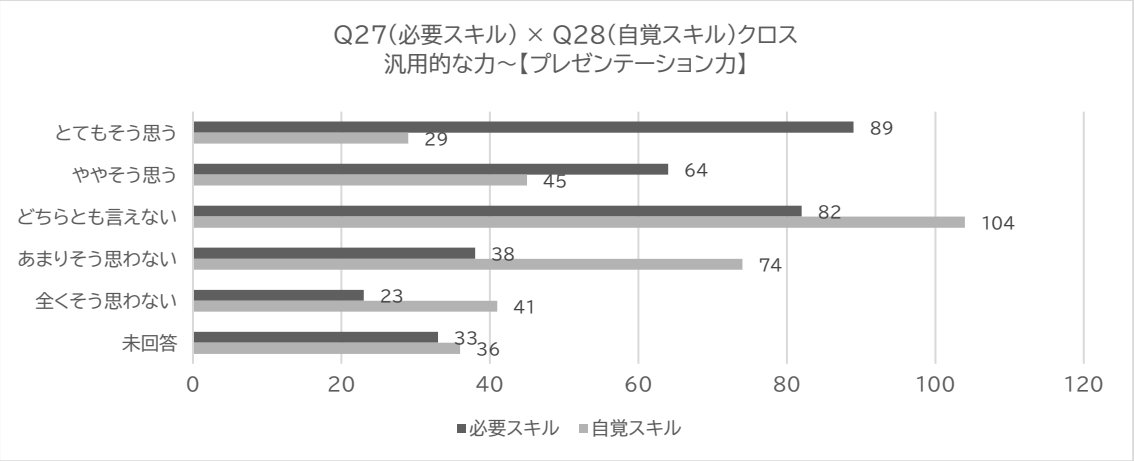
●コミュニケーション力・・・初対面の人や、考え方の違う人とでも、適切に意見を伝え、聞くことができる力。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	105	46
ややそう思う	74	65
どちらとも言えない	76	91
あまりそう思わない	32	64
全くそう思わない	11	31
未回答	31	32



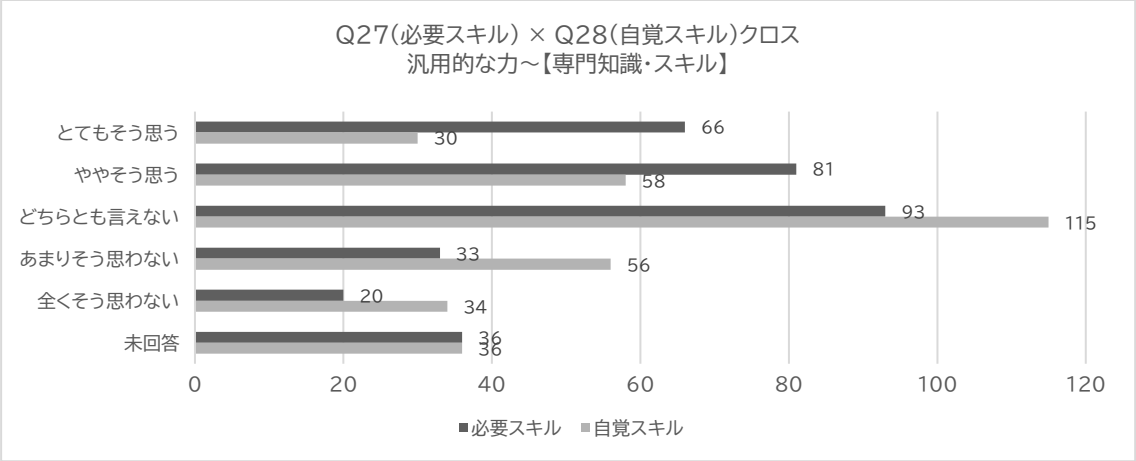
●プレゼンテーション力・・・多くの人々を前に、目的と結論を明確にし、説得力を持って発表する力。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	89	29
ややそう思う	64	45
どちらとも言えない	82	104
あまりそう思わない	38	74
全くそう思わない	23	41
未回答	33	36



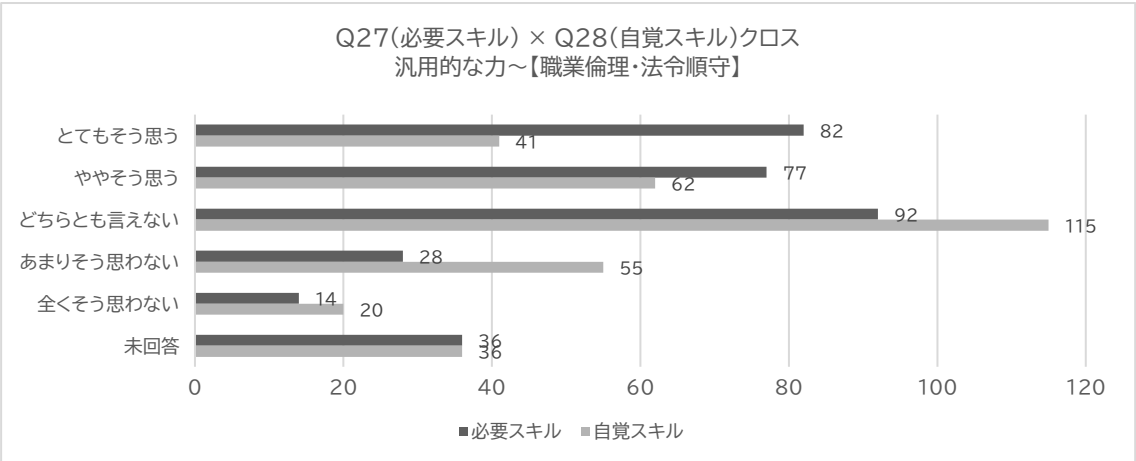
●専門知識・スキル・・・働く業界や職種に必要な特定の知識（例：IT 知識、会計知識、調理技術など）や資格。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	66	30
ややそう思う	81	58
どちらとも言えない	93	115
あまりそう思わない	33	56
全くそう思わない	20	34
未回答	36	36



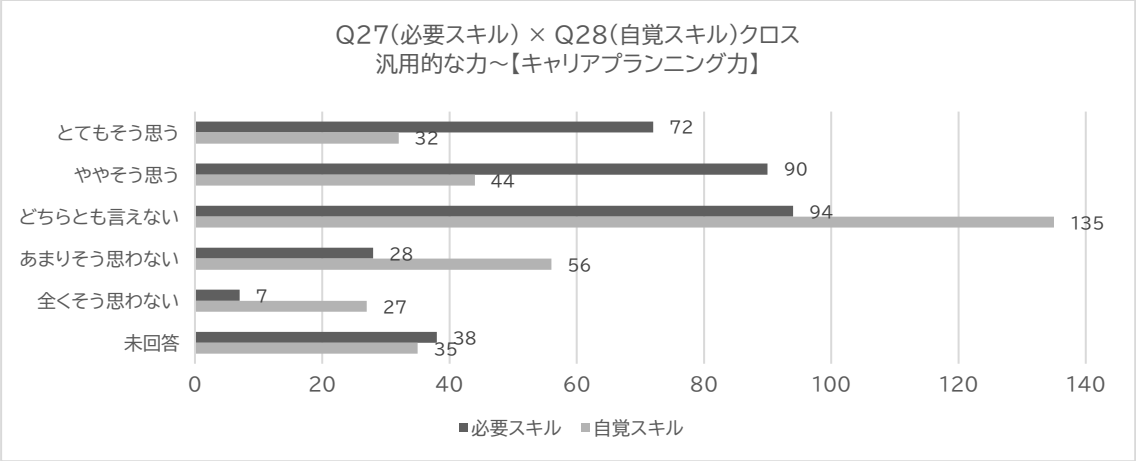
●職業倫理・法令順守・・・ビジネスマナー、ハラスメント防止、コンプライアンス（法令順守）に関する知識。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	82	41
ややそう思う	77	62
どちらとも言えない	92	115
あまりそう思わない	28	55
全くそう思わない	14	20
未回答	36	36



●キャリアプランニング力・・・自分の適性や興味を理解し、中長期的な目標を設定し、それに向けた学習や行動を選択する力。

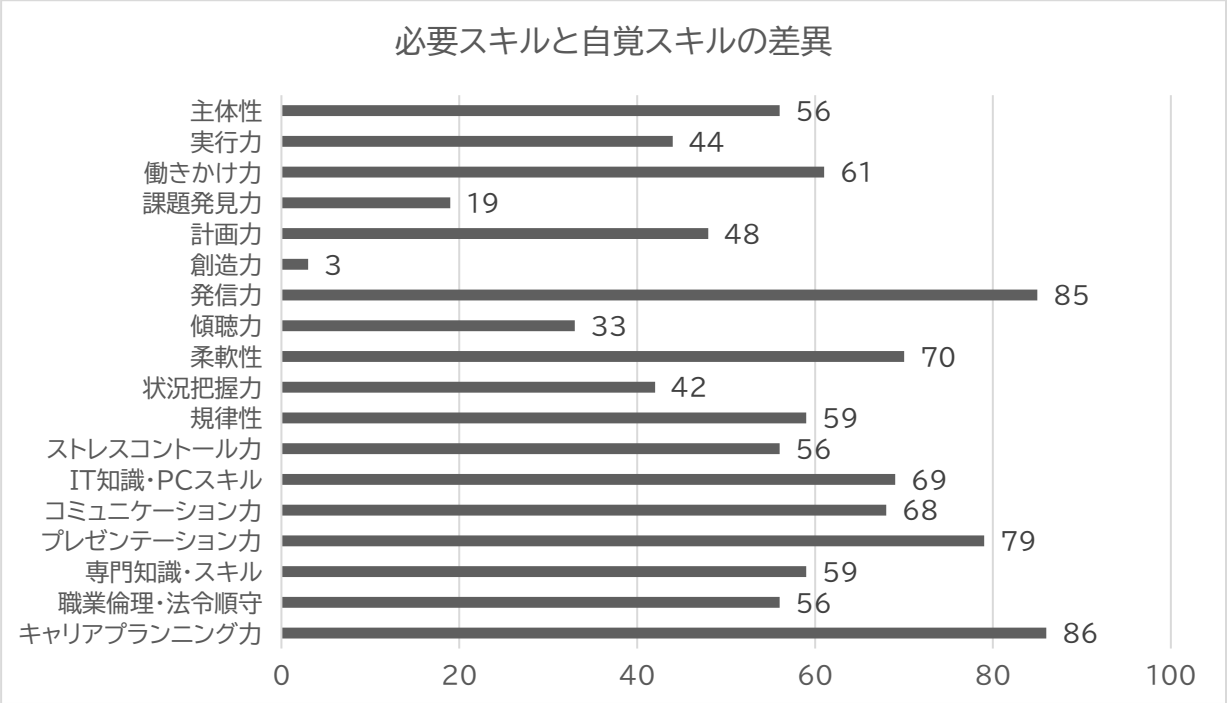
	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	72	32
ややそう思う	90	44
どちらとも言えない	94	135
あまりそう思わない	28	56
全くそう思わない	7	27
未回答	38	35



●Q27（必要スキル）と Q28（自覚スキル）の差異

必要スキル・自覚スキルともに「とてもそう思う」+「ややそう思う」と回答した合計数。差異は必要スキルと自覚スキルの差異。

種別	必要スキル	自覚スキル	差異
主体性	197	141	56
実行力	183	139	44
働きかけ力	168	107	61
課題発見力	190	171	19
計画力	171	123	48
創造力	178	175	3
発信力	182	97	85
傾聴力	217	184	33
柔軟性	218	148	70
状況把握力	195	153	42
規律性	220	161	59
ストレスコントール力	176	120	56
IT 知識・PC スキル	161	92	69
コミュニケーション力	179	111	68
プレゼンテーション力	153	74	79
専門知識・スキル	147	88	59
職業倫理・法令順守	159	103	56
キャリアプランニング力	162	76	86



3－5. 通信制高校教職員ヒアリング調査結果

（1）A高等学校

＜ヒアリング詳細＞

学校名	A高等学校　通信制課程
日程	令和 7 年 11 月 21 日(金)　13:30～15:00
実施方法	対面

1. 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援

A 高校通信制課程では、生徒の多様な背景に寄り添いながら、少人数体制の中で進路指導を全教職員が協力して担っている。担任と進路部長を中心に、3 年生では年 2 回の三者面談を 4～5 日かけて実施しており、保護者の参加率も高い。1、2 年生の段階から進路希望調査やホームルームを通して進路への意識を高める取り組みも行われている。また、進学希望者は自らオープンキャンパスへ参加し情報を持ち帰るなど主体的に動く傾向が見られる。一方で就職希望者についてはアルバイト経験の有無が大きく影響し、未経験の生徒は環境変化への適応が難しく、早期離職に至るケースもある。

また、通信制独自の課題も顕在化している。例えば、在宅学習中心の生活から集合活動へ移行する際の精神的負荷の拡大、レポート提出や調査書作成などの進路準備における事前の段取りが難しい点などが挙げられる。学校側はメールを活用し個別連絡を可能とするなど一定の対応は行っているが、進路決定までの伴走支援には限界があり、特に「日常的に学校に来ない生徒」への支援方法は大きな課題となっている。

加えて、同校には心理面や身体面での課題を抱える生徒も一定数おり、カウンセラーは全日制と共用で月数回の配置に留まるため、十分に対応できる体制にはなっていない。教員数も 7 名と少なく、生活指導・授業・進路指導を兼務する状況で、体系的なキャリア教育を十分に展開できていない点も課題である。

2. 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ

A高校通信制課程における外部連携は、現状では限定的である。就職に関してはハローワークと通常の連携を持つものの、企業・大学・専門学校などと定期的な連携授業や進路支援を行う体系的枠組みはほぼ存在していない。大学や企業からの協働依頼が入ることもあるが、通信制課程でのスクーリングが主に土曜日であることから、外部機関側が休日となるケースが多く、学校側が依頼を遠慮してしまうという実務的制約も連携拡大を阻んでいる。

また、全日制課程が大学と連携して実施している取組に合わせて参加する機会はあるものの、通信制独自の連携プログラムは確立されていない。しかし近年、専門学校側から通信制の生徒受入れに関心が高まっている。企業からも人材確保の観点で問い合わせが増加しているとの報告がある。

これは、地域における若手人材の不足と、通信制生徒の多様な特性がマッチする可能性があることを示唆している。現状の課題としては次のとおりである。

①外部連携を企画・調整する人的余裕が教員側に乏しい
②通信制のスクーリング日程（主に土曜）が外部機関の稼働日と合わない
③生徒の通学習慣の弱さにより連携活動への参加ハードルが高い
④連携内容を体系化・継続化する仕組みが無い

他方、本事業の趣旨である「AI×データサイエンス導入による新コース構築“地域に選ばれる専修学校”づくり」を踏まえると、通信制高校との連携は極めて重要な基盤となる。同校には、在宅学習を中心とする生徒のため、職業理解・企業見学・短期実習などへのニーズが確実に存在する。また大学・専門学校に対しては、オープンキャンパス以外に“少人数・個別相談型”の進学サポートを求める声もある。

3. 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題

ICT 活用について、A 高校通信制課程では一定の取り組みは進んでいるものの、体系化された活用には至っていない。授業では教員が各自でスライドや教材を作成し、教科書とレポートを中心に生徒が学習を進める形となっている。全日制で用いる教材を通信制向けに調整したスライドを使用する教員もおり、ICT を積極的に使う教員が中心となって教え合いながら工夫している状況である。しかしオンライン授業は実施されておらず、山口県全体としても通信制のオンライン学習導入は今後もしばらく難しいとの認識が共有されている。

生徒側の ICT スキルについては、情報科の授業や課題研究で Word・Excel 等を扱う機会はあるが、ICT リテラシー全体を体系的に育成するプログラムは存在しない。またスマートフォン操作は得意でも、PC 操作に習熟していない生徒も多い。保護者への ICT サポートも実施されていない。

一方で教員側の ICT スキルは比較的向上しており、AI 研修などを受けた教員が知識を共有する取り組みも見られる。しかし、校内ネットワークや PC 設定の煩雑化により、ICT 環境の維持・運用に大きな負担が生じている。ICT 教育の部門はあるものの人員は限られ、校内ネットワークの不具合や端末の更新の遅れなど、機器面の課題も多く、買替費用が大きな負担となっている。

生徒側への端末貸与や通信費補助はなく、通信制高校として一律配布の対象外であった経緯もあり、ICT 活用の前提となる学習環境は必ずしも整っていない。また、成績管理や出席管理が統合されておらず、今後は保護者も含め閲覧可能なプラットフォームの導入を検討している段階である。

（2）B 高等学校

＜ヒアリング詳細＞

学校名	B 高等学校　通信制課程
日程	令和 7 年 11 月 25 日(火)　10:30～11:15
実施方法	対面

1. 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援

B 高校通信制課程では、進路指導は基本的に対面を中心に行われており、必要に応じてオンライン面談や電話相談を実施している。三者面談は年 2 回を基本としながらも、特に 3 年生では個別相談を必要に応じて随時実施し、進路未決定者への対応を柔軟に行っている。卒業後の進路は就職が 6～7 割と最も多く、進学は 3 割弱程度で、大学進学はごく少数である。進学希望者においては入学金等の経済的負担が障壁となり、場合によっては進学先の変更に至るケースも確認されている。

生徒のなかには不登校経験者も多く、精神的なケアを必要とする生徒もいる。通信制と全日制の共有でスクールカウンセラーが配置されているため、生徒保護者の区別なく、要請に応じ利用することができる。通信制においての体系的なキャリア教育プログラムや職業理解については、外部からの情報提供を利用しながら継続的に取り組みを行っている。

2. 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ

B 高校通信制課程における外部連携は、現状では一部の外部連携を進めている。学校が定常的に連携している外部機関は主にハローワークであり、新卒窓口との情報共有を通じて求人情報を得ている。大学・専門学校・企業・自治体・NPO 等と継続的な連携は、年 1 回程度で進学・就職向けガイダンスという形態で複数校が来校しブースを設置し実施している。

生徒に職業理解や進路選択の幅を提供するためには、専門学校や企業からの継続的な情報提供が必要であるため、今後も積極的に外部機関との連携の仕組みを構築する必要がある。また、通信制の登校日が主に土曜日及び日曜日であることから、外部機関に依頼する際には限られた登校日と連携先の外部機関と調整を進めながらの実施という状況にある。

また、企業見学や校外学習を行う際には交通手段が課題となり、バス利用時の費用負担を生徒に求めることが困難であるため、市町村や県による移動支援を求めている。

3. 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題

B 高校通信制課程においては、専用タブレット端末による「一人一台端末」の環境を整備しており、探究の授業では、校内に構築された Wi-Fi 環境を利用し、ICT 機器を効果的に活用した教育活動を展開している。端末は導入から複数年が経過しており、今後は更新費用が大きな負担となっている。

校内でのネットワークの整備、システム導入、ICT 機器の導入、トラブル対応は情報担当教員や一部の教員と限られた体制で担っており、十分な人員や専門性が確保されているとは言い難い。

授業においては、教員がスライド作成や動画活用などを個別工夫で行っているが、デジタル教材は必要に応じて各教員が独自に教材を制作している状況である。ICT が得意な教員が校内システムの構築や補助金申請などを主導し、一定の成果を上げている現状がある。今後は学校全体を挙げた、組織的な教育 DX の推進を加速させていく方針である。

また、生徒向けの ICT 指導や情報モラル教育は SNS トラブル対策にはじまり、体系的なデジタルリテラシー教育は今後整備を進めていく。進路支援においては登校時などに対面での指導を基本としており、オンライン相談・デジタルポートフォリオ・AI による適性分析などの仕組みは必要に応じて検討していく意向である。

（3）C 高等学校

＜ヒアリング詳細＞

学校名	C 高等学校　通信制課程
日程	令和 7 年 11 月 25 日(火)　15:30～16:15
実施方法	対面

1. 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援

C 高校の通信制課程では、生徒の状況に応じた柔軟な学習運営が行われている。テストは受験日を生徒自身が選択でき、欠席した場合も再設定が可能で、再チャレンジも最大2回まで認められる仕組みが整備されている。この柔軟性は多様な背景を持つ通信制生徒に配慮した運営となっている。一方で、登校日や活動状況に個々のばらつきが大きく、面接練習や履歴書作成時の経験不足（部活動・生徒会活動等）が課題となるケースも多い。アルバイト経験は一部生徒の社会性や面接対応に良い影響を与えているが、教員側は必ずしもそれが進路展開に直結しない点を指摘している。

進路支援においては、月 1 回の進路情報更新や初回オリエンテーションでの「進路の手引き」配付など、生徒が自分で情報を確認できる仕組みがある。しかし、ICT に不慣れな生徒が一定数おり、特にスマートフォンを使ったメール連絡やオンライン情報の扱いに時間を要するため、デジタルリテラシー支援が必要である。

専門職としてはスクールソーシャルワーカー（SSW）が配置され、家庭訪問や福祉支援の橋渡しを担っている。しかし、心理面のケアや進路選択の迷いを扱う専門支援が十分とは言えず、特に障害の有無によって就職支援の選択が難しいケースに対して学校側も判断に悩む状況がある。

2. 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ

外部連携について、C 高校の通信制課程では、現状として連携先は極めて限定的である。主な連携先はハローワークであり、就職活動支援に関する講師派遣などを通じて一定の協力を得ている。しかし、大学・専門学校・企業・自治体との体系的な連携はほぼ存在しておらず、在学中に活用できる福祉関連機関の支援も限定的で、実質的には卒業後からの支援が中心となっている。

年に一度、特別スクーリングの機会に卒業生やハローワーク職員を招いた講話は実施されているが、専門学校や企業による連携授業、職業体験、企業見学等のプログラムはほとんど提供されていない。この背景には、通信制スクーリングが日曜日に実施されることから、企業・行政に依頼する際に「休業日にあたるため負担をかけるのでは」と学校側が遠慮してしまう構造的課題がある。

一方で、「興味のある分野に関する体験や講座の機会があれば生徒の意欲につながる」との教員の認識も強く、特に調理や e スポーツなど新しい分野への関心を示す生徒が増加している点から、柔軟な分野連携へのニーズは高い。また、進学先や専門学校の選択肢について生徒が十分に把握できていない現状があり、地元進学ルートの情報提供や業界理解への支援を求めている。

外部連携に対する最大の制約は交通手段であり、校外学習や企業見学の際にバス代を生徒負担とすることが難しく、移動支援の不足が体験機会の提供を妨げている。行政による移動支援や地域機関間の連携モデル構築が必要と考える。

3. 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題

C 高校の通信制課程では、教員のみ指導者用端末と校内 Wi-Fi 環境、Teams 等のツールを備え、ICT 環境は一定程度整備されている。端末の更新時期が近づいているものの「大きな不足はない」とされ、機材面での基盤は整っている。ICT 支援員が週 1 回巡回しており、技術的トラブルも対応可能な体制が維持されている。ただし、生徒は一人一台の端末がなく、ICT 環境は整っていない。

ICT 活用は教員の個別スキルに依存しており、組織的な教育 DX とは言い難い。教員研修は過去に 7 回実施されたが、毎年定期的に行われているわけではなく、新機能の導入時に短時間研修を行う程度にとどまっている。授業ではプログラミング内容（Python 等）も扱うが、生徒が実際に PC 操作を行う機会はなく、教員が画面提示し「コードを読む」ことが中心となり、探究的・実践的な ICT 学習には至っていない。

生徒側の ICT スキルは個人差が大きく、情報モラル教育は入学直後に警察講話を実施しているものの、体系的なデジタルリテラシー教育は存在しない。特にスマートフォンでのメール利用やオンライン手続きに不慣れな生徒も存在し、進路支援場面でも ICT 操作が障壁となるケースがある。また、保護者への ICT サポートは原則実施されておらず、家庭との情報共有も電話が中心である。

現行の教員配置では、一人あたり担当生徒数が増加しつつあり、ICT を活用した校務効率化や個別最適化支援の導入の検討も必要になっている。

3－6. 総評

本調査結果に基づき、通信制高校生が抱える課題、ICT およびデジタル分野への期待、そして地域連携の必要性について、以下の 3 つの視点から総評をまとめる。

1. 進学・就職における心理的・経済的障壁と情報アクセスの改善

アンケート調査では、多くの生徒が専門学校等への進学に意欲を示す一方で、「授業についていけるか」という学習面（55 名が「とてもそう思う」）や「友人関係に馴染めるか」という心理面（41 名が「とてもそう思う」）での不安を強く抱いている実態が浮き彫りとなった。また、入学金や授業料などの経済的な不安も顕著であり、奨学金情報の不足や手続きの複雑さを課題視する声も挙がっている。教職員へのヒアリングでも、日常的に登校しない生徒への伴走支援には限界があり、特に「情報の受け取り」に個人差が生じていることが指摘されている。これらの障壁を解消するためには、単なる情報提供に留まらず、入学前から心理的なハードルを下げるカウンセリングや、個々の経済状況に配慮したきめ細やかな進路相談体制の構築が不可欠と考える。

2. デジタルリテラシーの格差解消と ICT を活用した実践的学びの提供

高校生の関心事として、「動画編集（81 名）」や「生成 AI の活用（70 名）」、「イラスト・ゲーム制作（93 名）」など、デジタルコンテンツへの非常に高い興味が示されている。しかし、現状の ICT 環境は「スマートフォン（209 名）」の利用が主流であり、ノートパソコンを学校で利用している生徒はわずか 10 名に留まっている。この結果、「IT 知識・PC スキル」を社会で必要な能力だと感じている生徒（161 名）に対し、自分にそのスキルがあると自信を持っている生徒（92 名）の間には「69 ポイント」もの大きな認識の差（ギャップ）が生じている。教職員側からも、生徒が PC 操作に習熟していない現状や、学校側の機材更新費用の負担、運用人員の不足といった構造的な課題が報告されている。本事業が目指す「AI×データサイエンス」の導入は、こうした生徒の潜在的な興味を、単なる消費活動（スマホ利用）から専門的な職業スキル（PC 活用）へと昇華させるための極めて重要な架け橋になると考える。

3. 地域産業の持続可能性を支える“育成・伴走・定着”の連携モデル

現在、通信制高校と外部機関の連携はハローワーク等の一部に限定されており、地域企業や専門学校との体系的な連携授業や職業体験は十分に提供できていないのが現状である。その背景には、土日を中心とする通信制高校のスクーリング日程と外部機関の稼働日との不一致や、校外学習における通信制高校生の移動費用の負担といった構造的な課題がある。一方、生徒からは「地域の様々な人との交流」や「職場体験」を求める声が寄せられており、教職員も「興味・関心のある分野での体験機会の提供が、生徒の学習意欲や進路意識の向上につながる」と認識している。本事業を通じて、専修学校がハブとなり、通信制高校の柔軟なプログラム設計と地域産業のニーズを繋ぐ「一体型支援体制」を構築することは、若年層の県内進学・就職を促進し、地域産業における人材確保と活性化を実現するための鍵になると考えられる。

4. 専門学校通信制出身者ヒアリング調査

4－1. 調査設計および実施方法

(1)調査の背景

国立社会保障・人口問題研究所の調査には、日本の 18 歳人口は現在の約 110 万人から 2040 年には約 75 万人にまで減少するとの予測がある。特にその減少ペースが激しい地方圏においては地域産業の担い手不足、生活インフラの空洞化が深刻になると考えられ、早急な対策が求められる課題となっている。

このように若年人口が急減することで学齢期の児童・生徒の数も大幅に減少するとみられるが、近年、通信制の学校に在籍する高校生の数は年々増加している。当法人のある山口県においても 7 校の通信制高校が開設され、約 6,520 人の生徒が在籍している。この数は山口県内の全高校生の約 18%に上る。「通学は難しいが専門的な学びをしたい」など多様な学びへのニーズが高まっており、それに対応した特色ある通信制高校が新規開設されるといった動きも出ている。

当法人の専門学校においても通信制高校からの入学希望は少なくなく、年々増加する傾向にある。これまで個々の状況や学生の希望に応じて柔軟に受け入れを行い、学びを支援してきたが、このような大きなニーズの存在と地域に根差した教育機関としての役割を踏まえ、より専門的で多様な学びの機会の提供と地域の実情に即した支援を強化する必要があるとの認識を強くしている。

そのような背景から、この事業で入学前から卒業後のキャリア定着、地域貢献までを見据えた“育成・伴走・定着”の一体型支援体制の構築を推進することとした。具体的には通信制高校との連携を基盤とした入学前からのキャリア教育、在学中の柔軟なプログラム設計、ＡＩやＩＣＴを活用したデジタルリテラシー育成、地域企業との協働を通じた連携授業等を想定しており、専門学校の２年間の枠にとらわれない継続的な取り組みを目指している。

そこでまずは専門学校の学びの中心である学生について理解を深め、今後の支援やカリキュラム開発の方向性を探るため、当該学生等へのインタビュー調査を実施した。

(2)通信制高校について

本調査の対象者の出身校である通信制高校について、その概要や分類、特徴等基礎となる事項を把握すべく、事前の情報収集を行った。

ア．通信制高校の概要

通信制高校（正式名称：高等学校通信制課程）は昭和 23 年に制度化され、「教育機会の均等」を目的に整備されてきた。教室授業を中心とする全日制課程・定時制課程と異なり、通信手段を主体として生徒が自宅等で個別に自学自習する形態をとる。添削指導や面接指導（スクーリング）、試験等によって単位認定が行われ、学校が定めた要件を満たせば卒業となり、高校卒業資格が取得できる。

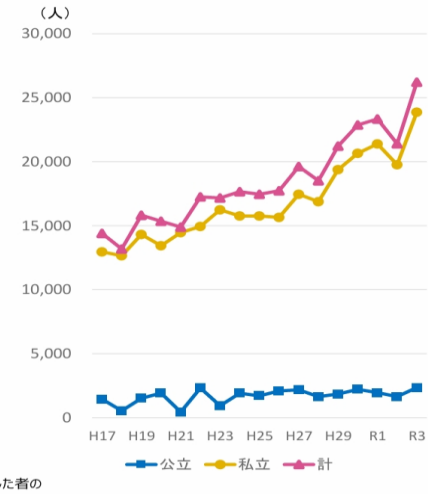
近年、学習時間や時期、方法等を自ら選択して自分のペースで学ぶことができる通信教育ならではの特長を生かし、オンライン授業や動画教材、タブレット端末等のデジタルメディアを活用した多様な学びを提供する学校が増加している。

また、通信制高校は近年、年度途中入学者の増加や生徒の若年化が進んでいる。文部科学省「学校基本調査」によれば、15 歳・16 歳の通信制高校在籍者数が平成 26 年度から令和 6 年度にかけて約 2.3 倍に増加している。年度途中入学者数も令和 3 年では 26,220 人となり、年度間入学者数のうち途中入学者が占める割合も 30%前後で高まる傾向にある。このような状況において、自学自習の学習習慣を身に付けることが困難な傾向がある生徒も少なからず見られるという。従来想定していた、学ぶ意欲を強く持ちながらも就業のためにその機会が得られない、いわゆる働きながら学ぶ勤労青年を想定した生徒像からは大きく異なってきている。文部科学省も、通信制高校を単なる「卒業資格を得るための場所」ではなく、「一人ひとりの可能性を最大化する柔軟な学びのプラットフォーム」にしようとしており、その果たすべき役割は変化しつつある。

【通信制課程の年度途中入学者数】

	公立		私立		計	
	実数（人）	割合（%）	実数（人）	割合（%）	実数（人）	割合（%）
H17	1,444	7.5%	12,951	32.6%	14,395	24.4%
H18	527	3.0%	12,657	32.1%	13,184	23.1%
H19	1,510	8.2%	14,309	35.2%	15,819	26.8%
H20	1,914	9.8%	13,439	33.2%	15,353	25.6%
H21	433	2.4%	14,460	34.9%	14,893	25.1%
H22	2,318	11.8%	14,934	33.7%	17,252	27.0%
H23	926	5.4%	16,242	35.5%	17,168	27.3%
H24	1,902	11.4%	15,752	32.7%	17,654	27.2%
H25	1,700	10.7%	15,757	33.0%	17,457	27.5%
H26	2,081	14.4%	15,652	31.7%	17,733	27.8%
H27	2,172	15.7%	17,453	33.7%	19,625	29.9%
H28	1,634	13.0%	16,877	31.6%	18,511	28.1%
H29	1,841	14.4%	19,378	33.4%	21,219	30.0%
H30	2,207	16.7%	20,658	34.2%	22,865	31.0%
R1	1,946	13.8%	21,393	32.1%	23,339	28.9%
R2	1,640	12.6%	19,771	29.5%	21,401	26.7%
R3	2,345	17.4%	23,875	30.6%	26,220	28.7%

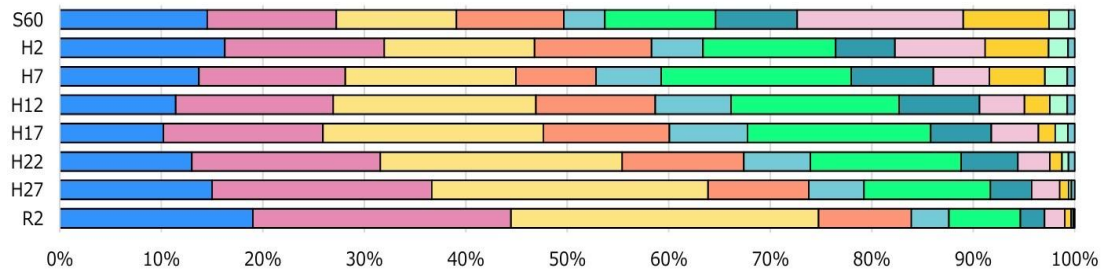
（※１）年度途中入学者数とは、その年度の5月2日から3月31日までに入学を決定した者の数を示す。なお、転学者・転籍者はその数に含む。
（※２）表中の「割合」は、年度間入学者数のうち年度途中入学者数が占める割合をいう。



（出典）文部科学省「学校基本調査」

出典：文部科学省　令和 6 年 6 月 20 日　第 13 回高等学校教育の在り方ワーキンググループ　グループ 4

【通信制課程の年齢別生徒数】



	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20～24歳	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
S60	19,282	16,839	15,725	14,020	5,377	14,466	10,662	21,700	11,197	2,564	812
H2	27,147	26,237	24,737	19,233	8,480	21,795	9,764	14,846	10,434	3,221	1,092
H7	21,117	22,202	25,894	12,144	9,894	28,830	12,453	8,525	8,399	3,386	1,139
H12	20,788	28,229	36,303	21,400	13,567	30,112	14,398	8,095	4,497	3,134	1,354
H17	18,714	28,852	39,870	22,819	14,092	33,143	10,962	8,510	3,030	2,292	1,234
H22	24,401	34,839	44,664	22,506	12,272	27,860	10,485	5,895	2,268	1,185	1,163
H27	27,088	39,022	49,106	17,927	9,816	22,443	7,335	4,995	1,573	492	596
R2	39,360	52,647	62,737	18,876	7,674	14,569	4,906	4,172	1,256	428	323

（出典）文部科学省「学校基本調査」

出典：高等学校通信教育の現状について　文部科学省初等中等教育局　参事官（高等学校担当）付　令和３年２月26日

イ．通信制高校の分類

（ア）学習形態による分類

通信制高校における学習形態は複数あり、学校によって異なっている。

①通信型

自宅でのレポート学習を中心とする。教科書や学習資料を用いて課題を作成し、郵送またはオンラインで提出する方式が一般的。レポート提出や単位認定試験により単位を修得する。スクーリング（対面での面接指導）は年間数日に限定されている。学習者の生活リズムに合わせて学習を進めることができ、時間的自由度が高いため、勤労や療養などとの両立が図りやすい。

②通学型

決められた頻度で学校に登校し、対面授業を通じて必要単位を修得する方式。週１日の軽い通学から、週５日通う全日制に近いコースまで幅が広い。専門コースを設ける私立通信制高校に多く見られる。対面型のため教員による直接指導が受けやすく、友人との関わりも形成されやすい。生活リズムを整えやすいという特徴もある。

③オンライン型

ＩＣＴを活用し、オンライン授業・ＷＥＢ教材・動画視聴などを主体とする学習形態。新型コロナウイルス感染症の影響以降、広域制私立高校を中心に急速に拡大している。オンライン授業や提出システムにより学習が完結する形式になっており、登校はスクーリング日など最低限に抑えられる。

④ハイブリッド型

上記①～③の学習形態を柔軟に組み合わせる方法。学習者のニーズや生活スタイルに合わせた幅広い学びを提供できる。特にオンライン授業の拡充により、全国どこからでも学習できる体制を整える広域制の通信制高校が増えている。

【学習形態による特徴の整理】

学習形態		学習方法	登校頻度・回数	主な特徴
通信型	自宅学習中心	教科書・資料 課題作成後、郵送や オンラインで提出	年間数日～数回	・学習場所・時間の自由度が高い ・個人の状況に合わせて学習可能 ・自己管理が必要
通学型	学校に登校して 対面授業	決まった頻度で キャンパスに登校 授業を通じて単位修得	コースにより異なる 週1～5日	・教師や同級生との対面交流が多い ・生活リズムを作りやすい
オンライン型	デジタル学習中心	オンライン授業・WEB教材・ 動画視聴等 学習の多くがオンラインで 完結	スクーリング日のみ	・場所に縛られず学べる ・デジタル機器の活用が前提 ・対面のつながりが少ない傾向
ハイブリッド型	通信、通学、 オンラインの 組み合わせ	複数の学習スタイル から状況に応じて選択	コースにより異なる 月1～2回、週1回、 年数回の集中型など	・個別ニーズに高い適応性 ・学校ごとに形式が異なる ・学びの選択肢が多い

（イ）運営主体による分類

大きく分けて公立と私立に分類できる。全国の在学生徒数は平成 22 年頃に私立が公立を上回り、令和２年に私立の生徒は公立の３倍弱となった。

①公立

一般的に公立は授業料が安く費用負担が少ない。カリキュラムは基礎重視かつシンプルなものが中心で、スクーリング（通学日）は月数回～週１回程度である学校が多い。

在籍者の年齢層が幅広い（10 代～大人まで）ことも特徴である。

②私立

入学や編入・転校の受け入れ時期、スクーリング、試験日等が複数日程から選択できるなど、スケジューリングに柔軟性のある学校が多い。普通科だけでなく福祉や美容、デザイン等の専門コースを設ける学校もある。教職員やカウンセラーによるサポートが手厚く、公立に比べ卒業率が高くなっている。

なお私立の通信制高校には、全国から入学可能な広域制と、入学地域が限定された狭域制がある。狭域制では地域の全日制私立高校が通信部を併設、広域制では各地に提携サポート校を開校、といった形式が多く、スクーリングの負担軽減が図られている。

【運営主体ごとの特徴】

区分		学習形態	特徴
公立		通学型 通信型	授業料が安く費用負担が少ない 基礎重視でシンプルなカリキュラム スクーリング頻度は月数回～週1回程度 在籍者の年齢層が広い（10代～社会人まで）
私立	狭域制	通学型 通信型	近隣地域で対面指導が受けられる 比較的少人数で柔軟なスケジューリング 地域密着型の進学・就職支援 入学可能な地域が限られる
	広域制	通学型 通信型 オンライン型 （複合型もあり）	全国から入学可能 多様な学習スタイルの選択、組み合わせが可能 専門コースが豊富 学習センターや提携サポート校等を活用 教職員やカウンセラーのサポートが手厚い

(3)調査設計

ウ．調査名

専門学校通信制出身者ヒアリング調査

エ．実施時期

令和 7 年 11 月

オ．目的

本調査は、専門学校に進学した通信制高校出身者を対象に、進学経路、動機、進学時に困難だった要素（経済的・学力的・心理的背景など）および有効だった支援についてヒアリングを行い、教育・支援施策の改善に資することを目的とする。

エ．対象者

通信制高校から当法人の専門学校に進学した学生　９名

（在校生８名、卒業生１名）

オ．手法

(ア) 事前アンケート（ＷＥＢ）

インタビュー当日の質問項目をもとに作成したアンケート（記名式）を事前に対象者に案内。在校生８名、卒業生１名が実施。

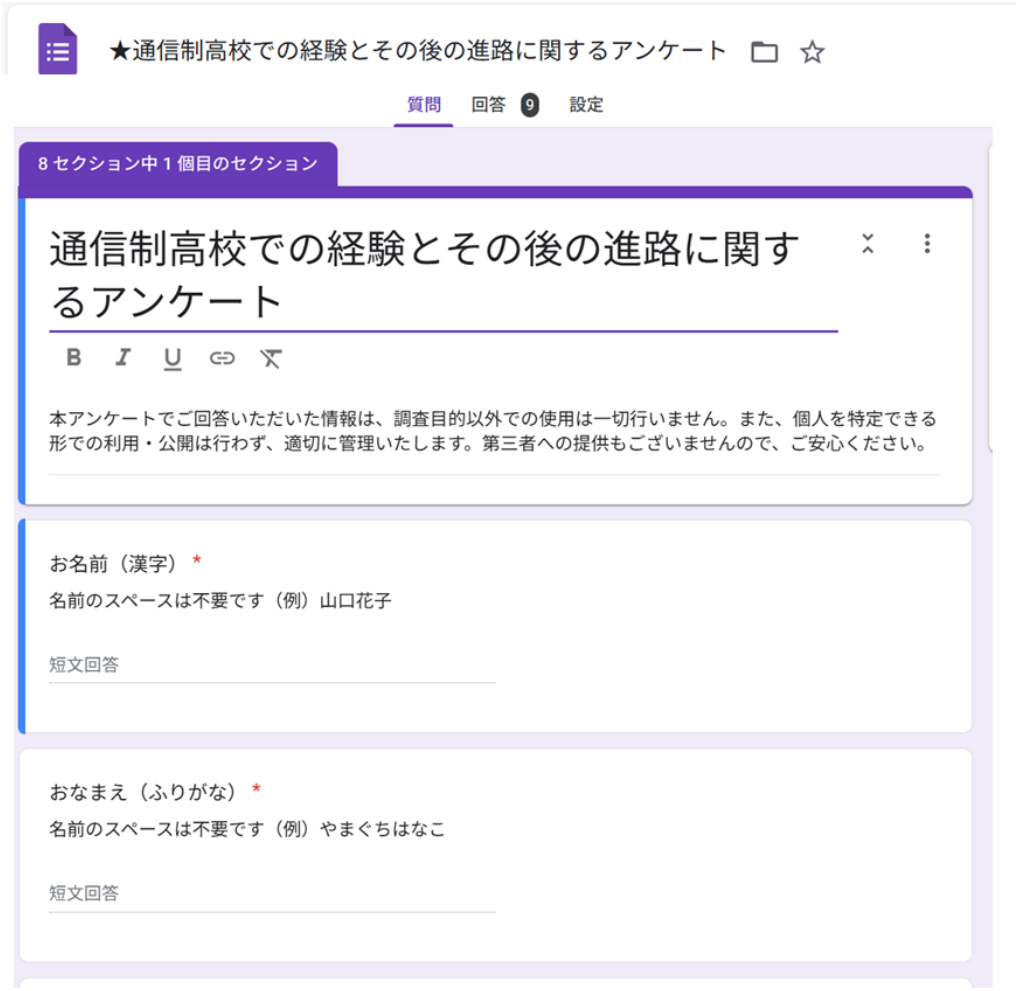
アンケートはＧｏｏｇｌｅフォームを用いて作成。

(イ) 半構造化インタビュー（個別面談形式）

実施時間は１名 30 分程度とし、インタビュアー２名で担当。

在校生４名、卒業生１名を対面あるいはリモートで実施。

【アンケートフォームの一部】



カ．実施スケジュール

インタビューは下記のスケジュールで実施した。

・11 月 17 日(月)　3 名（在校生）

・11 月 19 日(水)　1 名（在校生）

・11 月 27 日(木)　1 名（卒業生）

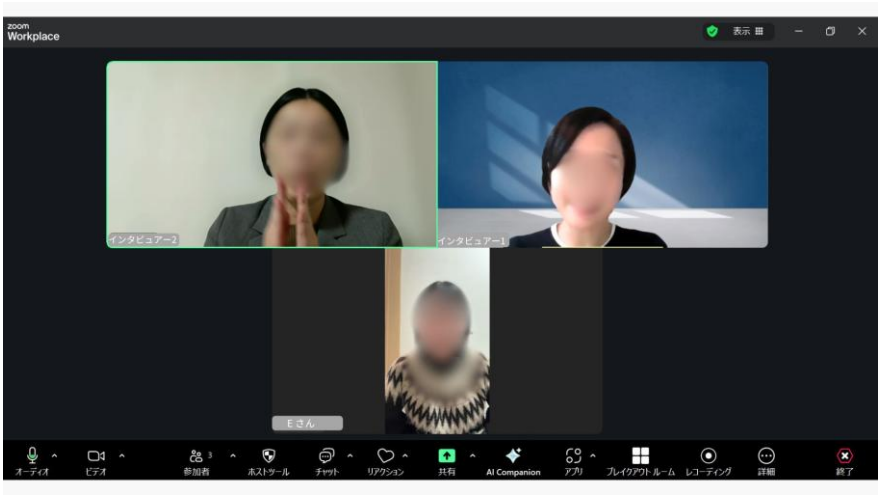
在校生は授業終了後の時間に学校内で対面、卒業生はリモートで実施。

【対面インタビューの会場】





【リモートインタビューの様子】



キ．実施にあたっての留意点

（ア）対象者の選定にあたっては多様な意見や情報が収集できるよう、複数の学科・学年の学生を選定するようにした。併せて卒業生も１名加えることにより、卒業後の課題や支援ニーズも把握できるようにする。

（イ）インタビューは対象者の事前アンケートの回答をもとに行う。常に対象者主体の姿勢で共感的傾聴に努め、回答の背後にある文脈や理由を掘り下げる質問により、自由度の高い語りを引き出せるようにする。

（ウ）個別インタビューは緊張しやすく、対象者の心理的負担が大きい。対象者がインタビュアーを意識してうまく話せない、あるいは好感を得ようと良いことを言う、といった事象の発生も想定されるため、冒頭でインタビューの流れや回答の任意性などについて説明し、安心できる雰囲気を心掛ける。適度に軽い雑談などを入れるのも良い。

またインタビュー中に対象者が心理的負担を感じる可能性のある質問については、無理に回答を求めないよう配慮する。

（エ）インタビュー実施の際は対象者の許可を得たうえで録音（もしくは録画）を行い、後日の分析に役立てる。録音（録画）機器は不具合等の可能性を考慮し、複数準備する。

（オ）このインタビューをより安全で有意義なものとするため、インタビュアーはキャリアコンサルタント有資格者が担当した。１名は当法人の職員、もう１名は外部専門家とし、学生の不安感を払拭し安心して話せる雰囲気をつくることに努めた。また、インタビューの安全性と調査の信頼性を確保できるようにした。

ク．調査項目

通信制高校出身の学生が専門学校へ進学した経路、専門学校での生活や学習、受けた支援の効果等について調査。「学習面」「経済面」「心理面」の三つの側面から各時点での経験を質問し、満足度や困難さについて測定できる設計とした。以下に項目の概要を記す。これらの項目で事前アンケートを行い、その回答をもとにインタビューで深掘りを行った。

【Part 1】通信制高校について

・通信制高校選択理由
・高校での学習スタイル
・在学時の学校以外での活動
・通信制高校に入ってよかったこと／困難だと感じたこと
・全日制高校からの転校経験

【Part 2】専門学校への進学について

・専門学校進学を考え始めた時期
・専門学校進学のきっかけ
・専門学校を選んだ理由
・進学先選択の決め手になったこと
・進学について相談した相手
・進学をあきらめそうになった経験

【Part 3】専門学校進学時の困難要因（①学習面）

・入学前の学力に対する不安度
・特に不安だった分野
・入学後の授業の難易度
・教材や課題の難易度
・全日制高校出身者との学力差

【Part 4】専門学校進学時の困難要因（②経済面）

・学費調達方法
・奨学金利用の満足度
・アルバイトと学業の両立
・在学中の学費、生活費に対する困難度
・入学後の予想外費用

【Part５】専門学校進学時の困難要因（③心理面）

・新しい環境への適応不安
・同級生との間で難しさを感じた経験
・通信制高校出身であることを話したか
・自信のなさや劣等感を感じた経験
・相談できる仲間の有無
・規則正しい生活ができているか

【Part６】専門学校の総合的な印象・有効だった支援

・入学前の期待と現実のギャップ
・在学中の総合的な満足度
・通信制高校での経験の活用
・入学前に有効だった支援
・入学後に効果的だった支援
・総合支援室（学習相談窓口）の個別相談利用経験
・入学前から卒業までにあればよかったと思う支援
・最も効果的だったと思う支援

【Part７】今後の意向等

・将来の進路意向／今後の就労希望
・地域への愛着意識の程度

ケ．分析の方針と内容

事前ＷＥＢアンケートによる定量データおよびインタビューによる定性データから、時系列・進学ルート別に分析を行う。併せて、過去から現在までに当法人で実施している支援について項目ごとにその有効性を整理する。これにより現状把握と課題抽出を行い、今後に向けての方向性の検討、特に専門学校入学前後の支援プログラムの強化設計への反映につなげたい。

(4)対象者について

調査対象者の属性は下表のとおりである。

インタビュー対象者は当法人の運営する専門学校のうち、ＹＩＣ情報ビジネス専門学校（以下、本校）の学生４名、および卒業生１名である。学科や年次、高校時代の経験や今後の意向等において様々な属性の人物で構成し、多様な意見や情報を得られるようにした。なお学生の所属学科は情報ビジネス科とホテルブライダル科の二つで、学年は１年次生３名と２年次生１名である。今後の進路意向も、県内就職や地域問わない就職、未定、と様々である。

卒業生は２年前に本校を卒業し、現在は県外の人材派遣・人材代行業に勤務しており、現職を継続する意向である。

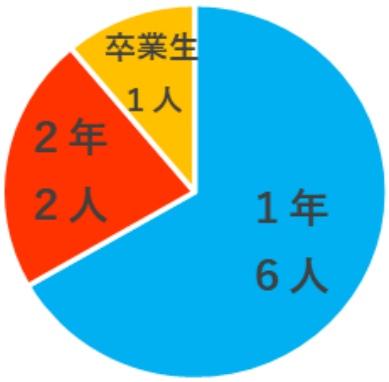
またインタビュー対象者以外で事前アンケートのみ回答の学生（４名）についても、属性の偏りに配慮しバランスよく構成した。学生の所属学科はホテルブライダル科１名とメディアデザイン科３名、学年は１年次生３名と２年次生１名である。今後の進路については４名全員が卒業後の就職を希望している。

対象者の出身高校については、インタビュー有り、アンケートのみのどちらの形式においても「私立広域制」「私立狭域制」「公立」のすべての区分の出身者がいる構成となっている。

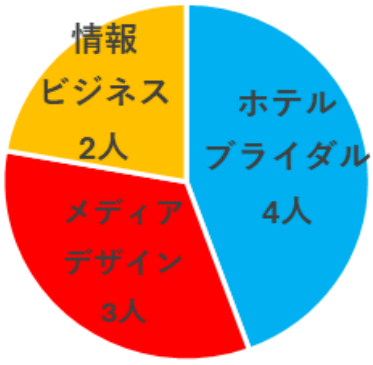
【対象者の属性一覧】

№	名前	性別	出身高校の類型	全日制からの転校経験	今後の進路意向	調査内容
1	Aさん	男性	私立広域制	なし	就職(県内/県外)	事前アンケート＋インタビュー
2	Bさん	男性	公立(県立)	あり	未定	
3	Cさん	男性	公立(県立)	なし	就職(県内/県外)	
4	Dさん	男性	私立広域制	あり	就職(県内) ※就職先決定済	
5	Eさん	女性	私立狭域制	あり	現職を継続	
6	Fさん	男性	私立狭域制	なし	就職(県内/県外)	アンケートのみ
7	Gさん	女性	私立狭域制	あり	就職(県内)	
8	Hさん	男性	私立広域制	なし	就職(県内/県外)	
9	Iさん	男性	公立(県立)	あり	就職(県内)	

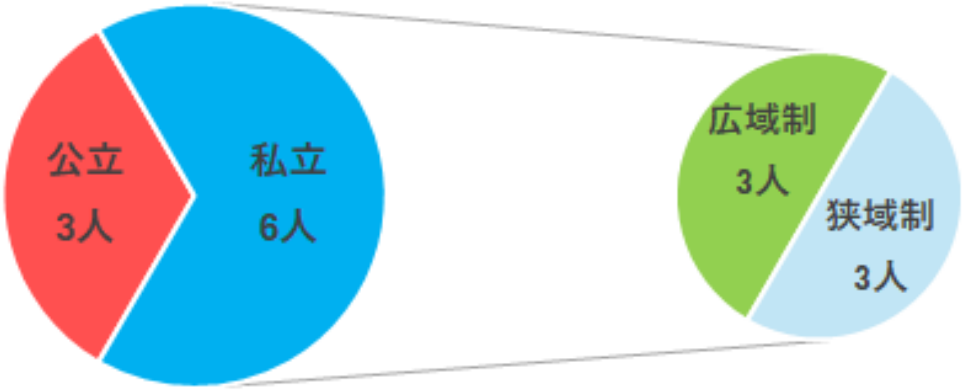
【学年】



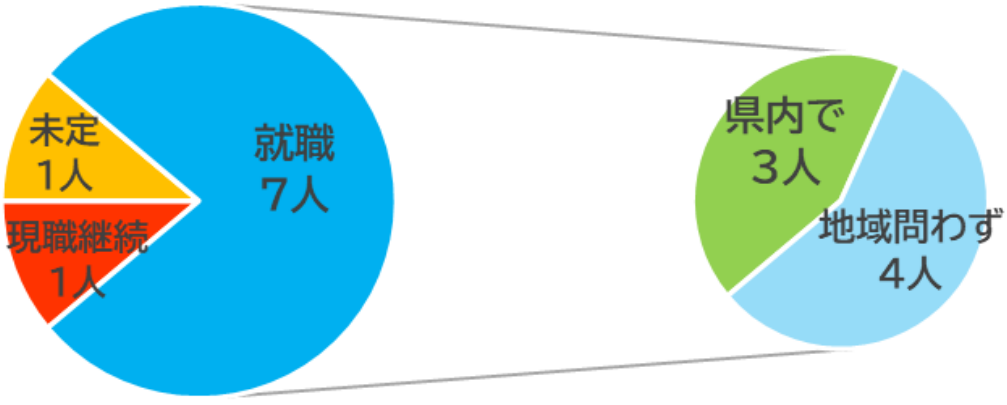
【学科】



【出身高校の類型】



【今後の進路意向】



4－2. 調査結果の整理と考察

事前アンケートおよびインタビュー、２種類の調査の実施により、定量・定性の両面で結果を得ることができた。ここではそれらの結果について、対象者のステージや要素ごとに整理し、考察する。

(1)通信制高校時代の経験

ア．通信制高校選択の理由

通信制高校の選択理由としては「人に勧められた」「全日制に通うのが難しかった」がそれぞれ５件と最も多かった。体調不良や人間関係を要因とする不登校状態を経験したことにより毎日通学して学習する全日制のスタイルに不安を感じ、通信制を選択した人が多いことがうかがえる。こうした状況は中学生時代だけでなく高校進学後にも生じており、一度全日制高校に入学したものの在学中に同様の状態となり、通信制高校に転校、または同一高校内の通信課程へ転籍した学生は５人に上っていた。

アンケートで「人に勧められた」を選択した４人に、勧めた人について具体的に尋ねたところ、４人全員が「親」と回答した。心身の不調や環境の変化により学業継続に困難を感じていた生徒にとって、最も身近で信頼できる家族の情報提供や助言は進路選択の重要な要因になったとみられる。

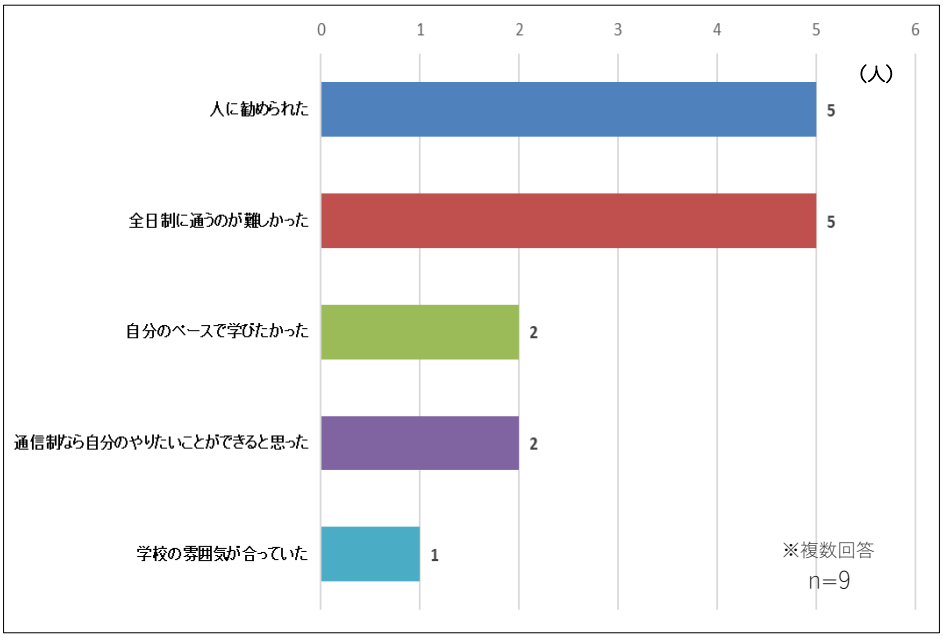
また、高校に通いつづけられるか不安を抱えながらも、いわゆる「中卒」で学業が終わってしまうことへのためらいを感じた学生も見られた。例えば中学時代に不登校を経験したが「中卒では将来的に不利になるのではないか」という思いから通信制で高校卒業を目指すことを決断したと語った学生は、不安を抱えつつも何とか学びを続けられる方法を模索した結果、通信制高校への進学を選択したといえる。これらのことから、通信制高校は全日制高校のような「毎日・決まった時間」の登校が困難な生徒にとって、高校卒業資格を取得するための唯一無二の選択肢（セーフティネット）として機能している可能性が示唆される。

一方で、「自分のペースで学びたかった（２件)」「通信制なら自分のやりたいことができると思った（２件)」「学校の雰囲気が合っていた（１件)」など、自分の学習環境や進路を検討する中で通信制高校の特徴を好意的にとらえ、進んで選択している学生もみられた。例えばある学生は「中学時代からサッカーの社会人チームに所属しており、サッカーを中心とした生活を送るために授業時間の制約が少ない通信制を選択した」と語っている。学業以外の活動に集中したいという明確な目標を持つ学生にとっても、通信制高校は有力な選択肢の一つとなっていた。

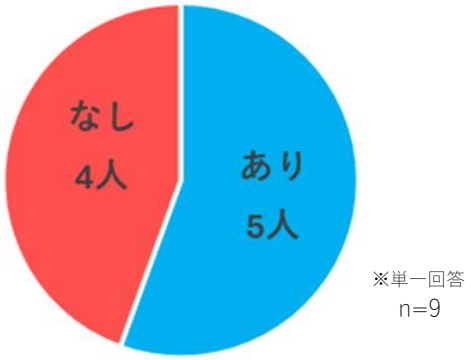
以上のことから、通信制高校はその柔軟性を背景に、従来の全日制のような一斉形式の授業や集団的な学校生活への適応が困難だった生徒たちが過去の経験にとらわれることなく、自分の意思で目標を追求したり、生活を再構築したりすることを可能にする学習環境を提供していると考えられる。また、個々の特性や志向に応じた多様なニーズに対応する「個別最

適な学び」の場としても選択されていることが明らかとなった。

【通信制高校を選択した理由】



【全日制からの転校経験】



イ．通信制高校での学習スタイル

通信制高校における主な学習方法としては、「スクーリング（対面授業）中心で学習（６件)」が最も多く、「教材や動画を使って自宅で学習（４件)」「個別指導・マンツーマン授業などのサポートを利用（１件)」が挙げられた。

インタビューでは「週１回の日曜日のスクーリングを中心とし、それ以外の時間は自宅でレポート作成や動画視聴を行っていた」や、「授業時間が決まっておらず受講した分だけ単位が認められる仕組みであったため、自分で受講する教科を自由に選択できた」という声が聞かれた。このようにスクーリングと自宅学習を併用している学生が多く、学習方法の割合や組み合わせは、個々の状況や希望に応じて多様であった。

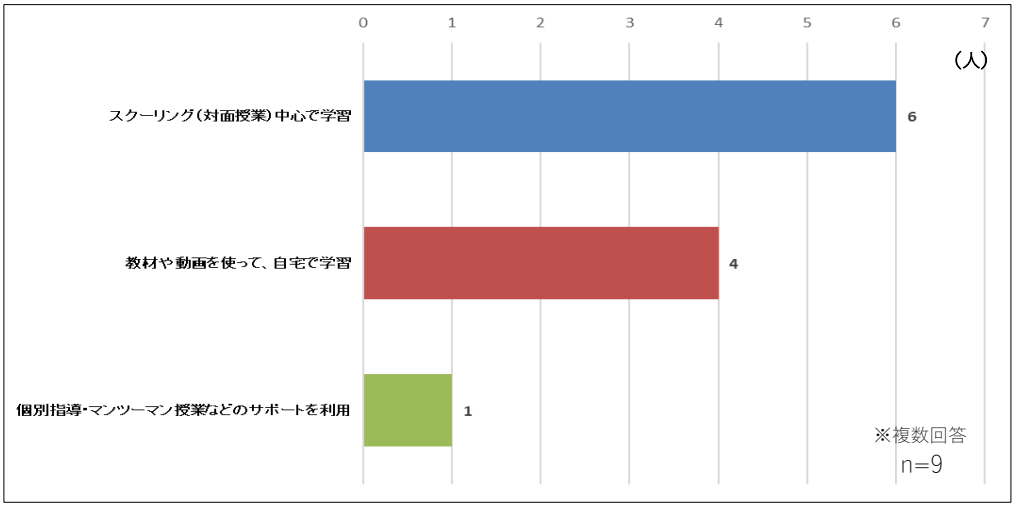
スクーリングの形式については「対面中心で授業を受けていたが、グループワークなどがほとんど無かったため、他の生徒と深く関わることなく通学学習ができた」という回答もみられた。このことから、スクーリングの形式により、対人関係での不安を抱える学生であっても、心理的負担を抑えながら参加できる学習環境が提供されていた可能性が示唆される。

また、全日制課程と通信制課程を併設している高校の中には、全日制の生徒と合同で学校行事に参加することができるような仕組みを設けているところもあり、「修学旅行に参加した」という学生の声も聞かれた。このように、希望に応じて高校生活ならではの多様な行事や校内活動へ参加可能である点も、通信制高校の一つの特徴であることが分かる。

このように、多くの人が通信制高校の学習時間と学習内容の柔軟性を活かし、時間や場所にとらわれることなく、自身の目標や生活状況に合わせて学習を進めてきたことがうかがえる。一方で、こうした通信制高校のメリットは、卒業に向けて自分自身で学習の計画の立案と実行を行い、管理する必要があることから、高い自己管理能力が求められるという側面を併せ持っている。この点については、困難を感じたという声も多くあった。例えば、「全日制高校は学校に行けば授業が用意されているが、通信制は自分で取り組まなければ学習が進まない」「科目によってレポートの回数が異なり、回数の多いものは締切直前になることもある」といった意見も挙げられ、通信制高校での学びには高い自律性が求められることが浮き彫りになった。

さらに、「単位制のため受ける教科を自由に選択できたことにより、興味のある分野に学習内容が偏ってしまった」という声もあり、通信制の自由度の高さは、場合によっては学習の幅を狭めてしまう可能性があるという側面も示唆される。

【通信制高校での学習スタイル】



ウ．学校以外で取り組んでいた活動

アンケート結果によると「アルバイトをしていた」との回答が最も多く、7件あった。これに「部活動やサークル活動」「ボランティアや地域活動」「習い事・スポーツ・創作活動」（各2件）が続いた。他に「資格取得・専門スキルの勉強（1件）や「家事・介護などを担っていた（1件)」という回答も見られた。今回の調査では、「学校以外での活動はしていない」という回答はなかった。

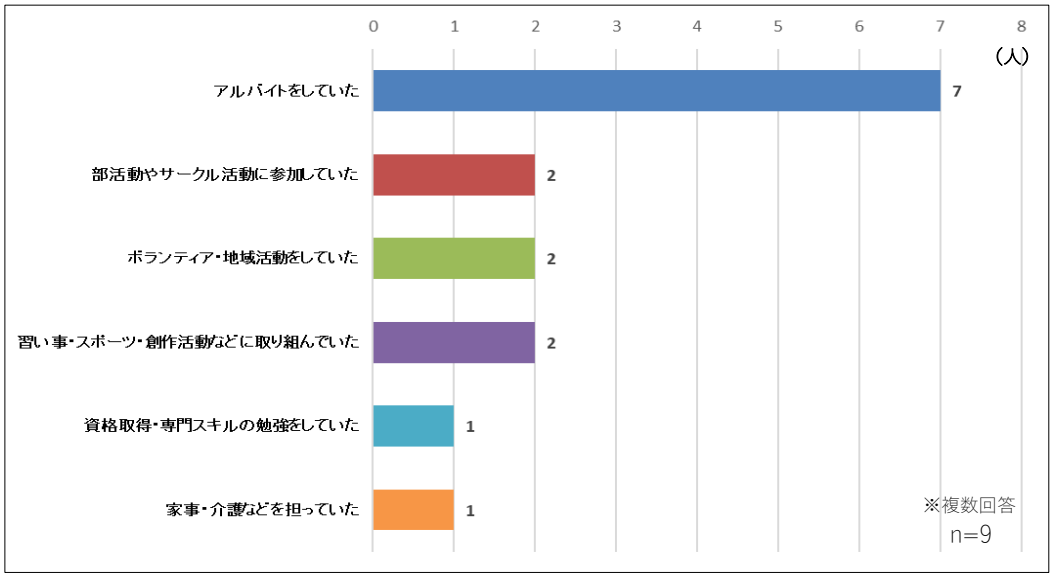
特に取り組み経験の多いアルバイトについては、インタビューで詳細を聴取した。例えばある学生は人間関係の構築がうまくいかなかった経験から対人不安を抱えていたが、コンビニエンスストアのアルバイトが周囲との関わりを持つきっかけとなり、「その後もアルバイトを続けたことにより人との関わりへの不安が軽くなった」と語っている。また「通信制高校では人と喋らない生活になってしまい、そこから脱却するために飲食店のアルバイトを続けた」、「アルバイトによって決まった時間に出勤するようになり、生活のリズムが安定した」という声も聞かれた。これらのことから、アルバイト先は単なる収入源としてだけでなく、学校や家庭とも異なる「第3の居場所」として機能していたと考えられる。人間関係の経験を積む場として、社会性やコミュニケーション能力の向上に寄与していた点は、通信制高校に在籍する学生にとって重要な意味を持っていたといえる。

スポーツ活動では、学外チームでの活動だけでなく、学内の部活動に取り組んだ学生もいた。ある学生は「通信制高校に転校した際、全日制高校で行っていたスポーツの部活動がなかったため、学校に働きかけて部を設立し全国大会に出場した」という経験を語っている。

そのほかにも、パソコン関連の資格取得や地域のボランティア活動、家庭内で家事を担うなど、多様な活動を行った人もいた。複数の活動を同時に行っていた学生も4人に上り、多くの学生が学業と並行して学校外・学校内の活動に積極的に関わっていたことが分かる。

通信制高校における自由な時間の使い方は学生によって様々であるが、多くの学生が個々の目標や生活状況に応じて能動的な活動をすることで学校生活だけでは得ることができない経験や学びを獲得している実態が明らかになった。

【学校以外で取り組んでいた活動】



エ．通信制高校に通って「良かった」と感じた点

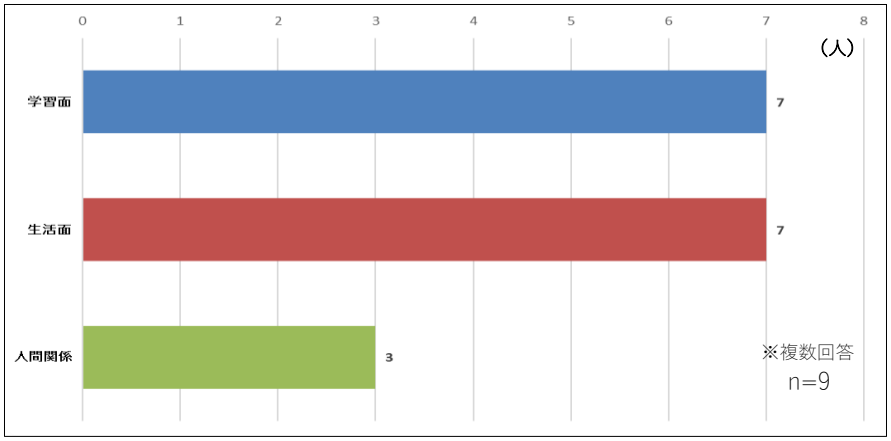
通信制高校に通って良かったと感じる点について、「学習面」「生活面」「人間関係」の三つの側面からどのように評価しているかを把握するため、アンケートで調査を行った。

その結果、「学習面」と「生活面」を挙げた回答が多く、それぞれ７件あった。学習面では「自分のペースで学べた」「理解しやすかった」「課題提出に柔軟性があった」などが評価され、生活面では「通学日数や時間の自由があった」「自分の時間を有効に使えた」という点が評価された。いずれも通信制高校の特徴を好意的に、メリットとしてとらえた評価である。複数の項目を選択した学生が６人に上り、またすべての項目を選択した人も２人おり、多くの学生が通信制高校に通って多方面で好意的に捉えている様子がうかがえる。

良かった点についてインタビューで具体的に尋ねたところ、「学業の傍らアルバイトをする中で対人への不安を乗り越えることができた」「サッカーをやり遂げるために、自分を律して学業と両立させた」「自分で部活動を立ち上げ大会に出場したことで、自分が変わらなければいけないという強い気持ちを持つことができた」といった話が聞かれ、アルバイトやボランティア、スポーツ等学業以外の活動で自分の目標を達成した経験が精神的な回復や自己成長につながっていることが読み取れる。また「修学旅行で宿泊先のホテルマンの仕事姿に感銘を受け、将来の夢としてホテルマンを考えるようになった」という学生のように、学校行事での経験を通して自分の新たな目標やキャリア観の発見につながったケースも確認された。

これらのことから、通信制高校での学びや柔軟な学習環境を活かすことが個人の目標達成を可能にしたり、生活面においては心身の安定や回復、さらにはその後の進路や人生の指針を見いだす契機にもなっていることが明らかになった。

【通信制高校に通って「良かった」と感じる点】



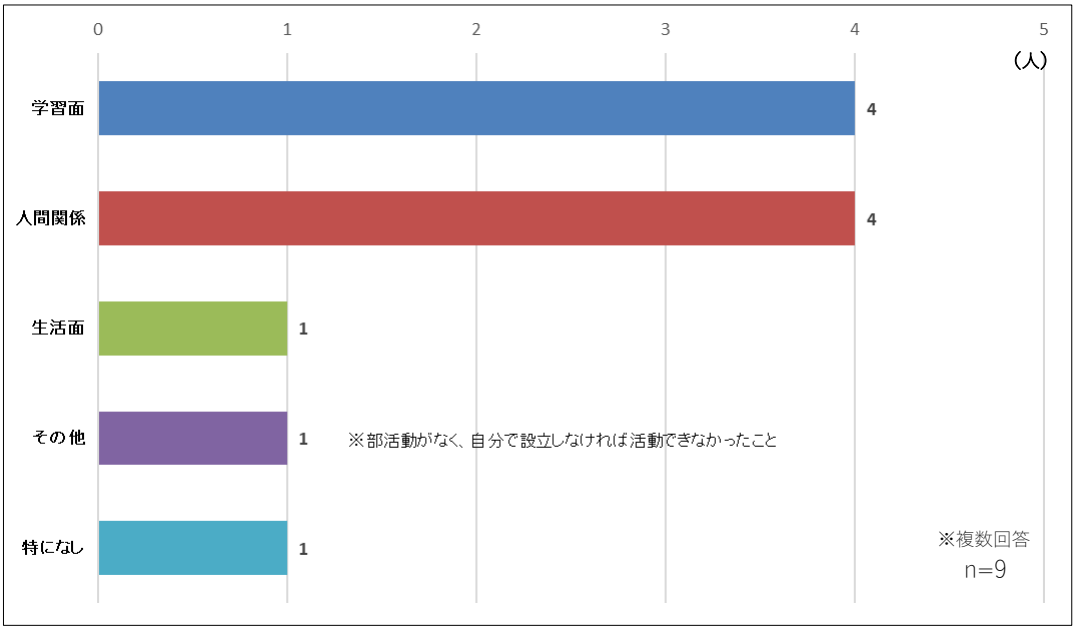
オ．通信制高校で困難を感じた点

アンケートでは「学習面」と「人間関係」が最も多く挙がり、それぞれ４件あった。次いで「生活面」「その他」「特になかった」がそれぞれ１件であった。

学習面について、インタビューでは「全日制と異なり、授業で先生から教えてもらう機会が少なく個人で勉強に取り組む必要があったため、学習している内容が正しいのか、学力的な面で不安があった」「勉強が苦手で中学時代から周りとの差を感じていたので、自発的に勉強することが不安」といった声も聞かれ、特に勉強内容に難しさを感じていた様子がうかがえる。そして複数の学生が先の「通信制高校で良かった点」においても「学習面」を挙げており、柔軟な対応が可能な通信制高校の学習スタイルは大きなメリットである一方で、自分で学習を管理する困難さがデメリットにもなりうることを表している。

通信制高校の柔軟性は、人間関係の構築面でも影響を及ぼしているようである。「クラスが決まっているわけではないため、人と喋らない生活が続いて本当にきつかった」「スクーリング等は自由登校なので、いつも学校や教室にいる人が違う。仲良くなっても次にいつ会えるかわからない」という状況があり、対人面での不安がそれほどない人にとっては、友達づくりなど継続的な人間関係を築く機会が制限され、孤独に感じることもあったようだ。

【通信制高校で困難を感じた点】



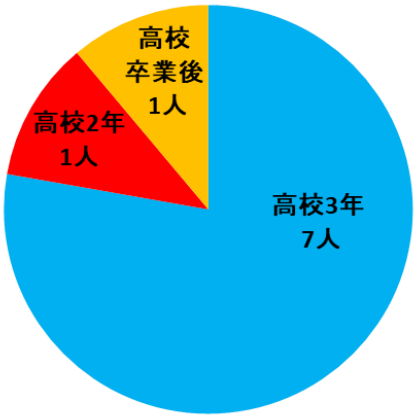
(2)専門学校進学の経緯

カ．専門学校への進学を考え始めた時期

アンケートでは７人が「高校３年生」と回答し、最も多くなった。以下、「高校２年」が１人、「高校卒業後」が１人となっており、高校卒業を目前に控えた最終学年で具体的に検討し始めるケースが多いことが分かった。

「高３になって進路をどうしようかとなった時に、通信で週１回しか学校に行っていないのに、そのまま会社に就職しても大丈夫だろうかと思った」「大学進学もいいなと思っていた」のように、自身の体調や学習ペース、卒業後の社会生活への不安などを考慮し、自分に合った環境を選択するため、進路決定のぎりぎりのタイミングまで検討している背景が見える。

【専門学校への進学を考え始めた時期】



※単一回答
n=9

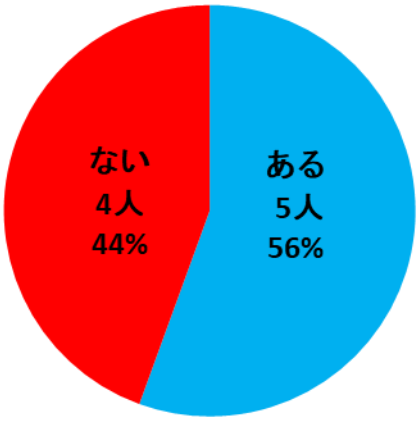
キ．進学をあきらめそうになった経験

アンケートでは９人のうち５人が「進学をあきらめそうになった経験がある」と回答しており、通信制高校からの進学に際しては多くの生徒が困難を感じていることがうかがえる。

あきらめそうになった理由としては「学力面」「体調不良」「人と関われるか心配」などが挙げられた。通信制高校での柔軟な学習・生活スタイルから新しい環境に踏み出すことへの不安によるものが中心となっていたと思われる。

インタビューではこうした不安に対して、さらに詳しい話を聞くことができた。例えば「とにかく勉強が苦手で心配だった」「精神疾患を患い、最初は高校にも行くつもりはなく中卒で働こうと思っていたので、将来も考えられなかった」「アルバイト以外で外に出て人と関わっていなかったため、このまま就職しようと思っていた」などの声が聞かれた。通信制高校入学時に抱えていた不安要素が再び表面化し、次のステージに向かうに際にも困難として立ちはだかっている様子が浮かび上がった。そして、これらの困難を乗り越えて専門学校への進学を決断していたことも明らかになった。

【進学をあきらめそうになった経験】



※単一回答
n=9

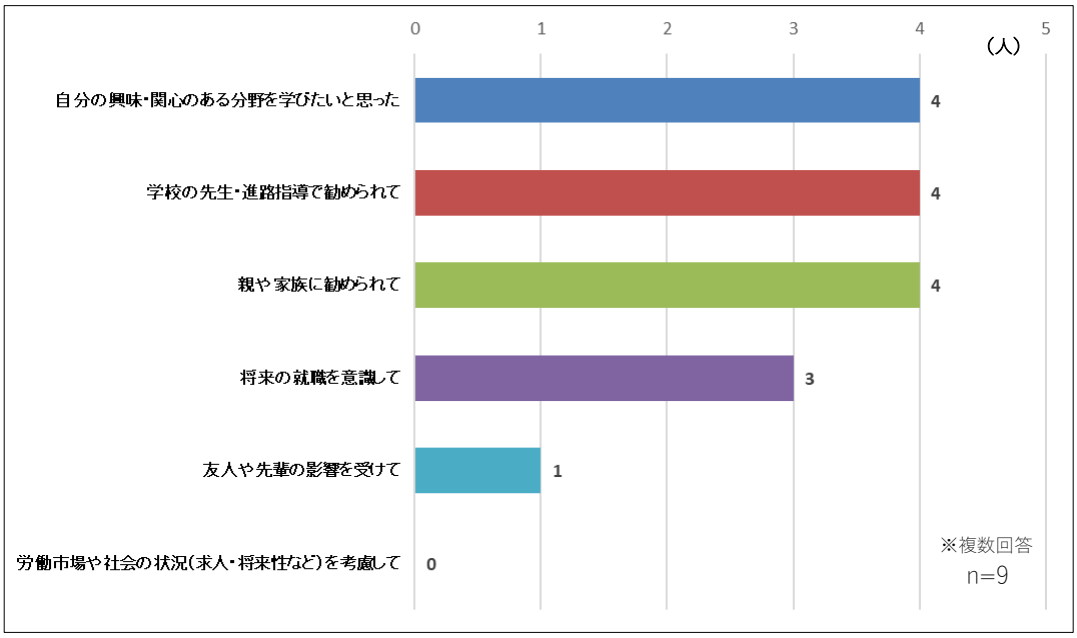
【理由】アンケートの自由記述（「ある」と回答した５人）

・高校生の時は昼夜逆転しており、人とあまり関わらない生活を選びがちだったため
・外に出て人と関わっていなかったため、新しい環境に行きたくなかったため
・高校３年の頃体調を崩して起きられなかったため
・学力
・考えすぎて、面倒くさくなった

ク．専門学校進学のきっかけ

専門学校への進学を考えるきっかけとなったこととして最も多かったものは「自分の興味・関心のある分野を学びたい」という自分の意思によるものが４件であった。次いで「学校の先生・進路指導の勧め」「親や家族の勧め」といった、身近な人からの勧めによるものがそれぞれ４件であった。ほかに「将来の就職を意識して（３件)」「友人や先輩の影響（１件)」があった。複数の項目を選択している回答者は４人で、本人の意欲に周囲の意向や助言が加わって、専門学校への興味を深めていることがうかがえる。

【専門学校に進学しようと思ったきっかけ】



ケ．専門学校を選んだ理由

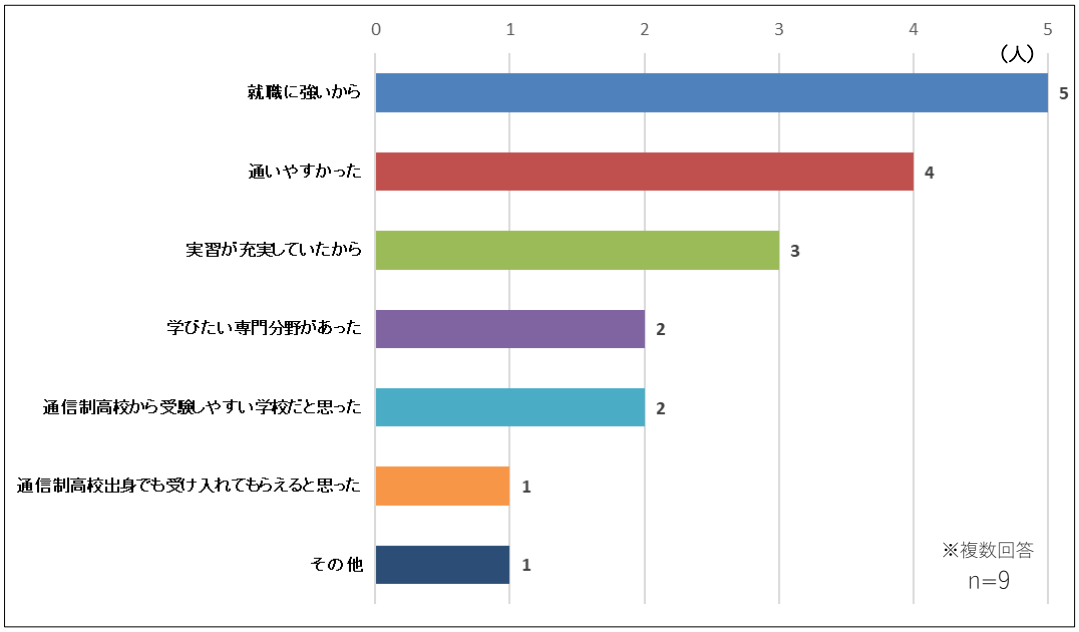
様々な進学先がある中で専門学校を選んだ理由として最も多かったものは「就職に強いから」で５件の回答があった。次いで「通いやすかった（４件)」「実習が充実していたから（３件)」「学びたい専門分野があった（３件)」が続いた。ほかにも「通信制高校から受験しやすい学校だと思った」「通信制高校出身でも受け入れてもらえると思った」という回答がそれぞれ１件ずつあった。

インタビューで学生たちからは「接客業希望で、ビジネスマナー全般を体系的に学べる点に魅力を感じて情報ビジネス科を選んだ」、「ブライダルだけでなく、企業の事務職などいろいろなところで生かせることを学べると考えてホテルブライダル科を選んだ」といったように、「就職に強い」だけでなく、自身のキャリアを見据え、希望する分野での具体的なスキルを身につけることを目指し、それが可能な専門学校への進学を希望した人が少なくないことがわかる。

また、「通いやすい」「通信制高校から受験しやすい」「通信制高校出身でも受け入れてもらえる」といった回答からは、自身の背景を受け入れてもらえるかどうかや、毎日自分で通学

することに対する体力的・精神的負担なども考慮している様子がうかがえる。インタビューでは「通信制高校は週１回の登校だったので、一度専門学校に行って規則正しい生活習慣を作っておくべきだと考えた」「家から近くて通いやすい」といった話も聞かれ、専門学校は多様な不安を抱える学生にとって、安心して次のステージに進むことができる進学先として選択されていることがわかる。

【専門学校を選んだ理由】

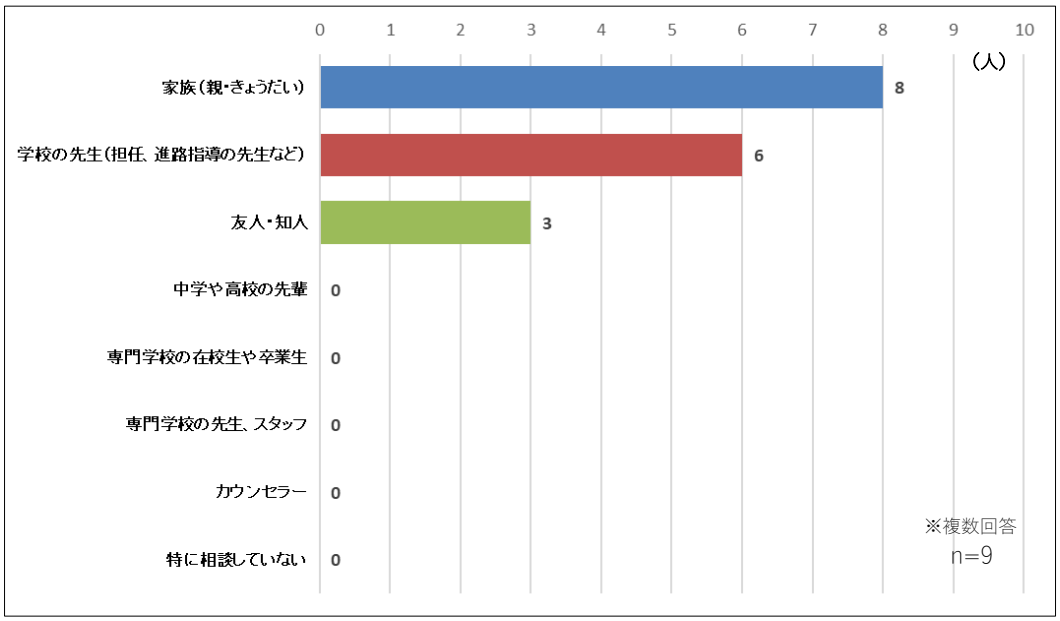


コ．専門学校進学を相談した相手

９人全員が、進学について誰かと相談しており、相談相手として最も多かったものは「家族（親・きょうだい）」で８人であった。次いで、「学校の先生（担任、進路指導の先生など）」が６人、「友人・知人」が３人と続いている。複数の相手に相談した人も７人おり、多くの学生が身近で信頼できる相手を持ち、助言を得ていることが分かった。

家族と学校の先生からの助言は特に大きな影響を与えたようだ。例えば「当初は就職を考えていたが、親から『専門学校に行って資格を持っておいた方がいい』と勧められて進学に傾いた」また「自分の性格（恋愛相談に乗るのが好きなど）を考慮して父親からホテルブライダル科を提案された」という学生のように、家族からは対話の中で進路の提案があったというケースが多い。学校の先生からは、「個人面談を行い、就職のことなどを詳しく教えてもらった」「Ｅｘｃｅｌの１級が取れるから行ってこい、と背中を押された」といった、進路や学習についての具体的な助言があったことで前進できた人も多い様子で、理解者である家族と専門的な助言者である先生の両方のサポートを得たことが奏功した可能性がある。

【進学についての相談相手】



サ．専門学校進学の決め手

高校生が当法人の専門学校へ進学することを決めたとき、その決め手となったものは何か、アンケートで質問した。「すべてを選択（複数回答）」「一番の決め手を一つ選択（単一回答）」の２種類の形式で質問を提示し、それぞれ回答してもらった。

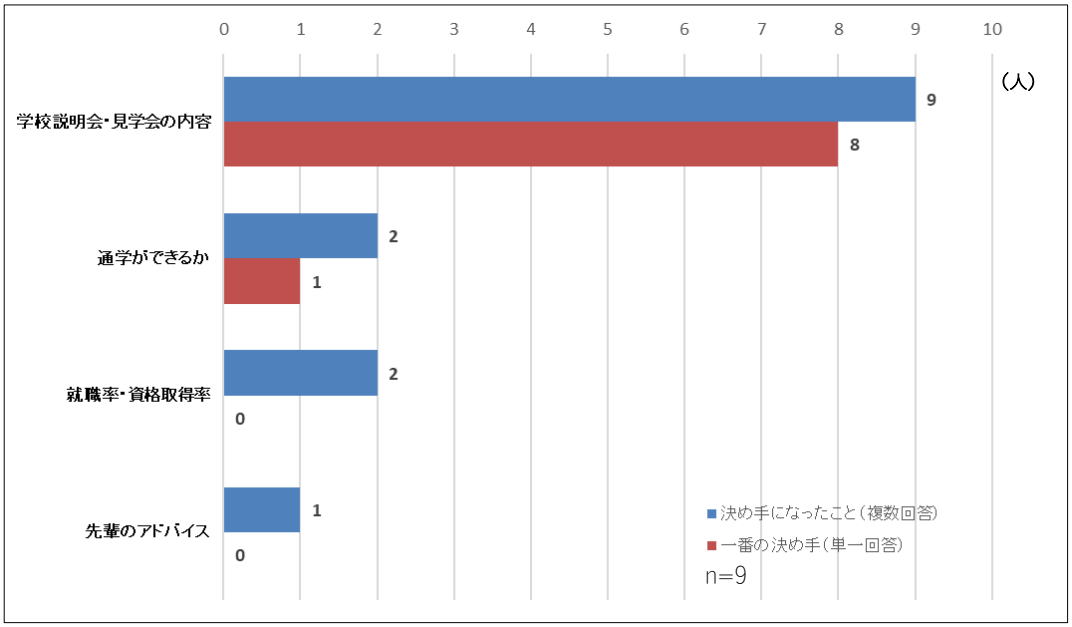
「学校説明会・見学会の内容」は９人全員が挙げており、うち８人の一番の決め手にもなっていた。次に多い「就職率・資格取得率」は複数回答で２人が選択しているものの、一番の決め手にはなっていない。

学校説明会・見学会について、インタビューでさらに質問を深めたところ、「オープンキャンパスで先輩から『この学校の面接は堅苦しくないよ』という話を聞いて安心した」「オープンキャンパスのウエディングドレス試着体験で先生が何度も『似合っている』と褒めてくれて、壁を感じないこの先生なら良いと思った」といった具体的なエピソードを聞くことができた。当法人のオープンキャンパスでは体験授業や、在校生・教職員と話せる場を設けており、学校の雰囲気や在籍者の様子を自分で確かめることができる。一番の決め手を「通学ができるか」とした一人についても、複数回答式の質問では「説明会・見学会の内容」を選択しており、オープンキャンパスに参加して実際に通学できるかを確認したことで専門学校への進学を決めたとみられる。また、オープンキャンパスではなく個別説明会に参加した学生は、「説明会で現在の担任の先生と面談をして、クラスが担任制で、困ったことがあってもすぐに対処してくれると聞いた。就職のことなどを詳しく教えてもらい、具体的な進路の道筋が見えた」と話していた。

このように、対象者は就職率・資格取得率等のデータや交通アクセスも含めた複数の情報から自身の進路を検討している。一方で実際にオープンキャンパス等に参加して自分の目で

見て体験する機会を持つことで納得感を感じ、確信を得て進路決定に至っていることがわかる。特に在校生や教職員といった、学校生活の実情をよく知る教育活動の当事者と接することで不安が軽減され、「ここで学びたい」「受け入れてもらえている」という実感が進路決定の後押しとなっていると考えられる。

【専門学校進学の決め手になったこと】



(3)専門学校での経験

シ．学習面

(ア) 入学前の学力不安

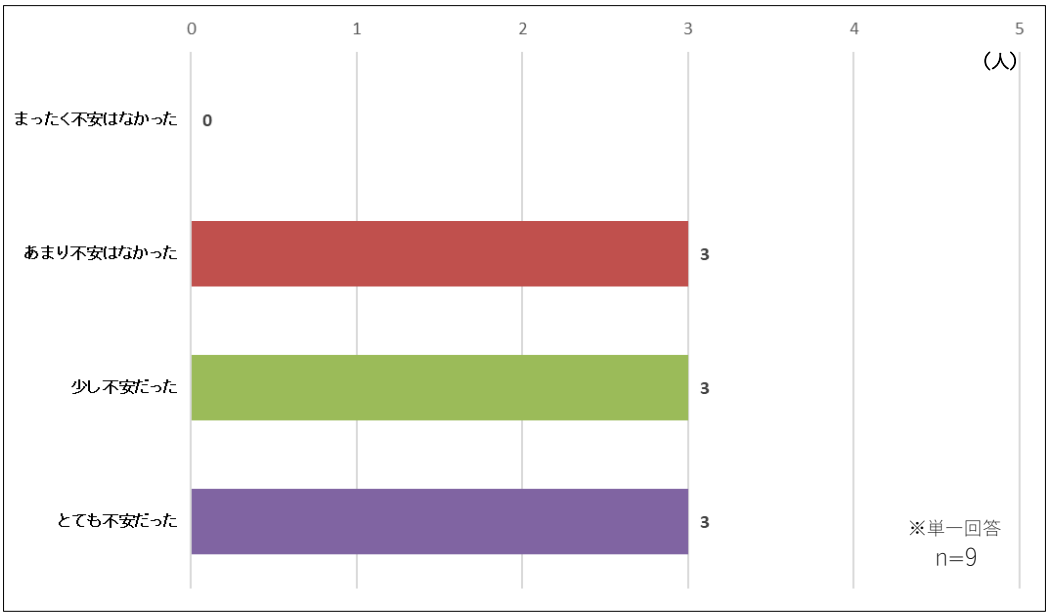
アンケートによると、専門学校入学前に持っていた学力に対する不安について「とても不安だった」「少し不安だった」「あまり不安はなかった」がそれぞれ３人と分かれた。不安が「まったくなかった」と回答した人はおらず、程度の違いはあるものの、全員が学力面で何らかの不安を抱えていた。

具体的に不安を感じた分野は「国語・数学などの基礎学力（以下、基礎学力と記す)」が６件と最も多く、次いで「実習・実技」「パソコンやＩＴのスキル」が４件、「専門分野の基礎知識（３件)」となった。「基礎学力」とそれ以外の項目（以下、「専門的知識技能」としてまとめる）に分けると、基礎学力のみを挙げた人が２人、基礎学力と専門的知識技能の両方で複数の項目を挙げた人が４人いた。このことから、専門学校で学ぶ専門的知識技能よりも高校までの基礎学力への不安が強い人や、専門的知識技能に加えて基礎学力にも不安を感じる人がいるとわかる。

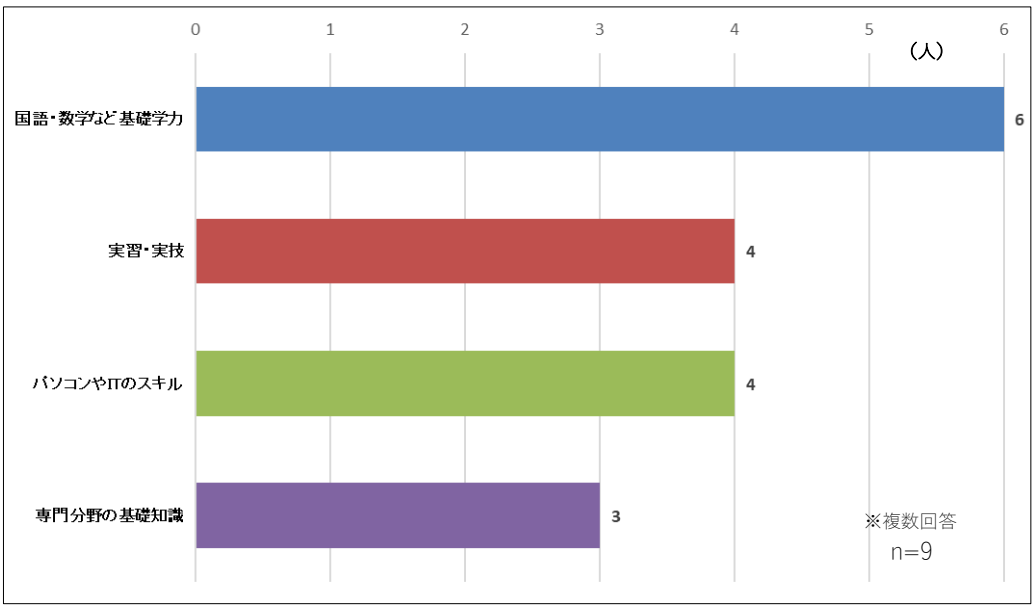
また、「基礎学力」を挙げた６人のうち３人は、先の「通信制高校で困難を感じた点」の質問でも「学習面」を挙げていた。インタビューでは「小学生の時から算数も国語も大嫌

いで苦手なので、不安だった」「通信制高校では自分の好きな教科を自由に決めて学んでいたので好きな方向に偏ってしまっており、自分の学力が全日制出身の人と比べて通用するか不安だった」との声が聞かれた。幼いころからの根深い苦手意識や、自由度の高い通信制高校と全日制高校との学習環境の差の懸念が、入学前の基礎学力に対する不安につながっていることがうかがえる。

【専門学校入学前の学力に対する不安】



【不安だった分野】



（イ）専門学校の授業や教材について

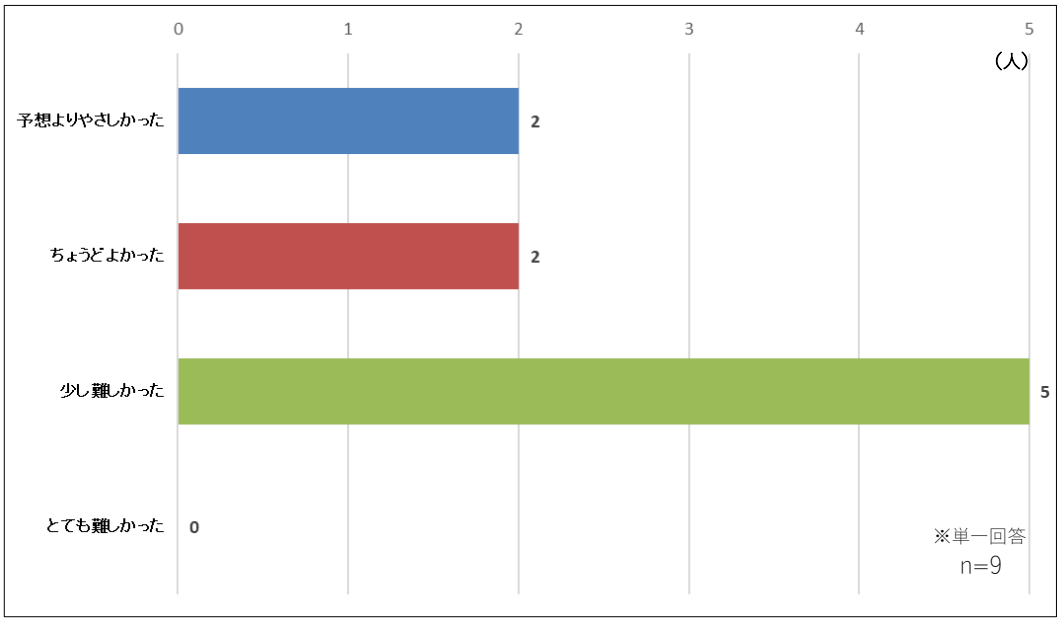
専門学校での授業についてもアンケートで質問をした。

「授業内容の難易度」は、「少し難しかった」が５人、「ちょうどよかった」「予想よりやさしかった」がそれぞれ２人であった。また、「授業で使用する教材や課題の難易度」については「ちょうどよかった」「少し難しかった」がそれぞれ４人で、「予想よりやさしかった」が１人であった。授業内容、教材や課題のいずれにおいても「とても難しかった」とする回答は今回ゼロであった。

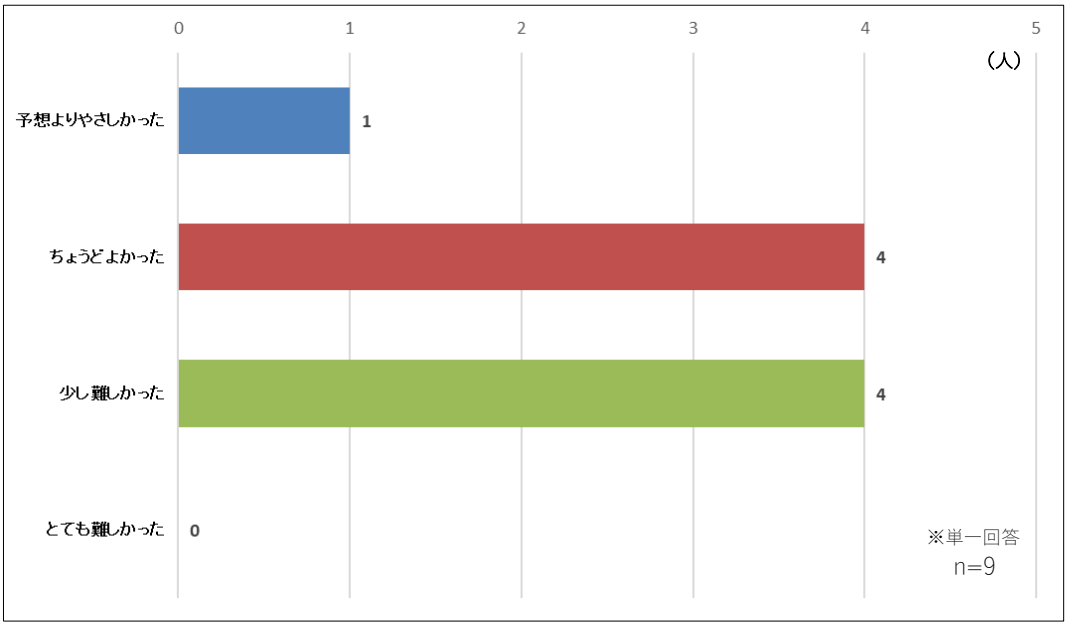
入学前、基礎学力に不安を感じていた学生は「授業で国語や数学、英語はあまり使うことがないので、ついていけている」、また、専門分野の基礎知識に不安を感じていた学生も「簿記が好きです。解けると面白いです」と語っている。ビジネス系やホテルブライダル系といった専門的な学科の授業は専門的な内容に特化しており、基礎科目で習得した知識を活用する場面があまりないためか、学生は一定の難しさを感じつつも、当初思っていたほどではないと受け止めている様子がうかがえる。

教材についてもそれほど難解であるとはとらえられていない。具体的には「授業の本題に入る前にクイズ形式の問題が提示される」「授業の中で、班ごとにカードゲームを作成する」など、既存の参考書や教科書といった教材だけでなく、多様なツールや方法を用いて授業が展開されることにより、学生はそれほど大きな不安を感じることなく授業に参加できていると考えられる。

【授業の難易度】



【教材・課題の難易度】

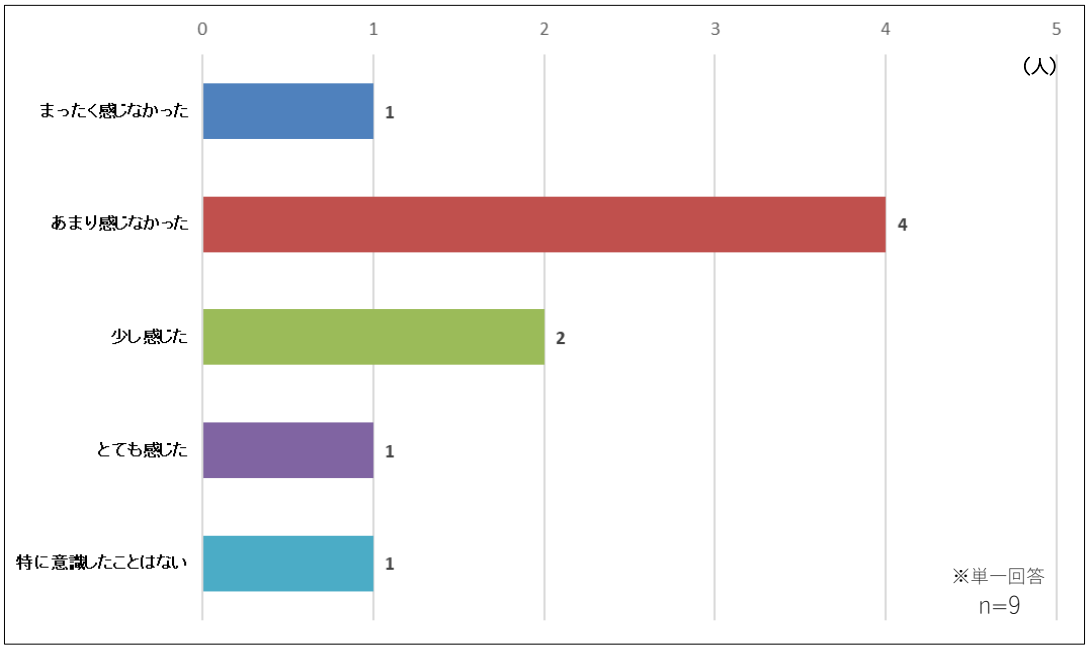


(ウ) 全日制高校出身者との学力差

前述のとおり、入学前には「全日制高校の生徒と比べて自分は劣っているのではないか」という不安を抱いていたものの、実際に入学した後はそうした差をそれほど感じなかった様子がうかがえる。アンケート結果では半数以上の学生が「あまり感じなかった（4人)」または「まったく感じなかった（1人)」と回答しており、「特に意識しなかった」という人も1人いた。

「少し感じた」と回答した学生にインタビューで詳しく尋ねたところ、「通信制高校では自分のペースで学習していたので、専門学校における90分授業に当初はなかなか慣れることができなかった」との回答であった。また「とても感じた」と回答した学生はやはり、これまで抱えてきた「勉強への苦手意識」が影響し、現在もなかなか自信が持てず挑戦を控えてしまうことが多いという状況が見られた。これらのことから、入学による学習環境の大きな変化や、個人が抱えている意識の違いにより、学力差の受け止め方には差異が生じていると考えられる。

【全日制高校出身の人との学力差を感じたか】



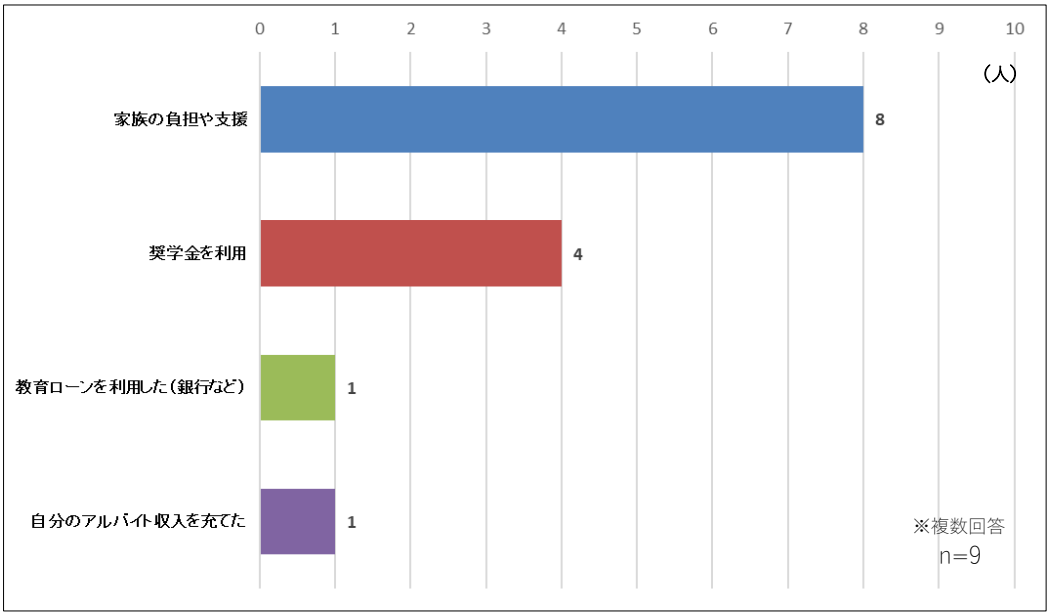
ス．経済面

（ア）学費負担

専門学校の学費の調達方法について見ると、アンケート回答では９人中８人が「家族の負担や支援で」と回答していた。家族の支援を受けず自身で負担している学生は１人であった。

あわせて、奨学金を利用している学生は４人（44%）、教育ローンを利用している学生は１人（11%）であった。これらは家族負担と併せて利用しているケースが多く、家族以外からの支援を受けて進学している学生が半数以上に上っている。

【専門学校の学費はどのように準備したか】

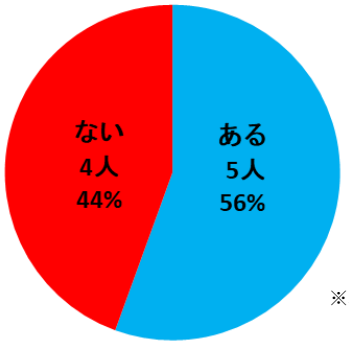


（イ）奨学金について

前述のとおり、奨学金は９人中４人が利用しており、自己負担（家族負担）による学費支出を補完する重要な手段となっている。奨学金利用者の満足度については「とても満足」と「少し満足」を合わせて 75%と、比較的高い水準であった。

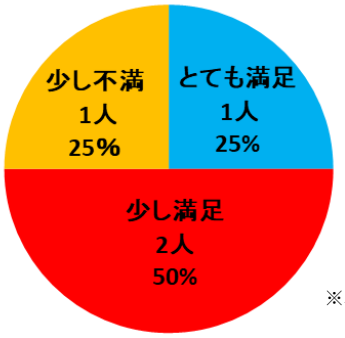
近年は返還義務のない給付型奨学金や学費減免制度などが拡充され、学生が過度に経済的な負担を負うことなく学業に専念できる環境が整いつつある。これらの制度は、学生にとっては安心して通学できる要素の一つとなっている。一方で、在学中の出席状況や成績が支給要件とされる制度もある。こうした条件は学生にとって~~は~~一定の負担感は伴うものの、「奨学金に成績も関わってくるし、もう欠席できない。それに学費を無駄にできないから、意地でも最後まで通ってやろう」と語る学生のように、自分を律して学習習慣を維持するための動機づけとして機能している側面もあると考えられる。

【奨学金の利用経験】



※単一回答
n=9

【奨学金の満足度】



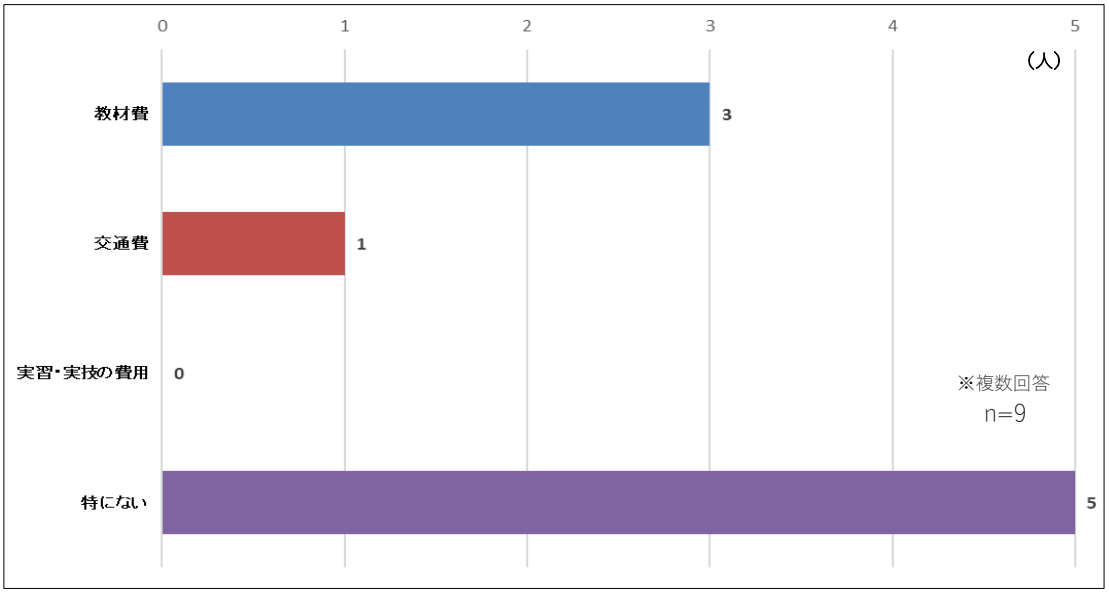
※単一回答
n=9

（ウ）経済的な困難の経験

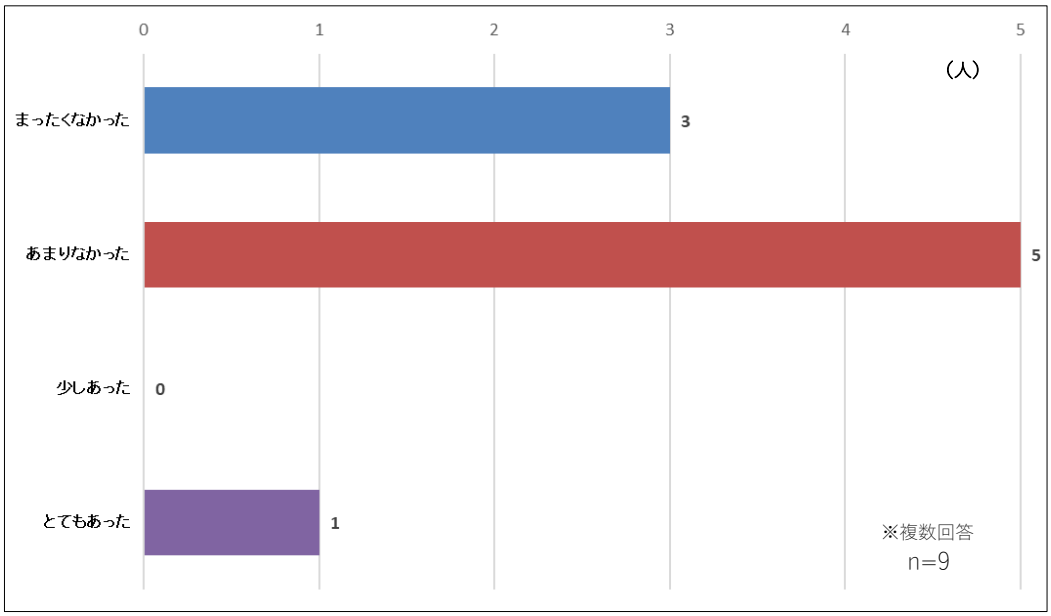
アンケート回答で「入学後の予想外の費用負担はあったか」と質問したところ、「予想外に高かった」出費として挙げられた出費は「教材費（３件）」「交通費（１件）」であった。専門的な知識を習得するためのテキストや資料代に加え、高校時に比べ通学日数が増加したことによる公共交通の利用料金が、当初の想定を上回っていたものと考えられる。一方で「特になし」という回答した学生も５人おり、過半数の人が事前の計画どおりに学費や生活費をやりくりできている様子がうかがえる。

また、専門学校在学中の学費や生活費に関する負担感について「まったくなかった（３件）」「あまりなかった（５件）」との回答が多くみられた。家族の支援や各種サポートの利用により、大多数の人が比較的安定した状況で専門学校での生活を送ることができていると考えられる。なお、在学中の学費や生活費について困難に感じた経験については「とてもあった」の回答をした学生が１人いたが、回答者が今回インタビュー対象者ではなかったため、具体的な状況については把握できていない。

【入学後、予想外にかかった費用】



【在学中の学費や生活費について困難に感じた経験】



(エ) アルバイト経験

アンケート結果によると９人中８人にアルバイトの経験があり、経験者の 75%が「問題なく学業と両立できている」と感じていた。

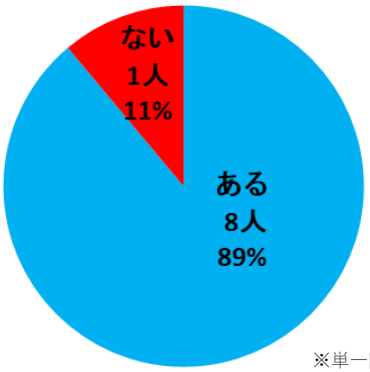
アルバイトを始めた時期は高校時代という学生が多く、そのまま同じ仕事を継続している者や、短期の仕事を複数経験している者など、働き方は様々である。

アルバイトを行う理由も様々であり、インタビューでは「高校時代、学校が週１回で時間に余裕があったため始めた。今はコミュニケーション能力を高めるために」「専門学校への入学が決まって、昼夜逆転の生活を改め生活のリズムを整えるために昼間に働くアルバイトを始めた。将来のために役立ちそうな仕事を選んだ」「接客力を磨きたくて飲食業に就

き、その後、体力を付けたくて清掃業に移った」などの話を聞くことができた。これらのことから、アルバイトと学業を両立させることは、安定した生活リズムを獲得し、人とのコミュニケーションの楽しさや、労働により給料を得ることの喜びを知ることにつながり、経済的な余裕と精神的な充実の両面で良い影響を与えていると考えられる。また、「アルバイトをして、マルチタスクができるようになった」という学生のように、アルバイトによる自分のスキルアップや適性の理解、将来のキャリアを考えるきっかけを得る、などの自己成
長の機会にもなっている。

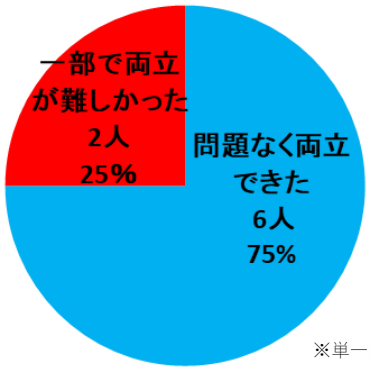
学費や生活費の経済的困難が比較的少ない学生にとっても、アルバイトは単なる収入確保にとどまらず、学校とは異なる多様な経験を得ることができる貴重な場となっていることがうかがえる。

【アルバイト経験】



※単一回答
n=9

【学業とアルバイトの両立】



※単一回答
n=9

セ．心理面

(ア) 新しい環境への不安

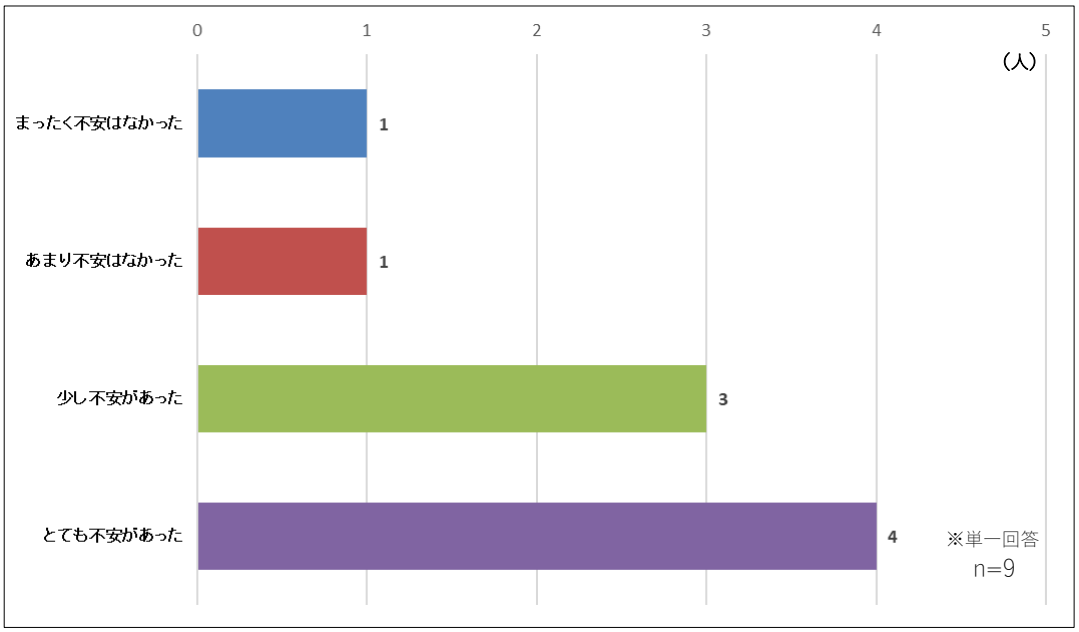
アンケート結果によると、専門学校入学時に新しい環境に入っていくことについて「とても不安があった」と回答した学生は 4 人、「少し不安があった」と回答した学生は 3 人で、両者を合わせると 77%に上った。このことから、多くの学生が入学時の環境変化への対応に不安を抱えていることが判明した。

不安の内容として、前述の学力面に関すること以外では「対人関係」「生活リズム」を挙げる者が多く、概ねこの 2 点に集約されているといえる。

対人関係に関しては、インタビューからは「通信制高校に行ったきっかけが人間関係の問題であったので、専門学校でもうまくやっていけるか不安があった」、「全日制高校出身の学生が多く、どう関われば良いかわからなかった」のように、過去に対人関係上の困難を経験し、通信制高校への転校を経験した学生ほど、対人関係に強い不安を感じている様子がうかがえる。

生活リズムについては「高校の時は週 1 回の通学で、登校時間も自由であったため、専門学校に毎日朝から通えるのか不安だった」という意見がみられた。決まった時間に行動する必要が発生するため、新たなリズムを構築することへの不安が生じていると考えられる。さらに「高校時代から始めていたアルバイトが続けてできるかも不安だった」と述べており、専門学校への入学による学習環境の変化が、学校外での生活環境や培ってきた対人関係にも影響を及ぼすのではないかとの懸念を生み、不安感を一層高める可能性があると思われる。

【専門学校入学で新しい環境に入ることへの不安】



(イ) 不安や困難に対する気持ちの変化

専門学校入学時に抱いていた不安は、入学後どう変化したのだろうか。

前項（ア）で浮かび上がった不安の一つ、「対人関係」については、アンケートでは「専門学校の同級生との関係で難しさを感じた経験」は「とてもあった（3 件)」「少しあった（1 件)」と回答した学生が全体の約 40%強であった。一方で、「あまりなかった（4 件)」「まったくなかった（1 件)」と回答した学生も半数以上を占めており、入学後の対人関係における不安や困難の感じ方は個人によって大きく異なっていることが分かる。

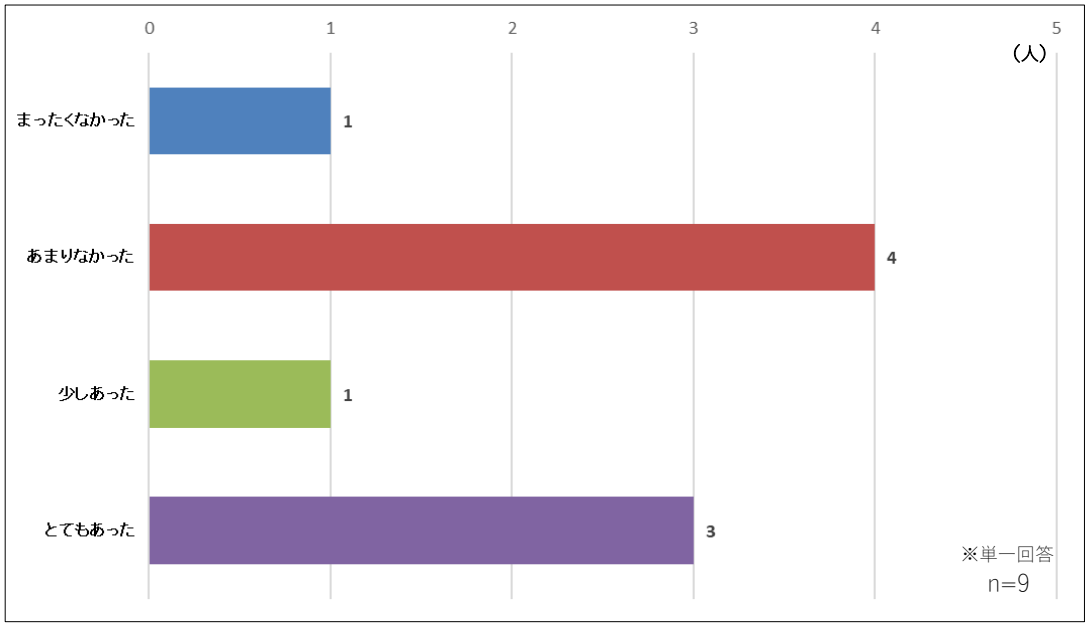
ただ「専門学校で相談できる仲間（友人）がいるか」という質問には 9 人中 7 人が「いる」と回答しており、入学当初に困難を感じていた人も何らかのきっかけを通じて打ち解けるきっかけをつかみ、友人関係を築くことができていることがうかがえる。

友人関係を深めたきっかけは「最寄り駅が同じだとわかった」「席が近かった」など、日常の些細な共通点や状況を知ったことから会話が生まれ、徐々に打ち解けていったケースが多くみられた。

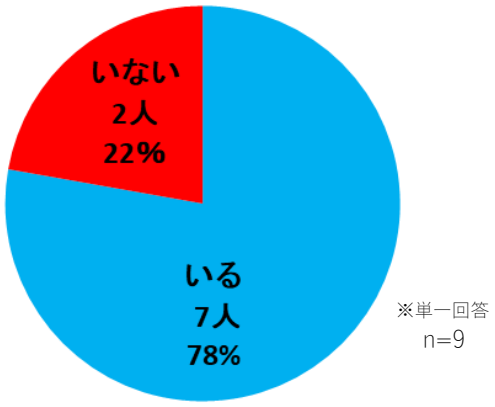
対人関係において特に強く困難を感じた経験を持つ者もいて、「『精神疾患を抱えていても普通に接してほしいと考える自分』と、『どう対応して良いかわからないクラスメイト』との間ですれ違いが生じて、当初はあまりなじめなかった」と語っている。しかし、自身の状況や傾向などをオープンにし、希望する接し方を周囲に伝える努力をしたことで、喧嘩もしながら徐々に同級生との距離を縮めることができたという。

さらに「16 名の少人数クラスだったので対人関係に関する心理的不安は少なかった。実習やグループワークを通じて仲も深まった」という声もあり、対人関係の不安や難しさは学生個人の努力だけでなく、クラスの規模や授業形態、雰囲気や周囲のサポートといった要因も影響し軽減、解消されている可能性が示唆される。

【専門学校の同級生との関係で難しさを感じた経験】



【相談できる仲間（友人）】

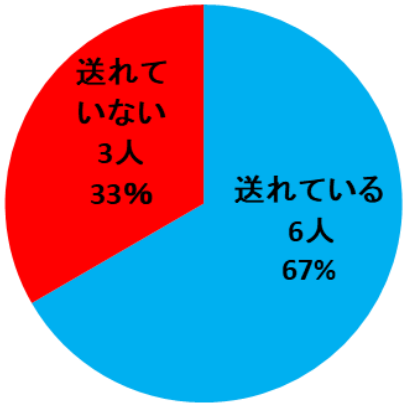


もう一つの不安要素であった「生活リズム」についても、アンケートで現在の生活について尋ねたところ、９人中６人（67%）が「規則正しい生活を送れている」と回答した。個人の状況によって差はあるが、専門学校での生活を通じて以前よりも規則正しいリズムで生活できるようになった人が少なくないことがうかがえる。

インタビューでは「休むと授業内容がわからなくなる。面白い授業があり、友達とも話したいので、毎日朝早く起きて学校に行っている」と学習への興味や友達の存在などが大きな原動力になっている様子が見られた。また、「昼間に活動し夜寝る生活を作るためにあえてアルバイトを入れた」という者のように、学校外での活動も意図的に組み入れて新たな生活リズムを整えていったケースも確認された。

一方で、自由度の高い通信制高校時代の生活リズムから、専門学校の規則的な時間割へ移行することは容易ではなく、インタビューでは「自分のペースで勉強していた高校生活から、急に毎日 90 分授業に切り替わり、慣れるのに時間がかかった」「朝の支度をゆっくりしていると、電車に間に合わない。時間に追われると感じる」といった声も聞かれた。生活リズムの変化に対して、一定の適応が進んでいる一方で、十分に適応できていないと感じる場面も存在していることが明らかとなった。

【今の生活で規則正しい生活が送れているか】



※単一回答
n=9

（ウ）通信制高校出身であることへの対応

アンケートの「通信制高校出身であることを専門学校の同級生に伝えたか」という問いに対しては「聞かれれば答えた」が５件と最も多かった。積極的に話すというよりも、必要に応じて状況判断をしながら伝えるというスタンスを取る学生が主流であることがうかがえる。

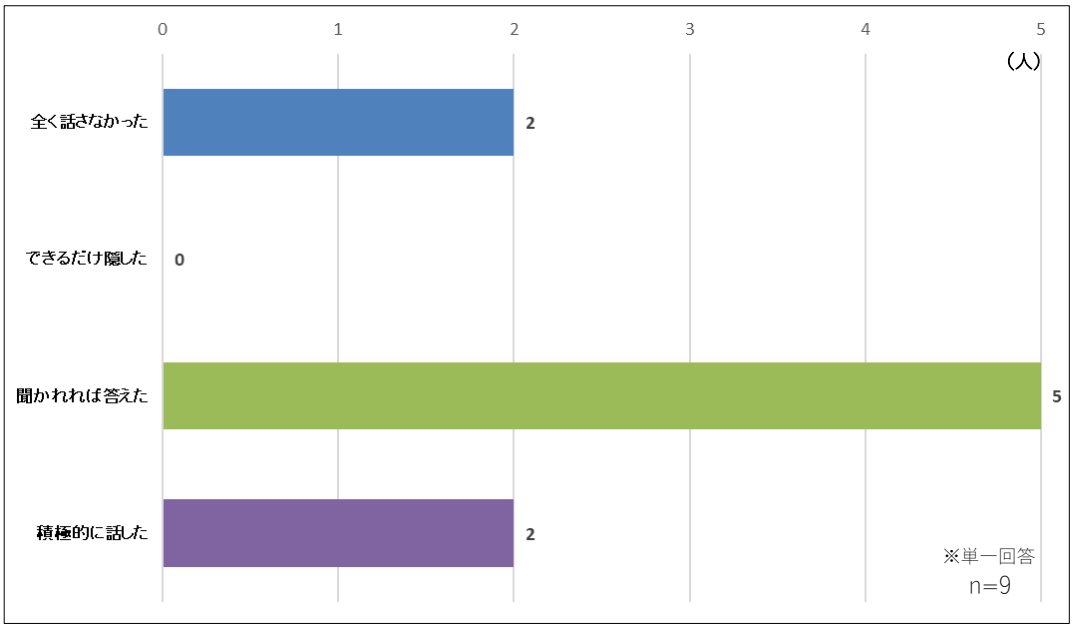
一方で「積極的に話した」との回答が２件あるように、通信制高校出身であることを隠さず開示しているケースもみられた。ある学生は「全日制出身の学生から『自由な時間があって、好きなことができて、いいよな。羨ましい』ということをよく言われた」というが、本人は気には留めておらず、「もう隠さない」と語っている。前述のとおり精神疾患を

持つ自分の状況や傾向をオープンにした者は、周囲に自分のことを理解してもらうために通信制高校出身である背景も含めて隠さず話す姿勢をとっており、その後のアルバイトや就職活動の面接においても特別な抵抗感なく話しているという。

その一方で「まったく話さなかった」という回答も２件あり、通信制高校出身であることを開示しない選択をしている学生が一定数存在することも明らかになった。インタビューの中では通信制高校出身であることに対してコンプレックスを抱き、あえて話したくないと感じる人がいることを理解しており、その選択を尊重する姿勢を示していた。

以上のことから、通信制高校出身であるという背景の開示の仕方は一様ではなく、個人の価値観や経験、周囲との関係性に応じて多様であることが分かる。自身の背景をどの程度、どのような形で伝えるかについても、学生一人ひとりが状況に応じて判断していると考えられる。

【通信制高校出身であることを同級生に伝えたか】



(エ) 教員との関係

アンケートでは、専門学校教員との関係構築についても調査を行った。

「専門学校の先生に気軽に相談できるか」との問いに対し、「とても気軽に相談できる」が５人、「少し気軽に相談できる」が２人となり、回答者の 80%弱の学生が教員との関係を肯定的にとらえていることが分かった。

相談する相手としては主に担任教員であるが、キャリアサポート担当職員なども

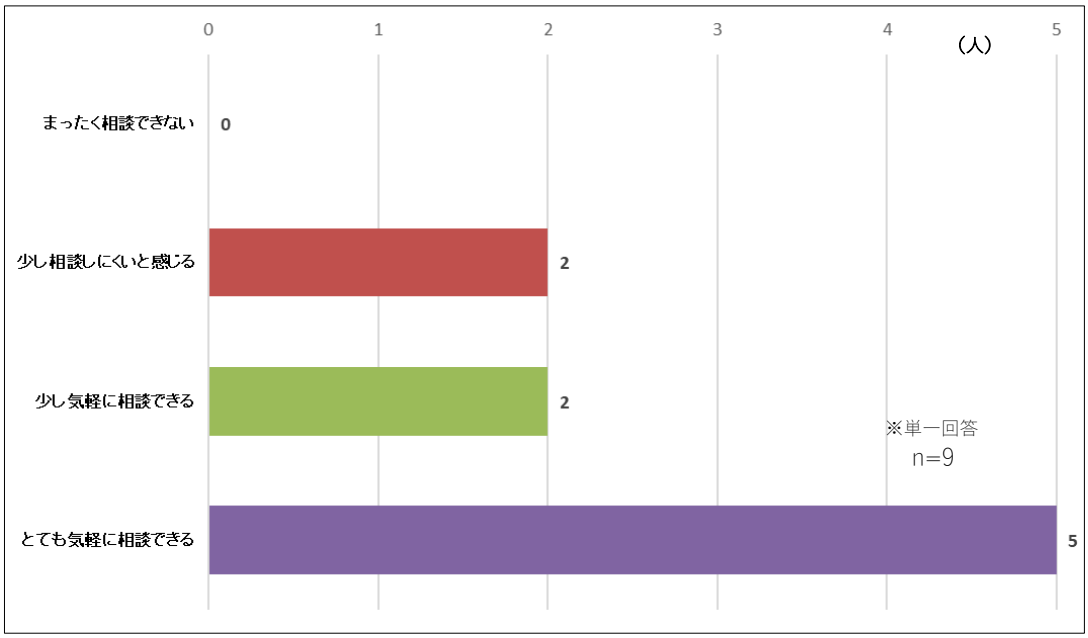
含めて相談しやすいと感じている学生の声もあり、「先生方がみんないい人で頼りになる」という声も聞かれた。

相談のタイミングは「人間関係で困っていたとき、先生が話を聞いてくれた」「就職前の

履歴書作成でとても力になってもらった」など、「困ったとき」が多い。相談内容は人間関係や学習面、就職活動に関するものなど、多岐にわたっている。「先生には何でも相談できる」、「日常のことも話したりする」という声も聞かれ、学生が教員に信頼を寄せ、日常的な会話が交わされる関係になっている様子もうかがえる。

このように、入学直後の不安定な時期に先生が寄り添い、耳を傾けてくれることが、学生の精神的な助けになり、心を開いて話せるほどの信頼関係の形成につながっていると考えられる。さらに、オープンキャンパスや個別説明会での説明や相談で信頼感を持ったという声も複数あり、教員との信頼関係は入学時に限らず、入学検討段階から徐々に構築が始まっていたとも考えられる。

【専門学校の先生に気軽に相談できるか】



(オ) 自己肯定感

学生たちは専門学校の生活を通じて、自身をどのように捉えているのだろうか。アンケートで「自分に自信がない、または他の人と比べて劣っていると感じたことはあるか」と尋ねたところ、「いつも感じていた」が３人、「時々感じていた」が５人となり、90%近くの人が、他人と比較し劣等感や自己否定感を抱いた経験を有していることが分かった。

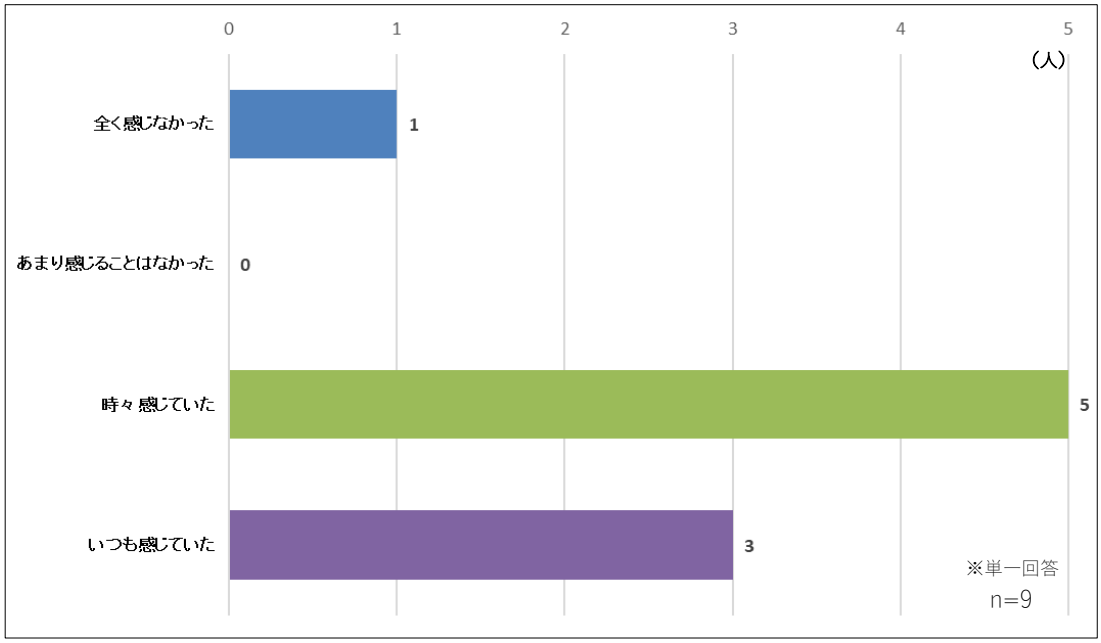
このような劣等感や自己否定感の背景は、インタビューでも繰り返し語られた「学力面でのつまずき」「対人関係上のトラブル」が主な要因になったと考えられる。多くの学生が高校入学以前の小学校、中学校時代からこのような経験を重ねており、それが通信制高校を選択する一因にもなっていた。

インタビューで高校時代の自身について「挑戦してみようという気持ちになれず、無難

な選択をしてしまっていた」「何かに挑戦すること自体がすごく怖かった」と語られているように、自信の欠如が失敗への過度な不安を生み、その結果として挑戦を避ける行動が定着するという悪循環に陥っていた学生がいたことがうかがえる。

一方、現在の心境については「人と関われるようになったという点は、自分が成長したと感じている」「挑戦して、失敗して、後悔するのはいいと思えるようになった」といった前向きな変化を示す声を聞くことができた。「今でもちょっとまだ不安がある」という慎重な姿勢を示す人もおり、個人差はみられるものの、専門学校での学習や人との関わりの経験を通して自己成長を感じたり、価値観を転換できたことにより自己肯定感を徐々に回復することができているのではないかと考えられる。

【自分に自信がない、または他の人と比べて劣っている、と感じたことがあるか】



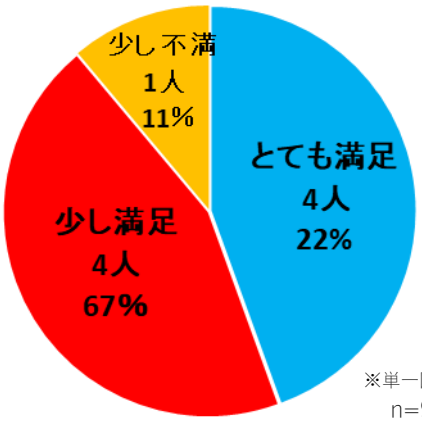
(4)専門学校に対する評価

ソ．総合的な満足度

専門学校での学びに対する総合的な満足度については、アンケートの結果で９名中８名が「とても満足」もしくは「少し満足」と回答した。また、入学前の期待と比べた実際の学校生活への質問は「期待したとおりだった」が６人、「期待以上だった」が２人となり、多くの学生が自身の専門学校への進学と実際の生活を肯定的にとらえている様子がうかがえる。

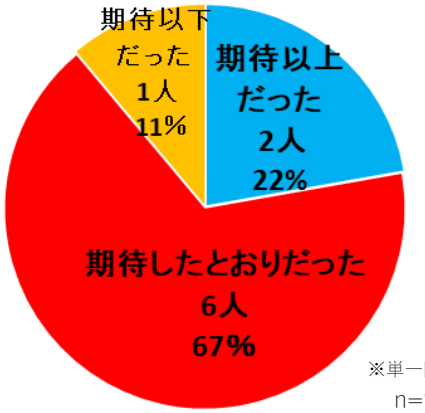
具体的に満足している内容についてインタビューで尋ねたところ、「一般的に学ぶ機会が少ない専門的な知識を学べて新鮮である」「毎日友達と会って何気ない会話ができるのが良い」「相談できる先生も仲間もいて、楽しい学校生活が送れている」といった話を聞くことができた。高校時代と比べて生活環境が大きく変化したにもかかわらず、その変化を前向きな刺激として受け止め、専門学校での学びや人間関係を充実したものとして感じている学生が多いことが読み取れる。

【総合的な満足度】



※単一回答
n=9

【入学前の期待と比べて】



※単一回答
n=9

タ．通信制高校での経験の活用

「専門学校で、通信制高校での経験が生かされたか」という問いに対しては、７人の学生が「生かされた」と回答した。生かされたと感じる場面についても尋ねたところ、「自分で学ぶ力（自立学習力)」が４件、「人との関わり方・コミュニケーションの経験」が３件、「時間の使い方や自己管理の力」が２件となった。複数の項目を選択した人も２人いた。

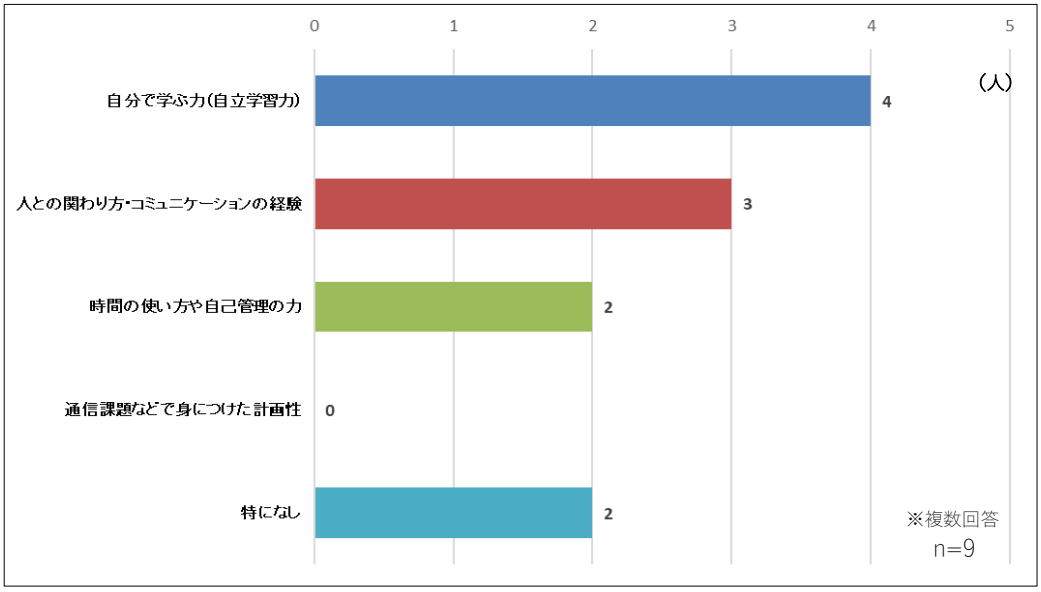
経験が生かされた具体的なエピソードとして、インタビューでは「通信制高校では４年かけて卒業する仲間もいる中で、自分は同級生と一緒に必ず３年で卒業すると決め、計画的に単位を取得してきた。専門学校も『意地でも休まない』との思いで通学している」「通信制高校は何でも自分で行動しなければ進むことができなかった。専門学校では、まず友達を作りたいと思い、入学してすぐ自分から話しかけたことでＬＩＮＥグループができた」などが挙がった。これらの語りから、自由度の高い通信制高校のカリキュラムの中で、学習や生活スケジュールを主体的に管理してきた経験から、専門学校での学習面および生活面での自己管

理能力として生かされたことがうかがえる。

他にも「高校時代からコンビニエンスストアのアルバイトを始め、お客様への接客対応やマルチタスクを経験したことで自分の成長を感じる。その経験が現在の学科を選ぶきっかけになり、卒業後の目標である『ホテルマンになること』にもつながっている」という語りもあった。これは通信制高校に在学中に学業とアルバイトを両立しながら対人関係での不安を少しずつ克服した経験が、専門学校での学びへの関心興味を広げることや、将来の目標の発見に生かされた事例といえるだろう。

このように、学生たちは通信制高校で学業のみだけでなく多様な活動に取り組み、それらを両立させてきた。その中で培われた学習面や生活面における「自己管理能力力」が専門学校での学習に生かされていると考えられる。こうした経験は将来のキャリア観の形成にもつながっている様子がうかがえる。

【専門学校で、通信制高校のどのような経験が生かされていると思うか】

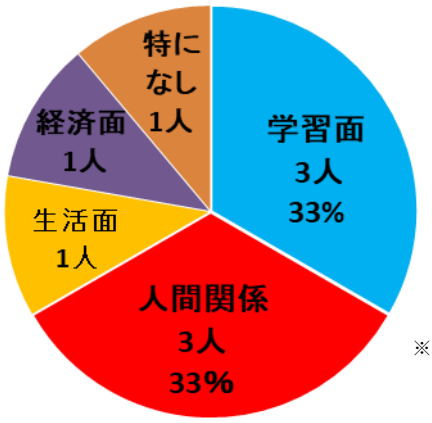


チ．専門学校のサポートに対する評価

（ア）最も効果的だったサポート

「専門学校で最も効果的だったと思うサポートは」という質問に対する回答は「学習面のサポート」と「人間関係のサポート」が最も多く、それぞれ３件となった。「学習面」「人間関係」は前出の「高校時代に最も困難を感じたこと」の質問に対しても上位に挙がった項目であり、専門学校入学時に学生が抱く最大の不安でもあった。それらに対する評価が高いということは、専門学校としては学生一人ひとりの状況やニーズを的確にとらえ、必要な支援を提供できていたと考えられる。また、学生にとっては自身の不安な気持ちを受け止めてもらい、支援に支えられたという実感が、学校生活の満足感につながったと考えられる。

【専門学校のサポートで最も効果的だと思うもの】



※単一回答
n=9

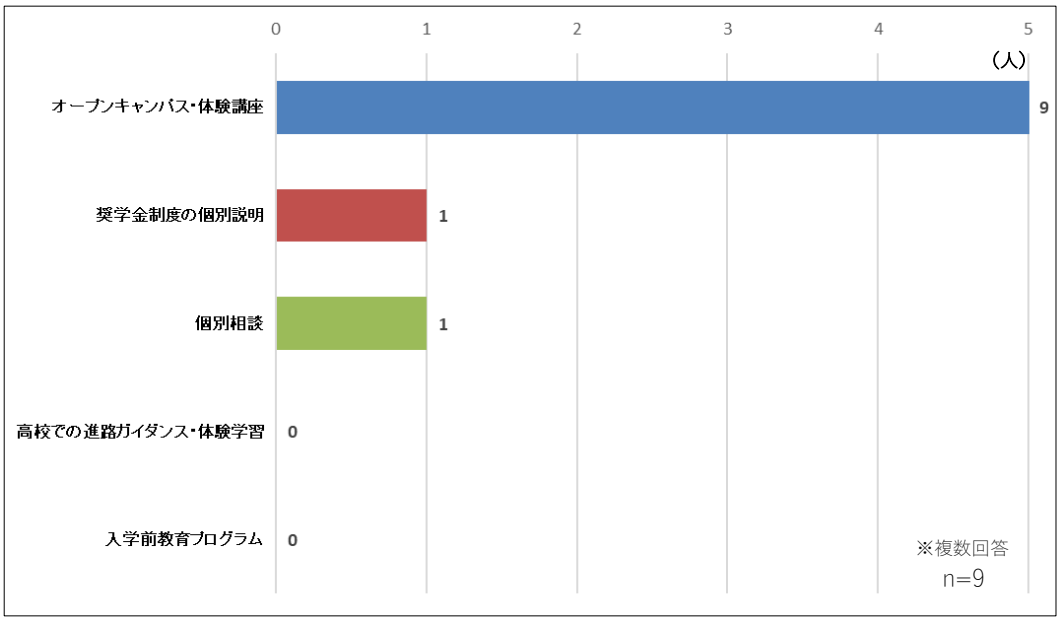
(イ) 入学前のサポートに対する評価

当法人では入学検討段階から入学決定後まで、様々な入学前サポートを行っている。それぞれのサポートについて、アンケートで「受けて良かったと思うもの」を選んでもらったところ、全員が「オープンキャンパス・体験講座」を挙げた。併せて、「奨学金制度の個別説明」「個別相談」をそれぞれ1人ずつが挙げた。前出の「専門学校進学の決め手になったもの」という質問でも同じく全員が「学校説明会・見学会の内容」を挙げており、インタビューでもオープンキャンパスでの体験が鮮明な記憶として語られている。また、個別相談はオープンキャンパスに参加できなかった人への対応に効果を発揮し、奨学金に内容を絞った個別説明も、利用を検討している人にとっては役に立つ支援となっている。

このように、進路検討段階で授業内容や雰囲気を事前に知れることや、不安について直接相談し解決できることが、入学前の生徒や保護者にとって進路決定の大きなポイントになっていることがわかる。

なおアンケートでは他に「高校での進路ガイダンス・体験学習」「入学前教育プログラム」の項目を設けていたが、選択した人はいなかった。

【入学前のサポートで良かったと思うもの】



（ウ）入学後のサポートに対する評価

入学後、現在までに受けたサポートについても同様に、「受けて良かったと思うもの」を挙げてもらった。

最も多く挙がったのは「奨学金・経済的な支援（３件）」であった。前出の質問で「奨学金を利用している」と回答した４人のうち３人がこの項目を選択しており、学校に通い続けるための経済的支援が必要であることがわかる。これは学生本人だけでなく家族にとっても必要な支援といえるだろう。

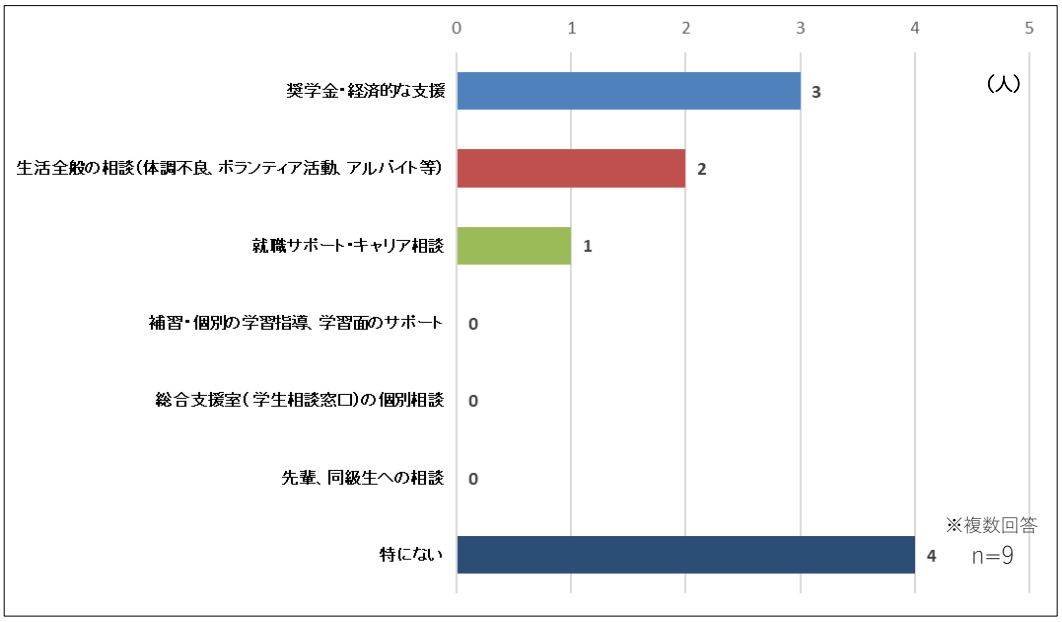
次に「生活全般の相談（２件）」が挙がった。「先生がマンツーマンで話を聞いてくれた。ちょっと外に出て話したりしたことが助かった」というようにサポートは教員による個別対応が中心で、その内容は多岐にわたっている。「勉強のことも私生活のことも、その学校の人間関係のことも全部先生に話していた」という者もいるほどである。なお学校内には「総合支援室」という学生相談窓口があるが、今回のアンケートではその項目を挙げた人はおらず、総合支援室の相談利用した学生の声は拾えなかった。現状では、日常的に関わる教員のサポートが学生にとって最も大きな支えとなっていることが示唆される。

３番目に挙がったのが「就職サポート・キャリア相談（１件）」であった。今回のアンケート調査対象者は１年次生も多く、まだ就職に向けて具体的に活動を開始していない学生が多かったこともあって回答は少なかったと考えられる。しかし、「就職活動中のキャリアサポートの支援が役立った」との声も聞かれ、実際に就職活動を行っている学生にとっては有効な支援であることが示されている。

なお、学習面での支援として「補習・個別の学習指導、学習面のサポート」という項目を設けていたが、今回のアンケートで選択した人はいなかった。前出のアンケートで

学習の難易度が入学前と比べて「予想どおり」あるいは「予想よりやさしい」と感じた人が多かったことからも、専門学校の学科の授業は、専門的な内容に特化している一方で、基礎科目で習得した知識を直接的に活用する場面は必ずしも多くない。そのため、学生は一定の難しさを感じつつも、当初想定していたほどの負担ではないと受け止めており、現時点では学習面での追加的な支援を必要とする状況が少なかった可能性がある。

【入学後のサポートで良かったと思うもの】



(エ) サポートに対する今後の希望

これまで受けてきた様々なサポートを踏まえて、「あればよかった」「もっと充実していたらよかった」と感じるサポートがあるかについて尋ねた。

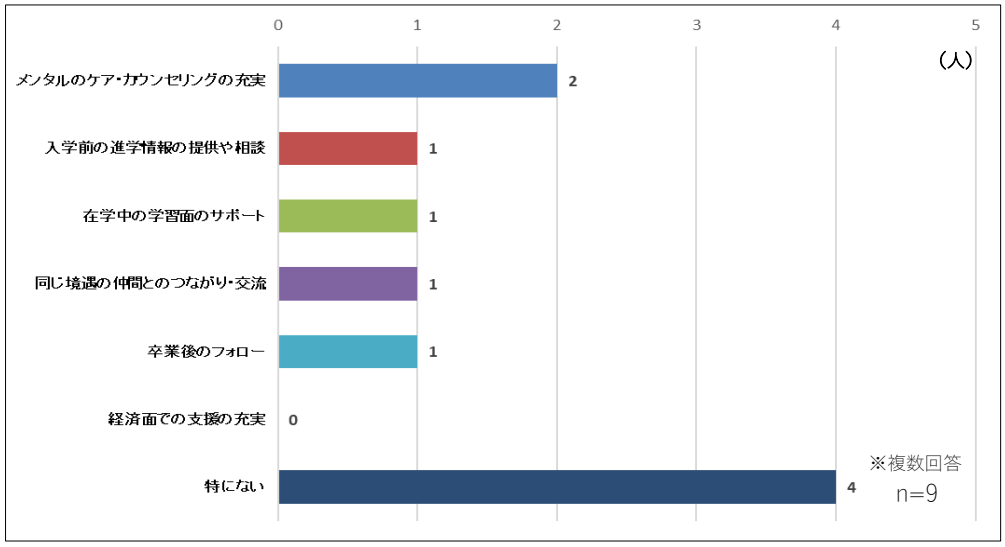
結果は「メンタルのケア・カウンセリングの充実」が 2 件と最も多く挙げられたほか、「入学前の進学情報の提供や相談」「在学中の学習面のサポート」「同じ境遇の仲間とのつながり・交流」「卒業後のフォロー」がそれぞれ 1 件ずつ挙げられた。回答は特定の項目に偏ることなく分散しており、入学前、在学中、卒業後のすべてのサポート項目が選択されていることから、学生のニーズが多様化していることや、現行の支援体制に一定の改善余地がある可能性が示唆される。

なお当法人では、在学中の学生一人ひとりが抱える悩みや困りごと課題に対応するために、カウンセラー、公認心理師、国家資格キャリアコンサルタント、看護師等の有資格者の相談員を設置した「総合支援室」を設けて個別相談を受け付けている。また、卒業後の就労や転職に関する相談は、キャリアサポート室で対応をしている。しかし、今回の調査では総合支援室の個別相談を利用した経験がある人がいなかったため利用実態が把握できなかった。キャリアサポート室で卒業後のフォローまで手掛けていることも、十分に認知

されていない状況であった。

充実させてほしいと思うサポートが「特にない」の回答も４件に上っていることから、必要なサポートが存在していても、その内容や利用方法が学生に十分伝わっていないために、活用に至っていない可能性も考えられる。改めて、各種サポートの存在や役割について、学生への認知度を高めていく必要があるだろう。

【あればよかった、もっと充実させてほしいサポート】



【インタビューより】

メンタルケア・カウンセリング

対面では話しづらい人もいるので、テキストのやり取りなどから始めるほうがハードルが下がるのではないか。（E さん）

在学中の学習面のサポート

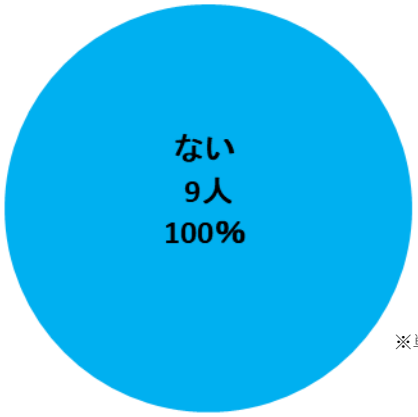
２分や３分の短い動画で、単元ごとに学べるセッションがあれば、家でも見ようと思う。（A さん）

同じ境遇の仲間とのつながり

通信制高校を卒業したメンバーで集まって話す機会があっても面白いかもしれない。（C さん）

卒業後のフォロー

【総合支援室の個別相談を利用した経験】



※単一回答
n=9

(5)今後の意向

ツ．就職・就労に対する考え

専門学校卒業後（卒業生は現在の状況）の進路については、在学中の学生８人のうち７人が就職を希望していた。「これまで学校やアルバイトで得た経験を生かして、ホテルマンになりたい」「就職を目指して、マーケティングや簿記、表計算を頑張ろうと思っている」など、卒業後を見据えた目標を定めて学びに励んでいる様子がうかがえる。在学中（２年次生）ですでに就職先が決定している学生は「会社でトップを取れるよう頑張りたい」と語っており、また現在就労中の卒業生も「今は積極的に働いて、会社での昇進も目指している」と高い就業意欲を見せている。

一方、進路が定まってない学生からは、「当初は漠然と接客業を考えていたが、実習に参加したことでホテルの仕事に興味が出てきた」と語っており、専門学校での学びや実習経験を通して、徐々に自身の進路や将来像を具体化しつつある様子がうかがえた。

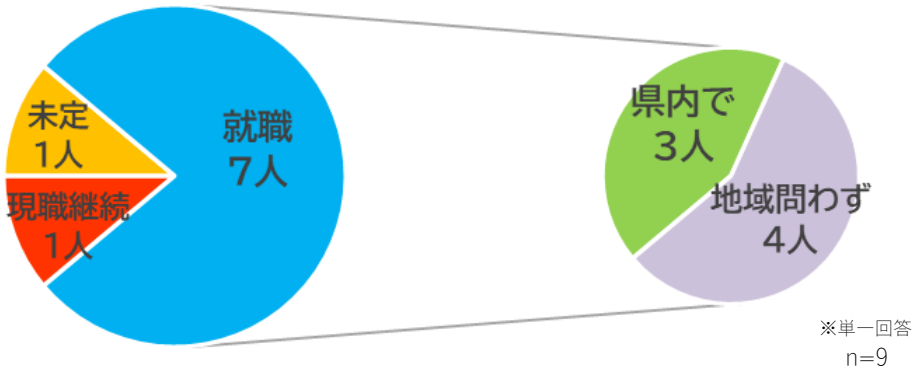
アンケートでは、働く場所（勤務地）に関する希望についても尋ねた。結果は「山口県内・県外どちらでも（地域は問わない）」との回答が４人と最も多く、いずれも１年次生であった。次いで「山口県内を希望」との回答が３人であり、その内訳は１年次生１人、２年次生２人であった。

このことから、１年次生ではまだ就職に対する具体的なイメージがまだ十分に形成されておらず、勤務地についても柔軟な姿勢を示す傾向がみられる。一方、２年次に進級し就職活動が本格化するにつれて、自身の生活や将来を見据えた現実的な選択として、勤務地の希望も明確化していく様子がうかがえる。実際、当初は地域を問わず就職を考えていても、最終的には山口県内での勤務を希望している学生が多く見受けられる。勤務地についてある学生は「県外に出てみたいとは思わない。ここ山口だからこそ安心できる」と語っており、見知らぬ土地での生活や就労することへの不安感が地元就職志向の一因となっている可能性がある。

一方で「最初は県外に出る予定はなかったが、『自分の人生は自分で決めないと』と興味の

あった関西に転職した」と語った卒業生のように、当初は安心感のある地元での就労を望んでいても、社会人として経験を積み成長する中で、自己理解が深まり、価値観や行動が変化していくケースも見られた。

【今後の進路希望】



テ．地域への愛着意識と就労意向

アンケートの最後に、地域への愛着について尋ねた。

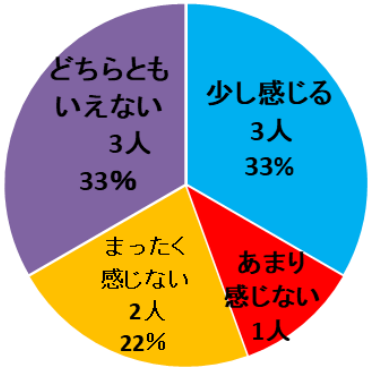
「地域に愛着を感じるか」という質問に対しては「やや感じる」「どちらともいえない」との回答がそれぞれ３人となり、中立からやや肯定的な層が全体の３分の２を占めた。一方で、「とても強い愛着を感じる」という人がいなかったものの、「まったく感じない」と回答した人も２人おり、愛着の度合は一定のばらつきが見られた。

では、こうした地域への愛着の程度は、将来の就業先の選択にどのように関係するのか。前出の質問「今後の進路意向」への回答と併せてみると、「地域（山口県）への愛着はそれほどないが、県内での就職を希望している」学生や、反対に「山口県に一定の愛着はあるが、県外での就職も検討している」という回答がそれぞれ複数存在していた。

これまでのアンケートやインタビューの回答から、学生にとって「地域への愛着」とは「郷土愛」という感情的な結びつきよりも「自分の知っている場所である」という認知的な安心感に基づく意味合いが大きいと推測される。「イベントに参加して、地域を歩くだけでも新しい発見があった」と語る学生のように、まだ学生自身が自分の住む地域について十分に理解・体験できていないことも、地域への愛着が強く形成されていない要因の一つであると考えられる。関西で就業中の卒業生は「ずっと山口は好きですし、帰りたいとも思っています」と語っており、地域を離れて初めて故郷への思いに気づくようなケースもあった。今回、調査回答者の半数以上は１年次生であり、今後本格的な就職活動を進める中で勤務地に対する希望や地域への意識が変化する可能性はあるが、現状では専門学校生のような若年層にとって、生まれ育った地域や現在居住している地域に対する思い入れやこだわりは必ず

しも強くなく、就職先の選択にも決定的な要因にはなっていない様子がうかがえる。

【地域への愛着をどの程度感じるか】



※単一回答
n=9

【地域への愛着度合と希望する勤務地の関係】

名前	地域への愛着度合	勤務地の希望
Eさん	少し愛着を感じる	山口県外　※現職を継続
Cさん	少し愛着を感じる	地域問わず
Fさん	少し愛着を感じる	地域問わず
Aさん	どちらともいえない	地域問わず
Hさん	どちらともいえない	地域問わず
Dさん	どちらともいえない	山口県内　※就職先決定済
Gさん	あまり愛着を感じない	山口県内
Iさん	まったく愛着を感じない	山口県内
Bさん	まったく愛着を感じない	就職するか未定

4－3. 困難要因の分析

本章では事前アンケートおよびインタビューの結果を基に、専門学校入学前から在学中に当事者が感じた困難とその要因を明らかにする。

(1)学習面

ア．入学前

入学前には調査対象全員が何らかの学力不安を抱えており、特に「国語・数学などの基礎学力」に対する不安（67%）が最も高かった。これは勉強に対する小中学校時代からの苦手意識や、自由度の高い通信制高校での学習と全日制高校出身者との学習環境の差に対する懸念に起因していると考えられる。

イ．在学中

専門学校の学びは特定の分野に特化していることもあり、入学時に懸念していた「基礎科目の知識不足」は、在学中において大きな障壁にはなりにくく、学習する上で不便を感じる人が少ない傾向にある。興味関心のある科目の選択できるや、多様な学習ツールの活用した授業に意欲的に取り組めることから、困難は軽減されると考えられる。一方で、通信制時代の自由な学習スタイルに慣れていた学生にとって、入学当初は「1コマ90分の授業」や毎日の登校といった時間的拘束への対応が課題となる場合がある。

また、多くの人が通信制高校で培った「自立的な学習力」や「自己管理能力」を専門学校での計画的な単位取得や授業出席に生かしており、学業とアルバイトを両立させるなどしている。アルバイトは学習している専門分野に関する知識・技能習得や、将来のキャリア選択を考える上での手がかりとなる場合もある。学校内外での学びとの相乗効果もあり、全日制高校出身者との学力差に対する不安は次第に薄れ、学習・学力面での困難度合はさらに低下していると考えられる。

(2)経済面

ウ．入学前

専門学校の学費はほとんどの学生が「家族の負担や支援（89%）」で賄われており、表面的には経済的困難の程度は低いように見える。しかし、奨学金を利用する学生も半数近くに上り、家族の自己負担と併せて他の資金調達方法を必要とする家庭が少なくないとみられる。このような家庭にとっては、困難があっても利用可能な奨学金制度があることが経済的負担の軽減につながっていると考えられる。その結果、就職ではなく進学という進路選択が可能となり、決して安価とは言えない専門学校も進路の選択肢に含めることができている可能性がある。

イ.在学中

学費以外で定期的に必要になる費用のうち、「教材費」や「交通費」が想定より高く感じている学生が一定数存在する（約30%）。しかしながら、これらの負担が原因となって、在学継続が困難になるほどの深刻な経済的困難に至っているケースはなく、全体としては大きな問題にはなっていないといえる。

奨学金については、利用している学生自身にとって直接的な経済的困難が生じるわけではないものの、家族の経済状況への配慮や将来的な返済負担の不安といった点から、間接的な困難要因となっている可能性がある。一方で奨学金の継続条件である出席率や成績の維持が、「自分を律して登校し続ける原動力」として機能している側面も確認された。このことから、奨学金は経済的支援にとどまらず、学習意欲や心理的安定の維持にも一定の影響を及ぼしていると考えられる。

(3)心理面

エ．入学前

通信制高校からの進学を具体的に検討し始める時期は「高校３年生」が最も多く（78%)、多くの生徒は卒業直前のタイミングで進路選択に動き出している。中には、より早い時期から大学進学や就職と併せて検討している生徒もいるが、全体としては検討開始時期が遅い傾向にある。その背景には社会適応に対して大きな不安を抱え、新しい環境に踏み出すことへの心理的な躊躇があると考えられる。

進路検討段階で進学をあきらめそうになった経験を持つ人は55%に上っており、この段階ですでに強い心理的困難を抱えていることがうかがえる。特に不安として多く挙げられたものは「対人関係」と「生活リズムの変化」であった。過去の人間関係の問題や不登校の経験から自分のペースで学ぶことができる通信制高校を選択している学生も少なくなく、専門学校進学の際は学校の規則正しいスケジュールへの対応や全日制高校出身者との人間関係の構築が円滑に築けるかなどの懸念が大きい。さらに、入学が決定した後であっても、実際に新しい環境に身を置いてからしばらくの間は、不安感が継続する傾向がみられた。このことから、心理的困難は進路検討段階から入学後初期にかけて連続的に存在していると考えられる。

オ．在学中

入学時には、対象者の80%近くが新しい環境への適応に不安を感じており、入学前から継続する心理的困難がみられる。特に対人関係不安については、40%の対象者が「難しさを感じた経験がある」と回答しており、在学初期における大きな課題であることがわかる。

通信制高校出身であることは「聞かれれば答えるが、自分から積極的に話すことはない」というスタンスの学生が多い。これは、通信制高校を選択するに至った背景として、人間関係不振や不登校などの過去の苦い経験を想起させることや、新しい環境への適応不安、学力に対する不安を自ら開示することへの抵抗感が影響していると考えられる。

一方で、入学後およそ半年経過すると78%が「相談できる友達ができた」と回答しており、対人関係に関する不安は徐々に軽減されている。

また、もう一つの不安要素であった生活リズムについても、67%が「規則正しい生活を送れるようになった」としており、在学期間の経過とともに心理的困難も入学後ゆっくりと軽減されていくといえる。

しかしながら、90%近くの学生が「他人と比較して自分は劣っていると感じている」と回答しており、自己肯定感の低さは在学中も継続している。友人や教員との関わりや学校外での活動を通じて良好な信頼関係を築き、徐々に自信を取り戻していく学生もいるものの、

自己肯定感の回復には時間を要し、その過程には個人差もある。そのため、在学中に心理的困難が完全に解消されるケースは少ないといえる。

(4)進学ルートによる困難の差

対象者が通信制高校に入学した進学ルートは「中学校卒業後すぐ通信制高校に入学」と、「中学卒業後に全日制高校入学、その後通信制に転校」の二つのルートである。しかし、本調査においてはルートの違いによる困難の質や程度に顕著な差は認められなかった。転校経験者については、主に対人面や生活面で全日制高校での学生生活に困難を感じて通信制高校への転校を決めているケースが多かった。一方で、当初から通信制高校を選択した学生についても抱えている困難の内容は類似しており、困難の種類に大きな差はみられなかった。また困難の程度についても進学ルートによる明確な違いは見出せず、個々の経験や性格、置かれた環境などによる個人差の方が大きいと考えられる。

4－4. 支援の有効性と課題

これまで当法人では、入学前から在学中、卒業に至るまで生徒・学生やその家族に対する各種サポートを実施してきた。本章では、これらの支援が前章で整理した困難要因に対してどのように作用したのか検証する。あわせて、支援の有効性と今後への課題、新たな支援ニーズについて考察する。

(1)困難要因と対応支援策の整理

まずは、前章の分析で明らかになった各ステージにおける困難要因と、当法人が実施している支援策を整理する。困難要因については、「入学前」「入学当初」「在学中から卒業まで」のステージごとに整理し記号化することで、ステージ間の比較ができるようにした。一方、支援策については「入学前支援」と「入学後支援」と時期で分類した。これにより、どの支援がどの段階の困難に対応しているのか、また支援と困難要因との関係性をより明確に捉えることを目的とする。

【ステージ別・分野別　困難度合の推移】　（調査をもとに作成）

時期	学習面	経済面	心理面	支援策
入学前	◎	○	◎	オープンキャンパス 個別説明会 奨学金の個別説明 入学前プログラム 高校での進路ガイダンス・体験
入学当初	○	△	◎	補習・個別の学習指導 奨学金・経済的な支援 生活全般の相談 就職サポート・キャリア相談 総合支援室*での対応 *学生相談窓口
在学中から卒業まで	△	△	○	

記号は困難の程度を表す。◎:強い困難　○:ある程度の困難　△:あまり困難は感じない

入学前の段階は環境変化に対する不安からすべての面で困難が強く表れている。中でも学習面・心理面における困難度合が高い傾向がみられる。経済面については家庭の状況による影響で、困難の程度には個人差がある。

入学後、授業が始まり専門的な学びにふれることで、学習面の困難が徐々に軽減されていく。また、経済面は多くの場合、入学前の段階である程度解消されていることが多い。在学中に最も困難が大きく、長く続くのは心理面である。特に入学後から学校生活に慣れるまでに強く表れ、その後も在学中の短時間では解消されるものではないことが明らかになった。

これまで当法人では、個々の事情に対応した個別相談などを中心とした支援を多く実施してきた。また、多数の参加者を対象としたオープンキャンパスなどのイベントにおいても、参加者一人ひとりが抱える背景や不安に配慮し柔軟な対応に努めてきた。しかしながら、本調査ではこれらの支援に対する評価は一様ではなく、一定のばらつきが見られた。

(2)支援の有効性と課題

ア．入学前

最も評価が高い支援はオープンキャンパスで、学習面・心理面・進路選択に関わるほぼすべての困難に対応している。実際に学校を訪問して授業を体験し、不安や疑問の個別相談ができることが「ここならやれそう」という安心感につながって、進路検討段階での困難を乗り越える大きな転機となっている。

オープンキャンパスとは別に実施している個別説明会も同様に、教職員と直接話せる点などが評価されており、進学に対する不安の軽減につながっている。奨学金制度に関する個別説明は、家族の経済的負担への不安を和らげ、専門学校への進学を後押しする重要な支援となっている。

一方、「高校での進路ガイダンス・体験」や「入学前プログラム」は今回のアンケート・

ヒアリング調査では評価されていなかった。アンケートでは「あればよかったと思う支援」として「入学前の進学情報の提供や相談」が挙がっており、これらの取り組みが実施されていることを高等学校の教職員や学生･保護者へ十分周知できていない可能性がある。通信制高校に対してもオープンキャンパスより早い段階で情報や体験機会の提供を積極的に行うことで、困難を抱える生徒の進路選択の支援につなげることが求められる。また、入学前プログラムについても通信制高校の生徒向けに内容や位置づけを再検討し、入学決定から実際の入学までの不安な期間に提供するプログラムとして充実させることで入学前の学習面および心理面の困難を軽減できる余地があると考えられる。

イ．入学後

入学後から在学中にかけての支援の中で、最も評価が高かったのは経済的困難に対応する「奨学金・経済的な支援」であった（３件)。入学前に支給決定した奨学金の手続きだけでなく、入学後の利用相談や申し込みにも対応しており、在学中に経済状況が変化した場合の困難解消にも役立っている。

在学中の最大の困難要因である心理面での支援は、「生活全般の相談」や「就職サポート・キャリア相談」が評価されている。健康状態に関することからボランティア・アルバイト等の校外活動、就職まで、学生のあらゆる相談に親身に対応してもらえるとの声があり、心理的困難の解消に大きく貢献している。一方で、こうした支援は主に担任教員による個別対応に依存しており、学生・教員それぞれの状況や困難の内容によりばらつきが生じている。状況に応じて各分野の専門家に支援を求めることもできるが、実際の相談窓口は担当教員となることが多い。

当法人では学生が直接申し込むことでカウンセラーとの相談が可能な「総合支援室（学生相談窓口)」を設置しているが、今回の調査ではその利用実態を把握することはできなかった。身近な教員の対応で十分に問題が解決され、専門家に相談するに至ってない可能性も考えられる。一方で、メンタルケアやカウンセリングの充実を求める声も挙がっており、困難が生じた際に学生が相談できる体制が整備されている点については、評価できる。

学習面の支援としては現在、「補習・個別指導サポート」を行っているが、アンケートで評価は得られていない。これは入学後に専門学校の学習の難易度が当初の予想ほど高くないと学生が認識し、支援を必要とせず自律的に学習へ取り組めているためと考えられる。また、教員が授業に多様なツールを活用し取り組みやすい工夫をしていることも困難軽減につながっている。

一方、アンケートでは入学後に受けて良かったサポートを「特にない」とした人が最も多かった。例えば、今回の調査ではキャリアサポート室で卒業後のフォローまで手掛けていることも、すべての学生に十分に認知されていない状況がみられた。必要なサポートが存在していても、その内容や利用方法が学生に十分伝わっていないために、活用に至っていない

可能性も考えられる。あらためて、各種サポートの存在や役割について、学生への認知度を高めていく必要があるだろう。

4－5. 今後に向けての実践的提言

ここまでの調査と分析を通して、通信制高校出身の専門学校生が抱える困難の実態と、現行の支援策に対する評価を明らかにし、課題を導出した。今後、より多様で複合的な困難を抱える通信制高校生出身者たちが、次の学びの場として地域の専門学校を選択し、キャリア観や職業意識を醸成しながら自立していくために、どのような支援施策が必要となるだろうか。

本章では、地域密着型人材育成モデルの構築に向けて、これまでの調査結果を踏まえた上で、入学前から卒業後までを通した支援の方向性および具体的な支援内容について、実践的な提言を行う。

(1)柔軟な学びの設計とスキルアップの支援

通信制高校の自由度の高い生活リズムから専門学校の規則的なスケジュールへの適応は、入学前後の学生にとって大きな心理的・生活上の負担となっている。苦労しながら徐々に適応していく学生も多くいるが、この生活上の負担を少しでも軽減できるような学習方法を提供し、より多くの高校生が入学を前向きに検討し、さらに入学後も安心して学びを進められる学校になることが必要である。具体的な方策を以下に挙げる。

ア．柔軟な履修・通学モデルの導入

単位制を用いた「授業や通学回数を学生自身で選択できるプログラム」を導入し、通信制高校の時に培われたような柔軟性のある学習スタイルをとれるようにする。急激な生活リズムの変化を避けることで、段階的な適応が可能になる。オンライン受講も併用して取り入れることで、通学に伴う心理的負担や対人関係に対する不安の軽減を図ることもできる。

イ．デジタル教材を活用した学習定着支援

学習に対する苦手意識や学習習慣の定着に不安を抱える学生への入学後の支援として、自身のペースで短時間での学習に取り組めるＹｏｕＴｕｂｅ等の動画コンテンツ・デジタル教材の提供も有効である。ＬＭＳ（学習管理システム）と連携させることで、数分でも取り組んだ学習経験が可視化され、積み重ねによりスキルアップを実感することにより、自己肯定感と学習意欲の向上と困難解消につなげることが期待される。

(2)心理的ハードルを下げる「伴走型」コミュニケーション支援

通信制高校出身の学生の多くは、進学前後に強い対人不安や将来への不確実性を抱えている。調査からも、進学をあきらめかけた経験や、学力面・体調面・人間関係への不安が進学時の大きな心理的障壁となっていることが明らかになった。一方で、既存の相談窓口はすべての学生に十分認知されているとは言い難く、教員個人の対応に依存した支援体制には、負担の集中や対応のばらつきが生じている可能性がある。

これらの課題を踏まえ、入学前から卒業後まで切れ目なく学生に寄り添い、心理的ハードルを下げながら段階的な自立を支援する「伴走型」のコミュニケーション支援体制の構築が求められる。

ウ．入学前から利用可能な相談・連絡プラットフォームの整備

入学前の段階から、専門学校と学生が継続的につながることができるオンライン相談・連絡ツールを導入する。進学に対する不安や生活面の相談などを気軽に発信できる環境を整えることで、入学前の心理的負担の軽減と早期の不安解消を図る。

エ．チャットベース相談の活用

「対面では相談しづらいが、文章であれば相談しやすい」という学生の声を踏まえ、チャットやメッセージ機能を活用したＡＩ等を用いた相談体制を構築する。これにより、時間や場所を問わず、学生が気軽に相談できる環境の整備が可能となる。また、相談内容を些細な悩みや不安も早期に拾い上げることができ、深刻化の防止につながる。

オ．担任から専門家への多層的対応体制

通信制高校出身の学生が抱える心理的困難は、進学前後の不安から在学中の人間関係・学業・進路に関する悩みまで多岐にわたり、その深刻度や支援ニーズも個々に異なる。こうした多様な状況に対応するためには、担任だけによる単一の相談窓口による対応ではなく、サポート教員の配備や困難の程度や内容に応じて総合支援室による看護師、カウンセラー等の専門職による支援を段階的に提供できる多層的な支援体制の構築が必要となる。本体制は、在学中に限らず卒業後も一定期間利用可能とすることで、就職後や転職時に再び高まりやすい不安への対応を可能とする。

(3)コミュニティの形成とキャリア支援

インタビュー調査において、通信制高校出身者同士で交流できる機会を求める声が複数確認された。同じ背景や困難を経験してきた仲間の存在を知り、気持ちや情報を共有できる場を持つことは、孤立感の軽減や心理的安全性の確保に有効であると考えられる。

カ．交流によるつながりづくり

通信制高校出身の在校生を対象とした交流機会を意図的に設け、共通の経験を前提とした安

心感のあるコミュニティ形成を図ることが有効である。

また、対面での交流に不安を感じる学生への配慮として、オンライン交流会やメッセージアプリ等を併用し、参加形態を柔軟に選択できる仕組みとすることが望ましい。これにより、心理的ハードルを下げ、無理のない形で人とのつながりを持つことが可能となる。

さらに、こうした交流の場に卒業生にも参加してもらうことで、在校生が身近なロールモデルと出会い、自身の将来像やキャリア形成について具体的なイメージを持つ機会となることが期待される。通信制高校出身という共通点を持つ先輩の経験談は、進路選択や就職に対する不安の軽減に寄与するとともに、「自分にもできる」という自己効力感の醸成につながる。

キ．体験的な学びを通じた社会との関わり

従前から実施している地域イベントやボランティア活動に加え、若者の関心が高い分野の企業・団体と連携した体験型の取り組みを展開することも有効である。実際の現場での活動を通じて社会との接点を持つことで、自身の役割や成長を実感しやすくなり、その満足感や達成感が自己肯定感の向上につながると考えられる。

ク．校外活動を通じた居場所づくり

地元企業等でのアルバイトについても、学校・家庭以外の「第３の居場所」として機能する可能性が高い。単なる収入確保にとどまらず、社会性や就労意識の形成、仕事理解を高めるキャリア探索の機会として位置づけ、学校としても情報提供やマッチング等の側面支援を行うことで、地域に根差した人材育成と定着支援の強化が期待できる。

(4)「通信制高校 × 専門学校」による連携施策

通信制高校に在籍する生徒の中には、学力面・心理面・生活面に不安を抱え、卒業後の進路選択に際して大きなハードルを感じている者が少なくない。本調査においても、専門学校進学を検討する段階で「進学をあきらめかけた経験」を持つ生徒が多数確認されており、次の学びの場へ円滑に移行するための継続的な支援体制の必要性が示唆された。こうした課題に対応するためには、通信制高校と専門学校が個別に支援を行うのではなく、進学前から卒業後までを見据えた連携体制を構築し、切れ目のない支援を提供することが重要である。具体的には、通信制高校在学中から専門学校の教職員が関与する「進学準備型連携プログラム」を実施することが考えられる。

ケ．日常の学びの場における連携

通信制高校のスクーリングの登校時を活用した専門学校による出前授業やオンライン体験授業、専門学校に進学した卒業生との少人数制の座談会や進路相談等を通じて、専門的な学びや学校生活の実態を事前に知る機会を提供することで、「いきなり進学する場所」ではなく、「少しずつ関われる」、「顔の見える学びの場」にすることで進学に対する心理的ハードルの

低減を図る。

また、通信制高校の進路指導担当教員と専門学校の伴走支援担当者が定期的に情報共有を行い、生徒一人ひとりの状況や支援ニーズを踏まえた進路支援を行う体制を整える。これにより、生徒の不安やつまずきを早期に把握し、進学後を見据えた支援の引き継ぎが可能となる。

コ．より参加しやすいイベントの開催

さらに、専門学校のオープンキャンパスや体験学習について、通信制高校生向けに配慮した実施方法「通信制高校生だけのオープンキャンパス（少人数制、個別対応、オンライン併用等)」を取り入れることで、対人不安や生活リズムへの不安を抱える生徒でも参加しやすい環境を整える。

サ．継続的な連携体制

専門学校在学中および卒業後においても、通信制高校との連携を活かし、卒業生の進路状況や支援ニーズに関する情報をフィードバックすることで、両校が連携して若年者支援の質を高めていく循環型の仕組みを構築することが望ましい。

これらの連携施策を通じて、通信制高校生が安心して次の学びのステージへ進み、地域に根差した専門学校でキャリア観・職業意識を育みながら自立していくことが期待される。通信制高校と専門学校の連携は、進路選択の多様化に対応するだけでなく、地域における若年者の学びと就労を支える持続可能な人材育成モデルの中核を担う取り組みとなる。

４－６. おわりに

本調査では、通信制高校出身の専門学校生を対象に、高校在学時から専門学校進学、在学中、さらには卒業後を見据えた経験や課題、支援ニーズについて、アンケートおよびインタビューを通じて把握した。

調査対象者は自学自習を基本とする通信制高校での学びを通じて「自立学習力」や「自己管理能力」といった専門学校や社会で生かせる貴重な強みを育んでいる一方、小学校・中学校時代での経験に起因する低い自己肯定感の中で環境変化への強い懸念を抱えながら専門学校に入学し、その適応過程で特有の心理的・学習的ハードルに直面していることが明らかになった。

インタビューでは家族や友人、学校の教職員といった身近な人物との経験が多く語られ、対人不安を抱える若者にとっても、進学の意思決定や学びの継続など困難な場面では人との関わりが重要な役割を果たしていることが浮き彫りになった。

近年、ＡＩやＩＣＴ技術の普及により学びの選択肢は広がり、多様な背景を持つ若者が学べる環境も整備されつつある。しかし困難な場面は依然として存在しており、「人による支援」は継続的に求められる。今後こうした最新技術を活用しながら、当法人が築いてきた人的支援のノウハウやネットワークも大切にした「地域の温度が感じられる新しい人材育成の形」を目指していくことが必要であることを、本調査で改めて認識した。

最後に、本調査の趣旨に賛同し自らの貴重な経験を語ってくださった学生および卒業生の皆様に深く感謝の意を申し上げる。調査で得られた知見は少数の調査対象者によるものであり、今後さらなる検証や実践を通じて発展させていく必要があるが、本調査が通信制高校出身の若者の理解を深め、次年度以降のカリキュラム開発や支援プログラムの具体化、さらには地域に根差した人材育成の推進に寄与する一助となれば幸いである。

文部科学省委託事業
令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）
『通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業』

アンケート調査報告書

学校法人YIC学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町 2 番 24 号
●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。